

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第214集

都農町所在

ふな こ
舟 川 第 2 遺 跡

東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6

2012

宮崎県埋蔵文化財センター



1. 舟川第2遺跡出土 後期旧石器時代石器群



舟川第2遺跡近景（西方を望む）



舟川第2遺跡基本層序

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（日向～都農間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成20年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した舟川第2遺跡は、児湯郡都農町大字川北字舟川・字境谷に位置し、平成21年8月から平成22年8月にかけて発掘調査が行われました。

調査の成果としましては、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺構・遺物が出土・検出されました。当遺跡の特徴として挙げられるのが、後期旧石器時代の礫群や縄文時代早期の集石遺構と呼ばれる赤化した礫のまとまりが何層にもわたって検出されたことと、後期旧石器時代の石器が大量に出土したことです。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成24年2月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 森 隆 茂

例 言

- 1 本書は平成21年度～平成22年度に実施した東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う舟川第2遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は西日本高速道路株式会社九州支社から委託を受け、宮崎県教育委員会が調査主体となり宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測図等の記録は石貫弘泰、早瀬航、土屋雄毅、橋本清美を中心に行った。
- 4 現地での写真撮影は石貫、早瀬、今塩屋毅が行った。
また、遺物写真は巻頭図版1を今塩屋が、その他を石貫が撮影した。
- 5 舟川第2遺跡では以下の業務に関しては委託を行った。
空中写真撮影：(株)九州航空/石器実測およびトレース(一部を除く)；(株)バスコ、(株)大成エンジニアリング
基準杭設置：(有)河野測量設計事務所/テフラ分析：(株)ハリノ・サーヴェイ
- 6 業務委託分以外の遺物の実測図作成は、整理作業員の補助を得て石貫が行った。
- 7 本書に利用した関連遺跡位置図および周辺遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地形図（都農、日向、川南）を利用した。また、遺跡周辺地形図は西日本高速道路株式会社九州支社延岡高速道路事務所提供の1/2,000図を基に作成した。
- 8 土層断面、遺構埋土の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖』2001年度版に拠った。
- 9 本書で用いた座標系は第Ⅱ系（世界測地系）で、標高は海拔絶対高である。また、方位は座標北（G.N.）を基本とするが、遺構実測図などの一部に磁北（M.N.）を用いた。
- 10 本書で用いた遺構・火山灰の略号は次のとおりである。
SC：土坑、SI：礫群・集石遺構、K-Ah：鬼界アカホヤ火山灰、AT：始良Tn火山灰
- 11 遺物実測図の縮尺については、石器は細石刃・石鏃を1/1、磨石・敲石を1/3、その他の石器を1/2とし、土器を1/3とした。また、遺構実測図に関しては礫群・集石遺構を1/20、土坑を1/30とし、土層断面図については1/60とした。
- 12 本書で用いた石器の器種名の略号は次のとおりである。
Kn：ナイフ形石器、Tp：角錐状石器、Tr：台形石器、Po：剥片尖頭器・尖頭器
S：スクレイパー、Gr：彫器、Ps：楔形石器、Ax：石斧、Hs：敲石、Gs：磨石
Rf：二次加工のある剥片、Mf：微細剥離のある剥片、F：剥片、Ch：砕片、Bℓ：石刃
Mb：細石刃、Co：石核、Mc：細石刃核、Ah：石鏃
- 13 本文中「尾鈴山溶結凝灰岩」は、「尾鈴山酸性岩類」の主体をなす溶結凝灰岩を指すが、遺物や遺構の一部として「尾鈴山酸性岩類」が利用される場合、緻密な岩石名の特定が困難なことも多い。このため、「尾鈴山溶結凝灰岩」と記した資料には、他の「尾鈴山酸性岩類」を含む可能性もある。
- 14 本調査区では、国土座標に準じた10m×10mのグリッドを設定した。各グリッドの表記についてはX座標を算用数字、Y座標をアルファベットとした。
- 15 本書の執筆は第1章～第3章・第5章を石貫が行い、第4章は業務委託の成果を文意を変えない範囲で一部を石貫が編集した。補遺の陶磁器は柳田晴子の協力を得た。全体の編集は石貫が行った。
- 16 出土遺物および諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章	はじめに	
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	1
第Ⅱ章	調査の概要	
第1節	遺跡の位置と環境	3
(1)	位置と地理的環境	3
(2)	歴史的環境	3
第2節	調査の方法と経過	6
(1)	調査の方法	6
(2)	調査の経過	6
第Ⅲ章	舟川第2遺跡の調査の記録	
第1節	基本層序の認識と時期の設定	9
(1)	基本層序	9
(2)	礫群・集石遺構の検出と その評価について	9
(3)	石材の分類	10
第2節	後期旧石器時代	10
(1)	遺物の出土状況	10
(2)	VI層検出の遺構と遺物	12
(3)	Vb層検出の遺構と遺物	13
(4)	Va層検出の遺構と遺物	19
(5)	IV層出土の遺物	31
(6)	V層相当層検出の遺構と遺物	31
(7)	IV層相当層出土の遺物	49
(8)	後期旧石器時代相当層出土の遺物	59
(9)	原位置不明・その他の遺物	79
第3節	縄文時代早期	83
(1)	遺物の出土状況	83
(2)	IV層・IV層相当層検出の遺構と遺物	84
(3)	その他の時期の遺構と遺物	98
第4節	接合資料と剥片について	99
(1)	接合資料について	99
(2)	剥片の分布とその評価	115
第Ⅳ章	自然科学分析の結果	
第1節	分析の目的	136
第2節	試料の提示	136
第3節	分析の方法	140
第4節	分析の結果	140
第5節	考察	141
第Ⅴ章	総括	
第1節	後期旧石器時代の舟川第2遺跡	143
第2節	縄文時代早期の舟川第2遺跡	146
第3節	まとめ	146

補遺 舟川第3遺跡の調査

第1節	舟川第3遺跡の位置	147
第2節	舟川第3遺跡出土の遺物	147
引用・参考文献		148
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	舟川第2遺跡の位置	
第2図	東九州自動車道(日向～都農間) 関連遺跡位置図	2
第3図	舟川第2遺跡と周辺遺跡位置図	4
第4図	第1次調査 調査区および トレンチ配置図	5
第5図	第2次調査 調査区及び グリッド配置図	8
第6図	2-1区北壁土層断面図	11
第7図	旧石器時代遺物分布図	12
第8図	VI層検出礫群実測図	12
第9図	VI層出土石器実測図	13
第10図	VI層出土石器平面・垂直分布図及び VI層・Vb層・V層相当層検出礫群 平面分布図	14
第11図	Vb層及びV層相当層検出礫群 実測図	15
第12図	Vb層出土石器平面・垂直分布図及び 礫群平面分布図	16
第13図	Vb層出土石器実測図(1)	17
第14図	Vb層出土石器実測図(2)	19
第15図	Va層出土石器平面・垂直分布図及び 礫群平面分布図	20
第16図	Va層検出礫群実測図(1)	21
第17図	Va層検出礫群実測図(2)	22
第18図	Va層検出礫群実測図(3)	24
第19図	Va層出土石器実測図(1)	25
第20図	Va層出土石器実測図(2)	28
第21図	Va層出土石器実測図(3)	30
第22図	Va層出土石器実測図(4)	32
第23図	Va層出土石器実測図(5)	33
第24図	Va層出土石器実測図(6)	34
第25図	Va層出土石器実測図(7)	35
第26図	IV層出土石器平面・垂直分布図	36
第27図	IV層出土石器実測図	37

第28図	1-2区台地出土石器平面・垂直 分布図	38	第55図	2-2区旧石器相当層出土石器 実測図(1)	75
第29図	1-2区台地出土石器実測図(1)	39	第56図	2-2区旧石器相当層出土石器 実測図(2)	77
第30図	1-2区台地出土石器実測図(2)	40	第57図	3区旧石器相当層出土石器平面・ 垂直分布図	80
第31図	1-2区台地出土石器実測図(3)	41	第58図	3区旧石器相当層出土石器実測図	81
第32図	2-1区V層相当層出土石器平面・ 垂直分布図	43	第59図	原位置不明・その他の石器実測図	82
第33図	2-1区V層相当層出土石器 実測図(1)	44	第60図	縄文時代早期検出集石遺構実測図(1)	84
第34図	2-1区V層相当層出土石器 実測図(2)	47	第61図	縄文時代早期検出集石遺構実測図(2)	85
第35図	2-1区V層相当層出土石器 実測図(3)	48	第62図	縄文時代早期検出集石遺構実測図(3)	86
第36図	2-1区V層相当層出土石器 実測図(4)	50	第63図	縄文時代早期検出集石遺構実測図(4)	87
第37図	2-1区V層相当層出土石器 実測図(5)	51	第64図	縄文時代早期検出土坑実測図	88
第38図	2-1区V層相当層出土石器 実測図(6)	52	第65図	縄文時代早期出土石鏃平面分布図 及び集石遺構・土坑平面分布図	89
第39図	2-1区IV層相当層出土石器平面・ 垂直分布図	53	第66図	縄文時代早期出土石器実測図(1)	90
第40図	2-1区IV層相当層出土石器 実測図(1)	54	第67図	縄文時代早期出土石器実測図(2)	94
第41図	2-1区IV層相当層出土石器 実測図(2)	56	第68図	縄文時代早期出土石器平面分布図	95
第42図	2-1区IV層相当層出土石器 実測図(3)	57	第69図	縄文時代早期遺物包含層出土石器 実測図(1)〔無文土器〕	96
第43図	2-1区IV層相当層出土石器 実測図(4)	58	第70図	縄文時代早期遺物包含層出土石器 実測図(2)〔無文土器〕	97
第44図	2-1区IV層相当層出土石器 実測図(5)	59	第71図	縄文時代早期遺物包含層出土石器 実測図(3)〔条痕文土器〕	97
第45図	2-1区IV層相当層出土石器 実測図(6)	59	第72図	縄文時代早期遺物包含層出土石器 実測図(4)〔押型文土器〕	98
第46図	1区流土層出土石器平面・垂直 分布図	60	第73図	縄文時代早期遺物包含層及び晩期出土 石器実測図〔その他の縄文土器〕	98
第47図	1区流土層出土石器実測図(1)	62	第74図	石材別接合関係平面分布図(1) 〔珪質頁岩・頁岩〕	100
第48図	1区流土層出土石器実測図(2)	64	第75図	石材別接合関係平面分布図(2) 〔流紋岩〕	101
第49図	1区流土層出土石器実測図(3)	66	第76図	石材別接合関係平面分布図(3) 〔チャート〕	102
第50図	1区流土層出土石器実測図(4)	67	第77図	石材別接合関係平面分布図(4) 〔砂岩・ホルンフェルス〕	103
第51図	2-1区流土層出土石器平面・ 垂直分布図	69	第78図	接合資料実測図(1)	104
第52図	2-1区流土層出土石器実測図(1)	70	第79図	接合資料実測図(2)	105
第53図	2-1区流土層出土石器実測図(2)	73	第80図	接合資料実測図(3)	106
第54図	2-2区旧石器相当層出土石器平面 分布図	74	第81図	接合資料実測図(4)	107
			第82図	接合資料実測図(5)	108
			第83図	接合資料実測図(6)	110
			第84図	接合資料実測図(7)	111
			第85図	接合資料実測図(8)	112
			第86図	接合資料実測図(9)	113

第87図	接合資料実測図 (10) ……………	114
第88図	E7・F7出土遺物平面・垂直分布図 (1) 〔珪質頁岩〕 ……………	116
第89図	E7・F7出土遺物平面・垂直分布図 (2) 〔流紋岩〕 ……………	117
第90図	E7・F7出土遺物平面・垂直分布図 (3) 〔チャート〕 ……………	118
第91 図	E7・F7出土遺物平面・垂直分布図 (4) 〔黒曜石〕 ……………	119
第92図	舟川第2遺跡2-1区に隣接する壁面の 重鉱物組成および火山ガラス比 ……	137
第93図	舟川第2遺跡3区の重鉱物組成および 火山ガラス比 ……………	137
第94図	舟川第2遺跡2-1区の重鉱物組成 および火山ガラス比 ……………	138
第95図	舟川第2遺跡の火山ガラスの屈折率 ……	139
第96図	舟川第2遺跡の重鉱物の屈折率 ……	139
第97図	舟川第2遺跡の斜方輝石の屈折率 ……	139
第98図	重鉱物・火山ガラス ……………	142
第99図	舟川第3遺跡出土遺物 ……………	147

表目次

第1表	調査区対応表 ……………	5
第2表	調査区内トレンチ対応表 ……………	5
第3表	調査区基本層序対応表 ……………	10
第4表	舟川第2遺跡における石材分類表 ……	10
第5表	出土石器計測表 ……………	120
第6表	出土石器観察表 ……………	129
第7表	接合資料計測表 ……………	133
第8表	舟川第2遺跡における重鉱物・火山ガラ ス比分析および屈折率測定結果 ……	138

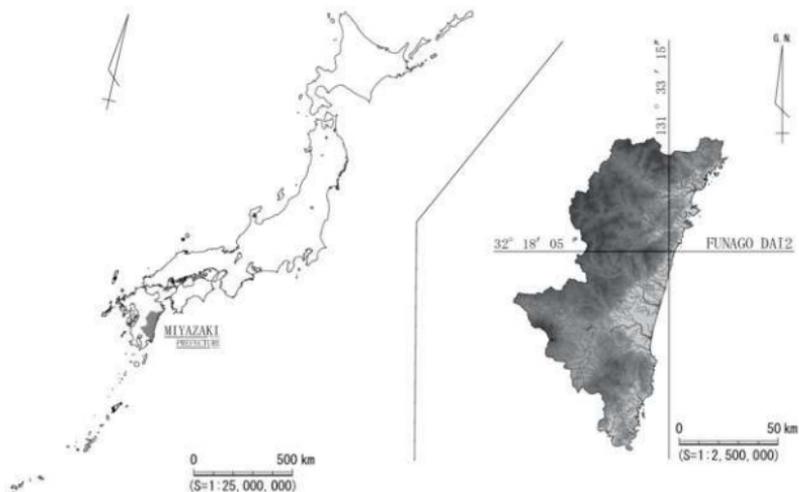
図版目次

巻頭図版1	舟川第2遺跡出土 後期旧石器 時代石器群	
巻頭図版2	舟川第2遺跡近景 舟川第2遺跡基本層序	
図版1	舟川第2遺跡と長野遺跡を望む 2-1区と2-2区的位置関係 ……	151
図版2	1-3区完掘状況 1-2区遺物出土状況 2-1区遺物出土状況 (1) 2-1区遺物出土状況 (2) 2-2区遺物出土状況 3区谷地形検出状況 ……………	152

図版3	1-2区貝殻条痕文土器 (第71図521) 出土状況 2-1区Va層剥片尖頭器 (第13図12) 出土状況 2-1区Vb層剥片尖頭器 (第19図49) 出土状況 SI30検出状況 SI19検出状況 SI16検出状況 SI13検出状況 ……	153
図版4	SI18検出状況 SI17検出状況 SI10検出状況 SI29検出状況 SI25・SI26検出状況 SI27検出状況 SI6検出状況 SI20検出状況 ……	154
図版5	SI9検出状況 SI8検出状況 SI11検出状況 2-2区集石遺構検出状況 SI1検出状況 SI2検出状況 ……	155
図版6	Va層中部検出礎群 (SI29) SI31・SI32検出状況 ……………	156
図版7	SC1平面プラン検出状況 SC1半截状況 SC1完掘状況 SC2平面プラン検出状況 SC2埋土断面 SC2完掘状況 ……	157
図版8	VI層出土石器 Vb層出土石器 (1) Vb層出土石器 (2) Va層出土石器 (1) ……………	158
図版9	Va層出土石器 (2)、Va層出土石器 (3) Va層出土石器 (4)、Va層出土石器 (5) Va層出土石器 (6)、IV層出土石器 1-2区台地出土石器 (1) 1-2区台地出土石器 (2) ……	159
図版10	2-1区V層相当層出土石器 (1) 2-1区V層相当層出土石器 (2) 2-1区V層相当層出土石器 (3) 2-1区V層相当層出土石器 (4) 2-1区V層相当層出土石器 (5) ……	160
図版11	2-1区IV層相当層出土石器 (1) 2-1区IV層相当層出土石器 (2) 2-1区IV層相当層出土石器 (3) 2-1区IV層相当層出土石器 (4) 2-1区IV層相当層出土石器 (5) ……	161
図版12	1区流土層出土石器 (1) 1区流土層出土石器 (2) 1区流土層出土石器 (3) 1区流土層出土石器 (4) 2-1区流土層出土石器 (1) 2-1区流土層出土石器 (2) ……	162

図版13	2-1区流土層出土石器 (3)	
	2-2区旧石器相当層出土石器 (1)	
	2-2区旧石器相当層出土石器 (2)	
	原位置不明・その他の石器	
	3区旧石器相当層出土石器	
	縄文時代早期出土石器	163
図版14	縄文時代早期出土石鏃	縄文時代
	早期出土石器 (無文土器)	164

図版15	縄文時代早期出土土器 (無文土器, 押型文土器)	
	縄文時代早期出土土器 (条痕文土器)	
	縄文時代早期・晩期出土土器 (その他の土器)	165
図版16	接合資料 (1) 接合資料 (2)	
	舟川第3遺跡出土遺物	
	陶磁器	
	陶磁器	166



第1図 舟川第2遺跡の位置

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道（日向～都農間）19.7kmについて県文化財課は、平成17年度、32遺跡、306,700㎡の分布調査結果を提示した。その後、当該区間は、平成17年度末までに関係市町との設計協議等が終了し、平成18年度末には用地買収に着手している。この間、当区間の平成26年度供用開始が公表され、用地取得及びそれに続く埋蔵文化財調査にとって時間的に厳しい状況となった。また、平成19年11月には発掘調査対象面積の見直しがなされ、暫定2車線261,400㎡と面積が減っている。

平成20年7月1日、東九州自動車道関連としては初の『埋蔵文化財発掘調査協定書』が西日本高速道路株式会社九州支社長と県知事との間で締結された。この協定書では、発掘調査の範囲や体制、全体の実施計画、費用の概算額等が提示された。その後、用地の取得状況が進展しないながらも同年10月17日付けで『埋蔵文化財発掘調査委託契約』を結び、着手できる可能性がある10遺跡3,350㎡の発掘調査に着手した。平成21年1月には用地取得や文化財調査の進展を条件に平成25年度の供用開始が努力目標となったが、関係者の努力により平成23年11月末現在、32遺跡中26遺跡は完全に調査を終了、未着手は3遺跡を残すのみである。

舟川第2遺跡の発掘調査は、平成21年8月5日から9月9日まで270㎡を対象に第1次調査、平成21年10月26日から平成22年8月20日まで4,400㎡を対象に第2次調査を行った。

なお、補遺として掲載した舟川第2遺跡の南西隣に位置する舟川第3遺跡の発掘調査は、平成22年5月6日から5月28日まで360㎡を対象に第1次調査、その後、残りの用地の引渡しを待って、平成22年12月10日から12月14

日まで200㎡を対象に第2次調査を実施した。

第2節 調査の組織

舟川第2遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 福永展幸（平成21年度）

森 隆茂（平成22・23年度）

副所長兼総務課長 長友英嗣（平成21年度）

副所長 北郷泰道（平成22・23年度）

総務課長 矢野雅紀（平成22年度）

坂上恒俊（平成23年度）

主幹兼総務担当リーダー 高山正信（平成21年度）

副主幹兼総務担当リーダー 長友由美子（平成22・23年度）

調査第一課長 長津宗重（平成21～23年）

主幹兼調査第二課リーダー 菅付和樹（平成21～23年度）

第1次調査

〔調査担当〕調査第一課調査第二担当（平成21年度）

主査 田中敏雄 / 主事 原口耕一郎

第2次調査

〔調査・報告書担当〕調査第一課調査第二担当

主事 石貫弘泰（平成21～23年度）

〔調査担当〕調査第一課調査第一担当

主事 早瀬 航（平成21・22年度）

なお、舟川第3遺跡の調査担当は、次のとおりである。

第1次調査

〔調査担当〕調査第一課調査第二担当（平成22年度）

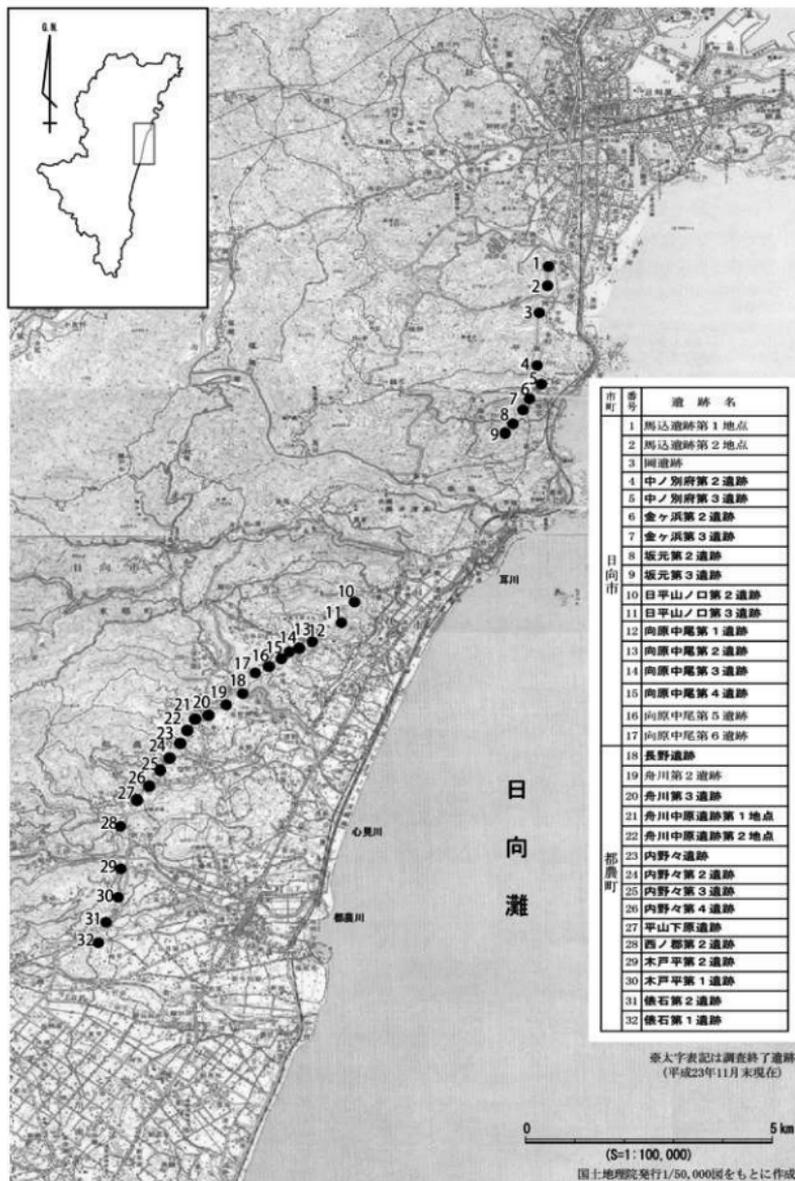
主任主事 徳留洋志 / 主事 南健太郎

主事 橋口由佳

第2次調査

〔調査担当〕調査第一課調査第二担当（平成22年度）

主任主事 松本 茂 / 主事 石貫弘泰



第2図 東九州自動車道(日向～都農間)関連遺跡位置図

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 遺跡の位置と環境

(1) 位置と地理的環境

舟川第2遺跡は都農町大字川北字舟川・字境谷に所在し、遺跡が立地する都農町は宮崎県中央部よりやや北側、宮崎平野の北端に位置する。

遺跡は尾鈴山系の戸矢山を西側に望み、尾鈴山系から東に向かってやつで状に延びる丘陵尾根裾のひとつ、征矢原川と心見川支流前田川に挟まれた丘陵の鞍部に立地する。遺跡の標高は85 mから95 mで、鞍部付近は比較的平坦な地形で、南北二方向に谷地形を形成する。

(2) 歴史的環境

舟川第2遺跡がある都農町内には、遺跡詳細分布調査によって多くの遺跡が周知されている。加えて、平成17年度以降、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進み、多くの成果をあげてきた。

舟川第2遺跡は調査の結果、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡であることが明らかとなった。特に、後期旧石器時代はAT降灰前後のナイフ形石器から細石刃石器群の時期までの石器が出土している。そこで、後期旧石器時代の都農町域の様相を中心に歴史的環境をみていきたい。

旧石器時代

都農町の旧石器時代の遺跡は、古くは尖頭器・石核が出土した黒萩遺跡、剥片が出土した京塚遺跡や又猪野原遺跡が知られていたが、いずれの遺跡も表面採集によるものであった。

その後、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進む中、次第に都農町域の旧石器時代の様相が明らかになっていった。

尾立第2遺跡では、AT下位のナイフ形石器を含めた石器群や台形（様）石器、剥片尖頭器、

角錐状石器、細石刃、細石刃核などが出土した。遺跡の特徴としてはナイフ形石器や角錐状石器といった刺突具と考えられる石器が多く出土していることである。また、上記のナイフ形石器の素材となる剥片も確認できたため、石器製作の痕跡をうかがい知ることができた。

立野第5遺跡では、AT下位の一群も含めたナイフ形石器、台形（様）石器、剥片尖頭器、角錐状石器、細石刃、細石刃核などが出土した。

隣接する立野第2遺跡では、ナイフ形石器などが出土した。出土したナイフ形石器は今峠型と呼ばれる一群のものである。

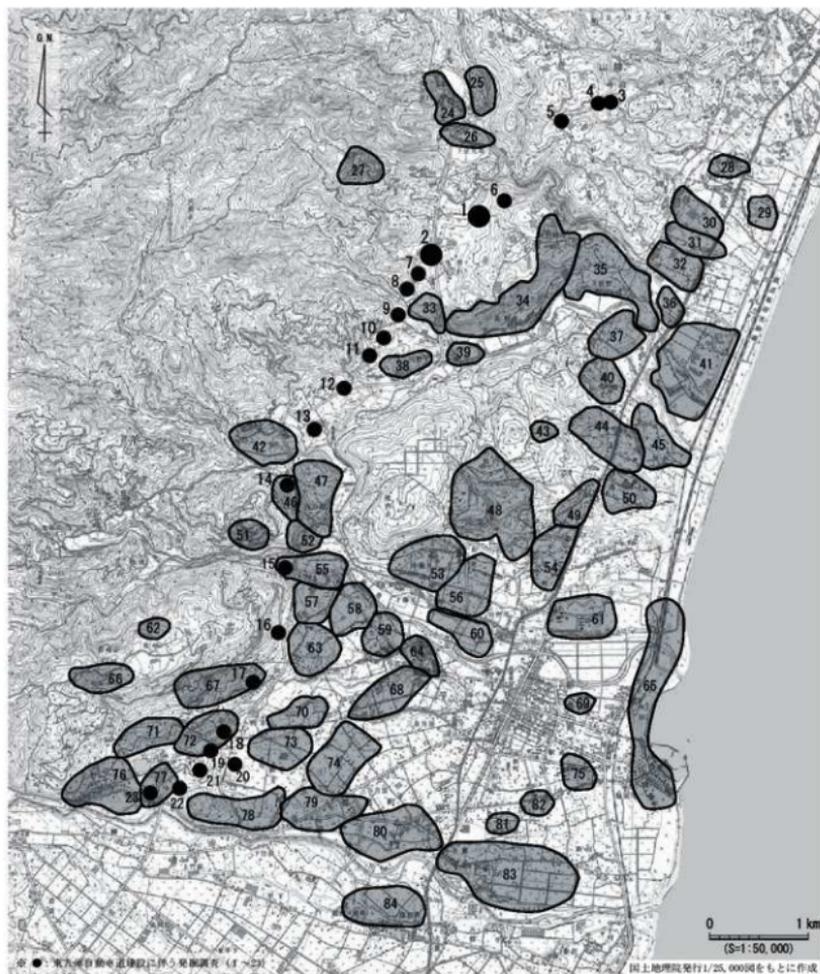
依石第1遺跡ではナイフ形石器、剥片尖頭器、角錐状石器、台形（様）石器、細石刃などが出土した。ナイフ形石器はAT降灰前後の時期に出土する二側縁加工で対向調整を施したナイフ形石器、窪谷型ナイフ形石器、北牛牧型ナイフ形石器、基部加工ナイフ形石器などが出土した。

平山下原遺跡ではナイフ形石器、剥片尖頭器、角錐状石器、細石刃などが出土した。中でも、剥片尖頭器が5点出土している点は注目される。ナイフ形石器は基部加工のものが主体でナイフ形石器の中でも新しい段階といえる。

以上、都農町域の旧石器時代における遺跡をみてきた。特に尾立第2遺跡、立野第5遺跡、依石第1遺跡では、AT降灰以前の一群から終末期までのナイフ形石器や剥片尖頭器、角錐状石器などの後期旧石器時代石器群が出土しており、都農町域における後期旧石器時代遺跡の様相が明らかになってきた。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、開析谷により形成された河岸段丘上や台地上に立地し、そのほとんどが早期に位置づけられる。東九州自動車道で昨年度調査された平山下原遺跡では、早期の土器群が出土した。



- | | | | | | | |
|---------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|---------------|
| 1. 舟川第2遺跡 | 2. 舟川第3遺跡 | 3. 向原中尾第1遺跡 | 4. 向原中尾第2遺跡 | 5. 向原中尾第4遺跡 | 6. 長野遺跡 | 7. 舟川中尾遺跡第1地点 |
| 8. 舟川中尾遺跡第2地点 | 9. 内野々遺跡 | 10. 内野々第2遺跡 | 11. 内野々第3遺跡 | 12. 内野々第4遺跡 | 13. 平山下部遺跡 | 14. 西ノ郡第2遺跡 |
| 15. 本戸平第2遺跡 | 16. 本戸平第1遺跡 | 17. 碓石第2遺跡 | 18. 碓石第1遺跡 | 19. 尾立第2遺跡 | 20. 朝草遺跡 | 21. 尾立第3遺跡 |
| 22. 立野第5遺跡 | 23. 立野第2遺跡 | 24. 上長久原遺跡 | 25. 東平遺跡 | 26. 下長久原遺跡 | 27. 舟川尾立遺跡 | 28. 中村遺跡 |
| 29. 寺辺下部遺跡 | 30. 宮川遺跡 | 31. 山本大原第2遺跡 | 32. 山本大原第1遺跡 | 33. 舟川中原遺跡 | 34. 長野遺跡 | 35. 又植野原遺跡 |
| 36. 心見住上遺跡 | 37. 目取跡第2遺跡 | 38. 内野遺跡 | 39. 内野下部遺跡 | 40. 杉敷跡第1遺跡 | 41. 心見遺跡 | 42. 平山遺跡 |
| 43. 白石第2遺跡 | 44. 白石第1遺跡 | 45. 上栗原遺跡 | 46. 西ノ郡第2遺跡 | 47. 西ノ郡第1遺跡 | 48. 白糸遺跡 | 49. 滝ヶ谷第2遺跡 |
| 50. 久武平田遺跡 | 51. 井手ヶ平遺跡 | 52. 川神田遺跡 | 53. 瓜屋遺跡 | 54. 滝ヶ谷第1遺跡 | 55. 木戸中尾第2遺跡 | 56. 黒石遺跡 |
| 57. 木戸平第1遺跡 | 58. 上笠平遺跡 | 59. 鹿中田遺跡 | 60. 胡沢田遺跡 | 61. 中原遺跡 | 62. 笠牛尾立第2遺跡 | 63. 高橋口遺跡 |
| 64. 碓石稲穂遺跡 | 65. 都農古墳群 | 66. 笠牛尾立第1遺跡 | 67. 碓石第2遺跡 | 68. 中河原遺跡 | 69. 森遺跡 | 70. 高平田遺跡 |
| 71. 尾立遺跡 | 72. 碓石第1遺跡 | 73. 朝草原遺跡 | 74. 坂上平遺跡 | 75. 旭原尾遺跡 | 76. 立野遺跡 | 77. 滝ヶ平第2遺跡 |
| 78. 滝ヶ平第1遺跡 | 79. 下原遺跡 | 80. 新引野川原遺跡 | 81. 新引野遺跡 | 82. 新引野肥遺跡 | 83. 新引野下部遺跡 | 84. 稲引野遺跡 |

第3図 舟川第2遺跡と周辺遺跡位置図

後期の遺跡では、新別府下原遺跡から貝殻条痕文土器や磨製石斧等が出土し、堅穴建物跡が1軒検出されている。また、東九州自動車道の調査においても内野々遺跡では後期と考えられる4軒の堅穴建物跡が検出された。

弥生時代

弥生時代には、都農町内の遺跡も数多く確認されている。境ヶ谷第1遺跡（岩山遺跡）、新別府下原遺跡、森遺跡、白水遺跡等がある。弥生時代中期から終末期に遺跡が形成された新別府下原遺跡では、堅穴建物跡2軒や土壇1基が検出され、1号建物跡から石廂丁1点、両端挟入石廂丁1点、砥石1点、磨石4点、鉄鎌片が出土した。

古墳時代

海岸部を中心に県指定の古墳が12基あり、

すべてが積石塚である。その内訳は前方後円墳が2基、円墳が10基である。積石塚は県内でも珍しく、都農町に集中して築造される点は都農町域の古墳時代の様相を知る上でも重要である。積石塚は墳丘構築に石を用いるところに特徴がある。

古代以降

古代においては、『倭名類聚』による「都農郷」、『延喜式』による日向国6牧中の「都農牧」、日向国16駅の「去飛駅」の記述がある。

近世に入ると都農町は、御城下高鍋と藩港美々津との中間点に立地していることから、宿駅中宿としての地位を占めていた。また、石河内尾鈴の豊富な山林資源は藩財政の最重要財源であった。



第4図 第1次調査 調査区およびトレンチ配置図

第1表 調査区対応表

調査区対応関係	
第1次調査	第2次調査
1区	→ 4区
2区	→ 1区
3区	→ 1-1区 1-2区 1-3区
4a区	→ 2-1区
4b区	→ 2-2区
4c区	→ 調査範囲外
4d区	→ 調査範囲外
5区	→ 3区

第2表 調査区内トレンチ対応表

1区	T8	T1	T7
	T9	T2	T8
	T10	T3	T9
	T11	T4	T10
	T12	T5	T11
	T13	T6	T12
	T14	T7	T13
	T15	T8	T14
	T16	T9	T15
	T17	T10	T16
	T11	T11	T17
2区	T1	T2	T2
	T2	T3	T3
	T3	T4	T4
	T4	T5	T5
3区	T1	T3	T5
	T2	T4	T6
	T3	T5	T7
	T4	T6	T8
	T5	T7	T9
	T6	T8	T10
	T7	T9	T11
	T8	T10	T12
	T9	T11	T13
	T10	T12	T14

第2節 調査の方法と経過

(1) 調査の方法

第1次調査では調査区を北から順に1～5区に分け調査を行った。なお、4区については4a～4dに細分した。

続いて、第2次調査においては調査区を1区、2区、3区、4区と分け調査を行った。

グリッド設定については北から南に向かって1、2、3、…とし、東から西に向かってA、B、C、…とした。また、個別のグリッド名称(例えば、F7)が指すグリッドの位置は第5図で示す。

遺物については、原位置不明のもの、攪乱層からの出土のもの以外については基本的にトータルステーションによる個別取り上げを行った。

なお、取り上げ番号については当初、調査区に関係なく通し番号で行っていたが、1区と2区の調査を並行して行っていた期間に番号の受け渡しが上手くいかず、1021番から1043番までの遺物を重複させてしまい、なおかつトータルステーションからデータをパソコンに転送する際に1区の1021番から1043番の座標値を2-1区の1021番から1043番の座標値に上書きしてしまった。したがって、番号の重複というミス無くす目的で、2-2区は30000番から、3区は100000番から取り上げ番号を付けていくこととした。以下、調査区ごとの取り上げ番号について簡潔に示す。

・1区…1～1020番(1区の1021～1043番については座標データ無し)、50001～50046番。

・2-1区…1021～12099番。

・2-2区…30000番～32081番。150000～150003番。

・3区…100000番～100236番。

である。取り上げた遺物の座標値については、Excelデータに変換して当センターにて保管している。

礫群・集石遺構の認定については一定のまとまりをもつものを一基の礫群・集石遺構としたが、SI25とSI26についてはそれぞれの分布の中心は認識できるのだが、その周縁部になると境界線が曖昧になるため図化の段階で分離しなかった。また、その他のまとまりをもたない礫については座標データのみ記録した。以下、調査区ごとの座標値番号について簡潔に示す。

・1区…R1番～R501番。

・2-1区…R5001番～R6042番、R2-1番～R2-692番。

・2-2区…R30001番～R30114番。

取り上げた礫の座標値については、Excelデータに変換して当センターにて保管している。

(2) 調査の経過

舟川第2遺跡の調査は平成21年8月5日から9月9日まで270㎡を対象に第1次調査を行い、平成21年10月26日から平成22年8月20日まで4,400㎡を対象に第2次調査を行った。

第1次調査はまず重機を用いて表土除去等を行い、その後、作業員を投入し調査を行った。

第2次調査は10月26日から重機を用いて表土除去等を行い、事務所は10月30日に設置し、測量業務委託については、11月4日に実施した。

調査区は便宜上、1区、2区に大別し、1区を1-1区、1-2区、1-3区に、2区を2-1区、2-2区に細別した。

作業員は11月4日から投入し、1-3区の調査から開始した。1-3区は12月11日まで調査を行った。11月20日には1-3区と並行して1-2区の調査を開始した。1-2区は1月14日に調査を終了した。1-1区については、12月7日から調査を開始し、1月13日に終了した。

続いて、2区については12月24日より2-1区の調査を開始し、平成22年7月7日まで調査を継続した。2-2区については、平成



1. 1-2区調査風景



2. 2-1区調査風景



3. 2-2区調査風景



4. 梅雨時期に水没した3区



5. 石器の接合1



6. 石器の接合2



7. トレース作業

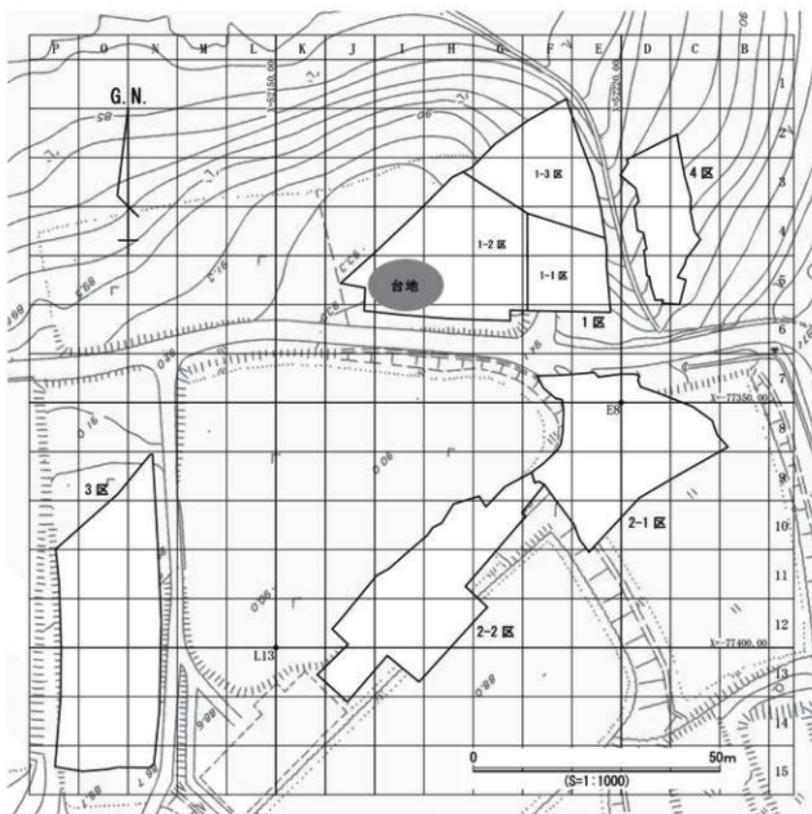


8. レイアウト作業

21年度は平成22年1月15日より調査を開始し、3月11日まで作業を行った。平成22年度は田植えの時期と梅雨に重なり、調査区内に水がたまる状況が続いたため、同年6月17日から調査を開始し、7月22日に終了した。

整理作業は平成22年9月1日より開始し、水洗作業（石器・土器・礫）、注記作業（石器・

土器）、計測作業、接合作業を経て、平成23年3月に土器実測・拓本作業を行った。平成23年4月からは石器実測作業、トレース作業を行い、その後、10月までにレイアウト作業を終了し、11月1日からは写真撮影の準備などを行った。整理作業は平成24年2月に終了した。



第5図 第2次調査 調査区及びグリッド配置図

第三章 舟川第2遺跡の調査の記録

第1節 基本層序の認識と時期の設定

(1) 基本層序

本遺跡における基本層序は2-1区北壁を基準としている。その理由は、2-1区のD7・E7・F7グリッドにあたる箇所が比較的平坦な面に立地しており、土層の堆積状況も良好であったことが挙げられる。基本層序はI～VII層にわけ、III層をIII a層、III b層に、V層をV a層、V b層に細分した。以下、基本層序の説明をする。

I層…表土・造成土・耕作土からなる土層。

II層…黒色土層。クロボク土からなる土層。

III a層…鬼界アカホヤ火山灰にクロボク土が混ざり込んだ層。その成因は明確には認識できなかった。

III b層…鬼界アカホヤ火山灰の堆積層。

IV層…黒褐色土層 (MBO 相当層)。主に縄文時代早期の遺物、後期旧石器時代の遺物を包含する層。

V a層…褐色土層 (ML1 相当層)。主に後期旧石器時代の遺物を包含する層。

V b層…暗褐色土層 (MB1、AT、MB2 相当層)。主に後期旧石器時代の遺物を包含する層。この層には始良 Tn 火山灰が含まれる(第IV章第4節を参照)。

VI層…褐色土層。主に後期旧石器時代の遺物を包含する層。AT下位の石器が点数は少ないが出土している。

VII層…明褐色土層。無遺物層。この層を基盤層として、調査区全体の掘削停止の目安とした。また、この層の上面で地形測量を行った。

(2) 礫群・集石遺構の検出面とその評価について

本遺跡では、時期の設定について「礫群・集

石遺構」の接地面を基準にした。「礫群・集石遺構」はその大半が2-1区北壁で、IV層からVI層にかけて数基ごとに6つの接地面があることがわかった。これら6つの面をそれぞれの「生活面」として、その差を時間差と仮定した。そこで、「礫群・集石遺構」の生活面の差をもとに、出土する遺物の垂直分布を検討することで、器種及び型式にも層位的なまとまりの差が現れるのではないかと期待したが、遺物のまとまりに明瞭な差を見出すことができなかった。したがって、基本層序に従って検出遺構と出土遺物に関する記述を進める。

VI層…AT下位に相当する層。VI層上面で礫群を1基検出した。遺物は小型の二側縁加工ナイフ形石器、剥片などがある。後期旧石器時代に相当する層。

V b層…ATを含む層。礫群はV b層の中部で2基検出した。出土遺物はいわゆるAT下位と呼ばれる二側縁加工ナイフ形石器などが出土する。後期旧石器時代に相当する層。

V a層…いわゆるML1と呼ばれる層に相当し、後期旧石器時代の遺物を包含する層。V a層の下部で礫群6基、V a層中部で礫群5基、V a層上部で礫群を5基検出した。出土遺物は主にナイフ形石器、剥片尖頭器、細石刃、細石刃核などが出土する。

IV層…いわゆるMBOと呼ばれる層に相当し、本遺跡では縄文時代の遺物を包含する層。IV層下部で集石遺構を3基検出した。出土遺物は石鏃、剥片、碎片などである。

なお、今回調査した舟川第2遺跡はそのほとんどが斜面地に立地し、土層の堆積が安定している箇所が非常に少ない。したがって、斜面地の層位を大まかにIV層、V層という認識の下に調査を進めたが、それでも上下の土が混ざり

第3表 調査区基本層序対応表

2-1区 基本層序			
層序	色調	性相	主な出土遺物
I	層	褐色土	
II	層	黒色	クロボク土
IIIa	層	明褐色	K-As
IIIb	層	明褐色	K-As
IV	層	黒褐色	縄文時代早期相当層
			縄文土器（貝殻燻灰文、無文）、石鏃
Va	層	褐色	後期旧石器時代相当層
			剥片尖頭器、ナイフ形石器、鏃石片
Vb	層	暗褐色	後期旧石器時代相当層
			剥片尖頭器、ナイフ形石器
VI	層	褐色	AT土位相当層
			剥片
VII	層	明褐色	無遺物層（地山）
1-2区 基本層序			
層序	色調	性相	主な出土遺物
I	層	表土	
II	層	褐色	縄文時代早期相当層
			縄文土器（貝殻燻灰文）
III	層	暗褐色	後期旧石器時代相当層
			ナイフ形石器、鏃石片
IV	層	明褐色	無遺物層
V	層	黄褐色	無遺物層
VI	層	マンガン?	
VII	層	黄褐色	無遺物層
2-2区 基本層序			
層序	色調	性相	主な出土遺物
I	層	黒色	クロボク土
II	層	K-As	
III	層	黄褐色	K-Asが混入する
IV	層	黒褐色	縄文時代早期相当層
			縄文土器、石鏃
V	層	黒褐色	縄文時代早期相当層・後
			遺物の出土量は少ない、
			後期旧石器時代相当層
VI	層	黒褐色	縄文時代早期相当層・後
			遺物の出土量は少ない、
			後期旧石器時代相当層
VII	層	黄褐色	無遺物層
VIII	層	黄褐色	無遺物層

合ったような層の認識ができないところに関しては旧石器時代もしくは縄文時代相当層としたため、舟川第2遺跡で出土した旧石器時代遺物の時期的な変遷については、第V章においてまとめを行うことにした。

(3) 石材の分類

石材の分類は、第4表のとおりである。

第2節 後期旧石器時代

(1) 遺物の出土状況（第7図）

遺物の集中箇所は2-1区に集中する。ただし、2-1区はそのほとんどが斜面地もしくは埋没谷内に位置している。そのため、層位的に良好な場所がほとんどない。土層の堆積が良好であると認められる箇所は、2-1区のD7グリッド北半、E7グリッド、F7グリッドの範囲に限られる。したがって、本報告ではこの範囲

3区 基本層序			
層序	色調	性相	主な出土遺物
I	層	表土、耕作土	
II	層	黒色	クロボク土
III	層	明褐色	K-As
IVa	層	黒褐色	縄文時代早期相当層
			山形型土器、石鏃、
			(K-Asを含む)
IVb	層	黒褐色	縄文時代早期相当層
			山形型土器、石鏃、
			(K-Asを含む)
V	層	黒褐色	縄文時代早期相当層
			(K-Asを含む)
VIa	層	黒褐色	流入土（3区の谷部を埋
			めた土）
VIb	層	黒褐色	流入土（3区の谷部を埋
			めた土）
VIIa	層	黒褐色	流入土（3区の谷部を埋
			めた土）
VIIb	層	黒色	流入土（3区の谷部を埋
			めた土）
VIII	層	黒褐色	後期旧石器時代相当層
			(ATを含む)
IXa	層	暗褐色	(ATを含む)
IXb	層	暗褐色	(ATを含む)
X	層	黒褐色	無遺物層
XIa	層	黒色	流入土（3区の谷部を埋
			めた土）
XIb	層	黒褐色	流入土（3区の谷部を埋
			めた土）
XII	層	褐色	地山層
XIII	層	褐色	地山層

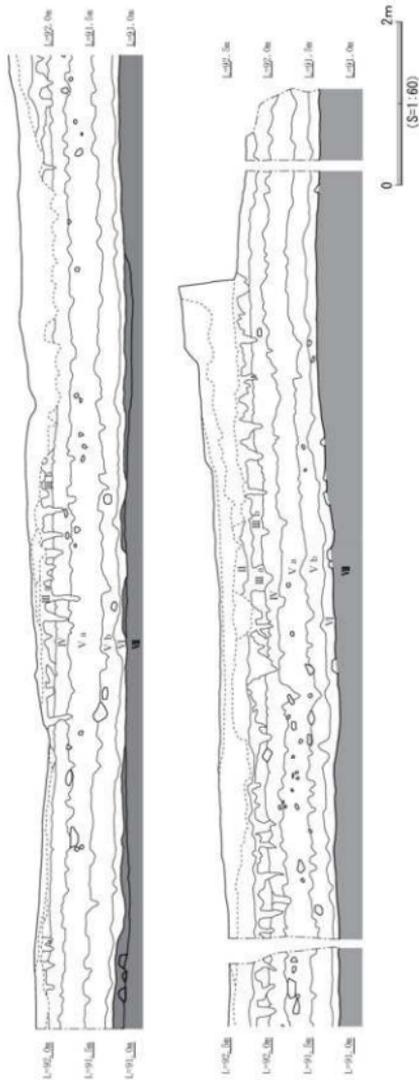
第4表 舟川第2遺跡における石材分類表

石材	略記号	備考
珪質頁岩	Sh	白色の珪を含む珪質頁岩
		珪を含まない珪質頁岩
		その他の珪質頁岩
頁岩	Sh	
流紋岩	Ry	白色風化系の流紋岩（R-Ry）
チャート	Ch	赤色チャート
		無光沢チャート
		その他のチャート
黒曜石	Ob	燧ノ木津御
		集ヶ鼻産
		那島産
		三船産
安山岩	An	その他の
		那島産安山岩
		集ヶ鼻産
ホルンフェルス	Ho	
砂岩	Sa	
尾持山崩結核区岩	On	

から出土し、なおかつ出土位置が明確なものをVI層から順に報告していく。

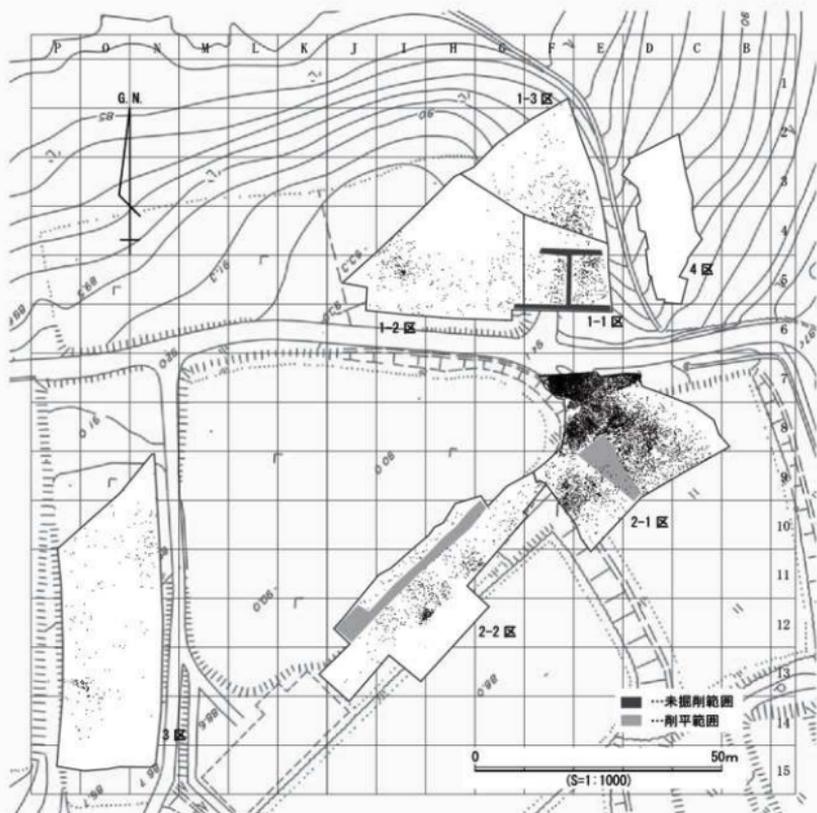
また、1-1区、1-3区、2-2区、3区についても埋没谷内に位置しており、安定した層位での遺物の検出はできなかった。

以下では、まず、2-1区の7Dグリッド、E7グリッド、F7グリッド内で出土した遺物を層位ごとに記述し、その他の地点においては相



層号	特徴	色調	しまり	粘性	腐植	腐植
I	暗褐色土 腐植の腐熟土	暗褐色土	弱	弱	ややあり	腐植土が少 く、腐植土層がプロロク状に薄まら含有。
II	黒色土	黒色土	100R 4.7/1	弱	弱	II層、III層、IV層と腐植の付いた感じで見えり含有。腐植土が少 く、腐植土層がプロロク状に薄まら含有。I層よりも強い。
III	K-Ahと黒ゴク土が混ざり含有	赤褐色土	7.00R 5.0/4	弱	弱	水の浸食が同じの影響により形成された層と判断している。 大山吹露。
IV	赤褐色土	赤褐色土	100R 2.7/3	強	やや弱	1～5mm程度の赤色砂粒を含有(40%程度)
V	暗褐色土	暗褐色土	100R 4.6	やや弱	やや強	ゴラス質のような腐植を含有。
VI	赤褐色土	赤褐色土	100R 3.4	弱	強	まだらにシヤリシヤリとしたプロロク土が含まれ、そのプロロク土の中にゴラス質のような腐植を含有。
VII	赤褐色土	赤褐色土	7.50R 4.4	やや弱	強	ゴラス質のような腐植を含有。
VIII	赤褐色土	赤褐色土	7.50R 5.6	弱	強	大小さまざまな粒径の山崩れ腐植が中質の悪いグレイートの層を含有。

第6図 2-1区北壁土層断面図



第7図 旧石器時代遺物分布図

当層という形で記述を行っていく。

(2) VI層検出の遺構と遺物

検出遺構 (第8図、第10図)

礫群1基を検出した (SI30)。

SI30は92.01mから92.06mのレベルで検出した。構成礫は8点で、1点だけ約60cm離れた位置にある。その1点を除くと、規模は長軸0.45m・短軸0.3mである。

また、遺構を構成する礫はすべて赤化していたが、どのような成因で赤化したのかの判断は



第8図 VI層検出礫群実測図

できなかった。加えて、赤化礫の周りを精査したが、掘り込み面などのプランは検出できなかった。

出土遺物 (第9図、第10図)

VI層出土の遺物はナイフ形石器、スクレイパー、剥片である。出土石器の量は多くないが、ナイフ形石器は小型の二側縁加工ナイフ形石器が出土する点に特徴がある。また、遺物の分布図については第10図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

ナイフ形石器 (第9図1~3)

1は小型のナイフ形石器で、石材はチャートである。先端部から基部までほぼ完形で残存しており、先端部の角度は約55度である。素材剥片は縦長を指向した剥片と思われる。素材剥片の打面は残存していないが、リングの方向から基部側にあったと考えられる。背面左側縁部の調整剥離は主要剥離面側からの剥離で、大きく剥離を施した後に、細かい剥離を施している。背面右側縁部は対向剥離による調整が施されている。

2は中型の二側縁加工ナイフ形石器である。石材は珪質頁岩で、先端部から基部まで完形で残存する。先端部の角度は約50度である。素材剥片は縦長指向の剥片である。主要剥離面の打面は残存していないが、リングの方向から先端側にあったと推定できる。側縁の加工については、両側縁とも対向剥離による調整が施されている。刃部は内湾する弧を描くように微細な剥離痕が緻密に入っており、現状では鋸歯状となっている。

3は小型のナイフ形石器である。先端部は欠損しており、その形状は不明である。素材剥片はおそらく不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していないが、リングの向きなどから推測すると、基部側にあったと推定できる。背面側縁の調整は両側縁ともに主要剥離面側から調整剥離が施されている。

二次加工剥片 (第9図4)

4は不整形剥片で、打面が残存する。背面右側縁には調整剥離のような剥離痕があり、スクレイパーの可能性も考えられる。背面左側縁には微細な剥離痕がある。

(3) V b層検出の遺構と遺物

検出遺構

V b層中部 (第11図)

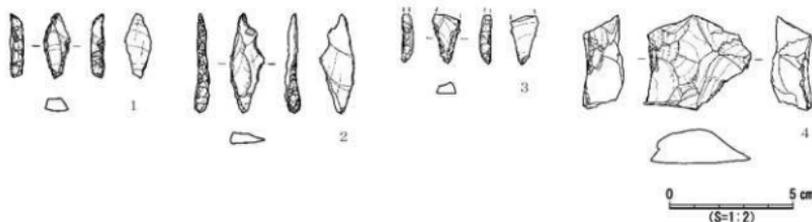
礫群を2基検出した (SI16、SI19)。

SI16は92.25 mから92.30 mのレベルで検出した。構成礫は66点あり、そのうち61点は赤化していたが、5点は赤化していなかった。規模は長軸135cm・短軸80cmである。SI16に伴う掘り込みなどの痕跡は認識できなかった。

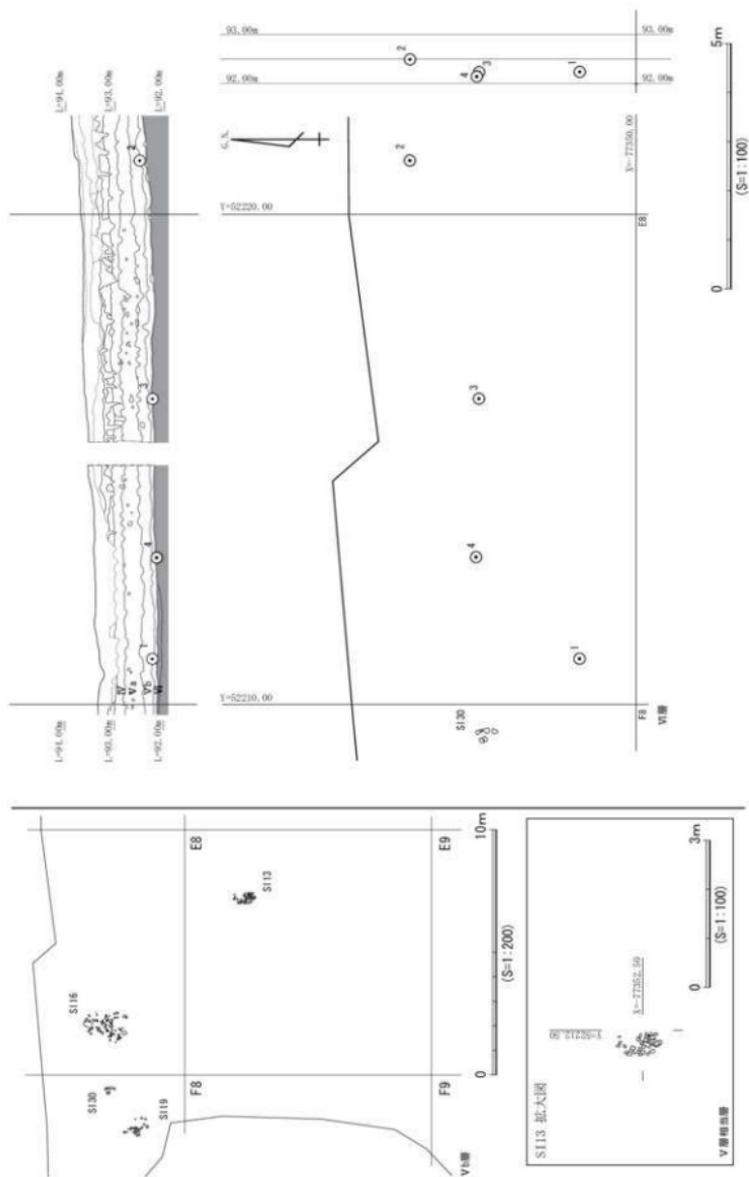
SI19は92.24 mから92.34 mのレベルで検出した。構成礫は27点で、すべて赤化していた。規模は長軸110cm・短軸75cmである。掘り込みなどのプランは検出できなかった。

出土遺物 (第12図、第13図、第14図)

V b層はナイフ形石器、台形石器、剥片尖頭器、スクレイパー、二次加工のある剥片、石核、剥片、細石刃、磨石が出土した。また、遺物の平面分布図については第12図に示している。



第9図 VI層出土石器実測図



第10図 VI層出土石器平面・垂直分布図及びVI層・V b層・V層相当層検出露群平面分布図

分布図の詳細については第V章で記述する。

ナイフ形石器 (第13図5~10)

Vb層で出土するナイフ形石器は二側縁加工のものが主体で、素材剥片は縦長剥片もしくはそれを指向している剥片が顕著である。

小型の二側縁加工ナイフ形石器 (第13図5~8)

5は珪質頁岩製で、先端部から基部まで完形で残存する。先端部の角度は約50度である。素材剥片の打面側は基部側である。側縁は左側縁が対向剥離による調整で、右側縁は素材剥片の主要剥離面側からのみの調整剥離である。刃部には微細な剥離痕がある。

6は珪質頁岩製で、先端部から基部まで欠損することなく残存している。先端部の角度は約35度である。素材剥片は縦長剥片で、縦長剥片を斜め方向に切断して、両側縁となる部分を製作している。左側縁は対向剥離による調整

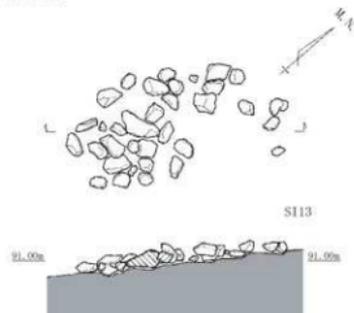
あるが、正面からの調整剥離は微細である。平面は内湾する形状を呈している。右側縁も対向剥離による調整による剥離が施されている。基部は左側縁側に向かって収束するリングが観察される剥離面があるが、右側縁の調整剥離面よりも新しい剥離であることから、左側縁に調整剥離を施すときに欠損したと考えられる。

7は珪質頁岩製で、先端部から基部まで完形で残存する。先端部の角度は約75度とやや鋭角さに欠ける。素材剥片の形状は不明だが、背面、主要剥離面の両方ともポジティブ面である。リングの観察から、主要剥離面の打面は先端部側にあったと考えられる。主要剥離面側の基部には左側縁から調整剥離が施されているが、その目的については不明である。側縁の調整は、左側縁は基本的に主要剥離面からの調整剥離であるが、背面側にもわずかに微細な剥離が認め



S119

V層相当層

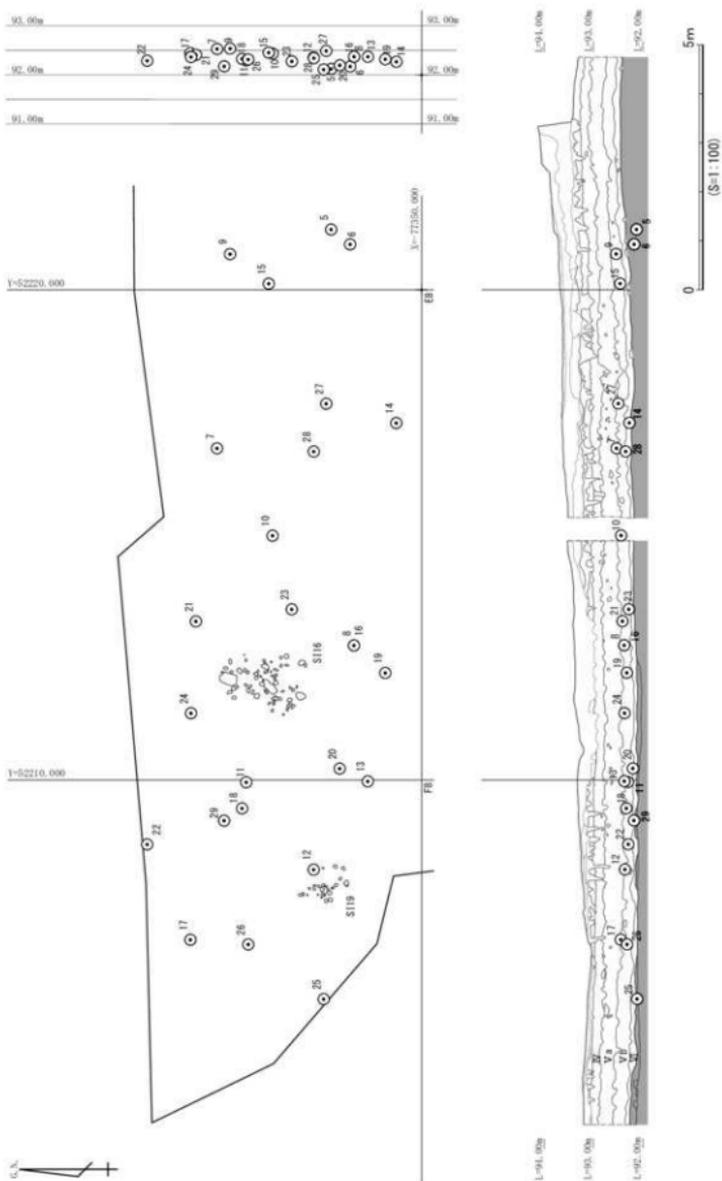


S113

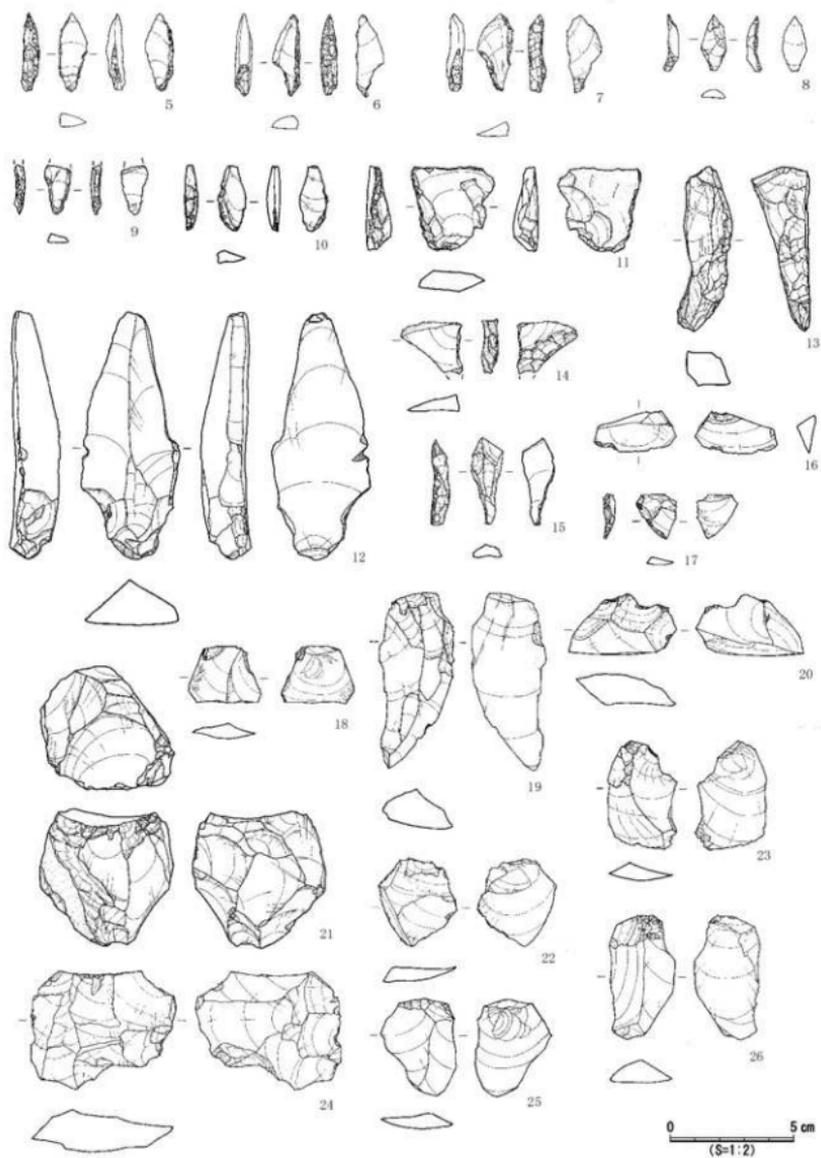


S116

第11図 Vb層及びV層相当相検出群実測図



第12図 V b層出土石器平面・垂直分布図及び横断面分布図



第13图 Vb层出土石器实测图(1)

られ、対向剥離による調整が施されている。

8はいわゆる桑ノ木津留産と呼ばれている黒曜石製で、先端部から基部まで完形で残存する。先端部の角度は約55度である。素材剥片の形状はよくわからないが、主要剥離面のリングやフィッシャーの観察から、素材剥片の打面は先端部側にあると思われる。右側縁は基部側から先端部側まですべてに主要剥離面側から微細な調整剥離が施されている。左側縁についても微細な調整剥離が主に主要剥離面側から施されている。ただし、一箇所だけ背面側からの剥離が認められるが、それを対向剥離と呼べるかどうかは判断が難しい。

小型のナイフ形石器 (第13図9、10)

9は珪質頁岩製で、先端部は欠損しており、その形状は不明である。欠損部を観察すると、背面側から力が加わったときに破損したようである。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は基部にある。調整剥離については主要剥離面側から施されており、大まかな剥離の後、微細な剥離を入念に施している。

10は小型のナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部は欠損しているが、先端部の角度を還元すると約40度である。素材剥片は縦長剥片を指向した剥片と推定され、素材剥片の打面は残存していないが、先端側にあったと考えられる。背面右側縁は微細な調整剥離が主要剥離面側から施されている。一方で、背面左側縁は一度主要剥離面側から調整剥離を施した後、基部近くに背面側からの調整剥離が施されているのが特徴である。

台形石器 (第13図11)

11は台形石器もしくはその未製品で、石材は珪質頁岩である。先端部は約10度右方向に傾いている。素材剥片は横広の不整形剥片で、素材剥片の打面は残存している。また、主要剥離面を腹面としてみたときの背面には自然面が残存している。本遺跡での台形石器を観察すると、素材剥片の主要剥離面側が腹面となっており、側縁部の調整剥離は腹面(主要剥離面)側

からの調整である。しかし、この台形石器については主要剥離面左側縁の調整剥離を観察すると、自然面側から施されていることが分かる。他の台形石器は対向調整が観察される398を除いてすべて腹側縁からの調整剥離であることを重視して、本製品はイレギュラーではあるが主要剥離面側を背面とした。また、主要剥離面右側縁については、剥離痕があるが、リングの方向などをみると、素材剥片を剥ぎ取る以前の剥離のようにみえる。このことが、背面右側縁には調整剥離が施されていないと推定し、未製品の可能性を考えた根拠である。

剥片尖頭器 (第13図12)

12は大型品で、石材はホルンフェルスである。先端部は縦方向に細長く欠損する。その形状をみると、彫器にもみえる。実際、彫器に転用する事例もあるようである。基部の長さは2.00cm、残存幅は2.00cm、厚さは1.60cmである。素材剥片は縦長剥片を指向していると思われる。ただ、他の剥片尖頭器は素材剥片の打面と主要剥離面の角度は90度に近いのだが、本製品の角度は125度と鈍角である点に違いがみられる。素材剥片の打面は残存する。主要剥離面側からの調整剥離で基部が形成される。

スクレイパー (第13図13)

13はサイドスクレイパーで、石材はチャートである。素材剥片は不整形剥片である。本製品を観察すると、節理面を腹面にし、腹面側から調整剥離を施している様子が窺える。

二次加工のある剥片 (第13図14～17)

14は流紋岩製である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存しない。ブランディング加工の方向から主要剥離面側を背面とした。

15は二次加工のある剥片またはナイフ形石器の未製品の二通りの可能性が推定できるが、素材剥片の打面側を下にして据えた。素材剥片は不整形剥片である。側面の調整は背面左側縁部のみ調整剥離が施されている。背面右側縁には節理面がある。

16は珪質頁岩製である。素材剥片は横長を指向した剥片で、素材剥片の打面が残存する。

17は二次加工のある剥片もしくはナイフ形石器の未製品と推定できる剥片である。石材は珪質頁岩である。素材剥片は不整形剥片であるが、素材剥片の打面は残存していない。ナイフ形石器とした場合、天地が逆になる。

石核 (第13図 21、24)

21は珪質頁岩製である。

24は流紋岩製で、打面転移を2回行っている。右回りに90度の転移である。

剥片 (第13図 18～20、22、23、25、26)

18は流紋岩製である。剥片の打面が残存し、打面と主要剥離面の角度は約110度である。打面と主要剥離面の角度から考えると、縦長剥片とは言い難い。

19はホルンフェルス製の縦長指向の剥片で、主要剥離面の打面が残存し、主要剥離面との角度は約90度であるが、途中から内湾する。

20は不整形の剥片で、珪質頁岩製である。背面側の剥片剥離をみると不整形剥片を剥ぎ取ったあとと思われる。腹面を観察すると、この剥片が剥離される前の主要剥離面を打面として、この剥片も剥ぎ取られている。

22はやや幅広い不整形剥片で、石材は珪質頁岩である。主要剥離面の打面は残存しており、主要剥離面との角度は90度に近い。

23は不整形剥片で、石材は珪質頁岩である。主要剥離面の打面は残存しており、主要剥離面

との角度は最初90度で、途中から角度がゆるやかになる。

25は不整形剥片で、石材は珪質頁岩である。主要剥離面の打面は残存しており、主要剥離面との角度は約110度である。

26は不整形剥片で、石材は流紋岩である。主要剥離面の打面が残存し、主要剥離面との角度は約120度である。

細石刃 (第14図 27、28)

27・28は細石刃である。

敲石 (第14図 29)

29は小さな円礫を素材としている。

(4) V a層検出の遺構と遺物 検出遺構

V a層下部の礫群 (第16図)

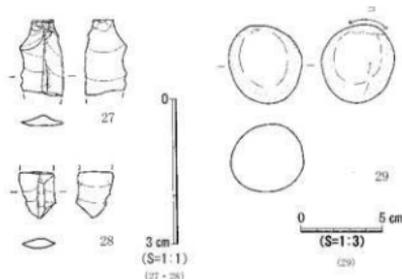
V a層下部で礫群を6基検出した。

SI12は92.65 mから92.74 mのレベルで検出した。構成礫は96点で、そのうち70点が赤化していた。規模は長軸190cm・短軸175cmである。掘り込み面などのプランは検出できなかった。図化してみると、数基の礫群の集まりのようにも見えるが、現地での判断を優先して1基の礫群とした。

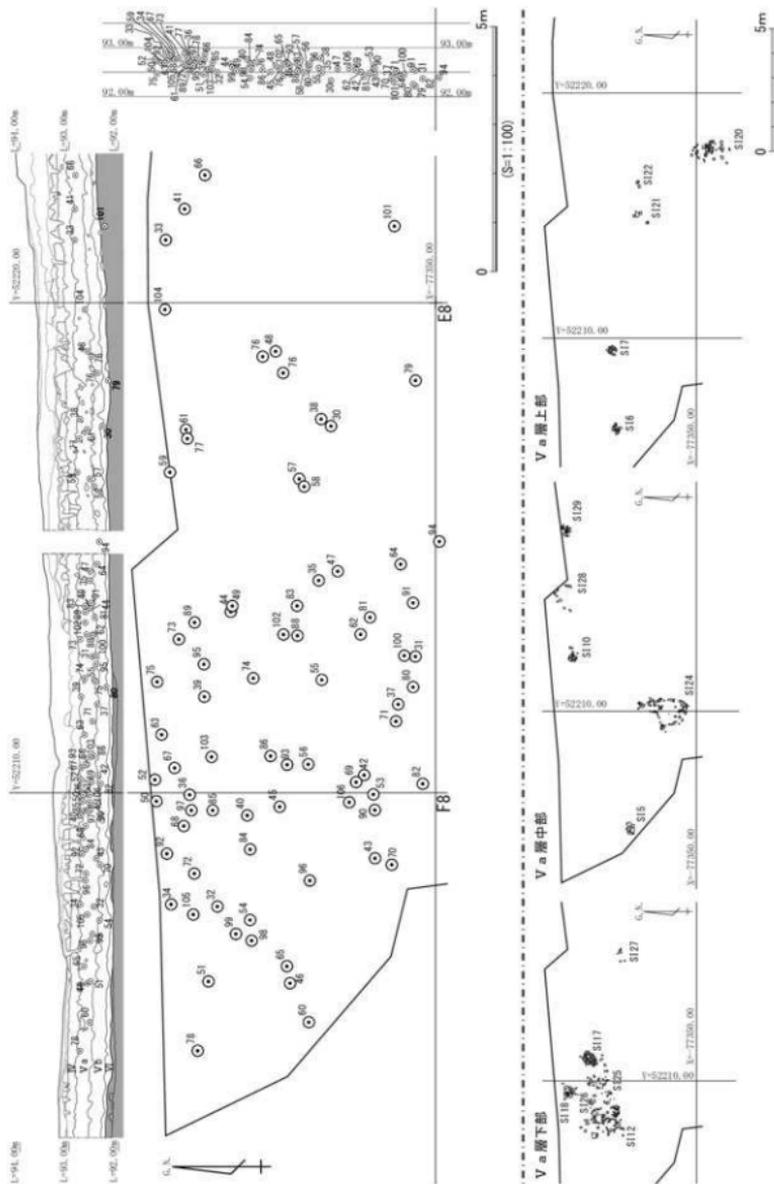
SI27は92.43 mから92.46 mのレベルで検出した。規模は長軸0.58 m・短軸0.29 mである。構成礫は6点あり、すべてが赤化していた。構成礫の密度はやや疎である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

SI18は92.55 mから92.57 mのレベルで検出した。規模は長軸0.82 m・短軸0.69 mである。構成礫は22点あり、すべてが赤化していた。構成礫の密度はやや密である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

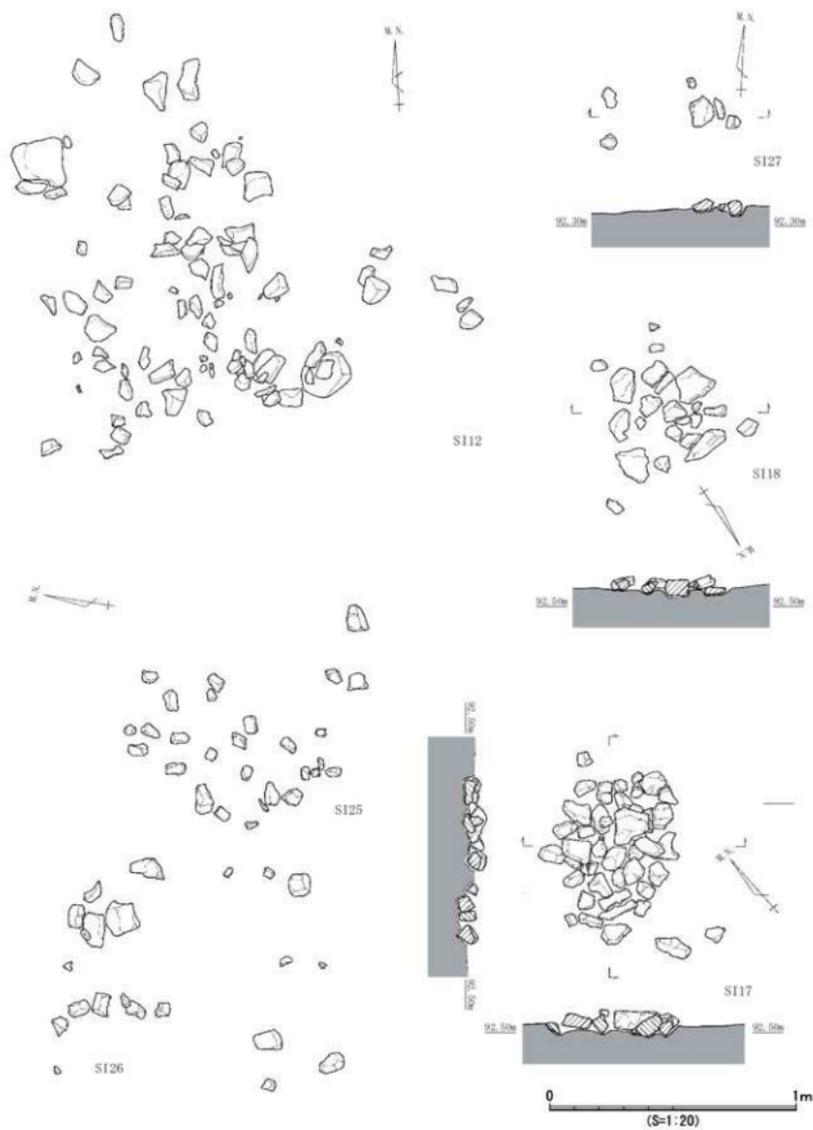
SI25・SI26は92.41 mから92.52 mのレベルで検出した。規模は長軸1.85 m・短軸1.20 mである。構成礫は61点あり、そのほとんどが赤化していた。構成礫の密度はやや疎である。SI25とSI26の分布域の中心は互いに存在するが、境界線が曖昧であり、どの礫がそれぞれの



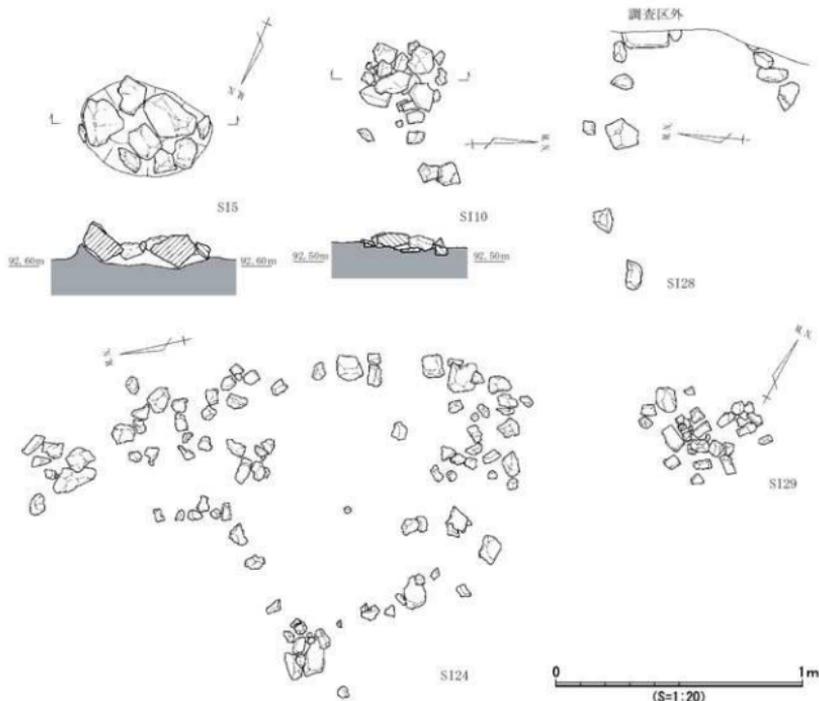
第14図 V b層出土石器実測図 (2)



第15図 Va層出土石器平面・垂直分布図及び縦断面分布図



第16図 V a層検出礫群実測図(1)



第17図 V a層検出礫群実測図(2)

構成礫であるかの判断は成し得なかった。また、掘り込み面などのプランは検出できなかった。

S117は92.27mから92.33mのレベルで検出した。構成礫は45点あり、すべてが赤化していた。規模は長軸0.57m・短軸0.52mである。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

V a層中部の礫群(第17図)

V a層中部では5基の礫群を検出した。

S15は92.60mから92.62mのレベルで検出した。規模は長軸0.54m・短軸0.40mである。構成礫は9点あり、すべてが赤化していた。構成礫の密度は密である。掘り込み面については、平面プランで不鮮明であったが検出した。掘り込み面の平面プランの規模は長軸0.55m・短

軸0.41mである。

S110は92.52mから92.55mのレベルで検出した。規模は長軸0.60m・短軸0.37mである。構成礫は24点あり、すべてが赤化していた。構成礫の密度は密である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

S124は92.15mから92.33mのレベルで検出した。規模は長軸2.10m・短軸1.08mである。構成礫は98点あり、そのほとんどが赤化していた。構成礫の密度はやや疎である。構成礫の密度をみると、4基から5基の礫群とも考えられるが、1基の範囲がどこまでか判断し得なかったため、S124という1基の礫群にしている。また、掘り込み面の平面プランは検出でき

なかった。

S128は92.60 mから92.65 mのレベルで検出した。規模は長軸1.07 m・短軸0.87 mである。構成礫は9点あり、そのほとんどが赤化していた。構成礫の密度は疎である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

S129は92.63 mから92.70 mのレベルで検出した。規模は長軸0.56 m・短軸0.40 mである。構成礫は27点あり、そのほとんどが赤化していた。構成礫の密度は密である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

V a 層上部の礫群 (第18図)

V a 層上部では5基の礫群を検出した。

S16は92.82 m付近のレベルで検出した。規模は長軸0.47 m・短軸0.43 mである。構成礫は17点あり、すべてが赤化していた。構成礫の密度は密である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

S17は92.72 mから92.77 mのレベルで検出した。規模は長軸0.46 m・短軸0.41 mである。構成礫は16点あり、すべてが赤化していた。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

S120の規模は長軸1.50 m・短軸0.89 mである。構成礫は47点あり、そのほとんどが赤化していた。構成礫の密度はやや密である。構成礫のまわりに疎密があり、数基の礫群の可能性も否定できないが、それを裏付ける明確な根拠は見出せなかったため1基の礫群としている。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

S122は92.42 m付近のレベルで検出した。規模は長軸・短軸0.17 mである。構成礫は4点あり、2点が赤化していた。掘り込み面のプランは、平面と断面を観察したが検出できなかった。

S121は92.42 mから92.48 mのレベルで検出した。規模は長軸0.62 m・短軸0.04 mである。構成礫は5点あり、3点が赤化していた。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

出土遺物 (第19図～第25図)

V a 層ではナイフ形石器、剥片尖頭器、スクレイパー、二次加工のある剥片、石核、剥片、細石刃核、細石刃、敲石が出土した。また、遺物の平面分布図については第15図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

ナイフ形石器 (第19図30～47)

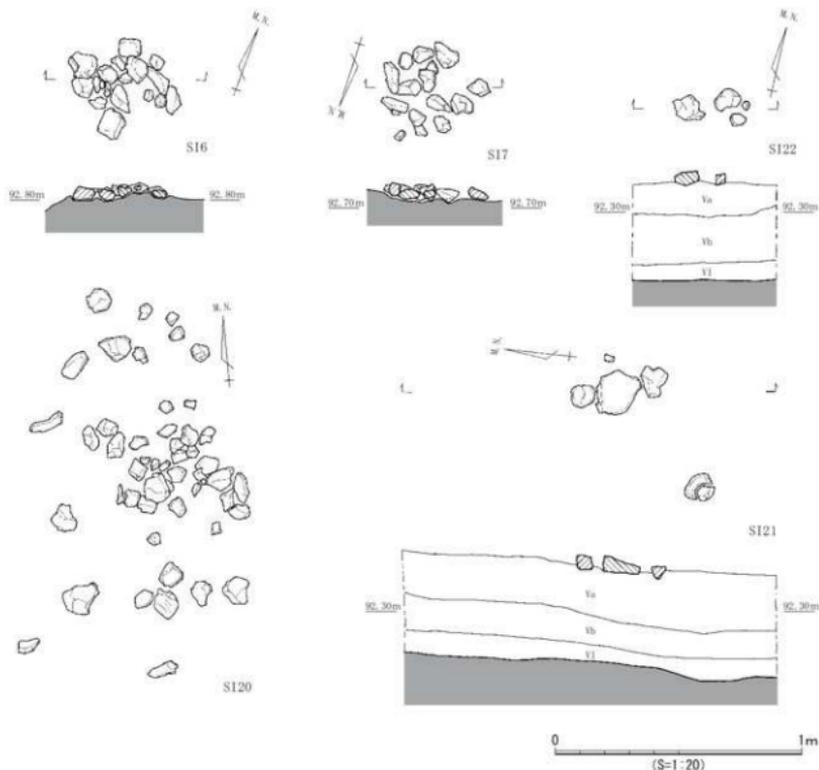
小型の二側縁加工ナイフ形石器 (第19図30～33)

30は珪質頁岩製である。基部は欠損している。先端部の角度は約30度である。素材剥片は縦長剥片である。剥片を斜めに切断して、側縁となる部分を作っている。右側縁は主要剥離面側からのみの調整剥離で、基部側から先端部まで丁寧に剥離が施されている。左側縁は対向剥離による調整である。

31は珪質頁岩製である。先端部は欠損しているが、復元すると約35度と非常に鋭角である。素材剥片は不整形の剥片で、素材剥片の打面は右側縁下半部側にあったと考えられる。右側縁は基本的に主要剥離面側からの調整剥離であるが、先端部側は背面からも調整剥離を施しており、対向調整である。左側縁については主要剥離面側からの調整剥離に、一箇所だけ背面からの調整剥離が施されている。

32は流紋岩製である。先端部は欠損しているが、その角度は復元すると約35度である。素材剥片は縦長剥片と考えられ、素材剥片の打面方向は基部側である。両側縁は縦長剥片を斜めに切断して、形状を作り出している。側縁の加工については、左側縁は主要剥離面側からの調整剥離のみであるが、右側縁は対向剥離による調整が施されている。

33は珪質頁岩製で、完形で残存し、先端部の角度は約40度である。素材剥片は縦長剥片と推定でき、縦長剥片を切断して、ナイフ形石器の祖型を形作っている。素材剥片の打面は残存しないが、リングやフィッシャーの方向から先端部側にあったと推測した。背面右側縁の調整は対向剥離によって行われており、背面左側縁も対向調整である。



第18図 Va層検出礫群実測図(3)

中の二側縁加工ナイフ形石器(第19図34、42)

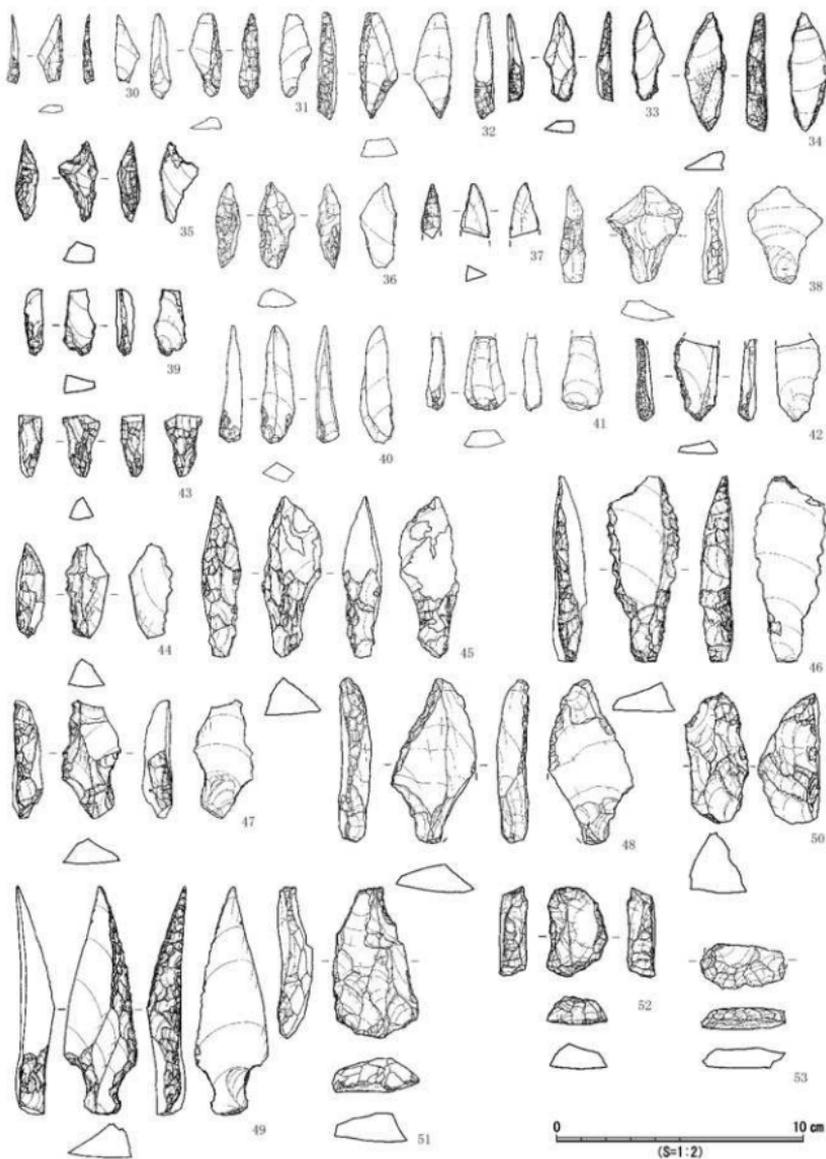
34は珪質頁岩製である。先端部から基部までほぼ完形で残存し、先端部の角度を復元すると約45度である。先端部の欠損は、先端部側からの衝撃によって剥離したものと考えられる。素材剥片は縦長剥片と推測されるが、素材剥片の打面は残存しない。また、打面はリングなどの向きから推測して先端部側とした。背面に自然面が残る。背面右側縁、背面左側縁の両側縁とも対向剥離による調整が施されている。

42の石材は珪質頁岩である。途中から欠損

しているため、先端部の形状は不明である。素材剥片は縦長指向の剥片で、素材剥片の打面が一部残存しており、基部側にあったことが分かる。側縁の加工は、左側縁が基部側から欠損部に向かって主要剥離面側から施されている。おそらく先端部まで調整剥離は続いていたと思われる。一方で、右側縁は基部から約1.30cmのところまで終わっている。調整剥離は左側縁と同じく主要剥離面側から施されている。

狸谷型ナイフ形石器(第19図35)

35はいわゆる桑ノ木津留産黒曜石製で、先



第19图 Va层出土石器实测图(1)

端部から基部までほぼ方形で残存する。先端部の角度を復元すると約60度である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は背面左側縁方向であったと推定される。調整剥離は両側縁とも主要剥離面側から施されている。先端部を観察すると、ナイフ形石器の刃部に主要剥離面側から調整剥離が施されていることがわかる。また、右側縁も先端部側に後から調整剥離が施されていることから錐に転用している。

小型のナイフ形石器 (第19図36、37)

36は珪質頁岩製である。先端部から基部まで完形で残存し、先端部の角度は約55度である。素材剥片は不整形な剥片と考えられ、素材剥片の打面は左側縁の先端部近くにあったと推定できる。側縁部の調整は左右ともに主要剥離面側から施されている。

37は珪質頁岩製で先端部が残存する。先端部の角度は約40度である。素材剥片は横長を指向した剥片剥離と思われる。素材剥片の打面は残存していないが、背面左側縁方向にあったと推定できる。側縁部の加工は背面左側縁のみで、腹面からの調整剥離である。

北牛牧型ナイフ形石器 (第19図38)

38は北牛牧型と呼ばれるナイフ形石器で、石材は流紋岩である。先端部は欠損しているが、先端部の角度は復元すると約90度である。素材剥片はいわゆる「ノ」の字形の剥片である。主要剥離面のリングなどの観察から、素材剥片の打面は残存していないが左側縁側にあったと判断できる。両側縁の調整剥離は主要剥離面側から施されている。両側縁とも調整剥離は最初大まかに施して、その後、微細な調整剥離を施している。刃部については左右非対称で、左側のほうがやや長い。

基部加工ナイフ形石器 (第19図39～41)

39は珪質頁岩製で、小型のナイフ形石器である。先端部が欠損しており、その形状は不明である。素材剥片は不整形剥片である。素材剥片の打面は残存していないが、背面右側縁側にあったことが分かる。背面左側縁側の調整剥離

は主要剥離面側から施されているが、背面右側縁側では背面側からの剥離で、内向調整である。

40の石材は流紋岩である。先端部が一部欠けてはいるが、ほぼ方形である。先端部の角度は約55度で、やや鋭角さに欠ける。素材剥片は縦長剥片である。右側縁には基部から先端部方向に向かって剥離した面がある。リングの方向から考えると、背面側からの加工であり、腹面側から施されている基部の調整剥離とは方向が異なっている。ただし、左側縁の基部加工はこの剥離を切る形で施されていることから、この剥離よりも後に行われていることがわかる。以上の点から推測すると、基部を加工する初期の段階で剥離したと考えられる。

41は基部加工の施されたナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部が欠損しているため角度は不明である。素材剥片は縦長を指向したと推定できる剥片で、素材剥片の打面が残存しており、打面が基部側であることが分かる。基部の調整剥離は製品の中心軸から左側に施されている。

その他のナイフ形石器 (第19図43～47)

43はナイフ形石器又は角錐状石器の基部で、石材は珪質頁岩である。残存する部分は基部のみである。素材剥片の形状は主要剥離面にも調整剥離が施されているため不明である。調整剥離の順番は、まず主要剥離面側から両側縁に剥離を施した後に、主要剥離面に両側縁側から調整剥離を施している。主要剥離面の調整剥離との時間的前後関係は不明であるが、稜上調整も施されている。本遺跡の中で、基部の主要剥離面側を調整剥離させたナイフ形石器は45がある一方で、365の角錐状石器にも同じ調整剥離が見受けられる。剥離技術の面からは角錐状石器とナイフ形石器のどちらであるかは断定できない。母岩を比較すると、45、365ともに珪質頁岩であり、365の角錐状石器に近い。しかし、43は基部から「ハ」の字に開くようなプロローションをしており、プロローションの面から他のナイフ形石器や角錐状石器と比較する

と、ナイフ形石器の可能性が高いと考えた。

44は珪質頁岩製の中型一側縁加工ナイフ形石器で、先端部の一部が剥離しておりその形状は不明である。素材剥片は横長剥片を指向した可能性もあるが、不整形剥片とする。背面左側縁の調整剥離は主要剥離面側から施されている。

45は珪質頁岩製の大型ナイフ形石器である。先端部から基部まで完形で残存する。先端部の角度は約60度である。素材剥片は縦長指向の剥片と思われるが、素材剥片の打面は残存しない。背面左側縁は対向剥離による調整が施されているが、背面右側縁は主要剥離面側からの剥離である。また、稜上調整剥離や主要剥離面の基部側にも対向剥離による調整が施されている。

46は流紋岩製の大型ナイフ形石器である。先端部から基部までほぼ完形で残存する。先端部は約40度左方向に傾いた形状である。打面と主要剥離面との角度はほぼ90度であり、素材剥片は縦長剥片を指向していると思われる。素材剥片の打面は基部側に残存している。両側縁とも主要剥離面側からの調整剥離が施されている。背面左側縁は基部から約3cmのところに内湾する調整剥離になっており、茎を意識したと考えられる。また、主要剥離面左側縁にも調整剥離が施されており、茎部の厚みを減らそうとした可能性もある。

47は中型の二側縁加工ナイフ形石器である。先端部が欠損している。背面の右側を観察すると、先端部から薄く剥がれている。素材剥片は不整形剥片で、基部側に素材剥片の打面が残存する。側縁部の加工は二側縁加工で、調整剥離は主要剥離面側から施されている。また、調整剥離は関を形成し基部側で直線的となるため茎部を意識していたと考えられる。

剥片尖頭器 (第19図48、49)

48の石材は珪質頁岩である。先端部に縦方向に裂けるような剥離をもち、茎部も一部欠損している。基部の長さは1.40cm、残存幅は1.10cm、厚さは1.07cmである。素材剥片は縦長剥片、もしくはそれを指向した剥片で、素材

剥片の打面は基部側である。また、素材剥片の打面と打点が残存している。

49の石材は珪質頁岩である。先端部から基部まで完形で残存しており、非常に精緻で、そのプロポーションも美しい剥片尖頭器である。先端部の角度は約35度である。基部の長さは1.60cm、幅は1.30cm、厚さは1.10cmである。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は基部側である。打面は残存する。刃部は素材剥片を剥ぎ取る際に形成された。背面右側縁には側縁全体に調整剥離が施されている。先端部から2/3程度までの部分には対向剥離による調整が施されている。対向調整は最初大まかに剥離を施した後には細かな剥離が施されている。基部側は背面の両側縁ともに内湾する調整剥離が主要剥離面側から施されており、茎部を形成する。また、主要剥離面の打面には、背面右側からの微細な剥離が施されている。

スクレイパー (第19図50～53、第20図54)

50はチャート製のサイドスクレイパーで、素材剥片は不整形剥片である。

51はエンドスクレイパーで、素材剥片はやや縦に長い剥片である。素材剥片の打面が残存する。調整剥離は主要剥離面側から施されている。背面右側縁の上部にはブランディング加工が施されている。

52はチャート製である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面が残存する。調整剥離は両サイドとエンドに施されている。

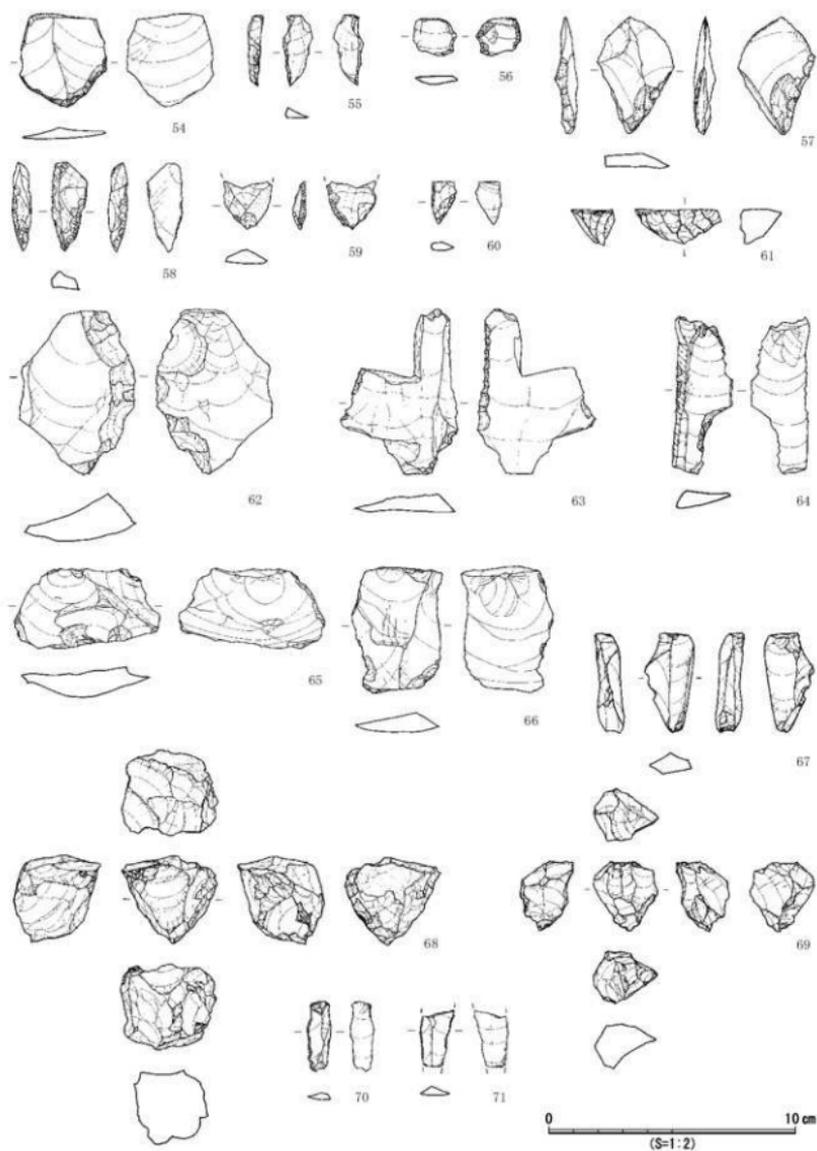
53はチャート製のエンドスクレイパーである。腹面は節理面である。

54は珪質頁岩製である。厚みが0.53cmとかなり薄いという点に特徴がある。素材剥片は不整形剥片である。調整剥離は背面左サイドとエンドに施されている。

二次加工のある剥片 (第20図55～60、63～66)

55は背面側からの調整剥離が施されている。調整剥離の角度からナイフ形石器の未製品の可能性もある。

56は無光沢チャート製で、主要剥離面の打



第20図 V a層出土石器実測図(2)

面が残存する。両側縁の調整剥離はかなり微細である。主要剥離面左側縁には突起を作るような剥離が施されている。

57は二次加工のある剥片もしくはナイフ形石器の未製品で、石材は流紋岩である。北牛牧型ナイフ形石器に近い。素材剥片は不整形の剥片で、主要剥離面のリングを観察すると、「ノ」の字にも見える。背面左側縁は対向剥離による調整が施され、その後、素材剥片の打面を除去するために背面左側縁方向から調整剥離が施されている。一方で、背面右側縁の調整剥離は施されていないが、側縁を上にして背面方向への調整剥離が施されている点が特徴である。

58はチャート製の二次加工のある剥片またはナイフ形石器の未製品である。素材剥片は不整形で、背面左側縁方向に素材剥片の打面があったと推定される。側縁の加工は主要剥離面側から調整剥離が施されている。

59は側面に加工が施されているが、左側縁が腹面側から、右側縁は背面側からと側縁で異なっている。

60は姫島産安山岩製で、素材剥片は不整形である。

63は赤色チャート製で、素材剥片は不整形である。背面右側縁には微細な剥離痕がある。

64は流紋岩製で、素材剥片は縦長剥片である。背面右側縁の下部に二次加工が施されている。また、背面左側縁側は節理面で、そこに微細な剥離痕がある。

65は流紋岩製の横広い不整形の二次加工のある剥片である。素材剥片を剥離したときの打面が残存する。背面に下部からの調整剥離がある。

66は流紋岩製の縦長を指向した二次加工のある剥片である。素材剥片を剥離したときの打面が残存する。背面左側縁の上部と下部、背面右側縁の下部に二次加工が施されている。

石核 (第20図 61、62、67～69)

61は珪質頁岩製で、腹面側は自然面である。打面を広く取り一定方向から剥離を行っており、頭部調整にみえる部分もあるが、細石刃核

ではないと思われる。

62は珪質頁岩製である。石核の素材となった剥片の主要剥離面左側から剥片を取っている。取られた剥片は背面と腹面の両面ともにポジティブな面をもつ剥片である。

67は流紋岩製の石核で、片島型ナイフ形石器を製作する際に用いられた可能性が高い。

68は無光沢チャート製である。石核の一部に自然面が残存する。

69はチャート製である。打面転移が2回行われており、右回りに90度回転させている。

細石刃 (第20図 70、71)

70、71は細石刃である。ともに側縁に微細な剥離痕がある。

剥片 (第21図 72、74～77)

72は珪質頁岩製の不整形剥片で、下部に微細な剥離痕をもつ。

74は珪質頁岩製の不整形剥片である。背面の一部に自然面を残す。

75は珪質頁岩製の不整形剥片である。主要剥離面の打面が残存する。打点の認識が難しい。

76は流紋岩製の縦長剥片である。剥片の打面が残存しているが、打面となった部分は節理面である。また、背面右側は自然面である。

77は珪質頁岩製の不整形剥片である。主要剥離面の打面が残存している。石核から剥片を剥離する際に一度では剥ぎ取れなかったようで、打点が2つある。

二次加工のある剥片 (第21図 73)

73は珪質頁岩製で、素材剥片は不整形である。二次加工は背面左側縁の上部に施されている。

敲石 (第21図 78～80)

78、79、80は敲石である。78、79は砂岩製で、80は珪質頁岩製である。80は欠損しているが、いつの段階で欠損したのかは不明である。

細石刃核 (第22図 81～85、第23図 86～88、第24図 89～94)

81は黒色チャート製で、船野型細石刃核に分類される。

82は黒色チャート製である。打面調整が施

されている。

83は乳白色チャート製である。

84は白色風化系流紋岩製の細石刃核である。打面に左右から打面調整が行われている。

85は赤色チャート製である。縦方向の剥離痕があるが、剥がれた痕跡の幅が0.1cm前後と非常に細長い。打面調整が施されている。

88は珩質頁岩製で、船野型細石刃核に分類される。作業面をみると、細石刃がうまく剥離できなかった部分が見えるが、作業面再生はない。右側面は素材剥離の主要剥離面であったと思われる。また、下縁からの剥離もある。

86は乳白色チャート製である。打面には左右からの打面調整が施され、下縁にはスクレイパーエッジ状の調整痕が見受けられる。

87は珩質頁岩製で、野岳・休場型細石刃核に分類される。

89は尾鈴山溶結凝灰岩製である。打面転移が2回行われ、右回りに90度回転している。

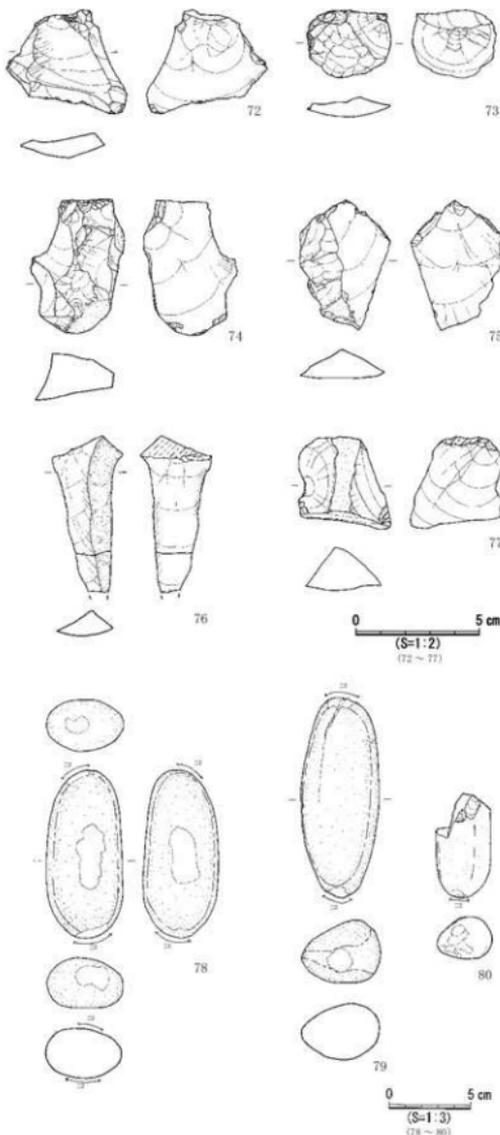
90は赤色チャート製である。細石刃核の作業面再生によって剥離されたものとも考えられる。

91は黒曜石製である。底部と裏面には自然面が残存する。打面調整は施されていない。頭部調整が細かく施されている。

92はチャート製である。打面調整があり、下縁方向からの調整剥離も施されている。

93はチャート製で、泉福寺・羽佐島III型に分類される（松本2003）。打面調整と下縁のスクレイパーエッジ状の調整が施されている。

94は黒色チャート製で、打面調



第21図 Va層出土石器実測図(3)

整ならびに下縁のスクレイパーエッジ状の調整剥離が施されている。泉福寺・羽佐島Ⅲ型に分類される細石刃核である。

細石刃 (第25図 95～106)

95～106は細石刃である。石材は白色風化系流紋岩、珩質頁岩、黒色チャートである。

(5) IV層出土の遺物 (第26図、第27図)

出土遺物

IV層は後期旧石器時代から縄文時代早期までの遺物を包含するが、主に縄文時代早期の遺物を包含する。ここでは旧石器時代の石器を扱う。また、遺物の平面分布図については第26図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

スクレイパー (第27図 107)

107はホルンフェルス製のスクレイパーであるが、風化が著しく調整剥離の痕跡などは明瞭には観察できない。

二次加工のある剥片 (第27図 108～110)

108は珩質頁岩製で、素材剥片は幅広不整形剥片である。主要剥離面右側に剥離痕があり、背面の上部にある微細な剥離は頭部調整のときに付いた剥離痕である。

109は珩質頁岩製で、素材剥片は横広の不整形剥片である。

110は珩質頁岩製で、横広の不整形剥片である。背面右側に二次加工が施されており、ナイフ形石器の未製品の可能性もある。

石核 (第27図 111～114)

111は珩質頁岩製である。剥離面をみると、この石核から剥ぎ取られた剥片は不整形である。

112は黒曜石製である。直径0.4cm以下の灰色の不純物を含み、それが剥がれた痕跡も5箇所ある。

113はホルンフェルス製で、この石核から剥ぎ取られた剥片は不整形であったと考えられる。最終的に剥ぎ取られた剥片が蝶番剥離で剥がれている。

114は赤色チャート製で、剥ぎ取られた剥片

は不整形剥片と考えられる。自然面が多く残る。

二次加工のある剥片 (第27図 115)

115は珩質頁岩製で、背面頭部に調整剥離が見受けられる。

剥片 (第27図 116、117)

116は白色風化系流紋岩製で、主要剥離面の打面が残存する。背面右側の剥離は蝶番剥離である。また、背面左側を打面として用いている。

117は珩質頁岩製で、背面左側には縦方向の剥離があり、細石刃核の作業面調整によって剥ぎ取られた剥片の可能性も考えられる。

細石刃 (第27図 118、119)

118、119は細石刃である。118は珩質頁岩製で、119は黒曜石製である。

(6) V層相当層検出の遺構と遺物

V層は本来ATを含むVb層とAT上位のVa層に分かれるのだが、斜面地ということもあり、明瞭な分層ができなかったためV層とした。2-1区斜面地(8から9グリッド付近)がV層相当層に該当する。1-2区台地(第5図)にも旧石器時代の包含層がある。この層は台地上に堆積しており層位的に安定しているが、2-1区のVa層とVb層のどちらに該当するかは判断できなかったため、1-2区Ⅲ層は基本層序のV層相当層とした。

検出遺構 (第10図、第11図)

V層相当層から礫群を1基検出した。

S113は90.93mから91.03mのレベルで検出した。規模は長軸0.92m・短軸0.51mである。構成礫は35点あり、すべてが赤化していた。構成礫の密度はやや密である。掘り込み面などのプランは検出できなかった。

出土遺物

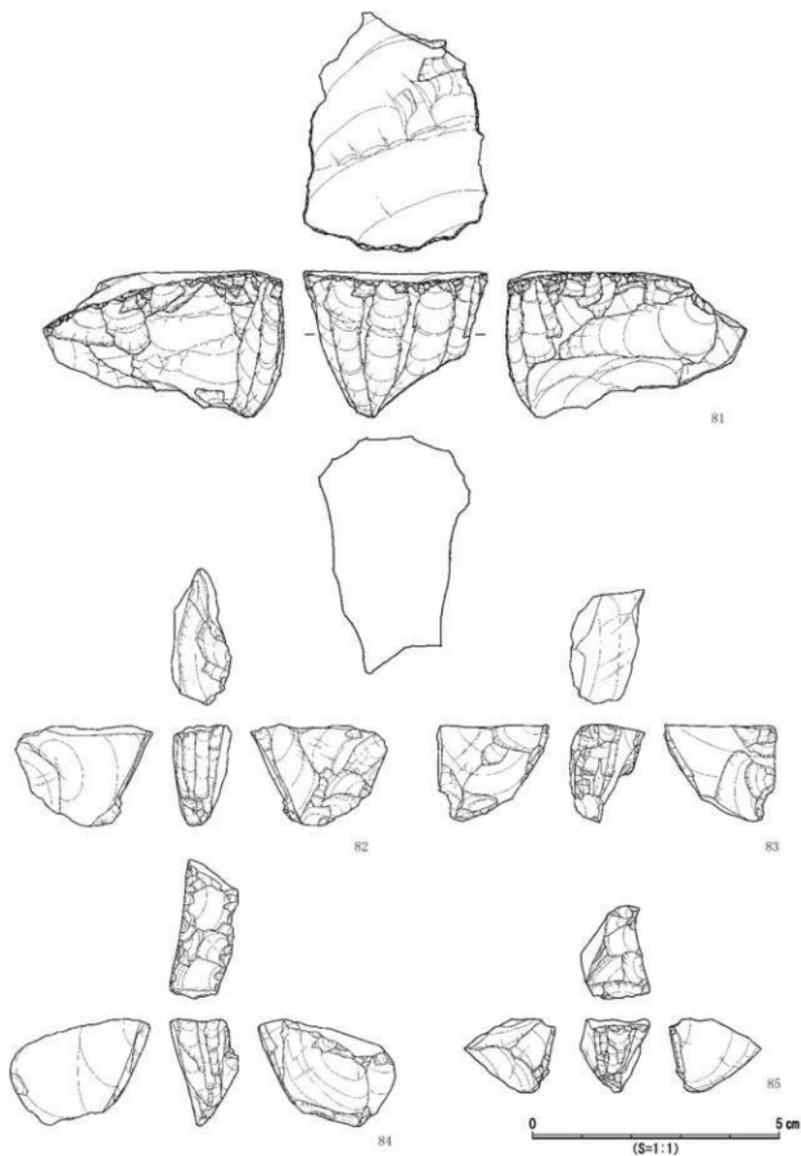
1-2区台地 (第28図～第31図)

遺物の平面と垂直分布図については第28図に示している。

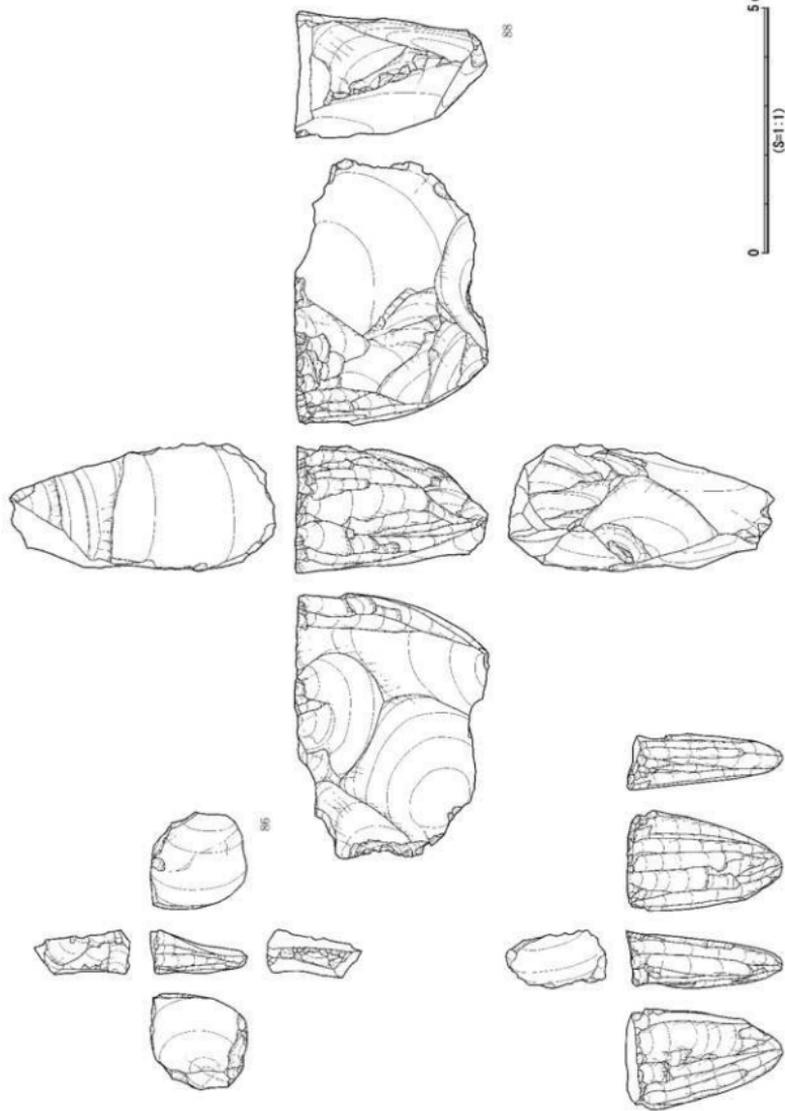
ナイフ形石器 (第29図 120～127)

小型ナイフ形石器 (第29図 120～124、126)

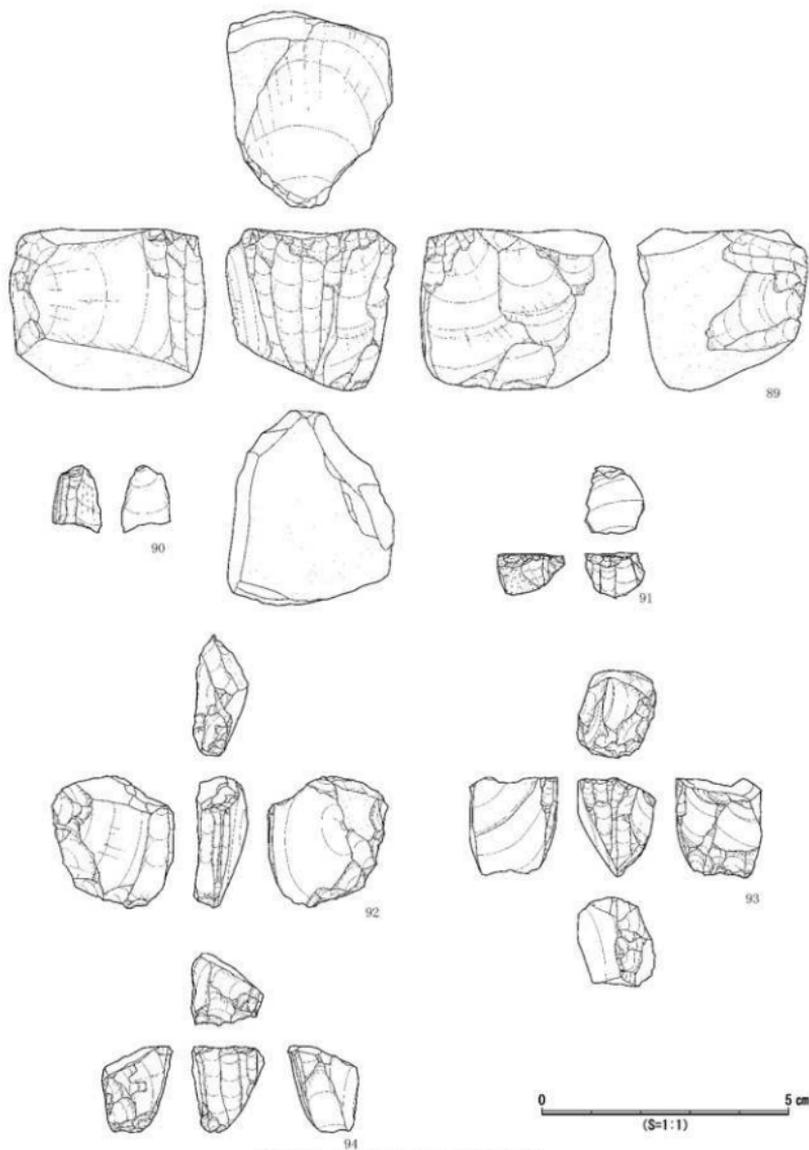
120は珩質頁岩製の小型品で、先端部は欠損



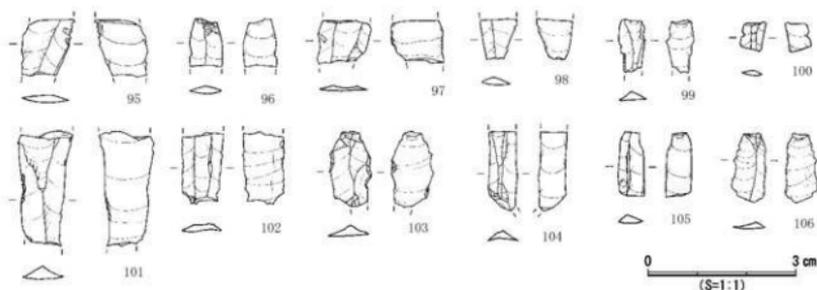
第22図 Va層出土石器実測図(4)



第23图 V a层出土石器实测图(5)



第24図 Va層出土石器実測図(6)



第25図 V a層出土石器実測図(7)

している。素材剥片は不整形剥片である、一側縁加工で、対向剥離による調整が施されている。主要剥離面の打面は残存していないが、リングの方向から基部側にあったと推定できる。

121はホルンフェルス製である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していないが、打面はリングの方向から右側縁の基部近くにあったと推定できる。基部から右側縁部まで調整剥離が施されている。風化で観察しづらいが、側縁部は対向剥離による調整と判断した。

122は流紋岩製で、小型品の欠損品である。先端部は残存しており、その角度は55度である。素材剥片は不整形な小剥片である。

123は珩質頁岩製の小型品である。先端部から基部までほぼ完形で残存しており、先端部の角度は約55度である。素材剥片は横広の不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していない。リングの方向から背面右側縁の基部側にあったと推定される。側縁の加工は背面左側縁が対向剥離による調整で、背面右側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

124は珩質頁岩製の小型品で、完形で残存している。先端部の角度は約40度である。素材剥片は横広の不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していないが、背面左側縁にあったと考えられる。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側から施されている。また、基部には背面からの内向調整が施されている。

126はホルンフェルス製の中型ナイフ形石器で、風化が著しいが先端部から基部まで残存する。先端部の角度は約55度である。素材剥片は不整形剥片で、打面は残存しないが主要剥離面右側の基部方向にあったと推定される。背面左側縁は対向剥離による調整が施されている。背面右側縁は背面側からの内向剥離による調整が施されている。

二側縁加工ナイフ形石器(第29図125)

125は珩質頁岩製で、先端部は残存していない。素材剥片は縦長指向の剥片と考えられる。素材剥片の打面は残存していないが、基部側にあったと推定している。背面右側縁は対向剥離による調整が施されている。一方、左側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

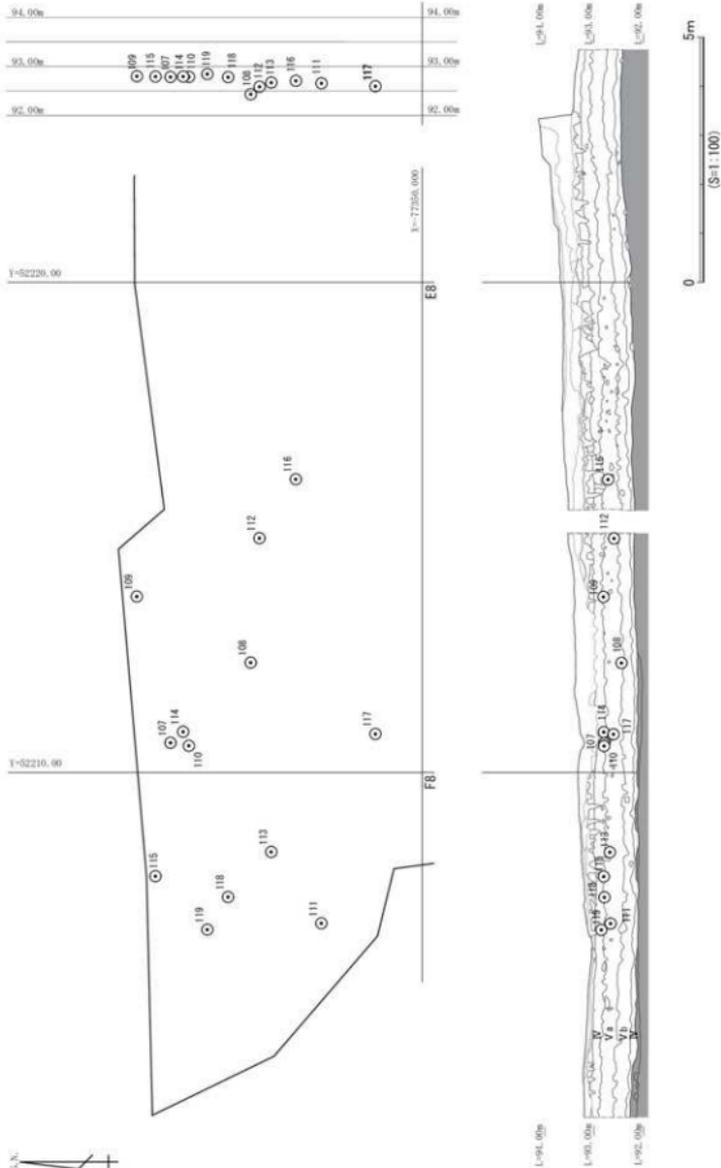
基部加工ナイフ形石器(第29図127)

127は珩質頁岩製で、いわゆる片島型ナイフ形石器に分類されるものである。先端部が一部欠損しているが、それ以外は残存する。先端部の角度を復元すると約35度である。素材剥片の打面は残存しており、基部側である。調整剥離は主要剥離面側から施されている。かなり精緻な調整剥離である。

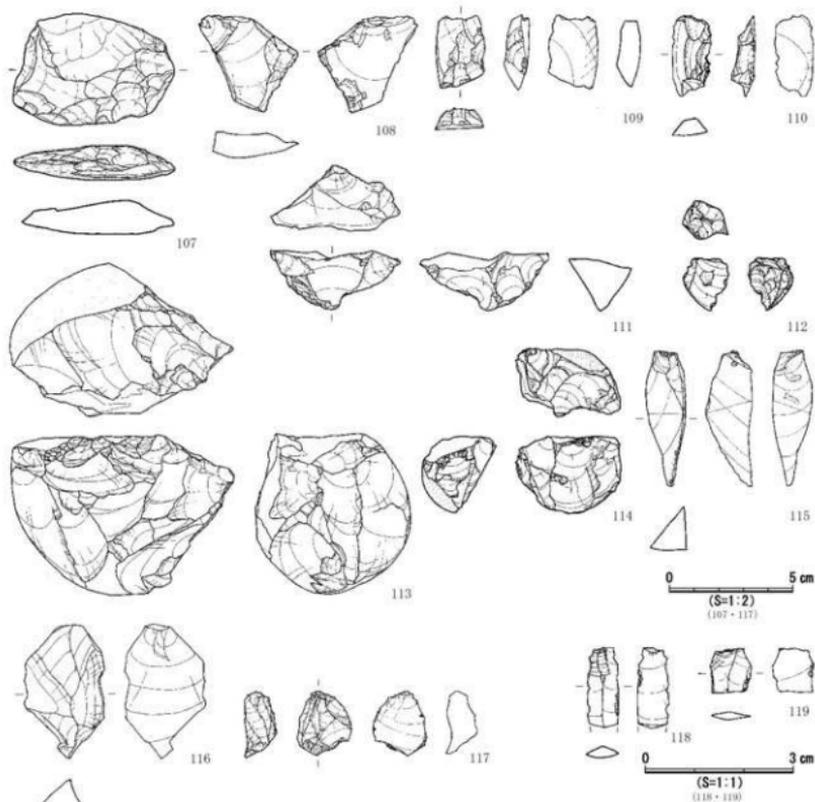
スクレイパー(第29図128、129)

128はホルンフェルス製のエンドスクレイパーである。主要剥離面の打面はリングの向きから刃部側であったと考えられる。

129は珩質頁岩製のサイドスクレイパーとエ



第26図 IV層出土石器平面・垂直分布図



第 27 図 IV層出土石器実測図

ンドスクレイパーの両方の機能をもつスクレイパーである。主要剥離面の打面が残存する。

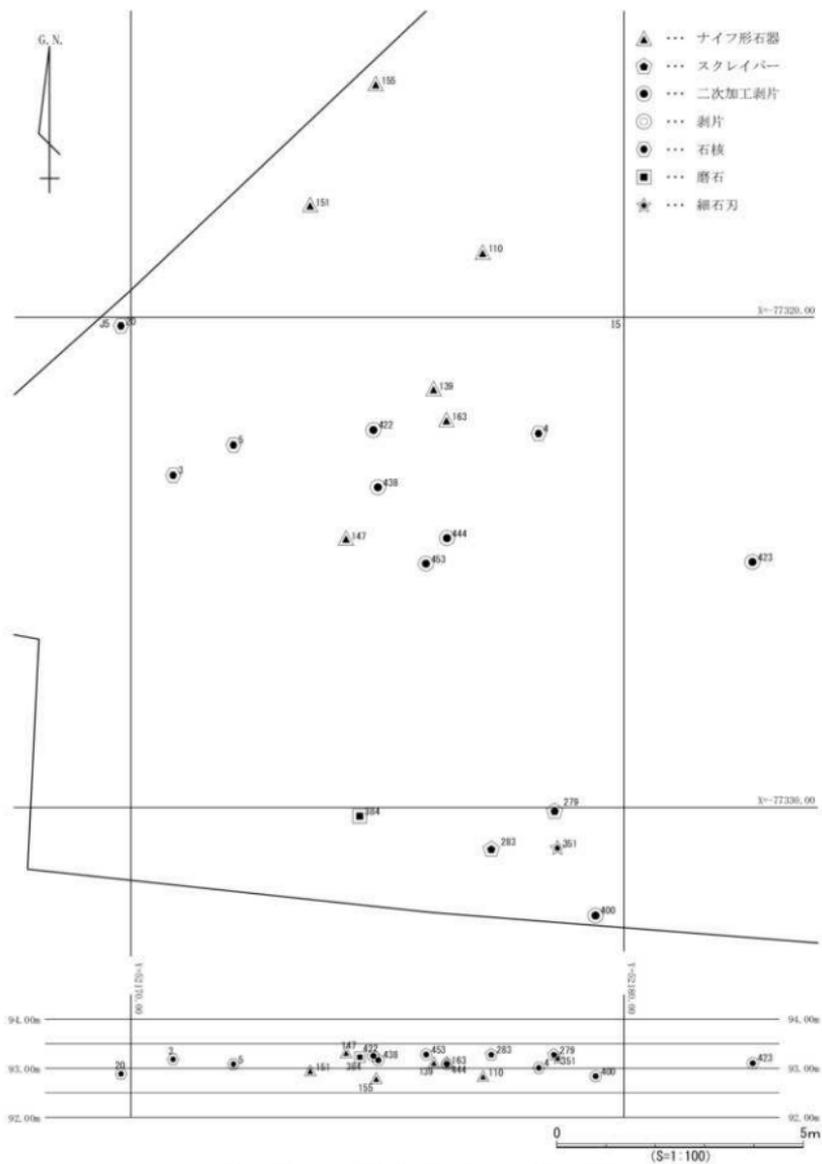
二次加工のある剥片 (第 30 図 130、131、133 ~ 136)

130 は流紋岩製である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は残存しない。背面の両側縁には調整剥離が主要剥離面側から施されており、背面左側縁側には間に当たる部分が形成されている。背面右側縁にも微細な調整剥離が施され、調整剥離は両側縁とも主要剥離面側から施されている。主要剥離面の打面方向の欠損に

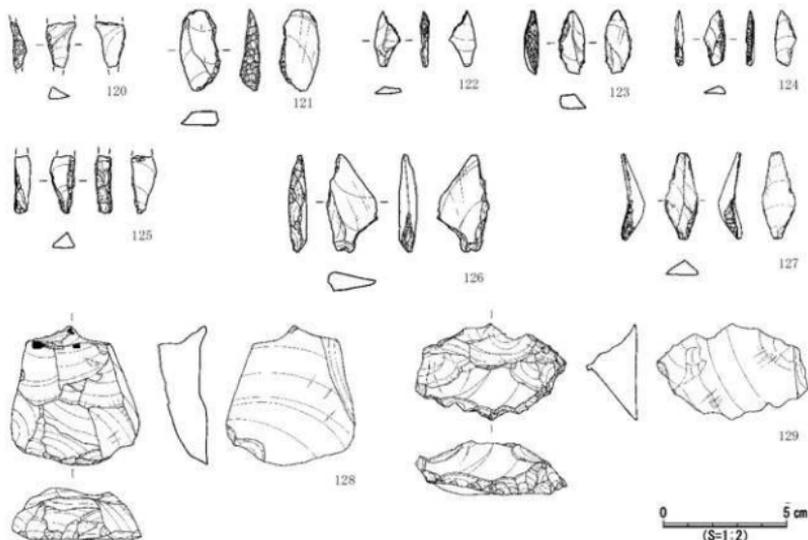
ついては背面左側縁の調整剥離との切り合い関係は、欠損部が新しい。

131 は白色風化系流紋岩製で、エンドスクレイパーの可能性も考えられる。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していない。エンドスクレイパーの可能性を考えたのは、下縁の調整剥離がスクレイパーを意識したのではと推測したからである。

133 は珪質頁岩製で、ナイフ形石器の未製品と推測される。素材剥片の打面は残存していない。調整剥離は主要剥離面側から施されている。



第28図 1-2区台地出土石器平面・垂直分布図



第29図 1-2区台地出土石器実測図(1)

134はいわゆる桑ノ木津留産黒曜石製で、素材剥片は不整形剥片である。主要剥離面を腹面としてみた場合の背面と背面右側縁には自然面が残存する。背面から二次加工が施されている。

135は珪質頁岩製で、素材剥片は横広の不整形剥片である。

136は珪質頁岩製で、素材剥片は不整形剥片である。

微細剥離のある剥片(第30図137、139)

137はホルンフェルス製の横長剥片を素材とした微細剥離のある剥片である。剥片の打面は残存しているが、ちょうど打点部分から二つに折れもしくは裂けている。

139は珪質頁岩製の微細剥離のある剥片である。素材剥片の打面は残存するが、打点のところから二つに折れている。微細な剥離痕は素材剥片の打面を上としたときの下縁についている。

剥片(第30図132、138)

132は流紋岩製の剥片である。剥片の打面が

残存する。剥片は幅広の不整形剥片である。

138は流紋岩製の縦長剥片である。剥片の打面が残存する。

磨石・敲石(第30図140)

140は砂岩製で、磨り痕と敲き痕があり、磨石と敲石の二つの機能を果たした石器である。

細石刃(第30図141、142)

141・142は細石刃である。141は珪質頁岩製である。142は黒曜石製で、背面右側縁には自然面を残す。

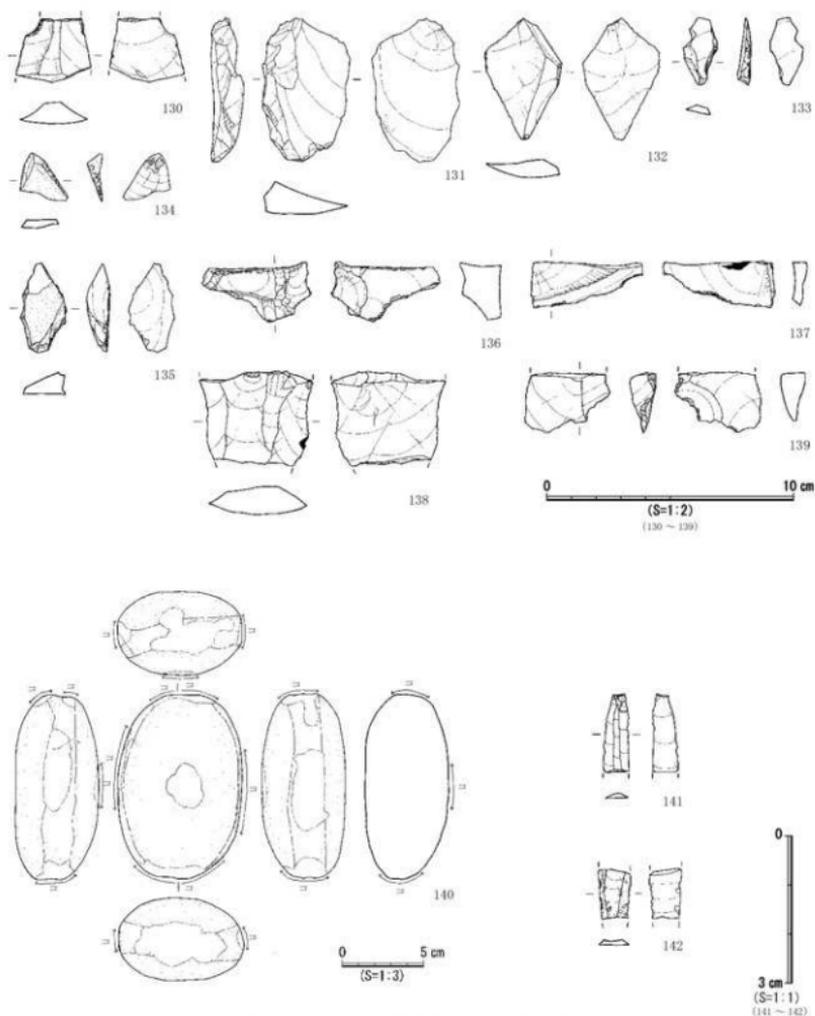
石核(第31図143、145～151)

143はホルンフェルス製で、打面転移を少なくとも2回は行っており、左周りに90度回転させている。

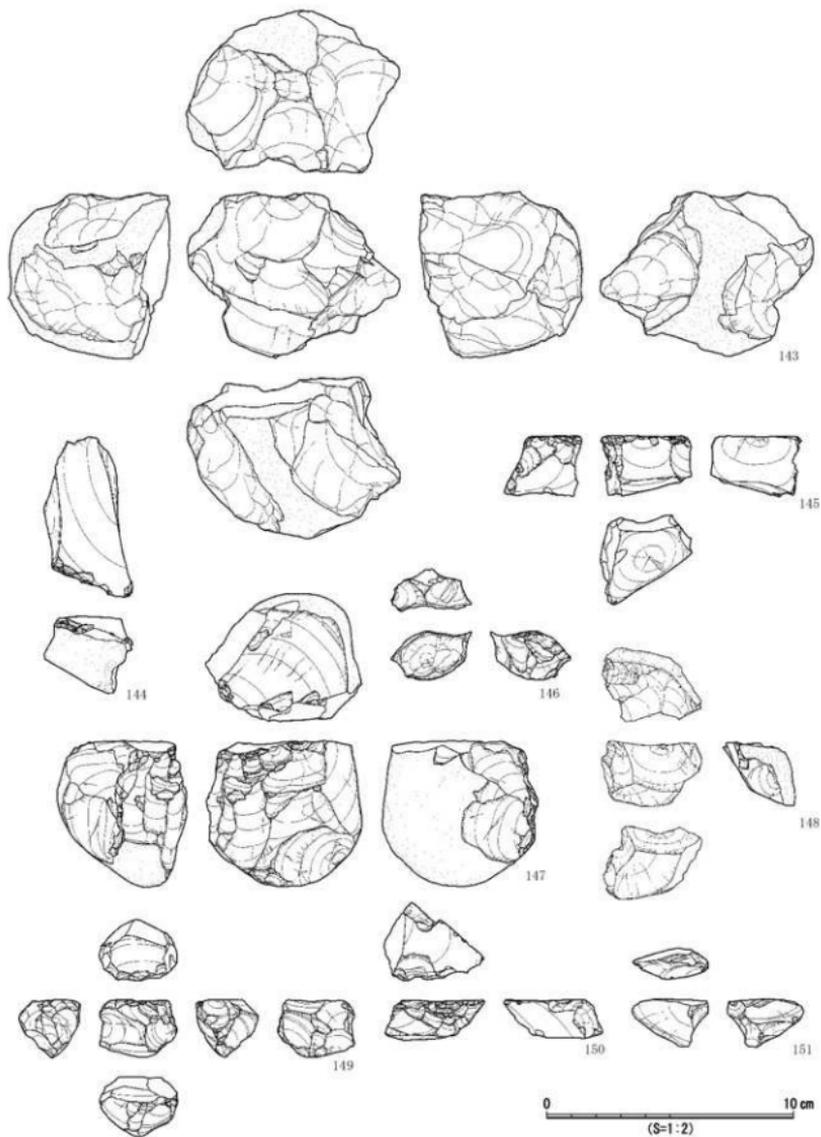
145は珪質頁岩製で、打面転移を2回行っており、左回りに90度回転させている。

146は流紋岩製の石核である。

147は流紋岩製で、打面転移を2回行っており、右回りに90度回転させている。自然面を



第30図 1-2区台地出土石器実測図(2)



第31图 1-2区台地出土石器实测图(3)

多く残す石核である。原石の大きさは拳大よりも少し大きいと推定できる。

148は流紋岩製の石核で、自然面を残す。

149・151は黄色砂岩製、150は珪質頁岩製の石核である。

二次加工のある剥片 (第31図144)

144は白色風化系流紋岩製の二次加工のある剥片で、エンドスクレイパーの可能性もある。

2-1区V層相当層

2-1区において、D8、D9、E8、E9のグリッドを中心とした部分をV層相当層とした。遺物の平面分布図については第32図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

対向調整のあるナイフ形石器 (第33図152～154)

152は小型品の破片で、石材は珪質頁岩である。残存部分が先端部だけであるため、全体の情報は不明瞭である。先端部の角度は約55度である。素材剥片は縦長剥片である。小さな剥片であるため情報に限りはあるが、素材剥片を斜めに切断して側縁部を作り出していることがわかる。また、側縁部の加工は対向剥離による調整が施されている。

153はナイフ形石器の破片で、石材は珪質頁岩である。残存部の評価は難しいが主要剥離面のリングの方向で打面を推定し、打面側を基部とした。素材剥片は不整形剥片である。側面の加工は左側だけで、対向剥離による調整が施されている。対向調整ははじめ大まかに施した後、微細な調整を緻密に施している。なお、刃部には微細な剥離痕がついている。

154は珪質頁岩製で、天地については主要剥離面のリングの方向によって決めた。素材剥片は縦長指向の剥片と考えられる。縦長剥片素材を切断して側縁部の調整を施している。側縁部の調整が側縁部だけであったか、それとも二側縁とも調整が施されていたのかについては情報が不足しており不明である。残された部分の側縁の加工は、対向剥離による調整である。

ナイフ形石器 (第33図155)

155は先端部が残存する。石材はホルンフェルスで、先端部の角度は約55度である。素材剥片は不整形剥片である。側縁部の加工については、右側縁は主要剥離面側からの調整剥離が施されている。左側縁は先端部に近い大きな剥離痕は素材剥片を剥ぎ取る以前の剥離痕と考えられる。折れ面に近い部分にある主要剥離面側からの調整剥離は側縁加工によるものである。

基部加工ナイフ形石器 (第33図156)

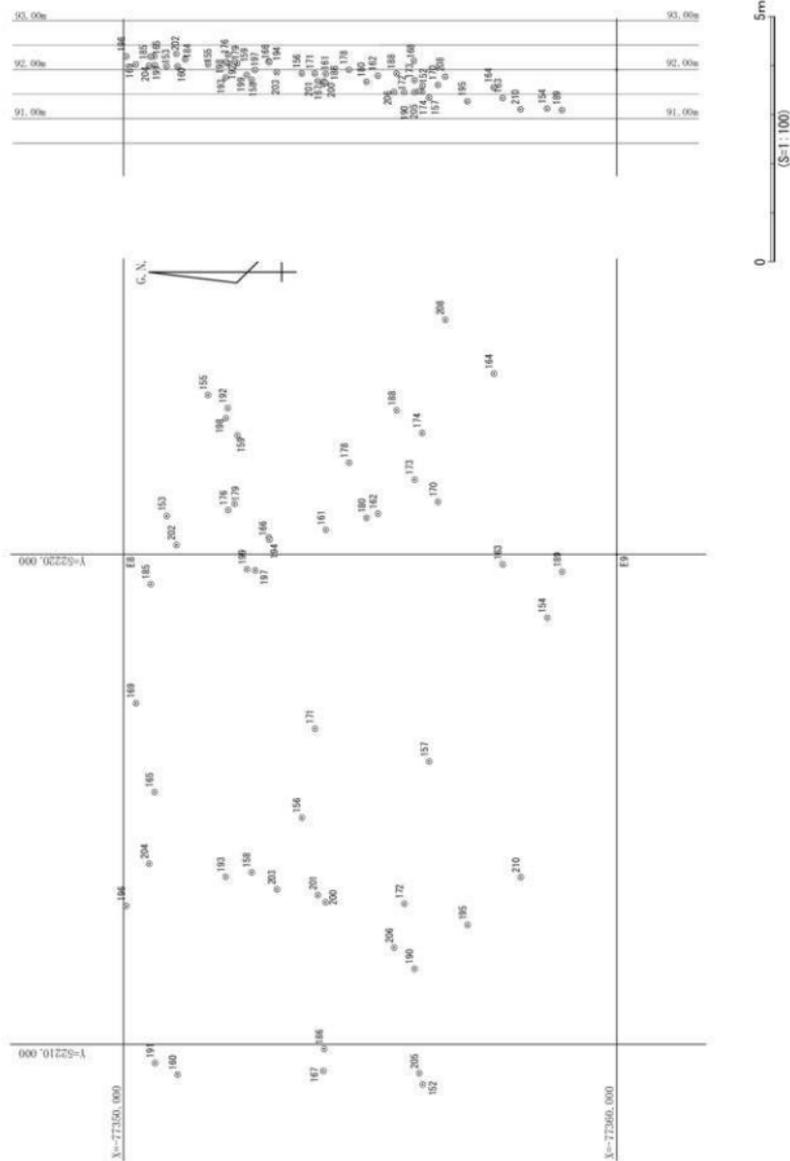
156の石材は珪質頁岩である。先端部が一部欠損するが、先端部の角度を復元すると約30度である。基部は丸みを帯びた形状である。素材剥片は縦長指向の剥片である。素材剥片の打面は基部側である。左側縁は基部側から全体の1/2程度まで調整剥離が施されているが、右側縁は先端部よりに調整剥離が施されている。基部の調整剥離は右側縁側から剥離が施されている。

二側縁加工ナイフ形石器 (第33図157～159)

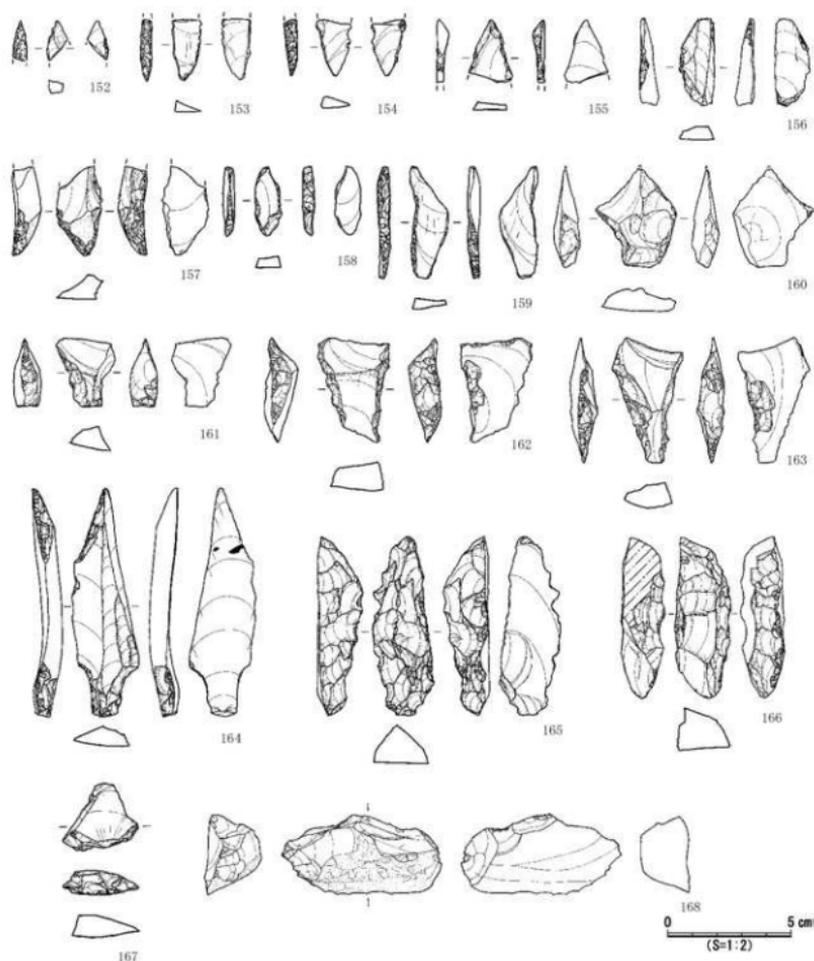
157は珪質頁岩製である。先端部は欠損している。背面に一部、自然面が残る。素材剥片は不整形剥片である。素材剥片の打面は右側縁側に存在したと考えられる。右側縁は主要剥離面側から、まず約40度の角度で大まかな調整剥離を施している。この段階で素材剥片の打面も剥ぎ取られたと思われる。その後、ほぼ90度に近い角度で調整剥離を施している。一部は鋸歯状に残る。左側縁については、大まかな調整剥離の後に、微細な剥離を施している。剥離の方向は右側縁と同じである。

158は小型品で、石材はホルンフェルスである。先端部から基部まで残存している。先端部の角度は約45度である。素材剥片は不整形剥片である。側縁部の加工は、石材の性質から分かりづらくはあるが、両側縁とも主要剥離面側からの調整剥離と思われる。

159は中型品で、石材はホルンフェルスである。先端部から基部まで残存する。先端部の角度は約40度である。素材剥片は不整形剥片で



第 32 图 2-1 区 V 层相当层出土石器平面·垂直分布图



第33図 2-1区V層相当層出土石器実測図(1)

ある。素材剥片の打面は残存しない。両側縁は主要剥離面側から調整剥離が施されている。両側縁とも大まかな調整剥離を施した後、微細な調整剥離を施している。

北牛牧型ナイフ形石器(第33図160)

160は石材が珪質頁岩である。先端部は一部

欠損しているが、先端部の角度を復元すると約80度である。素材剥片は逆「ノ」の字形に近い剥片である。基部側の側縁部について、左側縁は主要剥離面側から調整剥離を施している。右側縁については、一見するとナイフ形石器を作るときに施した調整剥離のようにみえるが、

剥離の前後関係から、ナイフ形石器の素材剥片を剥ぎ取る以前の剥離と考えられるため、側縁の調整剥離ではないと判断した。

台形石器 (第 33 図 161 ~ 163)

161 の石材は白色風化系流紋岩である。先端部は石器の長軸に対して直交するが、右側縁方向に約 5 度傾いている。側縁部の形状は両側縁とも内湾しており、基部に近づくに従って直線状になる。素材剥片は不整形の剥片で、素材剥片の打面は左側縁側にあつたと推定される。左側縁は細かく調整剥離が施されているが、右側縁については打面を飛ばす大きな剥離の後、基部より三箇所だけ調整剥離を施すのみでその他の調整剥離は見受けられない。

162 の石材は白色風化系流紋岩である。先端部は石器の長軸に対して直交するが、右側縁方向に約 5 度傾いている。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は右側縁側である。素材剥片を剥ぎ取る際に、先端部と基部は形成されている。両側縁とも素材剥片の主要剥離面側から調整剥離を施している。調整剥離は大まかな剥離の後、側縁と主要剥離面で形成する稜線上に微細な調整剥離を施している。加えて、右側縁の主要剥離面側には、打面部分の膨らみを減少させるような調整剥離が見られる。この調整剥離は台形石器の左右の厚みの差をなくそうとしたためと考えられる。この調整剥離は切り合い関係から側縁の調整剥離より後に施されたものであることが分かる。

163 の石材は白色風化系流紋岩である。先端部の形状は、圭頭形である。側縁は基部に向かって幅が狭くなるように作られている。素材剥片は不整形で、素材剥片の打面は右側縁側にあつたと推定できる。側縁の調整剥離は両方とも主要剥離面側から施されており、大まかに剥離を行い、その後微細な剥離を施している。162 と同様に側縁の調整剥離が終わった後、右側縁を上にして、主要剥離面の打面側の厚みを減らす調整剥離が施されている。

剥片尖頭器 (第 33 図 164)

164 は白色風化系流紋岩製で、完形で残存する。先端部の角度は約 35 度である。基部の長さは 1.60cm、幅は 1.20cm、厚さは 0.77cm である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面が残存する。茎部は素材剥片を主要剥離面側から調整剥離を施すことで形成されている。背面左側縁の先端部方向にはブランディング加工と考えられる調整剥離が主要剥離面側から施されている。この調整剥離は一度大まかな剥離を施した後には、微細な剥離が施されている。

角錐状石器 (第 33 図 165)

165 の石材は珪質頁岩である。基部から先端部まで完形で残存する。先端部の角度は約 60 度である。基部長については、基部の範囲を明確に認識できないので不明であるが、基部厚は最大 1.10cm である。素材剥片は横長指向の剥片で、主要剥離面を打面として両側面の調整剥離を施している。左側面の先端部付近は窟歯状の調整剥離が施されている点特徴的である。また、稜上調整も行われている。また後部には一箇所自然面が残っている。

スクレイパー (第 33 図 166 ~ 168)

166 はスクレイパーとしたが、角錐状石器の未製品の可能性も考えられる。石材はチャートで、刃部の角度は約 60 度である。上側面には節理による剥れがある。素材剥片は不整形の剥片で、腹面には大きな剥離面が 2 面あるが、節理面との前後関係を観察すると、節理面のほうが新しい。節理面により一部が折れた後、節理面に背面からの剥離が施されている。角錐状石器の可能性も指摘したが、角錐状石器の特徴である稜上調整が見られないことから、スクレイパーの可能性が高いといえる。

167 はスクレイパーもしくは二次加工のある剥片で、石材は流紋岩である。刃部の角度は約 75 度である。素材剥片は不整形剥片である。調整剥離は大きく剥離させた後、微細な剥離を施している。

168 はスクレイパーもしくは二次加工のある

剥片で、石材は流紋岩である。刃部の角度は約75度である。素材剥片は不整形剥片で、石材の自然面が背面の1/2程度残存する。刃部は自然面に細かい剥離を施すことで形成される。

石核 (第34図 169～173、178)

169の石材は珪質頁岩である。打面転移を4回繰り返している。石材に残されたネガティブ面の観察から、剥ぎ取られた剥片は不整形剥片と考えられる。

170の石材は流紋岩である。自然面が残存する。打面は一面である。

171は黒曜石製である。主要剥離面を打面として剥片を剥離している。

172の石材は流紋岩である。打面転移は2回で90度回転させている。自然面が残存する。

173は石核もしくは細石刃核のブランクの可能性が考えられる。石材はチャートである。打面は上面のみで、面を広くとってあるため、細石刃核のブランクにも見える。

178は白色風化系流紋岩の石核である。

二次加工のある剥片 (第34図 179)

179は白色風化系流紋岩製で、素材剥片は横広の不整形剥片である。二次加工は背面右側縁側に施されている。主要剥離面側からみると、逆「ノ」の字状にみえ、ナイフ形石器の未製品の可能性も考えられる。

剥片 (第34図 174～177)

174は縦長剥片で、石材は流紋岩である。背面構成をみると、打面は概ね固定的であったと推測される。背面左側の下部には自然面が残存しており、初期段階の剥片と推定できる。

175は縦長剥片を指向したと考えられる剥片で、石材は流紋岩である。背面には自然面が残存し、原石から剥片を剥ぎ取る初期の段階の剥片といえる。背面の左側に大きな剥離面があるが、リングの方向などから推測すると、この剥片より前に剥ぎ取られた剥片とこの剥片の打面は同じ面であったと思われる。

176は流紋岩製の不整形の剥片で、背面の構成をみると、主要剥離面の打面と同じ方向のも

のが主体ではあるが、方向は一定ではない。

177は縦長指向の剥片で、石材は流紋岩である。この剥片の打面は残存する。また、1回では剥離しなかったと思われる、2回打撃を加えた痕跡が残っている。

二次加工のある剥片 (第35図 180、189～193)

180は桑ノ木津留産黒曜石製で、下縁部方向から上部に向かって細長い剥離を加えた後に、下縁部に微細な調整剥離が施されている。

189は白色風化系流紋岩製で、素材剥片は不整形剥片である。素材剥片の打面は残存し、平坦打面である。背面右側縁に二次加工の痕が確認できる。

190は珪質頁岩製で、素材剥片は縦長剥片である。調整剥離と考えられる剥離痕は背面下縁から左側縁にかけて施されている。

191は白色風化系流紋岩製で、背面下縁部と腹面両側縁に加工の痕跡がある。腹面右側縁は鱗状剥離である。

192はホルンフェルス製であるが、風化が著しい。背面は自然面、背面右側縁に対向剥離による調整が施されている。

193は流紋岩製で、素材剥片の打面が残存する。平坦打面である。背面左側縁は主要剥離面側からの剥離が施されている。背面右側については、上部の剥離が背面側から、下部の剥離は主要剥離面側からと上下で異なっている。

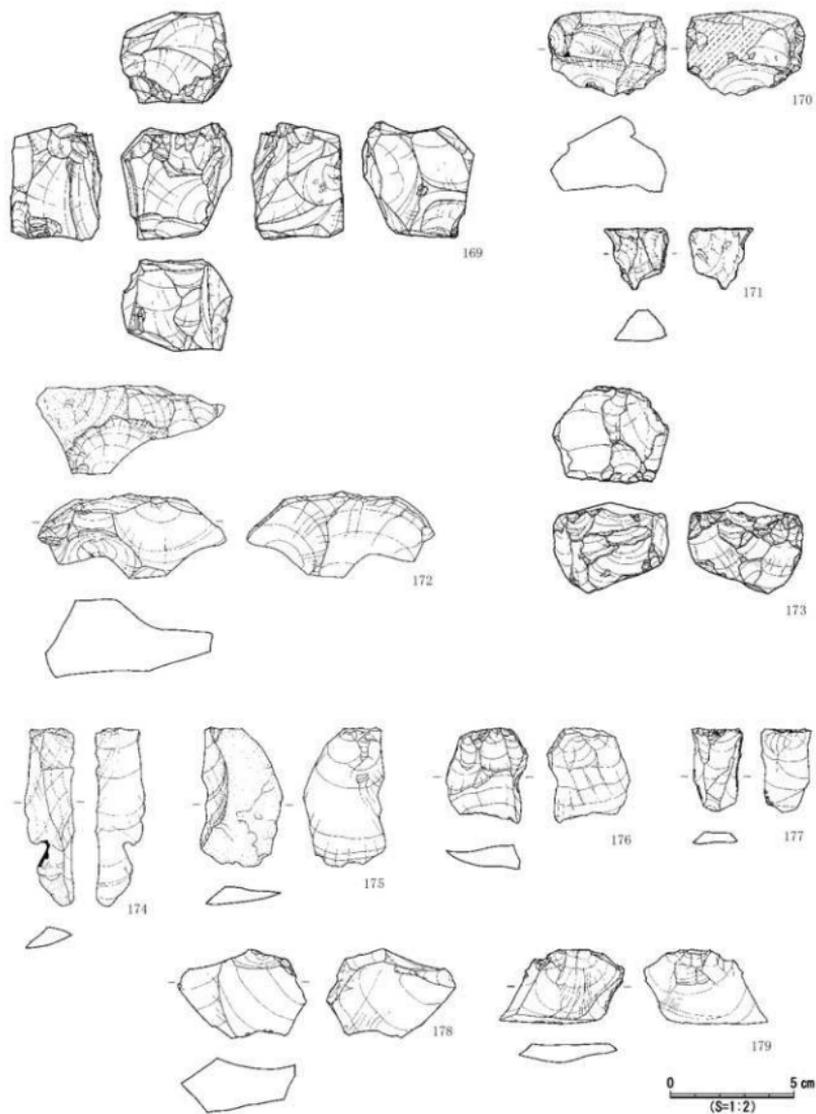
微細剥離のある剥片 (第35図 188)

188は珪質頁岩製で、幅広の剥片である。主要剥離面の打面が残存する。微細な剥離痕は背面下縁と背面左側縁に付いている。また、背面右側縁には大きな剥離痕が二箇所あり、主要剥離面の打面や主要剥離面との切り合い関係を見ると、それらよりも古いことが観察できた。したがって、188が石核から剥離される以前は背面がその石核の打面であったことが分かる。

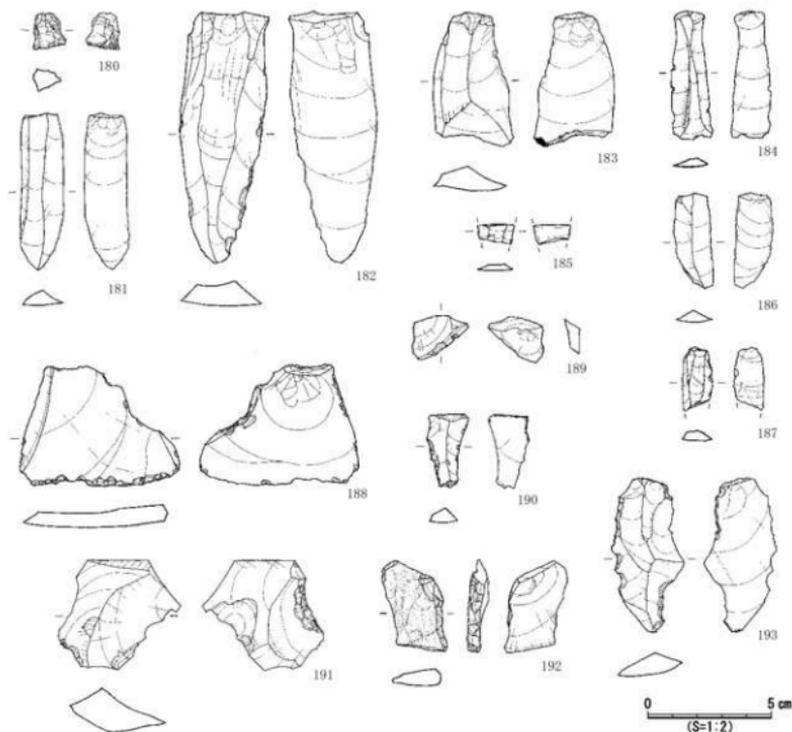
剥片 (第35図 181～187)

181は珪質頁岩製の縦長剥片である。剥片の打面は残存し、多剥離打面である。

182は珪質頁岩製の縦長剥片で、打面が残存



第34图 2-1区V层相当层出土石器实测图(2)



第35図 2-1区V層相当層出土石器実測図(3)

する。打面は平坦打面である。打点は二箇所にあることから、一回の打撃では剥離できなかったと考えられる。また、背面右側縁には微細な剥離痕が付いている。

183は珪質頁岩製の縦長剥片で、打面が残存する。打面は平坦打面である。181、182は打面に対する主要剥離面の角度はほぼ90度であるが、183は約110度である。

184は流紋岩製の縦長剥片で、打面は残存する。打面の形状は調整打面である。

185は珪質頁岩製の、187は白色風化系流紋岩製の縦長剥片で、石刃に分類される。

186は珪質頁岩製の縦長剥片で、打面が残存

し、打面は平坦打面で、打点が二箇所あり、一度の打撃では剥離しなかったとわかる。

細石刃核 (第36図 194～196)

194は珪質頁岩製で、船野型細石刃核に分類される。下縁部には剥離が施されている。打面は平坦打面である。

195はチャート製で、素材剥片の主要剥離面が左側面となる。また、細石刃の剥離と左側面の剥離痕との切り合い関係は細石刃剥離のほうがかく、作業面再生によって剥ぎ取られた残骸の可能性もある。

196はチャート製で、打面調整が施されている。また、下縁にも剥離が施されている。泉福

寺・羽佐島Ⅲ型細石刃核である。両側面よりも細石刃剥離のほうが新しい。

細石刃 (第36図 197～205)

197～205は細石刃である。198はホルンフェルス製、204は白色風化系流紋岩製、203は流紋岩製、197、199、200～202、205は珪質頁岩製である。

細石刃核 (第37図 206、207)

206は珪質頁岩製である。他の細石刃核と比較すると縦長剥片の石核の可能性もある。

207はホルンフェルス製の細石刃核のプランクで、船野型細石刃核に分類される。打面は平坦打面である。

敲石 (第38図 208～210)

208～210は砂岩製の敲石で、208は縦長の円礫素材を用いている。

(7) IV層相当層出土の遺物

出土遺物

2-1区

基本層序のIV層は本来縄文時代早期に帰属する層であるが、プライマリイ層ではない点と土質がIV層に近いという点からIV層相当層とした。

ナイフ形石器 (第40図 211～222)

211はチャート製で、ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約45度である。素材剥片は不整形剥片で、打面は残存しない。素材剥片の鋭利な縁辺を刃部とする。背面右側縁の調整剥離は主要剥離面側から施されるが、背面左側縁は節理面に背面からの内向調整である。

212は珪質頁岩製の小型基部加工ナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、打面は基部側にある。基部の調整剥離は背面右側縁が主要剥離面側からの剥離で、左側縁は対向剥離による調整が施される。

213は一侧縁加工のナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部は欠損しており、その形状は不明である。基部には加工が施されていない。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面

が残存する。側縁の加工は右側縁のみで、主要剥離面側から調整剥離を施している。背面からみたときに基部の左側に剥離痕が見受けられるが、この剥離痕は素材剥片を剥ぎ取る前についた剥離の痕跡である。

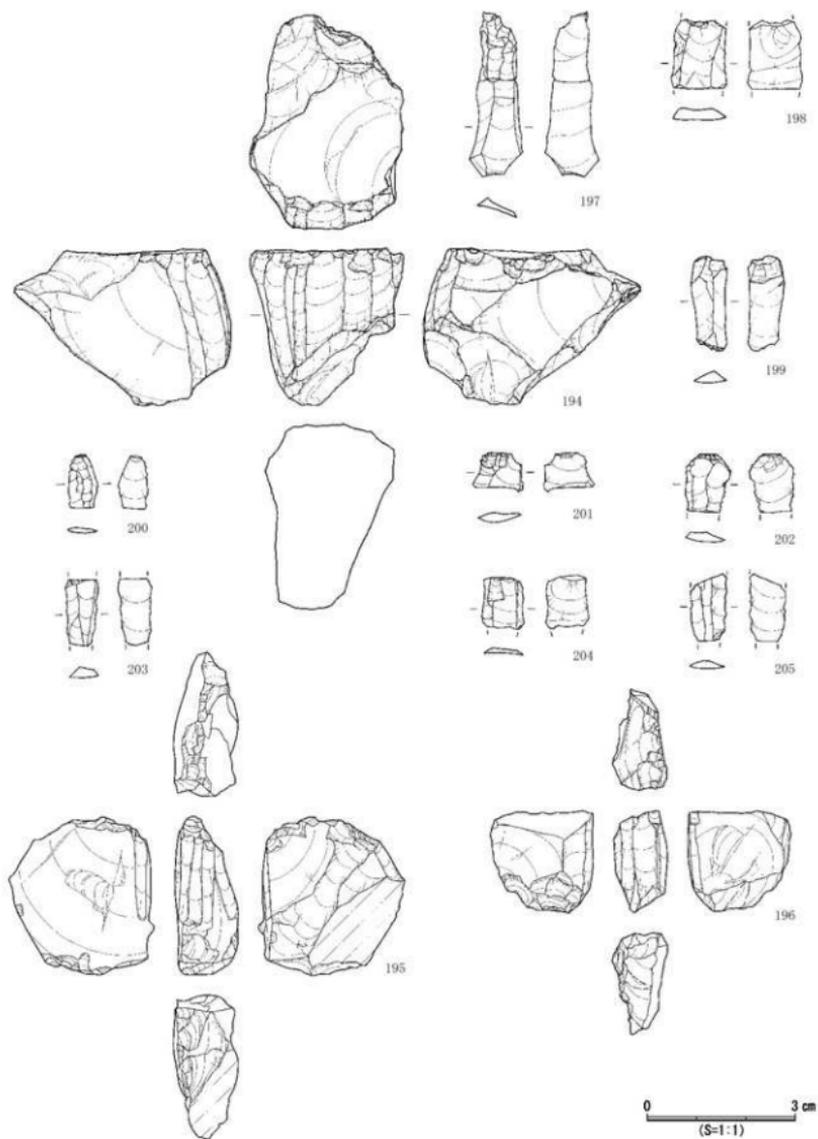
214は小型のナイフ形石器で、石材は流紋岩である。基部加工のナイフ形石器と考えられる。素材剥片は縦長剥片を指向したと思われる剥片である。主要剥離面の打面が残存している。調整剥離については、両端に調整剥離が施されており、片方の端は背面側からの内向調整である。どちらが基部であるかの判断は難しく、明確な根拠を導き出せない。したがって、本遺跡でのナイフ形石器は主要剥離面の打面側が基部の場合が多い点を根拠として、その方向を基部とした。また、本遺跡のナイフ形石器では内向調整の事例は珍しいことも打面側を基部においた根拠の一つである。

215は珪質頁岩製の小型ナイフ形石器で、先端部から基部までほぼ完形で、先端部の角度は約50度である。素材剥片は不整形である。背面左側縁の調整剥離は対向剥離によって行われているが、背面右側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

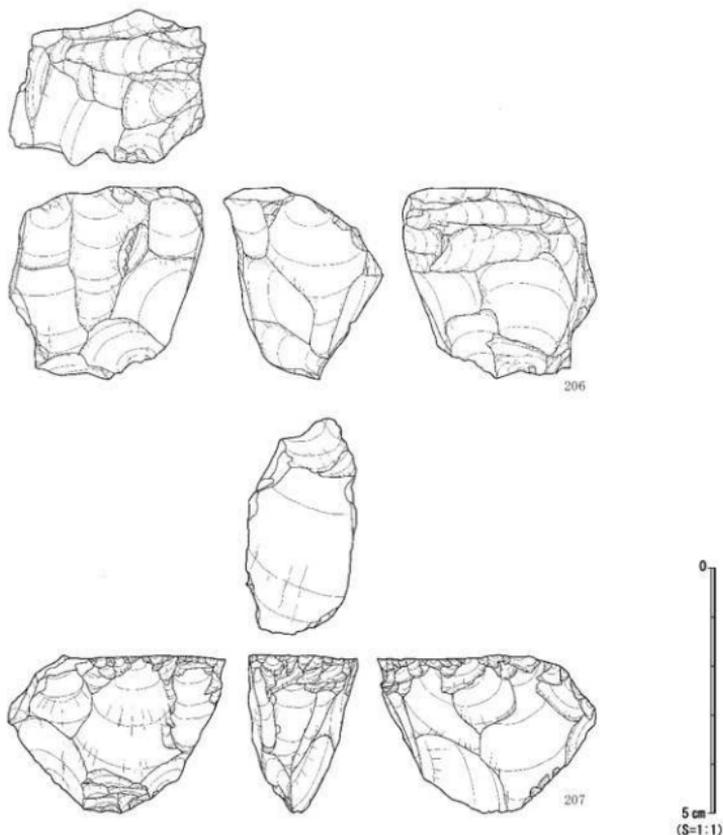
216はホルンフェルス製の中型ナイフ形石器である。ほぼ完形で残存しており、先端部の角度を復元すると約65度である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は存在しないが、方向は背面右側縁の基部側であったといえる。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

217は珪質頁岩製の縦長剥片を素材としたナイフ形石器もしくはその未製品である。先端部と基部に当たる部分は欠損しており、その形状は不明である。側縁の調整剥離は背面右側縁に主要剥離面側から施されている。

218は珪質頁岩製の小型二側縁加工ナイフ形石器である。先端部には上からの衝撃による縦裂け状の欠損がある。素材剥片は不整形である。背面左側縁は対向剥離による調整が施されているが、背面右側の調整剥離は主要剥離面側から



第36図 2-1区V層相当層出土石器実測図(4)



第37図 2-1区V層相当層出土石器実測図(5)

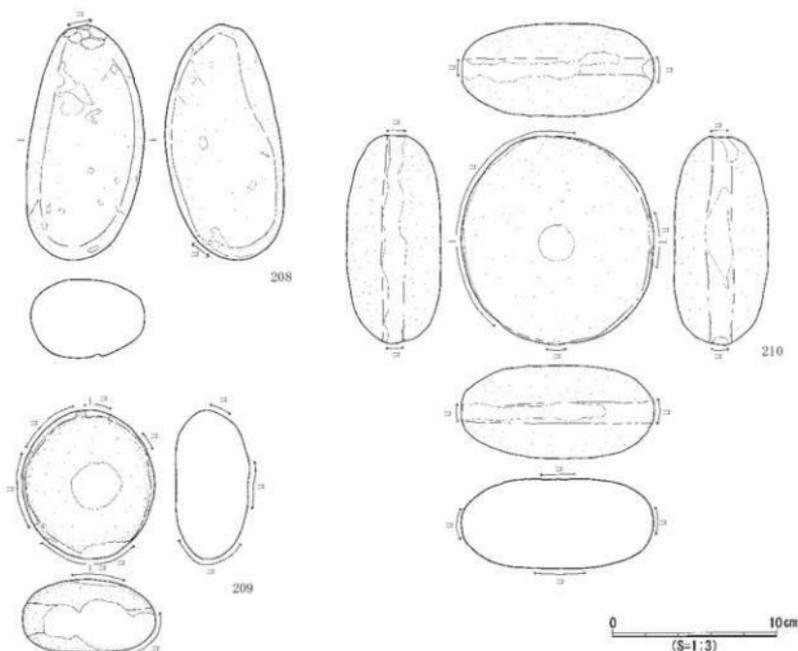
である。

219は流紋岩製のナイフ形石器で、基部側だけ残存する。素材剥片は不整形剥片である。側面の加工は背面右側縁が対向剥離による調整で、背面左側縁は腹面側からの調整剥離である。

220はホルンフェルス製の側縁加工ナイフ形石器である。先端部は欠損しており、その形状は不明である。素材剥片は横長剥片と推測している。側縁加工は対向剥離による調整が施さ

れている。

221はナイフ形石器もしくは角錐状石器の未製品で、石材は流紋岩である。ナイフ形石器の場合は、右側縁の1/3に刃部となる部分が残存している点、角錐状石器の未製品とした場合は主要剥離面に側縁側からの調整剥離の痕が観察できる点の二つから、ナイフ形石器、角錐状石器のどちらの場合も欠損部を先端とした。素材剥片は縦長指向の剥片である。素材剥片の打



第38図 2-1区V層相当層出土石器実測図(6)

面はリングやフィッシャーの方向から基部側と考えられる。両側面とも主要剥離面側から調整剥離を施している。問題は右側縁の調整剥離である。ナイフ形石器としたときの刃部と基部の間の間の部分が、意図されたものなのか、もしくは意図した調整剥離ができなかったのかの判断が難しい。角錐状石器であれば、先端部側に向かって調整剥離を施していけばよいようにも思える。また、稜上調整が施されておらず、角錐状石器とするための根拠としては乏しい。したがって、ナイフ形石器の可能性が高い。

222は流紋岩製のナイフ形石器で、ほぼ完形で残存する。刃部は素材剥片の縁辺である。先端部は微細な剥離痕が付いている。先端部の角度は約30度である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面が残存する。素材剥片はいわゆ

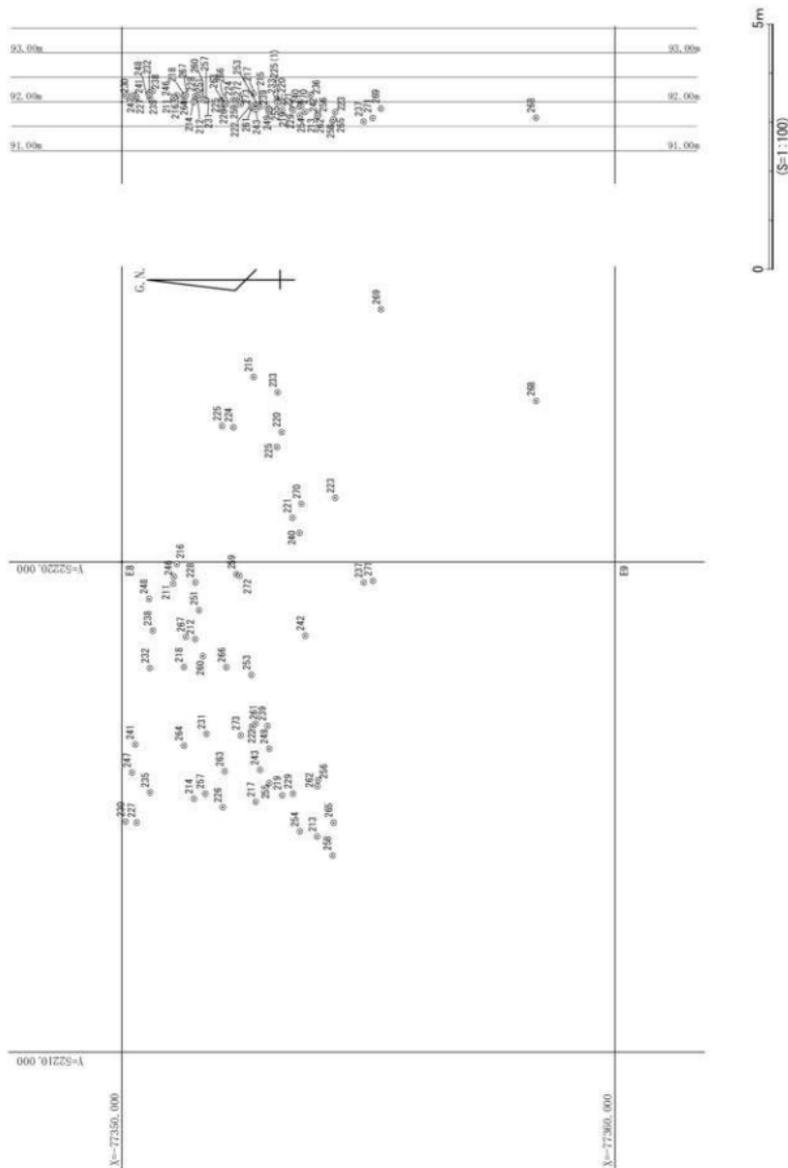
る「ノ」の字を呈しており、北牛牧型ナイフ形石器に分類される。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側からの調整剥離である。

台形石器(第40図223)

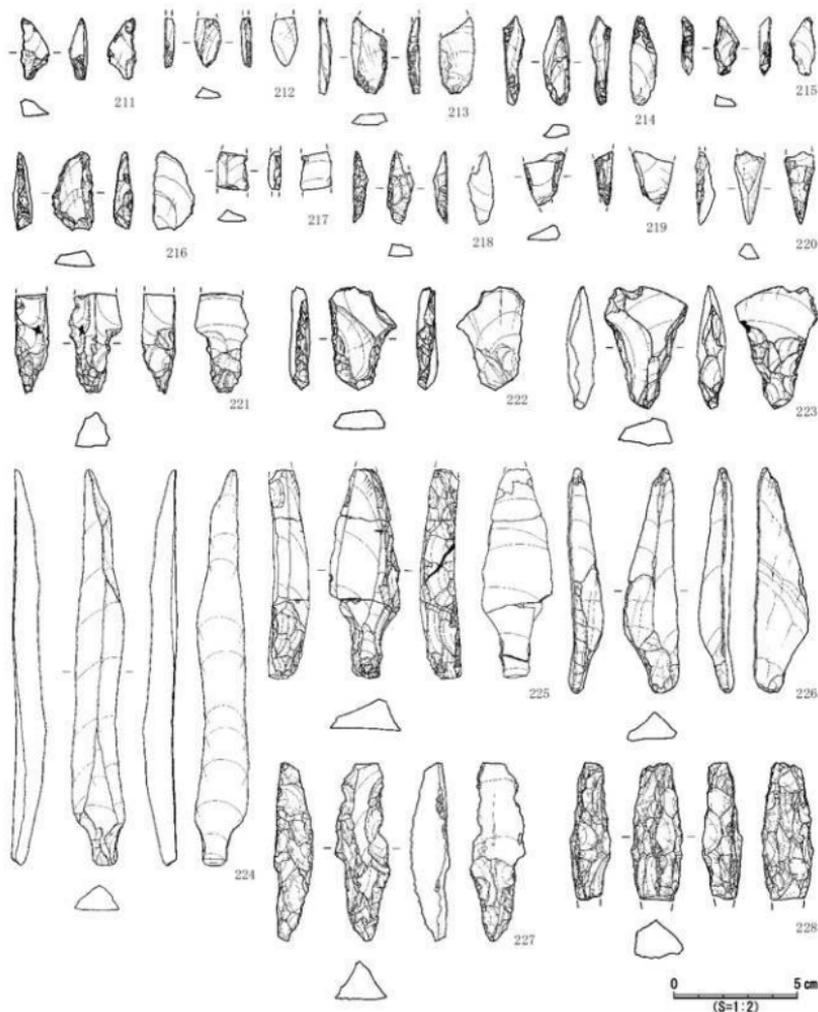
223は白色風化系流紋岩製で、台形石器である。先端部から基部までほぼ完形で残存し、先端部は約20度右方向に傾いている。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していない。リングの方向から推測すると、いわゆる「ノ」の字状の剥片である。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側からの調整である。側縁加工のあとに主要剥離面の基部側に両側縁から調整剥離を施している。

剥片尖頭器(第40図224~226)

224は剥片尖頭器で、石材はホルンフェルスである。風化が著しい。先端部から基部まで残



第 39 图 2-1 区 IV 层相当层出土石器平面・垂直分布图



第40図 2-1区IV層相当層出土石器実測図(1)

存し、先端部の角度は約30度である。基部長は1.50cm、幅は1.00cm、厚さは0.65cmである。素材剥片は縦長剥片である。器面の風化が著しく、素材剥片の打面の有無は判断できなかった。

背面右側縁部の先端部近くの側縁には調整剥離と考えられる剥離痕がみられる。先端部の刃を潰す加工と推測できる。基部は主要剥離面側からの調整剥離が施されている。本製品は、最大

長が 16.40cm と長い剥片尖頭器で、おそらく現在明らかになっている剥片尖頭器の中で一番長い剥片尖頭器である。

225 はホルンフェルス製の剥片尖頭器である。先端部から基部までほぼ残存している。先端部の角度は復元すると約 50 度である。基部長は 2.00cm、幅は 1.10cm、厚さは 1.40cm である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は風化が著しく分かりにくい。基部には平坦な面があり、それが打面の可能性もある。また、リングの方向から、素材剥片の打面は基部側であったと推定される。側縁の調整は背面左側縁が主要剥離面側からの調整剥離で、基部から 3.00cm のところから内湾するように剥離が施されており、基部を形成する。また、背面左側縁についても、背面右側縁とほぼ同じ位置から内湾する剥離が施されている。背面右側縁は対向剥離による調整が施されている。

226 は剥片尖頭器で、石材はホルンフェルスである。風化が著しいが、先端部から基部まで残存し、先端部の角度は約 45 度である。基部の長さは 1.50cm、幅は 1.20cm、厚さは 0.72cm である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は基部側であったと推測される。基部を形成するための調整剥離は背面左側縁部のものは明瞭であるが、背面右側縁部の調整剥離は分からない。背面左側縁だけの加工の可能性が高い。

角錐状石器 (第 40 図 227、228)

227 の石材は流紋岩で、先端部が欠損しているが、比較的残存率が高い。基部長は 3.50cm、基部厚は最大 1.40 cm である。素材剥片は縦長剥片である。製作工程は、まず、主要剥離面を打面にして、両側面の調整剥離を行い、稜上調整を行っている。断面をみると、三辺とも鋭角の三角形である。また、主要剥離面は基部側のみ調整剥離が施される。

228 の石材は珪質頁岩で、先端部と基部端部が欠損しているが、残存率は良い。基部長は 2.50cm で、基部厚は最大 1.20 cm である。素材剥片は三面とも加工されているため、縦長剥片

が横長剥片といった剥片の形状は不明である。製作工程は、まず両側面の調整剥離を行い、そのあともう一辺の調整剥離が施されている。また、稜上調整も施される。

スクレイパー (第 41 図 229 ~ 232)

229、230、232 は珪質頁岩製のエンドスクレイパーで、3 点とも不整形剥片を素材剥片として用いる。229、232 は刃部の角度が約 50 度から約 60 度であるが、230 だけは約 90 度である。

231 はサイドスクレイパーであるが、角錐状石器の未製品の可能性もある。石材は流紋岩である。先端部には自然面が残存しており、調整剥離痕もないため、先端部を鋭角にしようという意識は働いていないと推定できる。素材剥片は縦長剥片で、打点側が欠損している。側面の調整剥離は主要剥離面側から行われており、調整剥離は両側面とも稜までは達しておらず、稜上調整も施されていない。また、欠損部には左側面からの剥離痕が観察される。

楔形石器 (第 42 図 244、251)

244 はいわゆる桑ノ木津留産黒曜石の楔形石器である。自然面が全体に残存することから、原石もほぼこの大きさであったと推定できる。

251 は珪質頁岩製の楔形石器である。素材剥片の打面は一部だけが残存する。

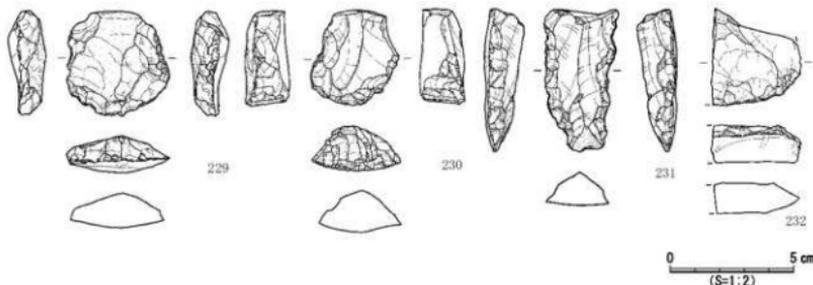
二次加工のある剥片 (第 42 図 233、236、237、240 ~ 243、246、248、249)

233 は珪質頁岩製で、素材剥片は不整形剥片である。上部は背面側から剥離が施されているが、下部は主要剥離面側からの剥離である。

236 は白色風化系流紋岩製で、幅広の不整形剥片である。打面は平坦打面で、打点が二箇所あるので、一回の打撃では剥ぎ取れなかったと考えられる。背面には背面右側を打面とした剥離痕がある。また、背面左側縁には微細な剥離痕が確認できる。

237 は流紋岩製で、不整形剥片である。背面の左側縁は自然面のままである。

240 はチャート製で、主要剥離面の打面を残す。平坦打面である。側縁の加工は両側縁とも



第41図 2-1区IV層相当層出土石器実測図(2)

あり、主要剥離面からの調整剥離である。

241は白色風化系流紋岩製で、素材剥片の主要剥離面左側縁に調整剥離が施されている。

242はチャート製で、素材剥片背面と主要剥離面の両方に二次加工が施されている。

243は珩質頁岩製で、主要剥離面側から調整剥離が施されている。素材剥片は横広の剥片であったと推定される。

246はホルンフェルス製である。風化が著しく、剥離の痕跡が分かりづらい。

248は珩質頁岩製で、素材剥片の打面が残存する。打面は調整打面である。調整剥離は素材剥片の背面側から施されている。

249は珩質頁岩製で、素材剥片は横広の剥片である。背面右側縁に腹面側からの調整剥離が施されている。その形状から、ナイフ形石器を指向した二次加工のある剥片と推測される。

微細剥離のある剥片(第42図235、252)

235は白色風化系流紋岩製の微細剥離のある剥片で、幅広の不整形剥片である。打面は平坦打面である。打点が二箇所あるので、一回の打撃では剥ぎ取れなかったと考えられる。

252は珩質頁岩製の微細剥離のある剥片である。素材剥片は縦長指向の剥片である。下縁に微細な剥離の痕跡がある。

剥片(第42図238、239、245、247、250)

234は白色風化系流紋岩製の縦長剥片で、打面は平坦打面である。

238は白色風化系流紋岩製の剥片である。上面に石核調整と考えられる剥離がある。この剥片の腹面には打面をもつポジティブ面があり、このポジティブ面と石核調整面との切り合い関係が理解しづらいが、ポジティブ面のほうが後の剥離のようである。したがって、ポジティブ面を剥離したのは作業面再生のためと考えた。

239は珩質頁岩製の剥片である。剥片の主要剥離面の打面が残存し、平坦打面である。

245、247は珩質頁岩製の石刃である。

250は珩質頁岩製の幅広剥片で、主要剥離面の打面が残存し、打面は複剥離面打面である。

細石刃核(第43図253～258)

253はホルンフェルス製の細石刃核で、船野型細石刃核に分類される。下縁調整がある。打面には側縁からの剥離痕が確認でき、これは鹿児島県粘土遺跡で認識されたいわゆる「固定痕」の可能性がある。ただし、粘土遺跡で報告された固定方法が有効か否かの判断は難しい。

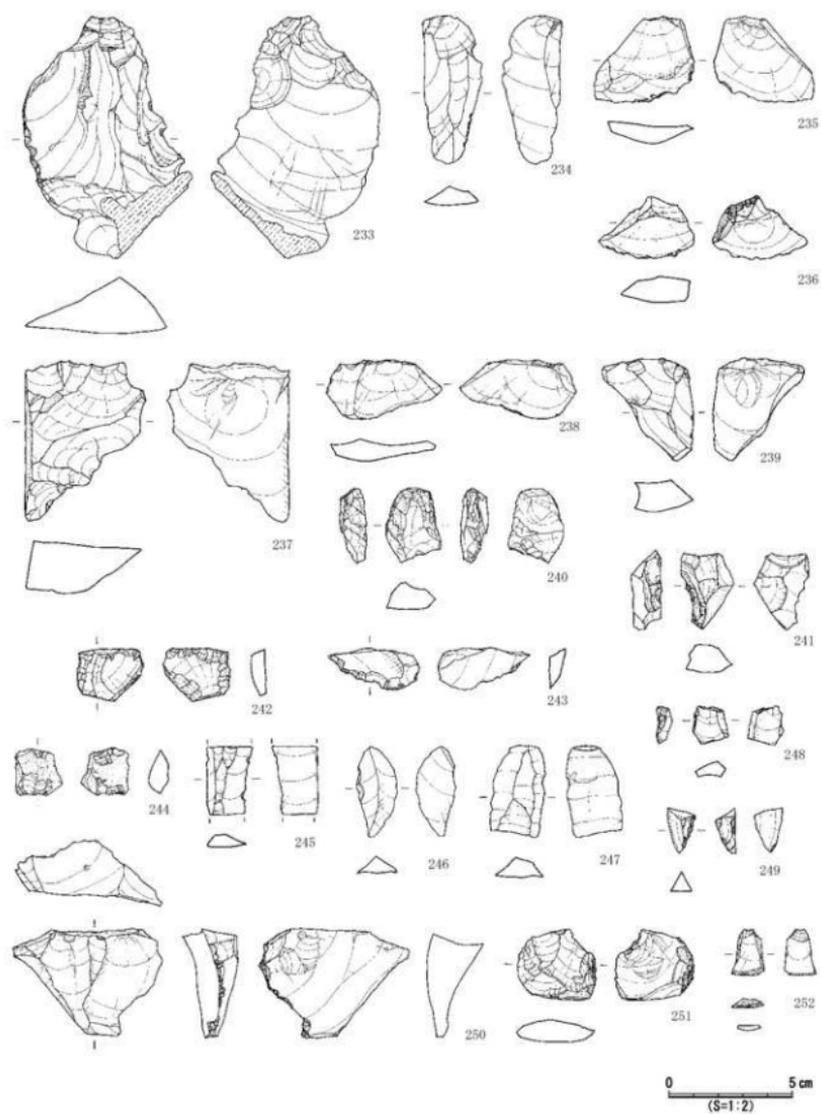
254は黒色チャート製で、細石刃核の作業面再生剥片の可能性がある。

255はチャート製で、船野型細石刃核に分類されるものである。

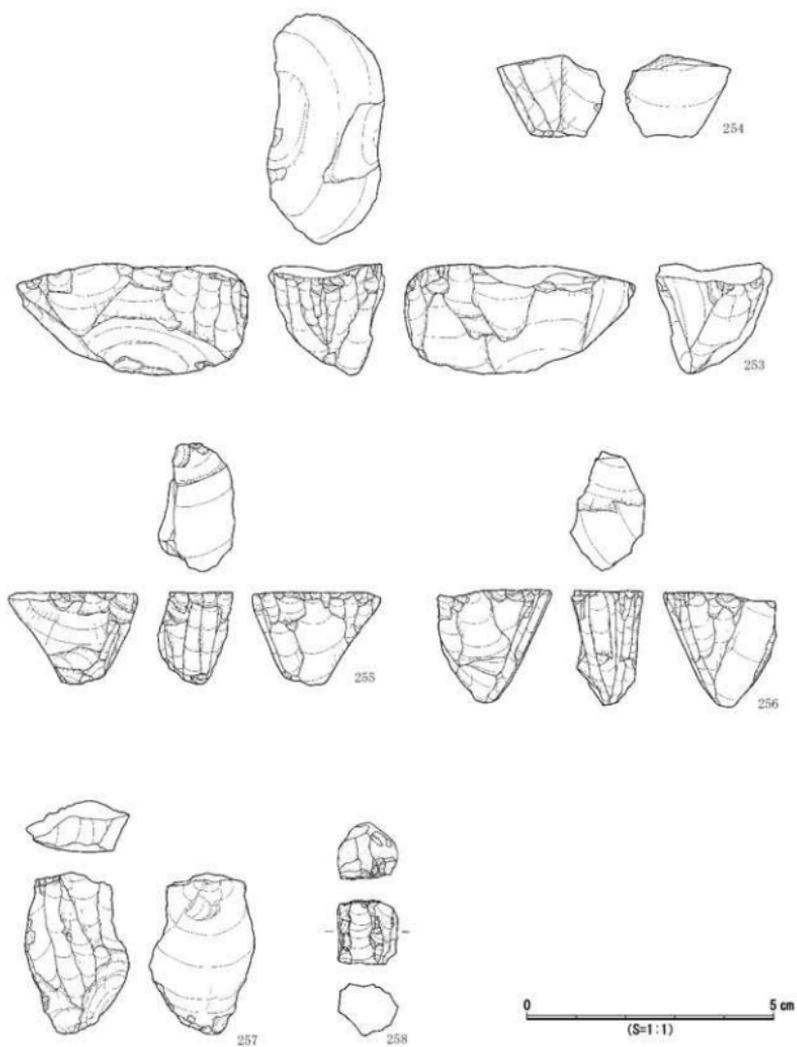
256はチャート製で、野岳・休場型細石刃核に分類される。

257は赤色チャート製で、細石刃核の作業面再生剥片と考えられる。

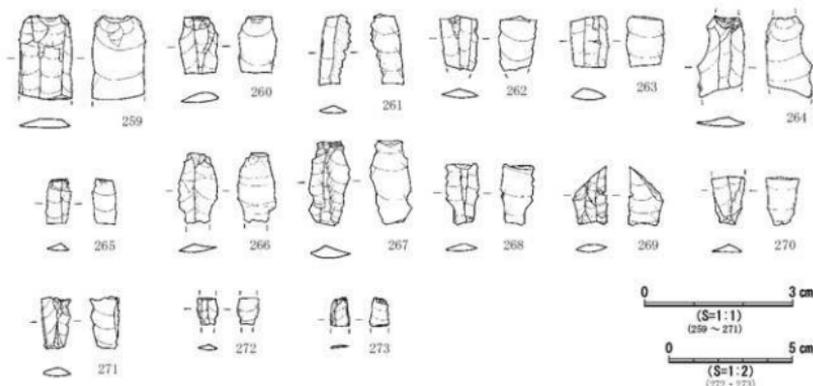
258はいわゆる桑ノ木津留産黒曜石の小礫を



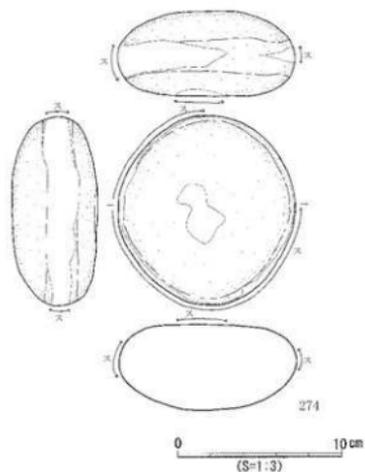
第42图 2-1区IV层相当层出土石器实测图(3)



第43図 2-1区IV層相当層出土石器実測図(4)



第44図 2-1区IV層相当層出土石器実測図(5)



第45図 2-1区IV層相当層出土石器実測図(6)

用いた細石刃核である。作業面以外はほとんどすべてが自然面である。

細石刃(第44図259~273)

259~273は細石刃で、261、267、268、273は側縁部に微細な剝離痕がある。

磨石(第45図274)

274は尾鈴山溶結凝灰岩の磨石である。側面

の磨面はほとんど一周する。また、正面にも磨痕が確認できる。

(8) 後期旧石器時代相当層出土の遺物

後期旧石器時代相当層とは、2-1区の10グリッド付近と1-1区、1-3区、2-2区、3区の斜面地に堆積した流土層で、主に後期旧石器時代の遺物を包含する層をさすものである。また、遺物の平面分布図については第46図、第51・54・57図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

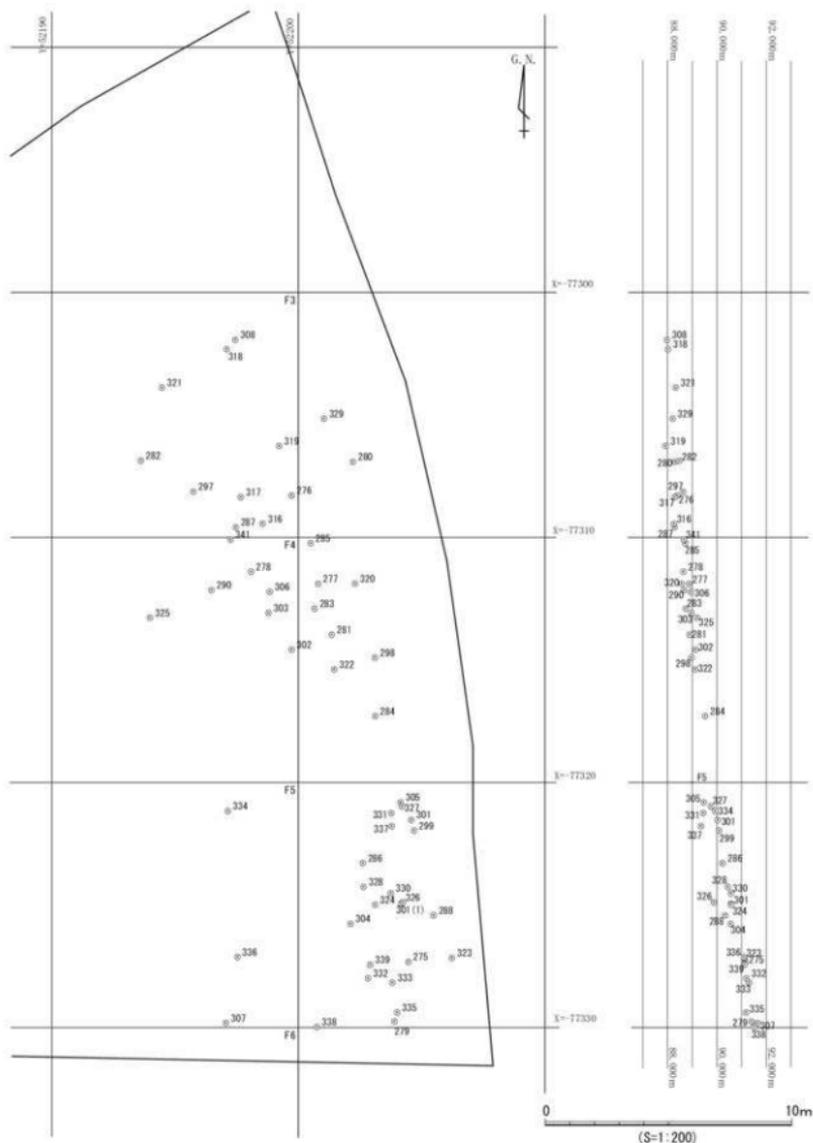
出土遺物

1区流土層(第46図)

二側縁加工ナイフ形石器(第47図275、276、284)

275は珪質頁岩製の小型二側縁加工ナイフ形石器である。ほぼ完形で残存し、先端部の角度は約55度である。素材剥片は縦長指向の剥片で、素材剥片の打面は残存しない。側縁の加工は両側縁とも主要剝離面側からの調整剝離で、背面左側縁の基部付近は鋸歯状を呈する。

276は小型の二側縁加工ナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。完形で残存しており、先端部の角度はほぼ90度である。素材剥片は不整形剥片と考えられる。主要剝離面の打面は残存しない。側縁の加工については、背面左側縁



第 46 図 1 区流土層出土石器平面・垂直分布図

は基部に近いほうは対向剥離による調整を施しているが、先端に近づくに従って主要剥離面側からのみの調整剥離になる。剥離が一方からのみに変化するところから側縁部の角度がゆるやかになり、先端部に行くに従って厚みも薄くなる。背面右側縁については、基部側は対向剥離による調整が施されているが、先端部側は調整剥離が施されていない。右側縁の刃部には微細な剥離痕が確認できる。

284 は白色風化系流紋岩製の小型二側縁加工ナイフ形石器である。先端部は欠損しており、その形状は不明である。素材剥片は縦長剥片もしくは縦長剥片を指向した剥片と考えられ、素材剥片の打面は残存していないが、先端部側にあったと推定される。側縁の加工は背面右側縁が対向剥離による調整で、背面左側は主要剥離面側からの調整剥離である。

基部加工ナイフ形石器 (第 47 図 277)

277 は珪質頁岩製の小型基部加工ナイフ形石器である。ほぼ完形で残存する。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面はかろうじて残存する。打面は平坦打面と推測され、基部側にある。基部加工は主要剥離面側から精緻な剥離が施されている。また、背面右側縁の先端部側には背面からの内向調整が施されているが、その剥離の過程で先端部が欠損したと考えられる。先端部の欠損は、左側縁の刃部まで及んでいる。

その他のナイフ形石器 (第 46 図 278 ~ 281、285、286)

278 は珪質頁岩製で、中型ナイフ形石器である。先端部が欠損しているが、その角度を復元すると約 50 度である。素材剥片は縦長剥片を指向した剥片と考えられる。側縁の調整は両側縁とも対向剥離による調整が施されている。

279 は流紋岩製の中型のナイフ形石器である。ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約 120 度である。素材剥片は不整形剥片と考えられ、素材剥片の打面は残存しないが、背面右側縁側にあったと推定される。打面を水平に設置した場合、剥片の主軸は「ノ」の字形になる。側縁の

調整剥離は両側縁ともに施されており、主要剥離面側からである。先端付近の左側縁側には背面からの角度の浅い剥離痕がみられる。

280 は珪質頁岩製のナイフ形石器で、途中から欠損している。先端部の角度は約 35 度である。素材剥片は横長剥片である。素材剥片の打面は残存していない。側縁は一侧縁加工で、主要剥離面側から調整剥離が施されている。

281 は中型のナイフ形石器で、石材は流紋岩である。一部欠損しているため、どちらが先端部なのか判断に迷ったが、残存している部分を先端部とした。先端部の角度は約 55 度である。

素材剥片は横長指向の剥片で、左側縁側に素材剥片の打面があったと推定できる。

285 は珪質頁岩製の中型ナイフ形石器で、先端部は欠損している。素材剥片は不整形剥片で、打面は残存していない。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

286 はホルンフェルス製のナイフ形石器で、先端部は残存していない。素材剥片は縦長剥片を指向したものと思われる。風化が著しく、判断しにくい。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

狸谷型ナイフ形石器 (第 47 図 282、283)

282 は流紋岩製のナイフ形石器で、狸谷型ナイフ形石器に分類される。ほぼ完形で残存している。先端部の角度は約 40 度である。素材剥片は幅広の不整形剥片である。背面右側縁と刃部の接する部分の角度は約 90 度である。以上のことからティピカルな狸谷型ナイフ形石器といえる。側縁の加工については、背面左側縁が対向剥離による調整で、背面右側については主要剥離面側からの調整剥離である。

283 は白色風化系流紋岩のやや大型のナイフ形石器で、狸谷型ナイフ形石器に分類できる。先端部が一部欠損するが、それ以外はほぼ完形で残存する。先端部の角度は約 50 度で、刃部と背面右側縁が接する角度は約 90 度である。素材剥片は幅広の不整形剥片で主要剥離面の打面は残存しないが、背面左側縁方向にあったと



第47図 1区流土層出土石器実測図(1)

考えられる。

北牛牧型ナイフ形石器 (第 47 図 287)

287 は流紋岩製のナイフ形石器で、北牛牧型ナイフ形石器に分類される。完形で残存する。先端部の角度は約 120 度である。素材剥片は不整形の幅広剥片で、打面はほぼ失われているが、背面右側縁側にある。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側からの調整剥離である。

台形石器 (第 47 図 290)

290 は珪質頁岩製の台形石器である。先端部から基部まで残存する。先端部は約 20 度左に傾いている。素材剥片は不整形の幅広剥片で、打面は存在しないが背面左側縁側にあつたと判断できる。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側から施されている。

剥片尖頭器 (第 47 図 288、289)

288 は流紋岩製である。ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約 50 度で、基部の長さは 1.30cm、幅は 1.30cm、厚さは 0.65cm である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は残存しない。背面側は先端部から約 2.50cm の基部側付近から稜線が二股になり、平坦面を形成する。基部側には内湾する袂りがあり、両側縁とも主要剥離面側からの調整剥離である。

289 は珪質頁岩製の剥片尖頭器の欠損品もしくは未製品である。現状で基部から刃部にかけて残存する。基部の長さは 2.20cm、幅は 2.00cm、厚さは 1.90cm である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面は残存し、平坦打面である。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側から施されており、刃部から基部に向かって内湾する。

スクレイパー (第 47 図 291 ~ 295、第 48 図 296、297)

291 は流紋岩製のサイドスクレイパーである。背面は自然面で、左側縁に調整剥離が施されている。主要剥離面には両側縁から剥離が施されている。

292 はホルンフェルス製のエンドスクレイパーである。素材剥片は幅広の不整形剥片で、打面が残存する。

293 は珪質頁岩製のスクレイパーである。素材剥片の打面が残存し、素材剥片は不整形の幅広剥片である。エンド側にも 90 度に近い剥離があるが、石核調整による剥離の可能性もある。

294 はホルンフェルス製のサイドスクレイパーである。図は横方向に配置しているが、素材剥片の打面が残存するため、サイドスクレイパーとした。素材剥片は縦長を指向したと考えられる剥片である。

295 は透過性のある白色チャート製のエンドスクレイパーである。上部が欠損しており、全体の形状は復元できないが、調整剥離からエンドスクレイパーと考えられる。

296 は珪質頁岩製のエンドスクレイパーで、上縁にも調整剥離が施されている。

297 はチャート製のエンドスクレイパーもしくは二次加工のある剥片とも考えられる。下縁の加工が両側から施されている。

二次加工のある剥片 (第 48 図 300、304)

300 はホルンフェルス製の二次加工のある剥片もしくはエンドスクレイパーである。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

304 は珪質頁岩製の二次加工のある剥片もしくは基部加工ナイフ形石器とも考えられる。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打点が残存する。ナイフ形石器とみた場合、基部加工は背面からの内湾調整で、背面左側縁の先端部付近は主要剥離面側からの調整剥離である。

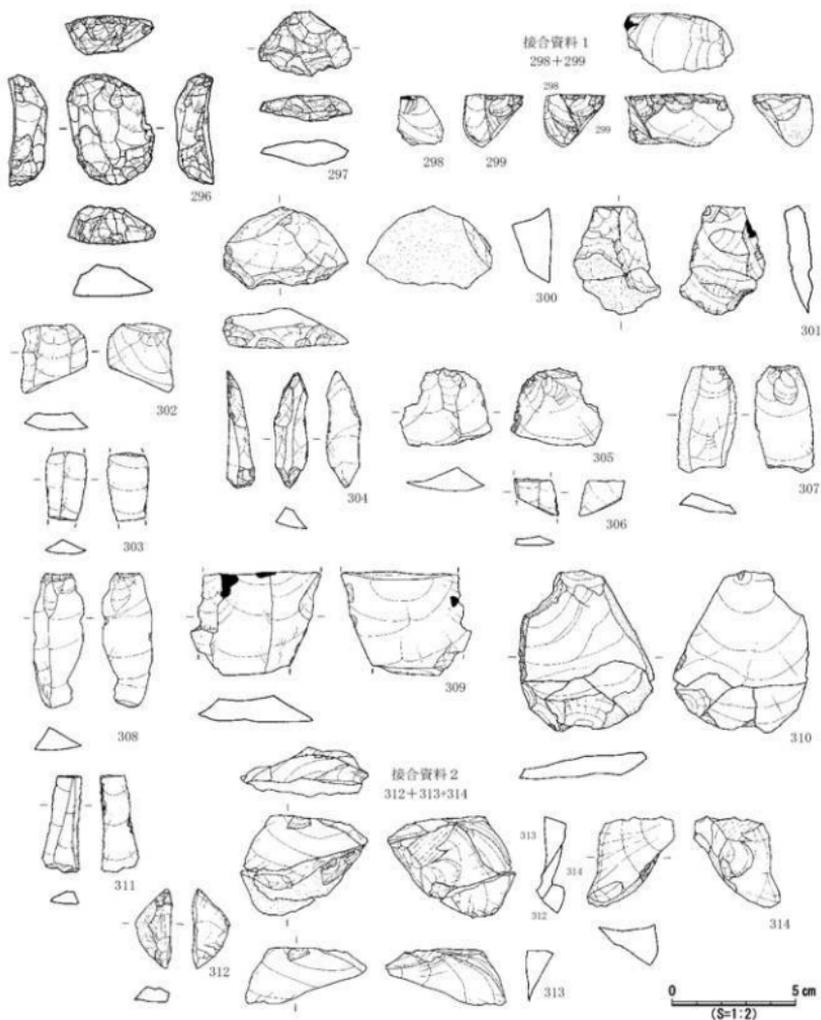
剥片 (第 48 図 301 ~ 303、305 ~ 311)

301 はチャート製の剥片で、縦長を指向した不整形剥片である。打面が残存し、平坦打面である。接合する資料ではあるが、折れ接合のため一つの剥片として扱った。

302 は珪質頁岩製の縦長剥片で、打面は平坦打面である。途中から欠損している。

303 はホルンフェルス製の縦長剥片である。上部と下部が欠損している。

305 は珪質頁岩製の縦長剥片で、打面が残存する。打面は自然面である。主要剥離面の左側縁には微細な剥離がある。



第48図 1区流土層出土石器実測図(2)

306 は珪質頁岩製の縦長剥片で、石刃技法によって剥離されている。

307 は白色風化系流紋岩製の縦長剥片で、石刃技法によって剥離されたと考えられる。背面左側には自然面が残存し、剥片剥離過程の初期の段階のものと推測される。

308 は流紋岩製の縦長剥片で、背面側には頭部調整が施されている。

309 は珪質頁岩製の縦長剥片である。

310 はチャート製の縦長不整形剥片である。打面は残存しないが、打点は残存している。折れ接合のため、一つの剥片として図化した。

311 はホルンフェルス製の縦長剥片で、石刃技法によって剥ぎ取られた剥片である。途中で欠損しているため、打面は残存しない。

接合資料 (第 48 図 接合資料 1、接合資料 2)

接合資料 1 は剥片 (298) と石核 (299) からなり、その形状からは細石刃核のブランクの可能性もある。

接合資料 2 は白色風化系流紋岩製で、剥片 3 点 (312、313、314) からなる。

二次加工のある剥片 (第 49 図 315 ~ 317、319、320、322 ~ 325、327、328、330、331)

315 は珪質頁岩製の二次加工のある剥片である。素材剥片は縦長剥片で、打面が残存し、平坦打面である。剥離の方向については、背面左側は主要剥離面側から、背面右側は背面側からの剥離である。

316 は流紋岩製の二次加工のある剥片で、素材剥片は縦長剥片である。素材剥片の打面が残存し、平坦打面である。二次加工を観察すると、背面右側縁側は微妙であるが、背面左側縁は、関を形成するように内湾して、基部に向かって剥離が行われていることが分かる。したがって、ナイフ形石器もしくは剥片尖頭器の未製品の可能性が考えられる。

317 は白色風化系流紋岩製の二次加工のある剥片で、背面右下側には自然面を残す。素材剥片は縦長指向の不整形剥片である。素材剥片の打面は残存し、平坦打面である。調整剥離と思

われる剥離は主に背面左側縁に施されており、打面付近の剥離は比較的精緻である。

319 は白色風化系流紋岩製の二次加工のある剥片である。素材剥片は縦長剥片で、素材剥片の打面が残存する。背面右側縁に二次加工が施されているが、内湾するような加工であるためナイフ形石器の未製品の可能性も考えられるが、剥離の角度はかなり鋭角である。

320 は珪質頁岩製の二次加工のある剥片で、素材剥片は縦長剥片を指向した剥片で、素材剥片の打面は残存し、平坦打面である。側縁の調整は背面左側縁が内向調整で、背面右側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

322 はホルンフェルス製の二次加工のある剥片である。風化が著しい。素材剥片は幅広の不整形剥片である。調整剥離は両側縁とも背面と腹面の両側から施されており、かなりの鋭角である。

323 は珪質頁岩製の剥片である。打面が残存しており、調整打面である。

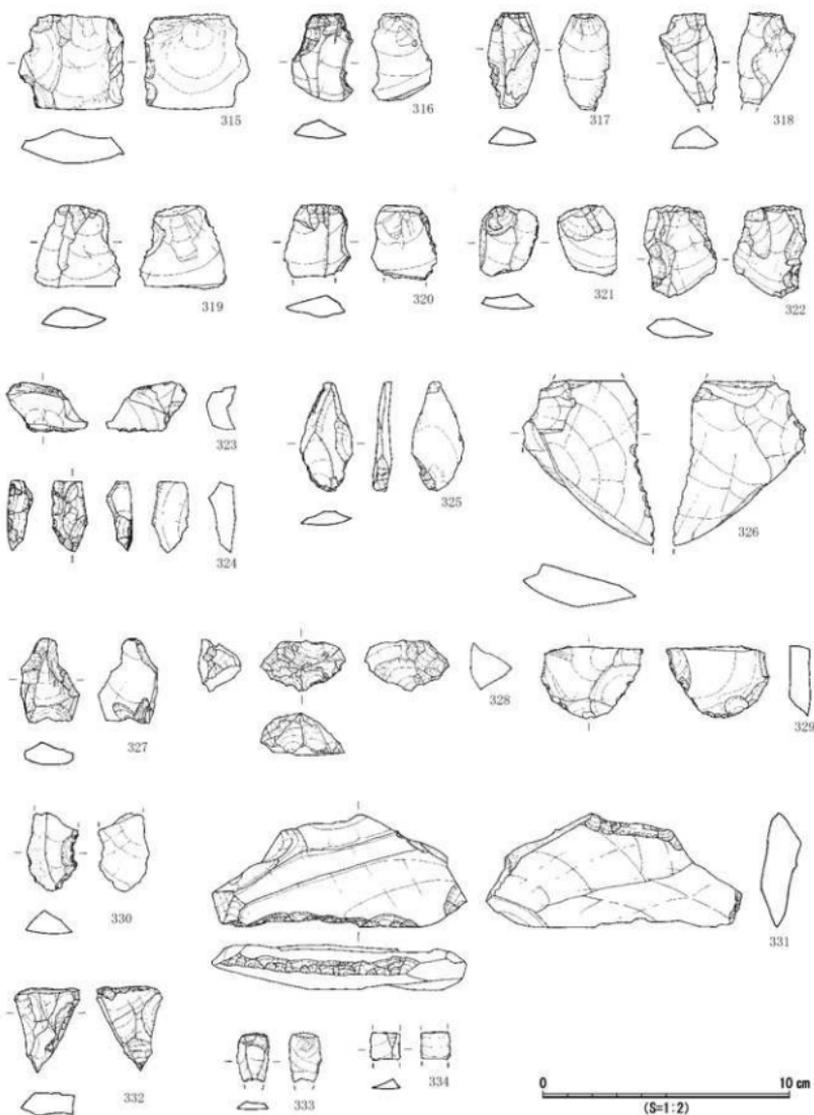
324 はチャート製の二次加工のある剥片で、素材剥片は横広の剥片もしくは横長剥片である。素材剥片の打面は残存しない。背面の両側縁に主要剥離面側から剥離が施されている。

325 は珪質頁岩製の二次加工のある剥片もしくは基部加工ナイフ形石器とも考えられる。素材剥片は幅広の不整形剥片である。ナイフ形石器としてみた場合、打面を水平にした場合、剥片の主軸が逆「ノ」の字状になる。基部の加工は、背面左側が主要剥離面側から、背面右側縁側が背面側からの調整となっている。

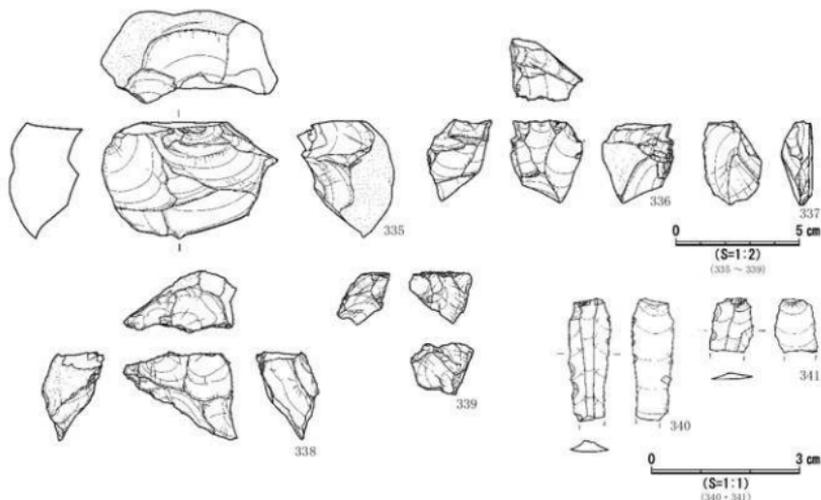
327 は白色風化系流紋岩製の二次加工のある剥片で、素材剥片は幅広の不整形剥片である。側縁には主要剥離面側から精緻な剥離が施されている。

328 はチャート製の二次加工のある剥片もしくはスクレイパーである。

330 は流紋岩製の二次加工のある剥片である。素材剥片は不整形剥片で、背面左側には自然面が残存する。二次加工は主要剥離面側から施さ



第49図 1区流土層出土石器実測図(3)



第50図 1区流土層出土石器実測図(4)

れている。

331はホルンフェルス製の二次加工のある剥片で、横広の不整形剥片である。

微細剥離のある剥片(第49図318、321、326、329)

318は珩質頁岩製の微細剥離のある剥片で、素材剥片の打面が残存する。打面は平坦打面である。素材剥片は不整形剥片である。微細な剥離痕は背面右側縁についている。

321は流紋岩製の、その形状は不整形である。素材剥片の打面はわずかに残存し、平坦剥離である。図は背面・腹面が左右逆に掲載しているが、背面右側に微細な剥離痕がある。

326は流紋岩製の微細剥離のある剥片である。素材剥片は幅広の不整形剥片で、背面左側縁に微細な剥離痕がある。

329は珩質頁岩製の微細剥離のある剥片である。素材剥片は幅広の不整形剥片である。

剥片(第49図332～334)

332は赤色チャート製の剥片で、素材剥片は不整形剥片である。背面右側縁に調整痕が観察でき、石核調整と推定される。

333、334は縦長剥片で、石刃技法によって製作されたと考えている。333は白色風化系流紋岩製で、334は珩質頁岩製である。

石核(第50図335～339)

335は珩質頁岩製の石核で、自然面を多く残す。基本的には上面の打面を上にして剥片を剥ぎ取ったようである。剥ぎ取られた剥片はやや幅広の剥片であったと推測される。ただし、この石核の剥片剥離過程で、最後の剥離面と考えられる面は自然面を打面として剥片剥離が行われている。

336は珩質頁岩製の石核である。石核の大きさは小ぶりで、残された剥離面から推測すると、剥片剥離過程の最後のほうで剥ぎ取られた剥片も小さいものであったと推定される。

337は流紋岩製の石核である。

338は白色風化系流紋岩製の石核で、一部に自然面を残す。剥離面から推測すると、この石核から剥ぎ取られた剥片はやや幅広の不整形剥片と思われる。

339は赤色チャート製の石核である。ほとん

ど残核に近い。最終剥離面から不整形の小さな剥片を剥離したことが分かる。

細石刃 (第50図 340、341)

340、341は流紋岩製の細石刃である。340は約2.50cmと長い。

2-1区

遺物の平面分布図については第51図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

ナイフ形石器 (第52図 342～353、356)

342は小型のナイフ形石器の欠損品で、石材は珪質頁岩である。素材剥片は縦長剥片と考えられ、石刃を切断して側縁を形成していると推定できる。側縁は現存する部分が側縁しかないで、二側縁加工のナイフ形石器だったかどうかについては不明である。加工は主要剥離面側からの調整剥離が施されている。

343はナイフ形石器の欠損品で、石材は流紋岩である。おそらく基部側が残存していると思われる。素材剥片はリングの方向などから縦長指向の剥片であったと推定している。

344は側縁加工ナイフ形石器で、珪質頁岩が素材となった石材である。先端部は一部欠損しているものの、その角度を復元すると約50度である。素材剥片は横長剥片と考えられ、素材剥片の打面は残存していない。打面と推定される部分に側縁の調整剥離が主要剥離面側から施されている。調整剥離は一部鋸歯状である。

345は珪質頁岩製の二側縁加工ナイフ形石器である。先端部は欠損しており、その形状についての詳細は不明である。素材剥片は横長剥片、もしくはそれを指向した剥片剥離で、素材剥片の打面は残存していない。打面は背面左側にあったと推定できる。側縁の加工は両側縁とも主要剥離面側から施されている。背面左側の調整剥離は一部鋸歯状を呈する。

346は中型のナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部は欠損しており、その形状の復元はできない。素材剥片は横長の剥片である。

素材剥片の打面は側縁の加工により剥ぎ取られているが、リングの方向から右側縁側に存在したといえる。両側縁の調整剥離は主要剥離面側から施されている。

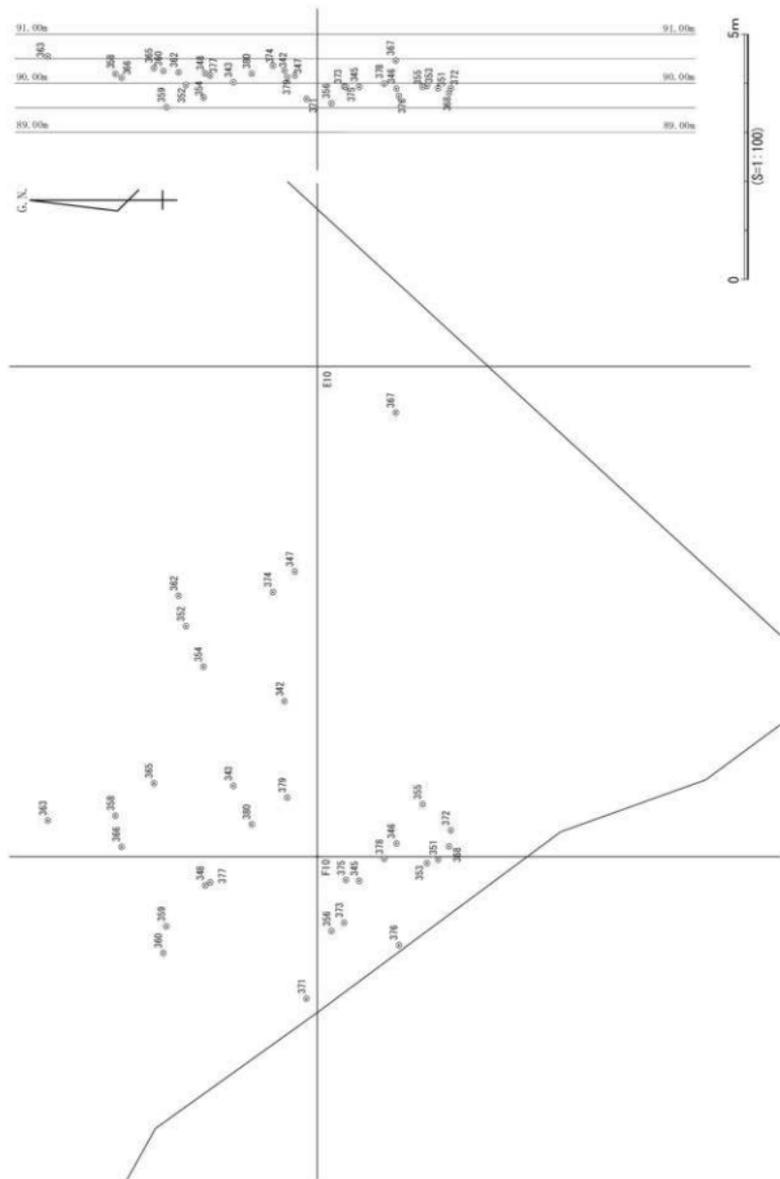
347は小型の二側縁加工ナイフ形石器で、石材は流紋岩である。完形で残存しており、先端部の角度は約45度である。素材剥片の形状は縦長剥片を指向したと思われる剥片である。側縁の加工は両側縁に施されており、背面左側縁の調整剥離は背面側と主要剥離面側の両方からの対向剥離による調整が行われている。背面右側縁の調整剥離は微細な剥離で、主要剥離面側からの調整剥離である。刃部は微細剥離によって、鋭さがなくなっている。

348は珪質頁岩製の基部加工ナイフ形石器で、先端部が欠損している。素材剥片は縦方向にやや長い不整形剥片である。基部の加工は主要剥離面側から施されている。また、調整剥離については、かなり精緻な剥離が連続的に繰り返されており、丁寧さが窺い知れる。

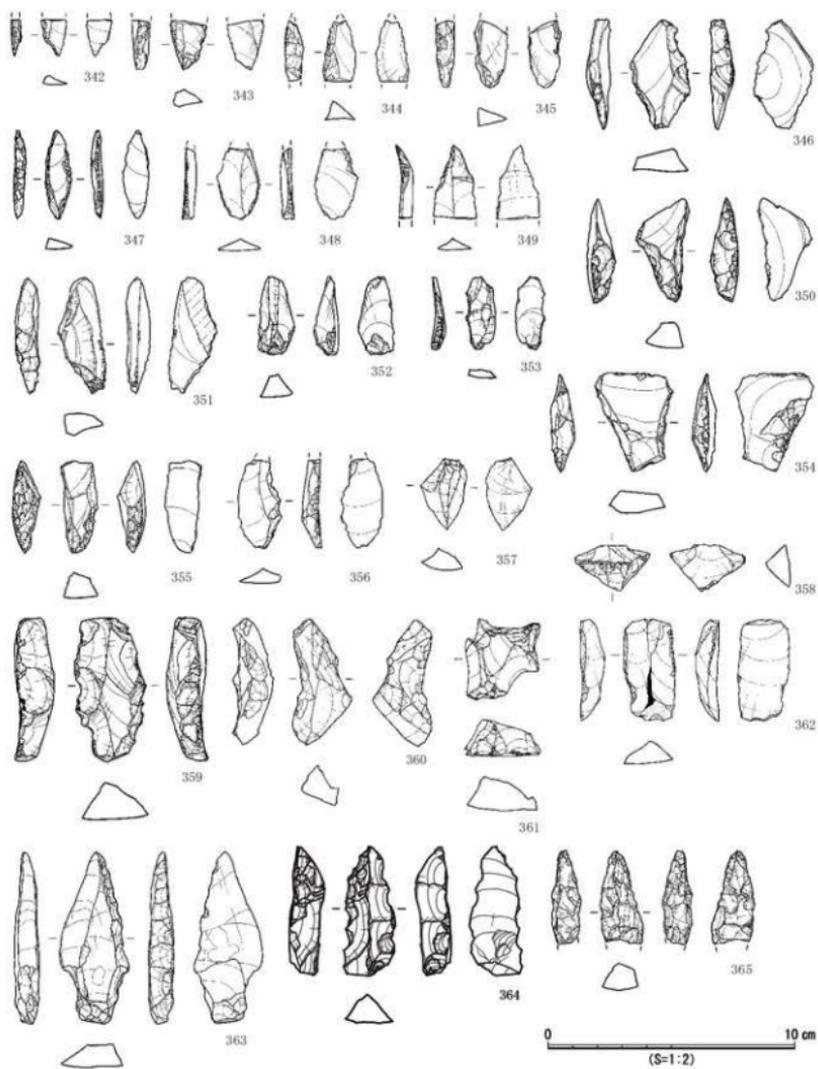
349はチャート製で、大型ナイフ形石器の欠損品である。先端部の角度は約50度である。素材剥片は縦長指向の剥片と考えられ、素材剥片の打面は残存していないが、基部側にあったと推定される。先端部背面左側縁には主要剥離面側から微細な調整剥離が施されている。

350は流紋岩製の中型ナイフ形石器で、狸谷型ナイフ形石器に分類される。先端部から基部まで完形で残存しており、先端部の角度は約60度である。背面左側の刃部と側縁部が交わる部分の角度は約120度とやや鈍角気味である。素材剥片は不整形の幅広剥片である。素材剥片の打面は残存していないが、背面右側にあったと推定される。側縁の加工については、両側縁とも主要剥離面側から調整剥離が施されている。調整剥離は、まず大まかに側縁を形成する剥離を施した後に、微細な剥離を施すことで側縁部の形状を整えている。

351はナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部から刃部まで完形で残存する。先端



第51图 2-1区流土層出土石器平面・垂直分布图



第52図 2-1区流土層出土石器実測図(1)

の角度は約75度である。左側縁側に施した調整剥離は側縁部の半分までは微細な調整剥離も含め5〜7回程度の加工が施されている。また、左側縁の背面側は側縁方向から背面方向に向かって微細な調整剥離が観察できる。一方で、右側縁側にも微細な剥離の痕跡がみうけられ、微細な調整剥離と思われる。したがって、こちらの方を基部側と推定した。素材剥片は不整形の剥片である。主要剥離面側には節理によって剥離した面がある。節理面と左側縁上部との剥離の前後関係を観察すると、左側縁上部のリングが側縁部と節理面とが接する稜線に向かって収束しており、節理面が剥離した後に、側面の加工が施されたことが分かる。したがって、素材剥片を剥ぎ取る際、もしくはその前の剥離の衝撃によって節理面が剥離した可能性もある。

352は小型の基部加工ナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部が欠損しており、先端部の角度は不明である。素材剥片は不整形の剥片で、素材剥片の打面については、基部側が風化しており、打点などが観察できるわけではないが、リングの方向から基部側とわかる。調整剥離については、基部側に半月状にめぐる剥離ではなく基部側の両側縁に主要剥離面側から調整剥離を施すだけである。

353は白色風化系流紋岩製の小型ナイフ形石器もしくはその未製品である。先端部は欠損しているため、その形状は不明である。素材剥片は縦長指向の剥片である。素材剥片の打面は残存していないが、リングの方向から基部側にあったと推定できる。側縁調整は背面左側縁に施されており、背面側からの内向調整である。調整剥離は微細な剥離が連続的に施されている。

356は側縁加工のナイフ形石器で、石材は珪質頁岩である。先端部は欠損しており、その形状の復元は難しいが、先端部の角度を復元すると約60度である。素材剥片は縦長指向の剥片で、リングとフィッシャーの方向から素材剥片の打面は先端部側にあったと考えられる。側縁の加工については、右側縁を主要剥離面側か

ら剥離している。調整剥離は、大まかな剥離の後に微細な剥離を施しているものの、その形状は鋸歯状に近い。

台形石器 (第52図 354、355)

354は白色風化系流紋岩製の台形石器である。刃部は右方向に約20度傾斜する。素材剥片は不整形の幅広剥片で、その打面は残存していないが、背面左側面にあったと推定される。調整剥離は両側縁とも主要剥離面側から施されている。背面右側縁を観察すると、側縁部を形成する大まかな剥離の後、縁辺に微細で連続的な剥離が施されており、調整剥離の丁寧さが窺える。一方で、背面左側縁については、側面を打面として主要剥離面側に剥離が施されており、打面付近の厚みを減らす目的であったと推定される。刃部には微細な剥離痕が付いている。

355はホルンフェルス製の台形石器である。ほぼ完形で残存する。刃部はほぼ水平である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していないが、リングの方向から基部側にあったと推定される。調整剥離は刃部を除いた縁辺に施されている。剥離の方向は主要剥離面側からで、大まかな調整剥離のあと精緻な剥離が施されている。右側縁を観察すると、刃部側には比較的新しい剥離が見受けられる。

剥片尖頭器 (第52図 363)

363は剥片尖頭器で、石材はホルンフェルスである。先端部から基部まで残存し、先端部の角度は約55度である。基部の長さは2.10cm、幅は1.60cm、厚さは0.86cmである。素材剥片は縦長剥片で、風化により分かりにくい素材剥片の打面の一部が残存している。打面の方向は基部側であったと推測される。背面右側縁には、先端部から基部まで調整剥離が施されている。背面左側縁は基部を作り出すように内湾する調整剥離が施されており、背面右側縁側の対応する部分も内湾するように調整剥離が施されている。基部を意識した調整剥離といえる。

角錐状石器 (第52図 359、364、365)

359は角錐状石器の未製品と考えられる。石

材は流紋岩である。主要剥離面の打面と打点が残存している側を基部と推定した。先端部の角度は108度で、鈍角であり、先端部の剥離痕を観察すると製作の過程で先端部が欠損したようにみえる。ただ、欠損と考えられる部分の主要剥離面側から微細な調整剥離が部分的に施されていることが観察から確認できる。したがって、製作の過程で一度欠損した先端部を修正して製品を作ろうとした可能性もある。素材剥片は縦長指向の剥片である。主要剥離面を打面として両側面の調整剥離が施されている。先端部側から2/3は鋸歯状の調整剥離が施されている。

364は赤色チャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約60度であり、やや鋭角さに欠ける。基部厚は最大1.10cmである。素材剥片は縦長指向の剥片で、主要剥離面側から両側面に調整剥離を施す。両側面の接する稜部の調整は施されていない。また、主要剥離面の打面と打点が残存しており、基部の調整剥離が施されていない点が他の角錐状石器とは異なる。

365は珪質頁岩製である。1/3が欠損しており、全体の形状については不明である。ただし、227の角錐状石器の形状から類推すると、残存する部分は基部と考えられる。基部厚は1.20cmである。素材剥片については、三面とも加工しているため形状は不明である。まず、主要剥離面を打面にして両側面に調整剥離を施し、その後主要剥離面を両側面側から調整剥離を行っている。また、両側面が接する稜部分についても調整の痕が観察できる。

スクレイパー (第52図361)

361は白色風化系流紋岩製のエンドスクレイパーである。素材剥片は不整形剥片で、主要剥離面の打面は残存していない。リングの方向から主軸を決め、その向きからエンドスクレイパーであると推定した。調整剥離は主要剥離面側から施されており、一度大きな剥離を施した後に、微細な剥離を連続的に施している。

二次加工のある剥片 (第52図360、362)

360は珪質頁岩製の二次加工のある剥片であ

る。剥離についてであるが、左側面にある加工痕は台形石器などにみられるバルブを飛ばす剥離のようでもあり、また、左側面を打面として剥片剥離を行っているため、打面調整剥離のようにもみえるが、判断がつかない。

362は珪質頁岩製の二次加工のある剥片で、素材剥片は縦長指向の剥片で、素材剥片の打面が残存する。また、背面下部には自然面が残存している。側縁の加工については、背面右側は上部に、背面左側は下部にそれぞれ微細な剥離を連続的に施している。特に、左側縁の剥離は内湾するように施されている点が注目できる。

剥片 (第52図357、358)

357は白色風化系流紋岩製の剥片で、細石刃核の作業面調整剥片の可能性もある。打面は残存しており、平坦打面である。

358は黒色チャート製の剥片で、背面には頭部調整の痕跡が見受けられる。

二次加工のある剥片 (第53図366、367、370)

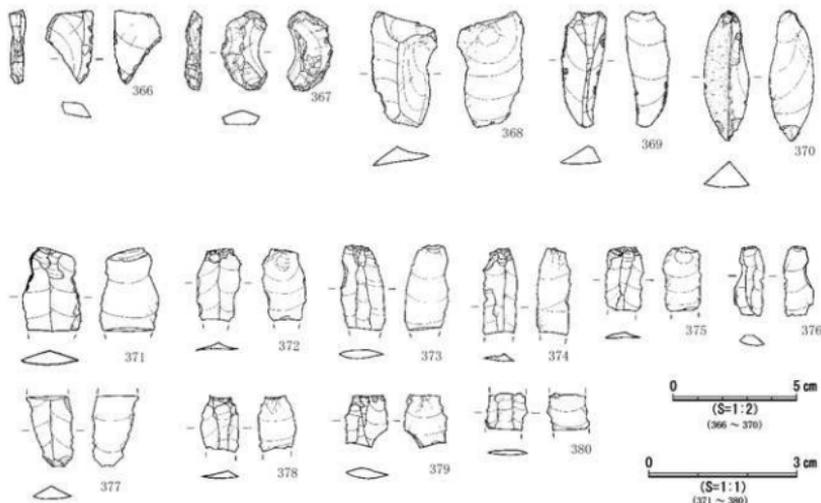
366は珪質頁岩製の二次加工のある剥片で、縦長指向の剥片と考えられる。素材剥片の打面は残存していないが、リングの方向から背面右側面の上部方向にあったと推定される。調整剥離は素材剥片の下面に施されており、背面からの内向調整である。調整剥離を観察すると、ナイフ形石器の未製品の可能性も考えられる。

367は黒曜石製の二次加工のある剥片で、素材剥片は不整形の剥片である。背面左側面に調整剥離と考えられる剥離痕が見受けられる。

370は流紋岩製の二次加工のある剥片である。素材剥片は縦長指向の剥片で、背面左側は自然面が残存する。剥片剥離の初期段階の剥片である可能性が高い。素材剥片の打面は残存していないが、素材剥片の上部方向にあったと考えられる。また、剥片の上縁には、僅かではあるが調整剥離が施されており、基部加工のナイフ形石器の可能性も考えられる。また、背面右側縁には微細剥離の痕跡が観察できる。

微細剥離のある剥片 (第53図368、369)

368は珪質頁岩製で、素材剥片は不整形の幅



第53図 2-1区流土層出土石器実測図(2)

広剥片である。素材剥片の打面が残存する。打面は平坦打面である。また、主要剥離面にはバルブが二つあり、一度の打撃では完全に剥離しなかったことが窺える。微細剥離は背面左側縁の上部から連続的に付いている。

369は珪質頁岩製で、素材剥片は縦長指向の剥片である。打面は残存していない。微細剥離は背面左側縁に連続的に付いている。

細石刃(第53図371～380)

371、373～375、377、379は珪質頁岩製で、373と374には細石刃核の頭部調整の痕跡が残存している。372と380は流紋岩製で、372には頭部調整の痕跡がある。376は黒曜石製の細石刃で、頭部調整の痕跡が見受けられる。378は黒色チャート製の細石刃である。

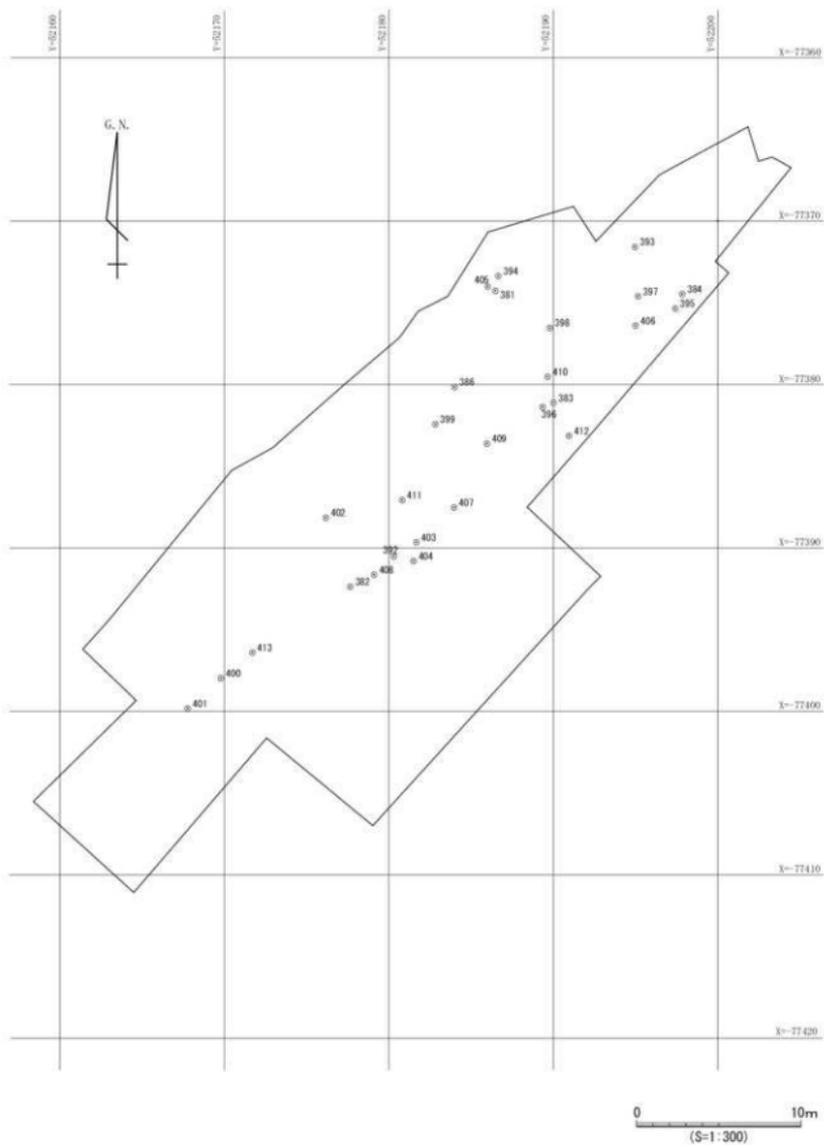
2-2区

遺物の平面分布図については第54図に示している。分布図の詳細については第V章で記述する。

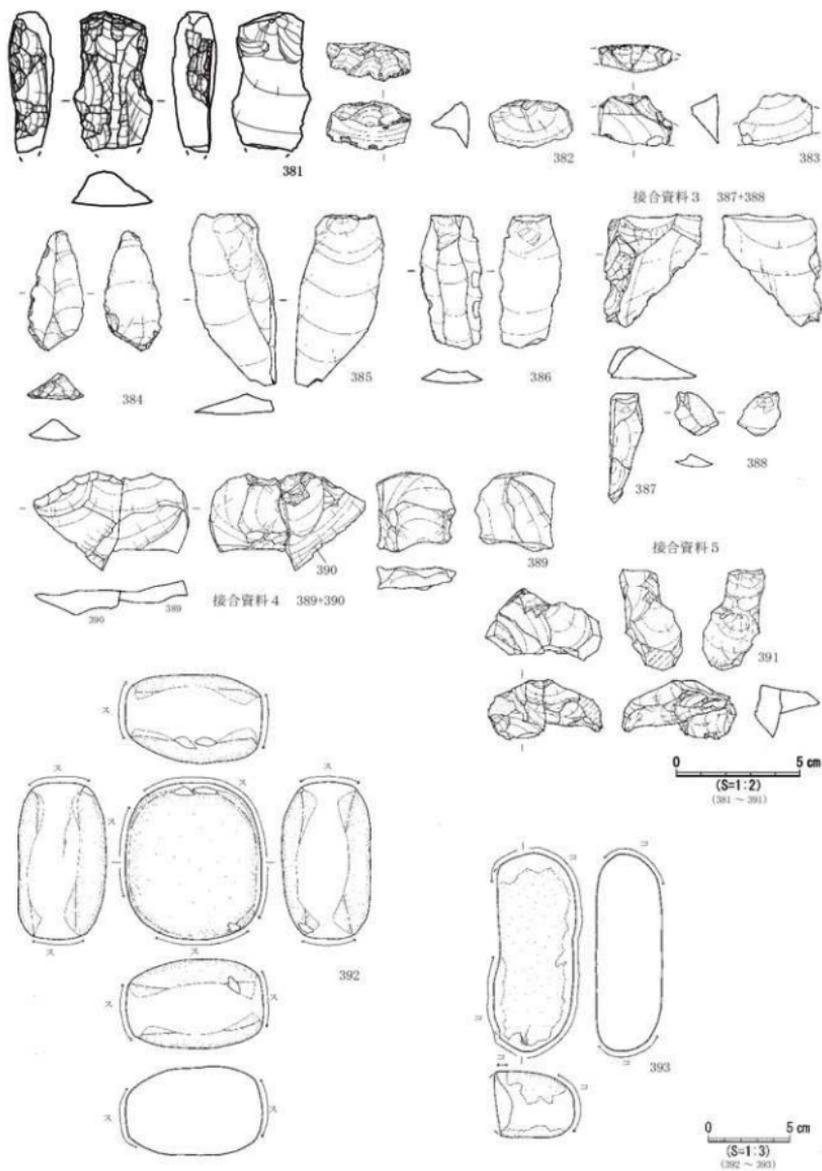
二次加工のある剥片(第55図381～384)

381は白色風化系流紋岩製の二次加工のある剥片、もしくは剥片尖頭器と推定される。素材剥片は分厚い縦長指向の剥片で、素材剥片の打面は残存する。側面の加工は主要剥離面側から施されており、刃部から内湾するように剥離が施されている。丁寧な調整剥離である。ところで、この二次加工のある剥片が剥片尖頭器とすると、刃部から基部にかけての部分と考えられる。剥片尖頭器と考えた場合の刃部が背面右側縁部にある。先端部を復元してみると、欠損部から約2.00cmのところで収束することから、刃部より基部のほうが長い。基部の長さは3.10cm、幅は2.50cm、厚さは1.76cmである。本遺跡で出土している剥片尖頭器としては特異な印象を受ける。

382は珪質頁岩製の二次加工のある剥片で、素材剥片は横長剥片である。素材剥片の打面が残存しないが、打面が存在したであろう部分に二次加工が施されている。また、素材剥片を剥ぎ取る前段階に石核から剥ぎ取られた部分の打



第54図 2-2区旧石器相当層出土石器平面分布図



第55图 2-2区旧石器相当層出土石器実測图(1)

面とバルブが残存している。

383は珪質頁岩製で、素材剥片は横長剥片である。素材剥片の打面などは残存していない。

384は二次加工のある剥片もしくは基部加工ナイフ形石器の未製品である。石材はホルンフェルスで、風化が著しい。素材剥片は縦長指向の剥片である。基部加工とした部分が、調整剥離であるのかどうかの判断が難しい。側縁の刃部には微細な剥離痕が付いている。

剥片 (第55図 385、386)

385は白色風化系流紋岩製の縦長指向の剥片である。打面が残存する。

386は白色風化系流紋岩製の縦長剥片で、石刃技法によって剥片剥離がなされている。断面は台形状を呈しており、背面の構成をみても連続して縦長剥片が剥ぎ取られたであろうことが想定できる。

接合資料 (接合資料3～5)

接合資料3は剥片1点(388)と石核1点(387)からなる。石材は白色風化系流紋岩である。接合部の剥離が一番新しい。388は調整剥片の可能性もある。

接合資料4は折れ接合の資料で、剥片2点からなる(389、390)。石材は白色風化系流紋岩である。もとの素材となった剥片は横広剥片で、素材剥片の主要剥離面側から剥片を剥離しようとした痕跡が窺え、その過程で折れたと思われる。389は折れ面を打面として、剥片剥離を行っている。

接合資料5は391を剥ぎ取る際に縦裂け状に剥離したものであるため、1点とした。

磨石・敲石 (第55図 392、393)

392は磨石である。砂岩を素材としている。側面は四面とも磨り痕跡があり、平面形状をみると隅丸の方形状になっていることから、使用頻度が高かったと推定される。

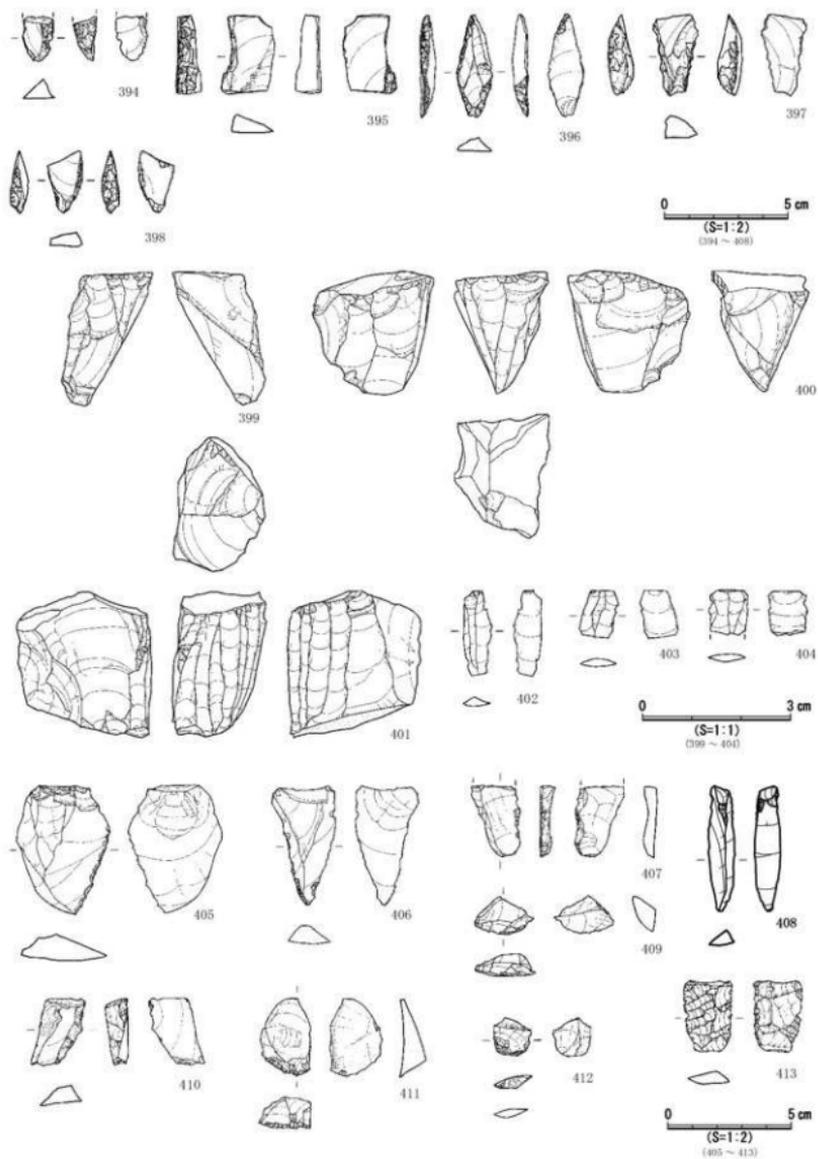
393は敲石で、砂岩を素材としている。現状では石材の1/3が欠損している。敲打痕は上部と下部にあり、敲打の過程で欠損した可能性も考えられる。

ナイフ形石器 (第56図 394～396)

394は珪質頁岩製のナイフ形石器の欠損品で、基部側が残存する。素材剥片は縦長指向の剥片と考えられる。リングの方向から推測すると、素材剥片の打面は先端部方向にあったと思われる。調整剥離については、背面右側縁は対向剥離による調整が施されているが、背面左側縁は主要剥離面側から施されている。また、背面左側縁には欠損部を打面として、基部方向に向かって剥離された痕跡があり、欠損後に再利用を試みた可能性も指摘できるが、どのようなプロポジションを望んだのかについては推測できなかった。

395は珪質頁岩製の側縁加工の大型ナイフ形石器で、未製品もしくは欠損品の可能性がある。素材剥片は横広の不整形剥片である。背面左側面の調整剥離は主要剥離面側から施されている。背面左側縁の下部は膨らんでおり、調整剥離によってこの膨らみを除去しようとしたが、剥離に失敗したようにみえる。その後、微細な調整剥離を入念に施している。また、上下の欠損部についてであるが、両端とも背面側から力が加わっていることに加えて、下部側は剥離の前後関係から調整剥離よりも前に欠損していることがわかる。したがって、上下の欠損は調整剥離の際に欠損したというよりも、調整剥離の前の段階に切断剥離したと推測でき、欠損品である可能性は未製品である可能性よりも低いといえる。

396はホルンフェルス製の中型側縁加工ナイフ形石器である。先端部から基部までほぼ完形で残存する。先端部の角度は約45度である。素材剥片は縦長剥片、もしくはそれを指向した剥片剥離と考えられる。素材剥片の打面は残存していないが、リングとフィッシャーの方向から基部側にあったと考えられる。背面左側縁は基部側から先端部まで側縁すべてに主要剥離面側から調整剥離が施されているが、背面右側縁については基部側1/3が主要剥離面側から、先端部側1/3は背面側から調整剥離が施されてい



第56图 2-2区旧石器相当層出土石器実測図(2)

る。先端部の調整剥離は、先端部を細長く加工する目的の可能性もある。

台形石器 (第 56 図 397、398)

397 は流紋岩製で、ほぼ完形で残存する。刃部は背面左側に約 15 度傾いている。素材剥片は横広の不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していないが、背面右側縁側にあったと推定できる。調整剥離は両側縁ともに主要剥離面側から施されているが、平面でみると鋸歯状を呈しており、やや入念さに欠ける調整剥離である。

398 は黒色チャート製で、ほぼ完形で残存する。刃部は背面左側縁方向に約 30 度傾斜している。素材剥片はやや横広の不整形剥片で、打面は残存していないが背面右側縁側にあったと推定できる。側縁の調整剥離は背面左側が主要剥離面側から施されているが、背面右側縁側は対向剥離による調整である。両側縁とも入念な調整剥離といえる。

細石刃核 (第 56 図 399 ~ 401)

399 は無光沢チャート製である。1 ~ 2 枚程度の細石刃を剥離した痕跡もあるため、細石刃核とした。作業面再生剥片とも考えたが、主要剥離面と打面で形成する角度が約 30 度であるため、その可能性は低い。

400 は白色風化系流紋岩製である。下縁側に剥離痕が見受けられる。

401 はチャート製である。この細石刃核の打面は上面と下面にあり、両面加工から細石刃剥離を行っている点が特徴である。ただし、両面を同時並行的に打面として利用していたわけではなく、もともと下面側を打面として利用しており、剥離の過程で節理によって打面が失われたため、180 度打面転移を行ったと推定される。

細石刃 (第 56 図 402 ~ 404)

402 ~ 404 は白色風化系流紋岩製の細石刃で、3 点とも打面が残存する。

二次加工のある剥片 (第 56 図 405 ~ 412)

405 は白色風化系流紋岩製で、素材剥片はやや幅広の不整形剥片である。素材剥片の打面は残存する。背面上縁には石核調整の痕跡が顕著

に残存する。二次加工は背面右側縁側に施されており、その平面形状は鋸歯状である。

406 は珪質頁岩製で、素材剥片は幅広の不整形剥片である。背面左側縁に二次加工の痕跡がある。

407 はチャート製であるが、ナイフ形石器の未製品の可能性も考えられる。素材剥片は縦長指向の不整形剥片で、素材剥片の打面は残存しない。側縁の加工は主要剥離面側から施されており、平面形状をみると鋸歯状を呈する。

408 は珪質頁岩製で、背面を観察すると、背面右側がポジティブ面で、背面左側がネガティブ面であることがわかる。したがって、剥片が石核素材となり、その石核素材の背面左側面を打面にして、この剥片を剥離していることが分かり、剥ぎ取られた剥片は石核素材の縁辺部であったと考えられる。また、背面の稜線の角度の開き具合からある程度の厚みのある剥片が石核素材となったと推定される。

409 は珪質頁岩製で、欠損している。素材剥片は不整形剥片と思われる。二次加工は主要剥離面側から施されており、比較的丁寧な調整剥離といえる。エンドスクレイパーの可能性も考えたが、欠損しており、全体の形状が復元できないため、可能性の指摘だけに留める。

410 は珪質頁岩製で、素材剥片を剥離する前段階の剥片を石核素材とし、その背面側を打面に素材剥片を剥離している。素材剥片の打面が残存する。調整剥離は素材剥片の背面側に打面とは反対方向から施されている。調整剥離は平面形状が鋸歯状を呈しており、やや雑な調整であるが、ナイフ形石器の可能性も考えられる。

411 は黒色チャート製のエンドスクレイパーの可能性のある二次加工剥片で、素材剥片はやや幅広の不整形剥片である。

412 は黒色チャート製で、素材剥片は縦長剥片もしくはそれを指向した剥片と考えられる。素材剥片の打面には調整剥離が施されているが、バルブが僅かながら残存している。打面側の調整剥離は背面側から施されている。

尖頭器 (第56図413)

413は半透明チャート製の尖頭器もしくは二次加工のある剥片である。素材剥片は縦長指向の剥片と考えられる。背面左側の剥離をみると、右肩上がりで斜行する剥離(RL-斜交剥離:長井2009)がみられることから、尖頭器の可能性も考えられる。

3区

遺物の平面・垂直分布は第57図に示している。分布図の詳細は第V章で記述する。

台形石器 (第58図414)

414は珪質頁岩製の台形石器で、ほぼ完形で残存する。刃部は背面右方向に約10度傾斜している。刃部には微細な剥離痕が付いている。素材剥片はやや横広の不整形剥片である。調整剥離は刃部を除いたすべての縁辺部に施されており、その方向は主要剥離面側からである。また、側縁は基部方向に向かって内湾するように調整剥離が施されており、基部側は先細りの形状を呈している。

角錐状石器 (第58図415)

415は角錐状石器の未製品と考えている。石材は珪質頁岩である。先端部は欠損しているが、基部は残存する。なお、主要剥離面の打面と打点が残存していたため、その部分を基部側と推定した。素材剥片は縦長指向の剥片である。主要剥離面を打面として、両側面の調整剥離を行っているが、部分的な剥離に留まっていることや基部側が分厚いままであることから角錐状石器の未製品とした。

スクレイパー (第58図416～418)

416は珪質頁岩製のエンドスクレイパーである。素材剥片はやや分厚い不整形剥片で、素材剥片の打面とバルブが残存する。

417は珪質頁岩製のエンドスクレイパーである。素材剥片の打面は残存しないが、やや幅広の不整形剥片を素材剥片としている。調整剥離は下縁に施されている。

418はホルンフェルス製である。背面は自然

面で、調整剥離は自然面側から施されている。

細石刃核 (第58図419～422)

419は無光沢チャート製の細石刃核である。打面には左側縁側からの打面調整が見受けられる。また、下縁にも調整剥離が施されている。

420は灰色チャート製の細石刃核である。打面調整が入念に施されている。一方、作業面の左側面に平坦な面があるが、この面が一番古く、作業面の裏面にはこの面を打面とする石核調整剥離がある。また、裏面左側縁にも調整剥離が施されている。

421は無光沢チャート製の細石刃核である。節理によって割られている。

422は赤色チャート製の細石刃核もしくは作業面再生剥片である。

剥片 (第58図423)

423は無光沢チャート製の剥片で、剥片上面の調整剥離は石核調整の剥離に見える。

(9) 原位置不明・その他の遺物

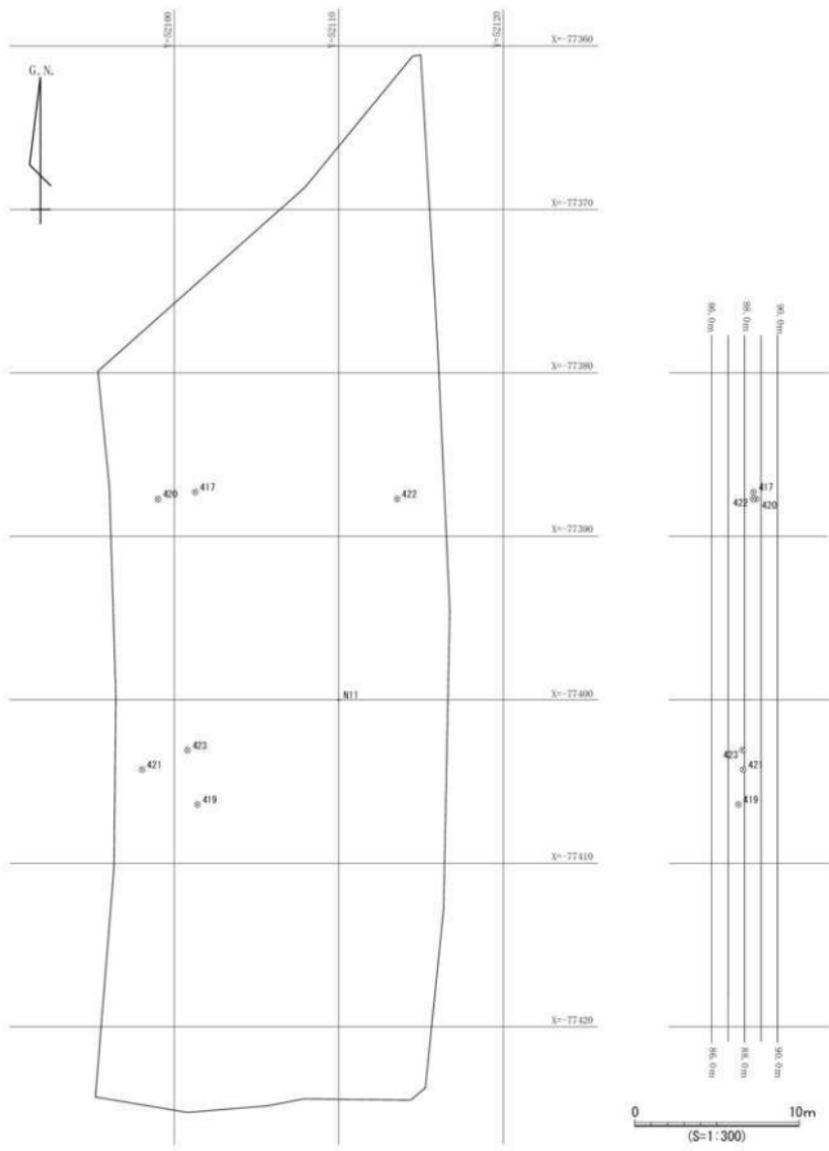
原位置不明の遺物は包含層から出土したものの原位置が判らなくなったもの、その他の遺物については攪乱土・表土中からの出土物の中から主な遺物を掲載した。

出土遺物

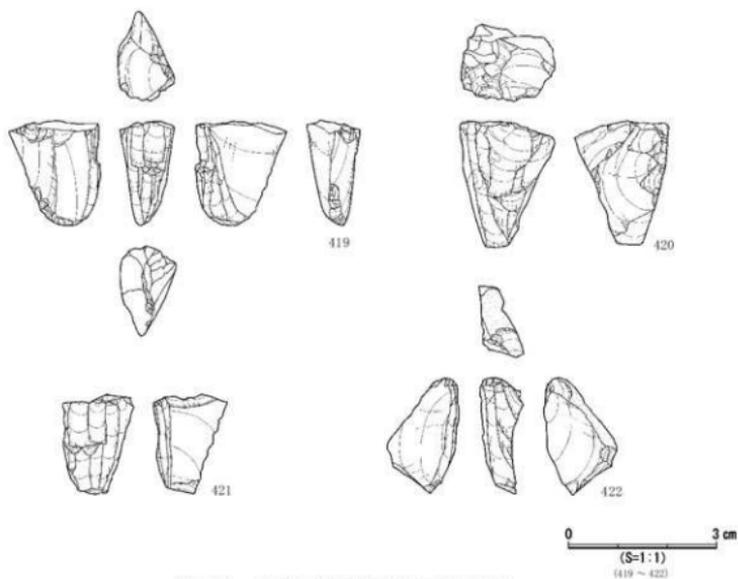
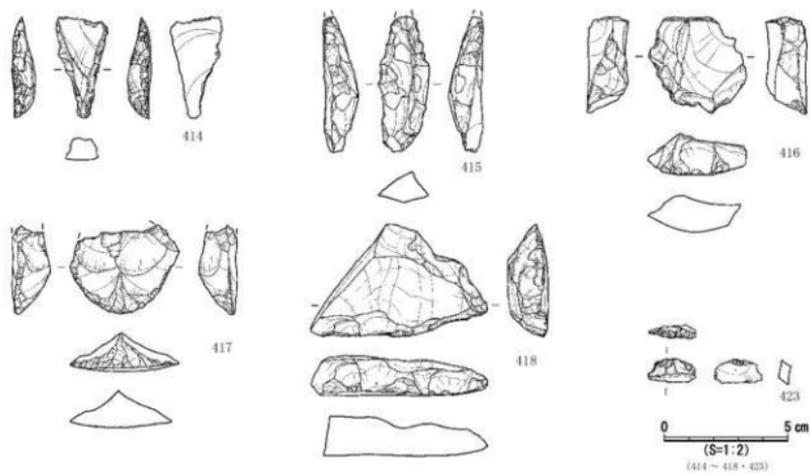
ナイフ形石器 (第59図424～429)

424は珪質頁岩製の二側縁加工ナイフ形石器で、ほぼ完形で残存する。先端部が一部欠損するが、先端部の角度を復元すると約40度である。素材剥片は縦長剥片で、リングの方向から打面方向は先端部側にあったと推定される。側縁加工は両側縁とも主要剥離面側からの調整剥離である。主要剥離面の基部側には、両側面側からそれぞれ一回の調整剥離が施されている。剥離の切り合い関係から側面の調整剥離が先である。先端部は基部方向に向かって細長く剥離しており、縦裂け状の剥離にみえる。

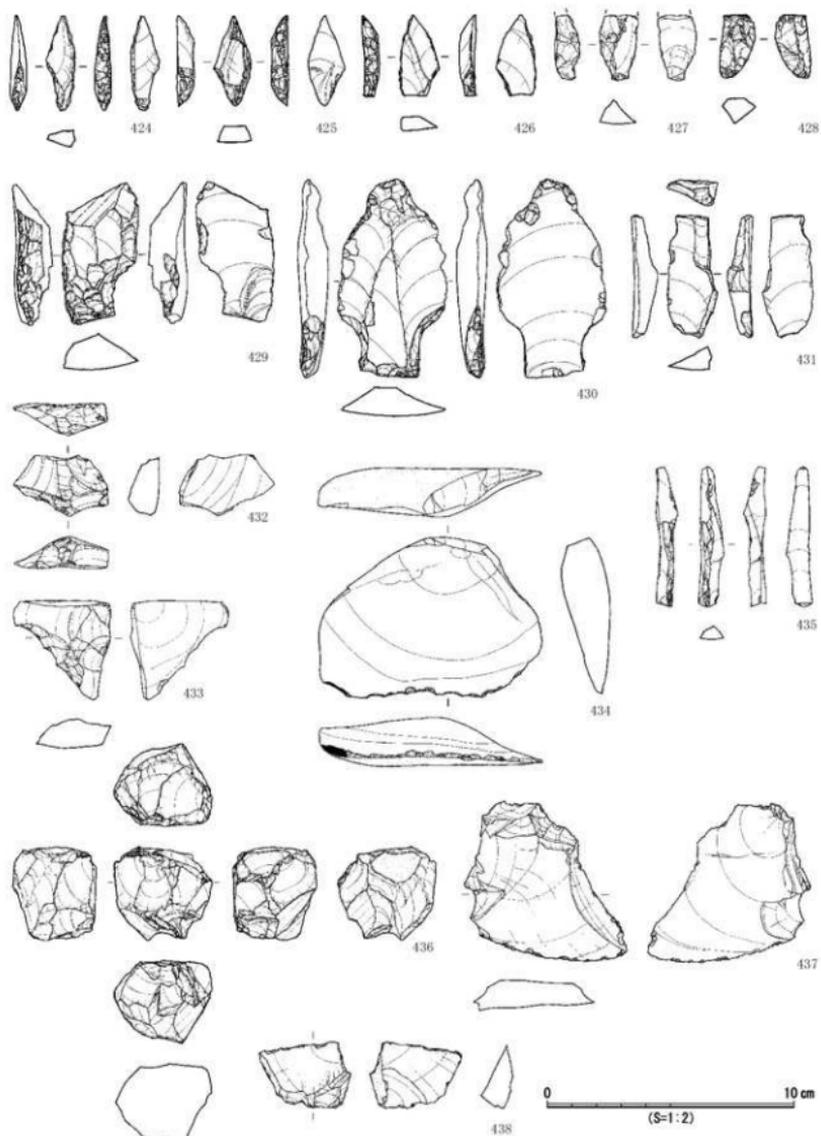
425は珪質頁岩製で、完形で残存し、先端部の角度は約50度である。素材剥片は縦長剥片で、打面は残存しないが、基部側にあったと推



第 57 図 3 区旧石器相当層出土石器平面・垂直分布図



第 58 图 3 区旧石器相当層出土石器実測図



第59図 原位置不明・その他の石器実測図

定される。側縁は両側縁とも対向剥離による調整剥離が入念に施されている。

426は珪質頁岩製の中型品で、基部側が欠損している。先端部の角度は約60度である。素材剥片は縦長剥片を指向したやや不整形の剥片と考えられ、打面は残存しない。側面は背面左側面が対向剥離による調整が施されている。一方、背面右側縁は主要剥離面側からの調整剥離である。

427は珪質頁岩製の側縁加工ナイフ形石器である。先端部が欠損している。素材剥片は不整形剥片と推測される。側縁の加工は背面側から施されており、内向調整である。

428は白色風化系流紋岩製の楔形石器である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面が残存する。上面には石核調整が施されている。

429は珪質頁岩製の大型品で、先端部が欠損する。素材剥片は縦長剥片で、打面が残存する。側縁の調整剥離は主要剥離面側から入念に施されている。背面右側は内湾するように調整剥離が施され、基部を形成している。加えて、背面打面側には調整剥離が施されているが、剥離が施されている部分は基部とほぼ一致するため、基部の厚みを軽減するための剥離の可能性がある。しかし、側縁側からの剥離と背面の打面側からの剥離痕は側縁加工の剥離が後から施されており、背面基部側の剥離は石核調整の剥離である可能性も残される。

剥片尖頭器 (第59図430)

430はいわゆるスベード型の剥片尖頭器で、先端部に鋭利さはない。基部の長さは1.80cmで、幅は2.30cm、厚さは0.83cmである。素材剥片は縦長指向の剥片で、基部側に主要剥離面の打点がかかる。側縁加工は基部側は内湾するように剥離が施されており、基部を意識したものであろう。背面左側縁は先端部側にも調整剥離が施されている。また、基部にも調整剥離が見受けられる。調整剥離はすべて、主要剥離面側から施されている。

彫器 (第59図431)

431はホルンフェルス製で、素材剥片は縦長剥片である。打面は残存していないが、基部側にあつたと推定される。背面右側面に自然面が残存する。

スクレイパー (第59図432)

432は流紋岩製のエンドスクレイパーである。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していない。調整剥離は主要剥離面側から施されている。

二次加工のある剥片 (第59図433、437、438)

433は白色風化系流紋岩製で、素材剥片は不整形である。

437は珪質頁岩製で、素材剥片は幅広の不整形剥片である。素材剥片の打面は残存していないが、パルプ付近が残存している。打面があつた部分には背面側から調整剥離が施されている。下縁に微細剥離が見受けられる。

438は珪質頁岩製で、素材剥片は不整形剥片である。下縁の調整剥離は主要剥離面側から施されている。エンドスクレイパーの可能性もある。

微細剥離のある剥片 (第59図434)

434は砂岩製で、素材剥片は不整形である。素材剥片の打面が残存する。下縁部に微細な剥離痕が付いている。

石核 (第59図436)

436は珪質頁岩製の石核である。打面転移を少なくとも3回は繰り返している。一部に自然面が残存する。

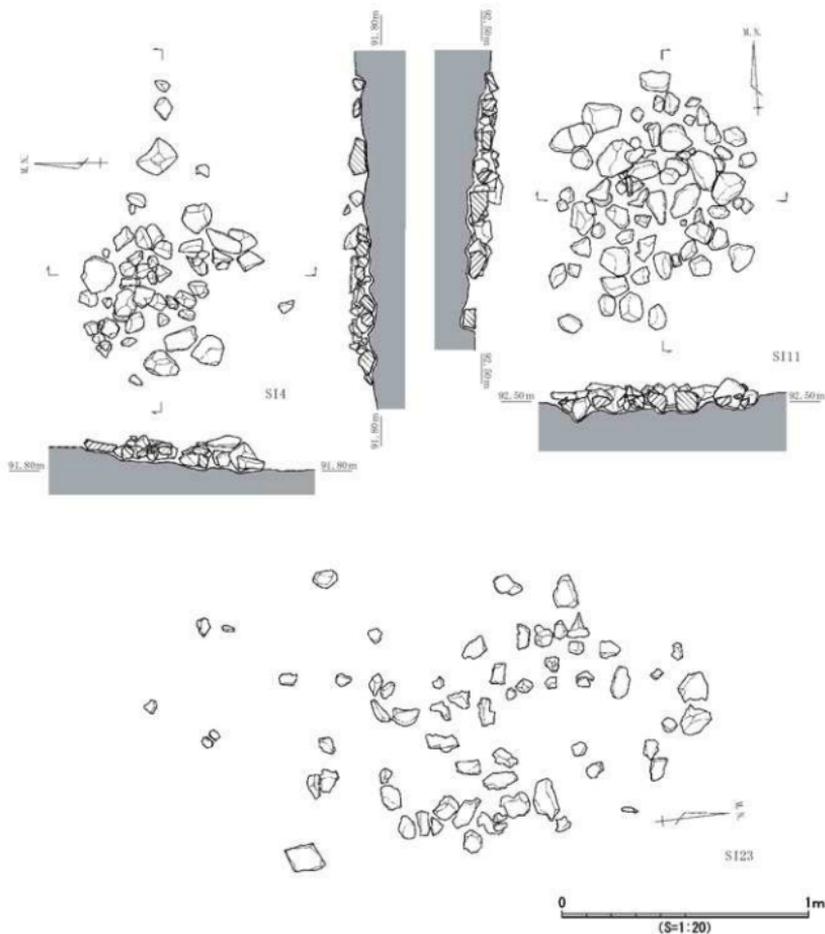
剥片 (第59図435)

435は珪質頁岩製の縦長剥片で、穂付き石刃または第一石刃と呼ばれるものである。

第3節 縄文時代早期

(1) 遺物の出土状況

縄文時代早期の遺物は調査区全体から出土している。分布の中心は2-1区であるが、2-2区にも一定量の分布域が見受けられる。



第60図 縄文時代早期検出集石遺構実測図(1)

(2) IV層・IV層相当層検出の遺構と遺物

検出遺構

検出した遺構は集石遺構12基と土坑1基である。検出位置は1-2区、2-1区、2-2区である。

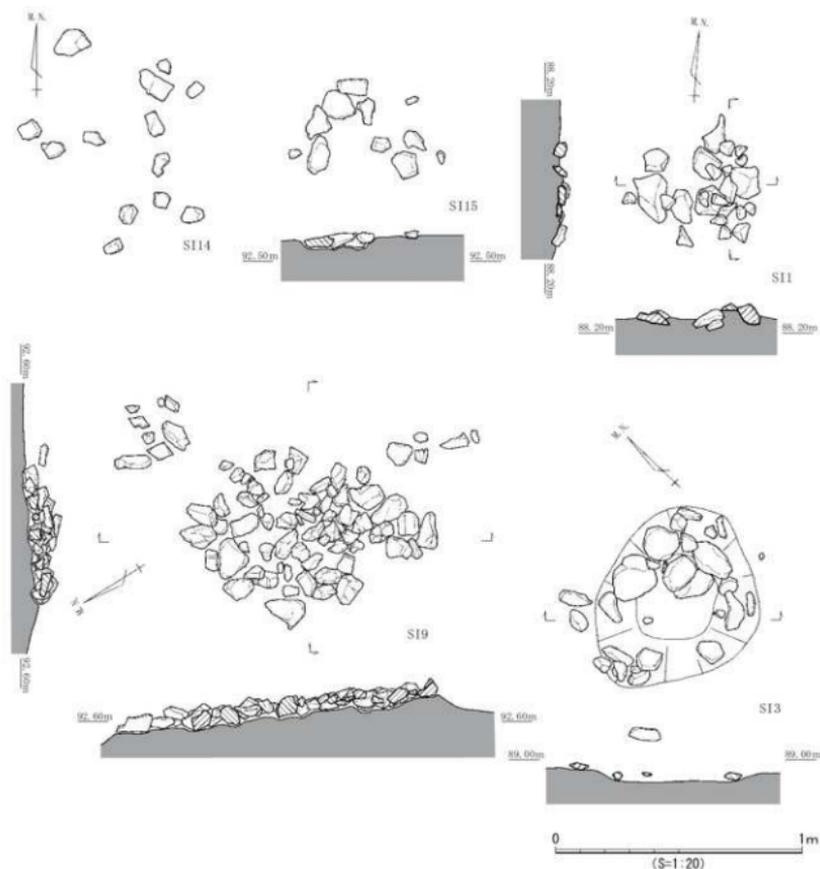
集石遺構

IV層では3基の集石遺構を検出した(第60

図)。

S14は91.8mから92.6mのレベルで検出した。規模は長軸1.18m・短軸0.87mである。構成礫は47点あり、構成礫の密度は比較的密である。

S111は92.3mから92.6mのレベルで検出した。規模は長軸1.04m・短軸0.74mである。



第61図 縄文時代早期検出集石遺構実測図(2)

構成礫は50点あり、構成礫の密度は密である。

S123は91.0mから91.2mのレベルで検出した。規模は長軸2.29m・短軸1.22mである。構成礫は56点あり、構成礫の密度は疎である。

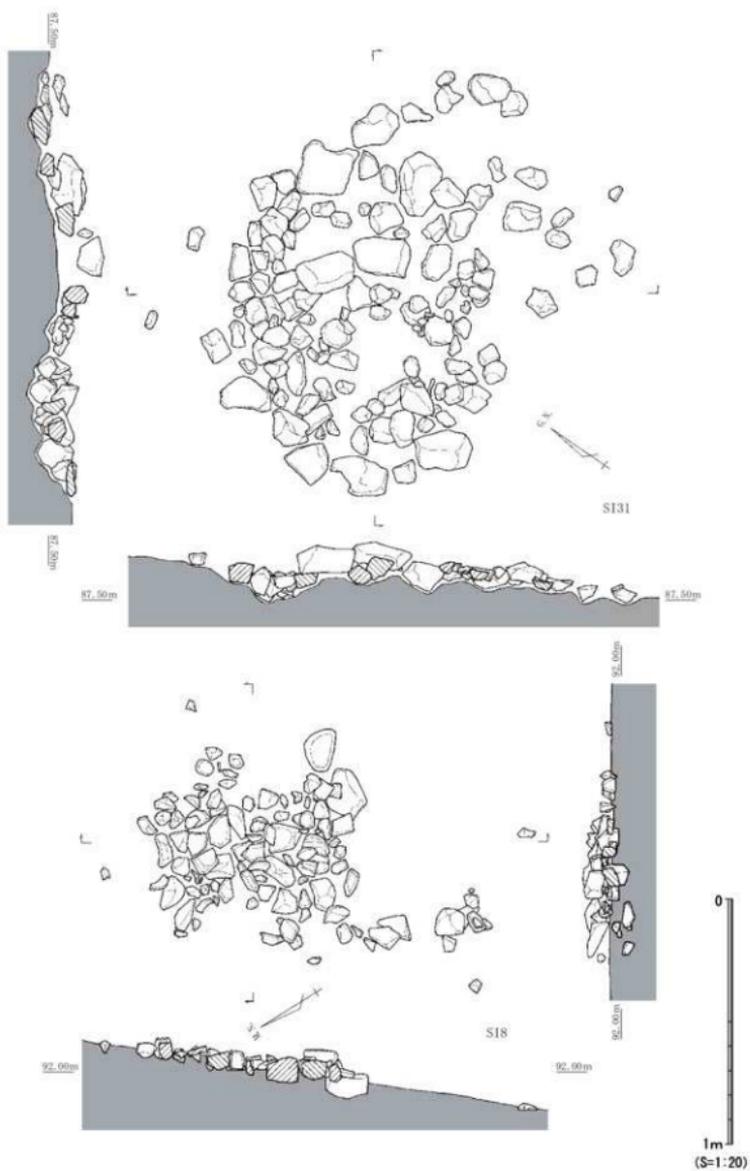
IV層相当層では集石遺構を8基検出した(第61～63図)。

S114の構成礫は14点あり、構成礫の密度は疎である。規模は長軸0.80m・短軸0.75mである。

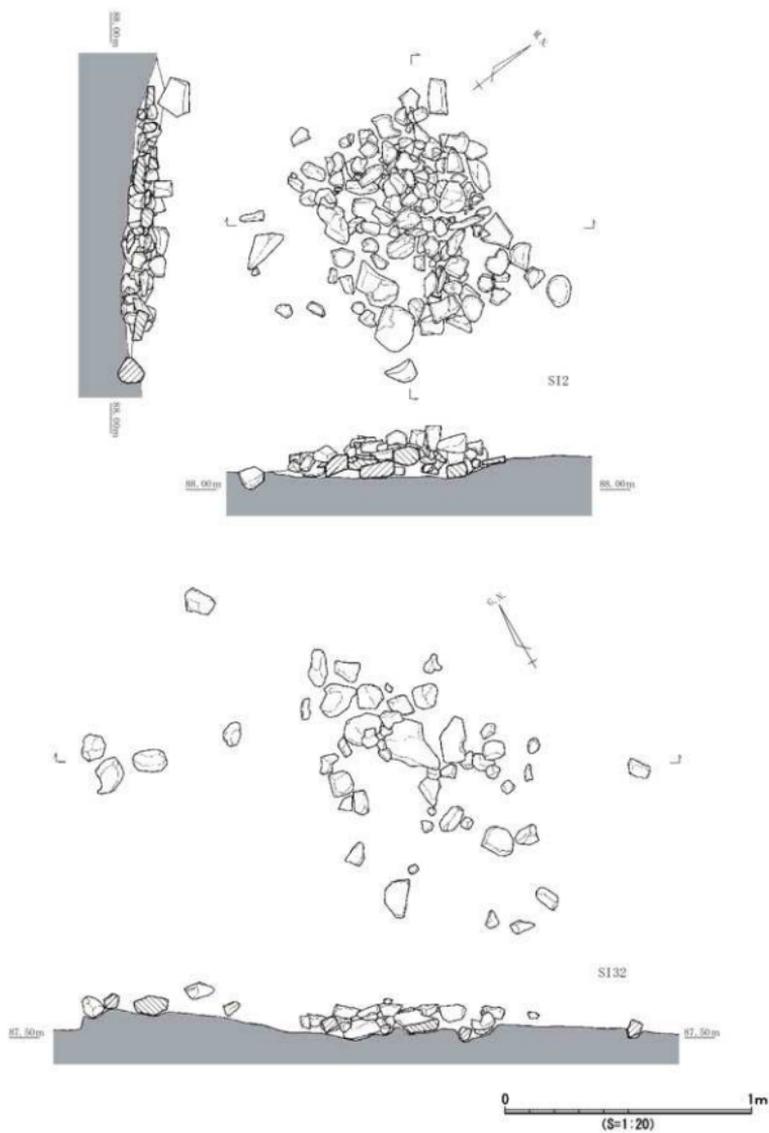
S115は92.60mのレベルで検出した。規模は長軸0.65cm・短軸0.40cmである。構成礫は11点あり、構成礫の密度はやや密である。

S11は88.25mのレベルで検出した。規模は長軸0.55m・短軸0.50mである。構成礫は24点あり、構成礫の密度は密である。

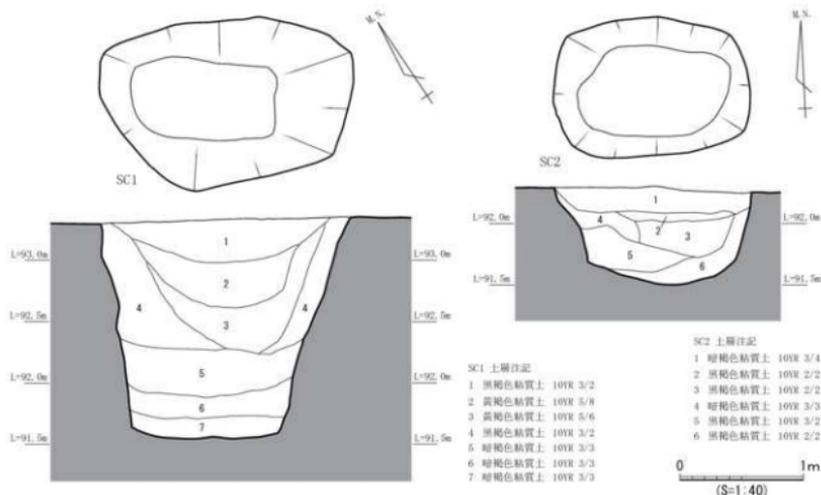
S19は92.5mから92.7mのレベルで検出した。規模は長軸1.50m・短軸0.95mである。構成礫は73点あり、構成礫の密度は密である。



第 62 図 縄文時代早期検出集石遺構実測図 (3)



第 63 図 縄文時代早期検出集石遺構実測図 (4)



第 64 図 縄文時代早期検出土坑実測図

S13 は 88.95 m のレベルで検出した。規模は長軸 0.80 m ・ 短軸 0.75 m である。構成礫は 27 点あり、構成礫の密度はやや密である。掘り込み面は不整形な楕円形を呈し、その規模は長軸 0.80 m ・ 短軸 0.65 m ・ 深さ 0.05 m である。掘り込み面と構成礫の範囲をみると、構成礫の密度は南半分がやや疎である。

S131 は 87.50 m 付近のレベルで検出した。規模は長軸 1.80 m ・ 短軸 1.80 m である。構成礫は 115 点あり、構成礫の密度は密である。S131 は本遺跡で最大規模の集石遺構であり、比較的に掘り込み面のプラン検出を図ったが、検出できなかった。

S18 は 92.15 m から 91.85 m のレベルで検出した。規模は長軸 1.60 m ・ 短軸 1.00 m である。構成礫は 95 点あり、構成礫の密度は極めて密である。

S12 は 88.05 m 付近のレベルで検出した。規模は長軸 1.35 m ・ 短軸 1.25 m である。構成礫は 112 点あり、構成礫の密度は極めて密である。

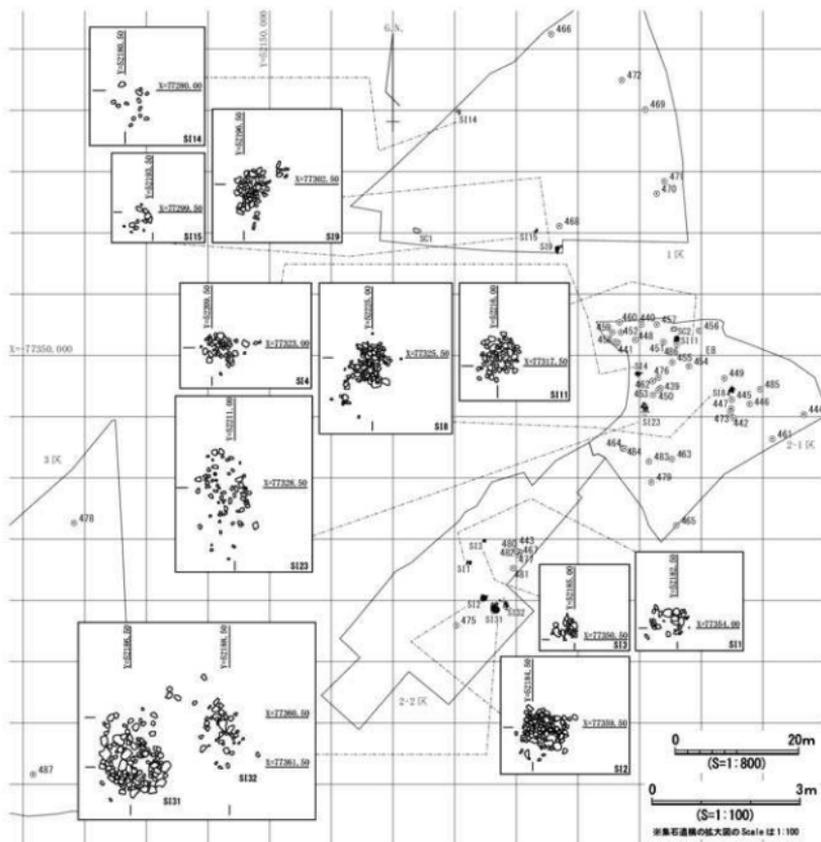
S132 は S131 に隣接する形で検出した。検出

面のレベルは 87.50 m から 87.60 m である。規模は長軸 2.35 m ・ 短軸 1.30 m である。構成礫は 45 点あり、ほとんどすべての構成礫が赤化していた。構成礫の密度はやや疎である。

土坑 (第 64 図)

土坑は 1 基 (SC2) 検出した。検出位置は 2-1 区で、比較的平坦な場所に立地している。

SC2 は 2-1 区の V a 層上面で検出した。長軸 1.60 m、短軸 1.10 m、深さ約 0.80 m の楕円形プランの土坑である。V a 層上面での検出ではあるが、埋土の上面がほぼ IV 層と同一色であったため、IV 層中での平面プランの検出はできなかった。したがって、掘り込み面がどのレベルであったかについては認識できていない。ただ、土坑の埋土中に K-Ah に由来するブロック、または K-Ah 層そのものの堆積はみられないことから、少なくとも K-Ah 降灰以前に埋設した土坑であることはいえる。結論としては、時期を決定する積極的な根拠は少ないが、V a 層上面よりも上のレベルであろうことは予想されるため、縄文時代早期所産の遺構であるとし



第 65 図 縄文時代早期出土土磁平面分布図及び集石遺構・土坑平面分布図

た。遺構の性格については不明である。

また、時期は不明であるが、1-2区において土坑を1基(SC1)検出した。本来なら「(3)その他の時期の遺構と遺物」で報告すべきであるが、土坑としてまとめてここで報告する。

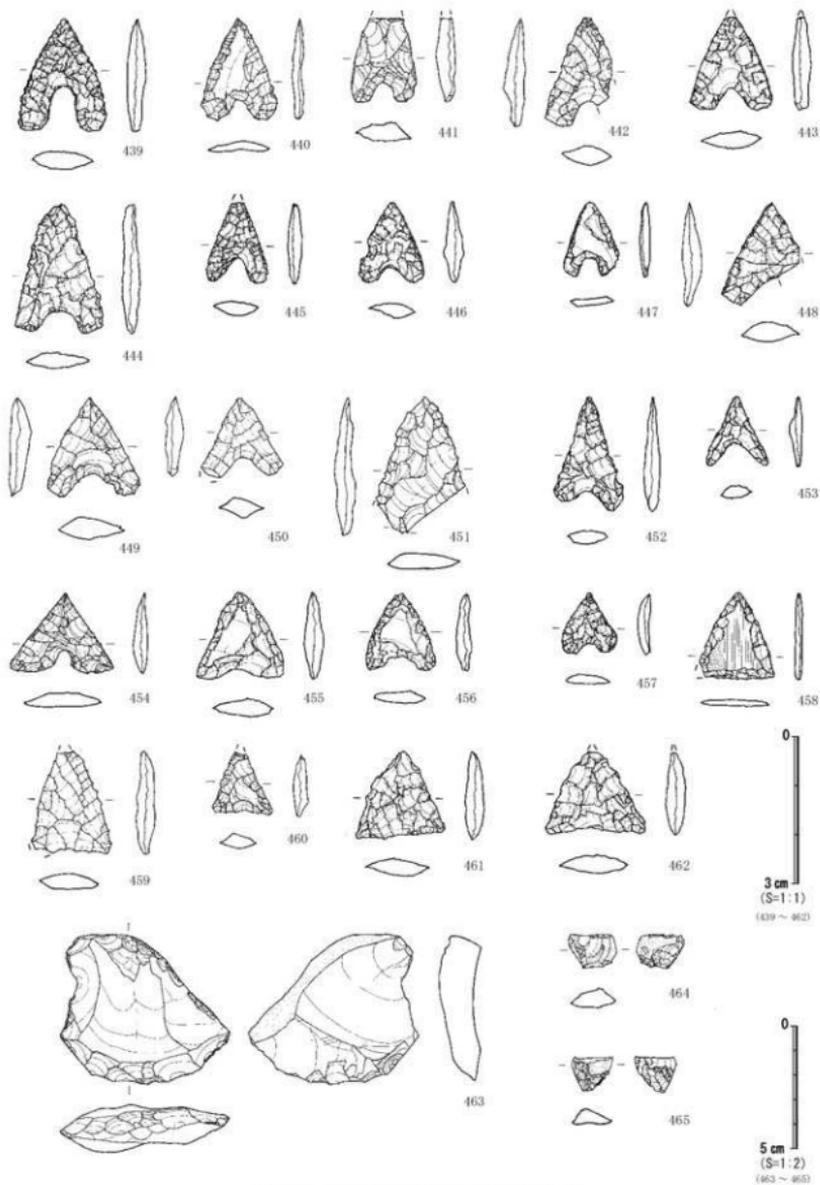
SC1は表土直下層で検出した。長軸2.10m、短軸1.30m、深さ約1.80mの楕円形プランの土坑である。重機で表土を剥いだ後に、楕円形のプランが確認できたため、SC1の掘り込み面は後世の改変により失われていることがわかっ

た。掘り込み面がどのレベルにあったかは分からないが、埋土を観察するとK-Ahに由来するブロックが混入することから、少なくとも降灰後に掘り込まれていることが推測される。遺構の性格について積極的な評価はできないが、検出時の深さが1.10m程度あり陥し穴状遺構の可能性も考えられる。

出土石器

石磁(第66図439~462、第67図466~485)

石磁は145点中の44点を図化した。



第 66 図 縄文時代早期出土石器実測図 (1)

439は灰色チャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約60度である。側縁の剥離は両側縁とも主軸付近まで到達する。側縁は膨らをもつ。抉りは深く、U字状を呈する。抉りの深さは約0.90cmである。

440は姫島産黒曜石製で、先端部から抉り部まで残存する。先端部の角度は約60度である。側縁の剥離は石礫主軸まで達するものはほとんどない。側縁部は直線的な形状をもつ。抉りは約0.4cmである。

441はチャート製で、先端部と抉りの一部が欠損している。両側縁の剥離は石礫主軸まで達している。側縁部は直線的な形状をもつ。抉りの深さは約0.50cmである。

442は桑ノ木津留産黒曜石製で、抉りの片方は欠損している。先端部の角度は約50度である。側縁の剥離は石礫主軸まで達する。側縁は直線的な形状を呈する。抉りの深さは約0.50cmである。

443はチャート製で、先端部が僅かに欠損する。先端部の角度を復元すると、約60度である。調整剥離は両側縁とも石礫主軸まで達する。側縁の形状はやや膨らをもつ。抉りの深さは約0.45cmである。

444は無光沢チャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約50度である。調整剥離は右側縁が石礫主軸を越える。側縁部は直線的な形状を呈する。抉りの深さは約0.45cmである。

445は赤色チャート製で、先端部が僅かに欠損する。先端部の角度は約55度である。調整剥離は両側縁とも石礫主軸に達する。側縁部は直線的な形状を呈する。抉りの深さは約0.55cmである。

446は黒曜石製で、ほぼ完形で残存するが、左側縁の下部は挟れているが、これは石材に含まれる不純物が外れた跡である。先端部の角度は約60度である。調整剥離は両側縁の調整とも石礫主軸まで達するが、均整のとれた調整剥離ではない。側縁部はやや膨らをもつ。抉りの深さは約0.35cmである。

447は安山岩製で、完形で残存する。先端部の角度は約55度である。側縁の調整剥離は石礫主軸まで達するものはない。素材剥片のネガ面とボジ面が残存する。側縁部は僅かに膨らをもつ。抉りの深さは約0.40cmである。

448は桑ノ木津留産黒曜石製で、基部の片方が欠損する。先端部の角度は約70度である。側縁の調整剥離は両側縁とも石礫主軸まで達する。側縁部は直線に近い。抉りの深さは約0.45cmである。

449は赤色チャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約70度である。両側縁とも調整剥離は石礫主軸まで達する。側縁部はやや膨らをもつ。抉りの深さは約0.40cmである。

450は安山岩製で、ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約60度である。側縁部の調整剥離は右側縁が石礫主軸を越える。側縁部はやや内湾する形状を呈する。抉りの深さは約0.45cmである。

451はチャート製で、基部付近が欠損している。先端部の角度は約60度である。右側縁が石礫主軸を越える調整剥離である。側縁部はほぼ直線的な形状を呈する。欠損により基部の形状は不明であるが、抉りは施されておらず、直線的な形状を呈していた可能性がある。

452は姫島産黒曜石製で、ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約40度である。側縁の調整剥離は両側縁とも石礫主軸まで達する。側縁部はほぼ直線的な形状を呈する。抉りの深さは約0.50cmである。

453は流紋岩製で、完形で残存する。先端部も抉り部も鋭利な角度をもつ。先端部の角度は約45度である。側縁の調整剥離は石礫主軸まで至るものはほとんどない。側縁部の形状はやや内湾する。抉りの深さは約0.50cmである。

454はチャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約70度である。側縁の剥離は両方とも石礫主軸まで達する。側縁部は直線的な形状を呈する。抉りの深さは約0.40cmである。本遺跡で出土した他の石礫と比較すると、抉り

部の幅が約 0.30 cm と狭い。

455 は流紋岩製で、ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約 70 度である。側縁の剥離は石嶽主軸まで達するものはない。側縁部の形状はやや膨らをもつ。基部は内湾する。一番深いところで約 0.20 cm である。抉り部とするには、若干不明瞭であるので、内湾する基部とした。

456 はチャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約 70 度である。側縁の剥離は縁辺部付近に留まる。側縁部の形状はやや膨らをもつ。抉りの深さは約 0.30 cm である。

457 はチャート製で、平面形状はハート形を呈する。完形で残存する。先端部の角度は約 60 度である。側縁部の調整剥離は縁辺部に留まる。側縁部の形状は左側が外湾し、右側は内湾する。抉りの深さは約 0.20 cm である。

458 は珪質頁岩製の部分的に研磨した石嶽である。完形で残存する。先端部の角度は約 65 度である。調整剥離の後に研磨を施し嶽身平坦面が形成されている。

459 は安山岩製で、先端部が僅かに欠損する。先端部の角度を復元すると、約 50 度である。側縁の調整剥離は両側縁とも石嶽主軸まで達する。側縁部の形状はやや膨らをもつ。僅かに内湾する基部をもつ。

460 はチャート製で、先端部が僅かに欠損する。先端部の角度を復元すると、約 50 度である。側縁の調整剥離は縁辺部に留まる。側縁部の形状は若干ながら、内湾し、基部も僅かに内湾する。

461 はチャート製で、先端部が僅かに欠損する。先端部の角度を復元すると約 70 度である。側縁部の調整剥離は石嶽主軸まで達する。側縁部の形状はやや膨らをもつ。基部は直線的な形状を呈する。

462 は珪質頁岩製で、先端部が僅かに欠損する。先端部の角度を復元すると、約 70 度である。側縁部の調整剥離は両側縁とも石嶽主軸までは達しない。側縁部は膨らをもつ形状であるが、基部は内湾する。

466 は黒曜石製で、完形で残存する。先端部の角度は約 50 度である。側縁部は直線的な形状を呈する。抉りの深さは約 1.00 cm である。

467 は桑ノ木津留産黒曜石製で、完形で残存する。先端部の角度は約 50 度で、側縁の形状はほぼ直線的で、抉りの深さは 0.35 cm である。

468 はチャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約 70 度である。側縁部の形状はやや膨らをもち、抉り部は左右で異なり、右側は鋭利である。抉りの深さは約 0.50 cm である。

469 はチャート製で、完形で残存する。先端部の角度は約 55 度で、側縁部はやや膨らをもつ。抉りの深さは約 0.20 cm である。

470 は姫島産黒曜石製で、完形で残存する。先端部の角度は約 55 度である。側縁部はやや膨らをもつ。抉りの深さは約 0.20 cm である。

471 は頁岩製で、先端部がわずかに欠損する。先端部の角度は約 60 度で、側縁部はやや膨らをもつ。

472 はホルンフェルス製で、完形で残存する。先端部の角度は約 55 度である。側縁部はやや膨らをもつ。基部は僅かながら内湾する。

473 は桑ノ木津留産黒曜石製で、抉り部が一部欠損している。先端部の角度は約 55 度である。側縁部は膨らをもつ。抉りの深さは約 0.40 cm である。

474 はチャート製で、先端部から基部まで残存するが、基部の一部が欠損する。先端部の角度は約 70 度である。側縁部は膨らをもち、基部は内湾する。

475 はチャート製で、ほぼ完形で残存する。先端部の角度は約 55 度である。側縁部の加工は縁辺部周辺のみに行われている。側縁は「く」の字に近い形状を呈する。抉り部から膨らをもつ湾曲するが、途中から先端部に向かって内湾していく。抉りの深さは約 0.1 cm である。

476 は姫島産黒曜石製で、抉り部が一部欠損する。先端部の角度はほぼ直角で、側縁部はやや膨らをもつ。抉りの深さは 0.30 cm である。

477 はチャート製で、抉り部の一部が欠損す

る。先端部の角度は約65度である。挟りの深さは約0.20cmである。

478は黒曜石製で、挟り部の一部が欠損する。先端部の角度は約55度で、挟り部の深さは約0.20cmである。側縁には鋸歯状の調整剥離が施されており、その形状はやや膨らをもつ。

479は安山岩製で、木製品の可能性もある。挟り部が一部欠損するが、ほぼ完形で残存する。側面からみると、表裏面ともに突起状にみえる部分があり、調整剥離の過程で剥離しえなかつたと推測される。先端部の角度は約75度である。挟りの深さは約0.45cmである。

480はチャート製で、石鏃の下部が欠損しているため、その形状は不明である。先端部の角度は約45度である。側縁の調整剥離は両側縁とも石鏃主軸まで達している。

481は桑ノ木津留産黒曜石製で、完形で残存する。先端部は非常に鋭利で、その角度は約30度である。側縁部は内湾する形状を呈する。挟りの深さは約0.40cmである。

482はチャート製で、完形で残存する。石材は異なるが、プロポーシオンは481と酷似する。先端部の角度は約25度で、非常に鋭利である。挟りの深さは約0.35cmである。

483は姫島産黒曜石製で、先端部と挟り部の一部が欠損する。先端部の角度は復元で約35度で、挟りの深さは約0.50cmある。

484はチャート製で、石鏃にしては大きいため、その他の製品、もしくは二次加工のある剥片の可能性も考えられる。

485は姫島産安山岩製で、先端部と挟り部が欠損する。

スクレイパー (第66図463)

463は流紋岩製である。素材剥片は不整形剥片で、素材剥片の打面は残存していない。素材剥片の下縁を刃部としている。

打製石斧 (第67図487)

487は頁岩製で、裏面はほぼ自然面である。

磨製石斧 (第67図486)

486はホルンフェルス製で、部分的に研磨さ

れた石斧である。途中で欠損しており、上部の形状は不明である。全体に調整剥離を施した後、部分的に研磨を行っている。

二次加工のある剥片 (第66図464、465)

464は桑ノ木津留産黒曜石製で、二次加工のある剥片としたが、石核の可能性も考えられる。素材剥片は不整形剥片である。

465は桑ノ木津留産黒曜石製で、背面右側には自然面が残存する。

出土土器

舟川第2遺跡では、縄文時代早期の土器が基本層序のIV層を中心に出土した。出土土器の多くは無文土器であるが、押型文土器、条痕文土器なども出土している。分布域の中心は石器の分布域とは異なり、2-2区であることが注目される(第68図)。

無文土器 (第69図、第70図)

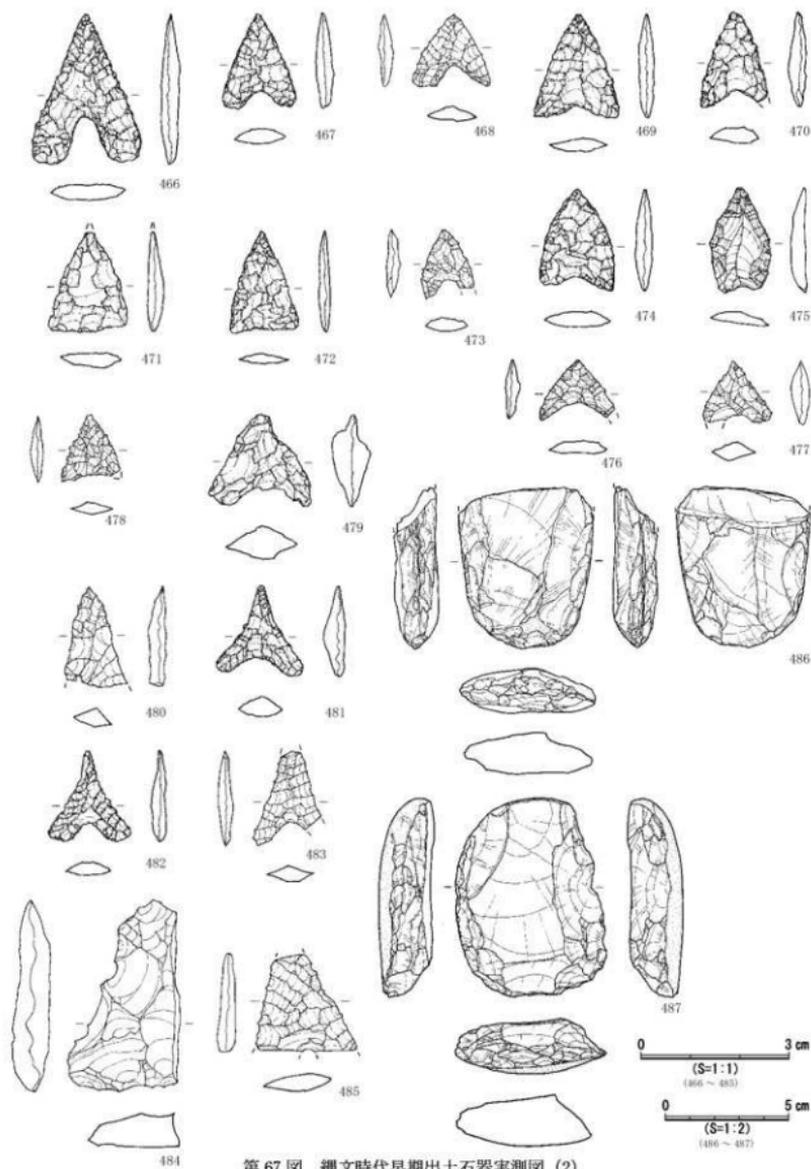
無文土器は33点の図化を行った。口縁部から胴部にかけての部位が多く、底部は3点に留まる。517、519、520が底部で、その形態は尖底及び平底である。土器の胎土をみると、赤褐色系の胎土をもつもの(488、489、491、492、494、496～509、511、513～519)と灰色のような黄褐色系の胎土をもつもの(490、493、495、510、512)に分かれる。圧倒的に多いのは赤褐色系の胎土をもつものである。

貝殻条痕文土器 (第71図)

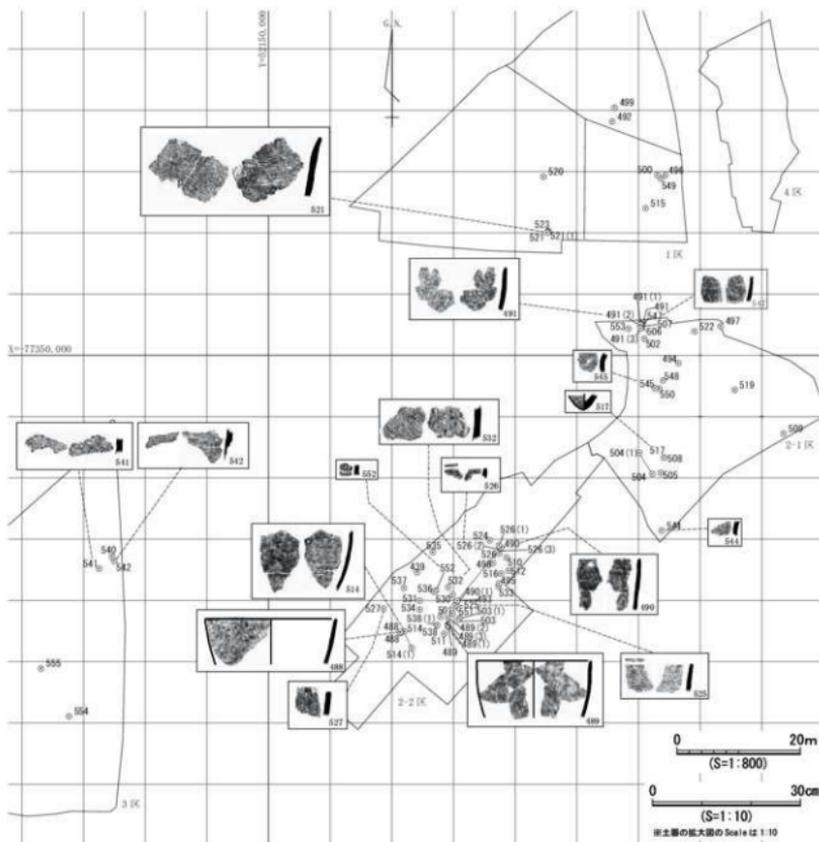
本遺跡での貝殻条痕文土器の出土量は少なく、6点を図化した。口唇部には刻目が入る(521～523)。口縁部形態は図化した3点とも異なっており、521は上部をナデによる調整が施されている。また、貝殻条痕は右肩下がりや左肩下がりの斜方向に施されたものがほとんどであるが、横方向(522)や縦方向に施されたもの(525)ある。

押型文土器 (第72図)

押型文土器はほとんどが山形押型文であるが、3点だけ菱形押型文(543～545)が出土している。527は口縁部で、押型文を施文する前に条痕文による器面調整が施されているよう



第 67 図 縄文時代早期出土石器実測図 (2)



第 68 図 縄文時代早期出土土器平面分布図

である。山形の頂点についてであるが、ほとんどの土器は低い頂点であるが、541 と 542 だけ頂点が高い。また、この 2 点は 3 区からの出土であり、色調や胎土の状態がほぼ同じであり、同一個体であった可能性も考えられる。

下剥傘式土器 (第 73 図 547 ~ 550)

下剥傘式土器と考えられる土器の胴部を 4 点図化した。4 点とも破片資料であるが、547 の残存部上部には横位の連続する刺突文が施文され、その下に斜行する刺突文が施されている。

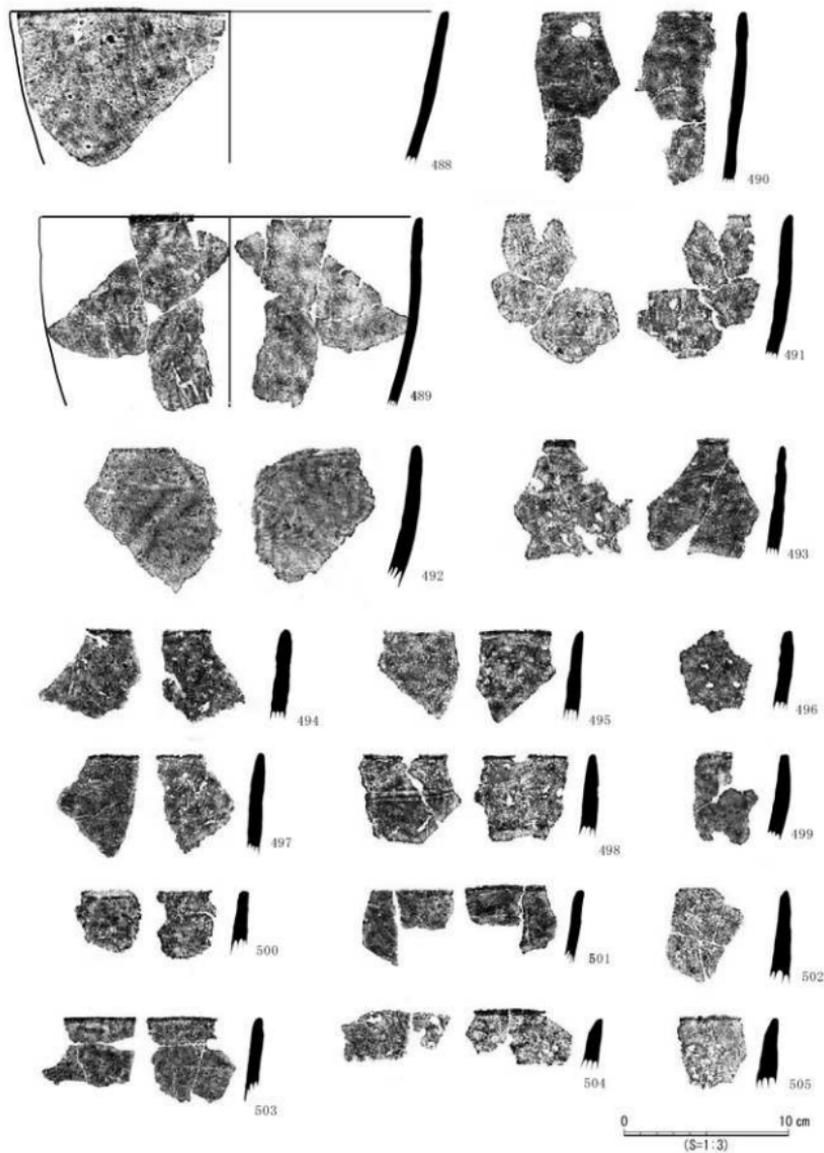
548 は風化により判断しにくいですが、横位の連続刺突文が施文されている。

塞ノ神式土器 (第 73 図 546)

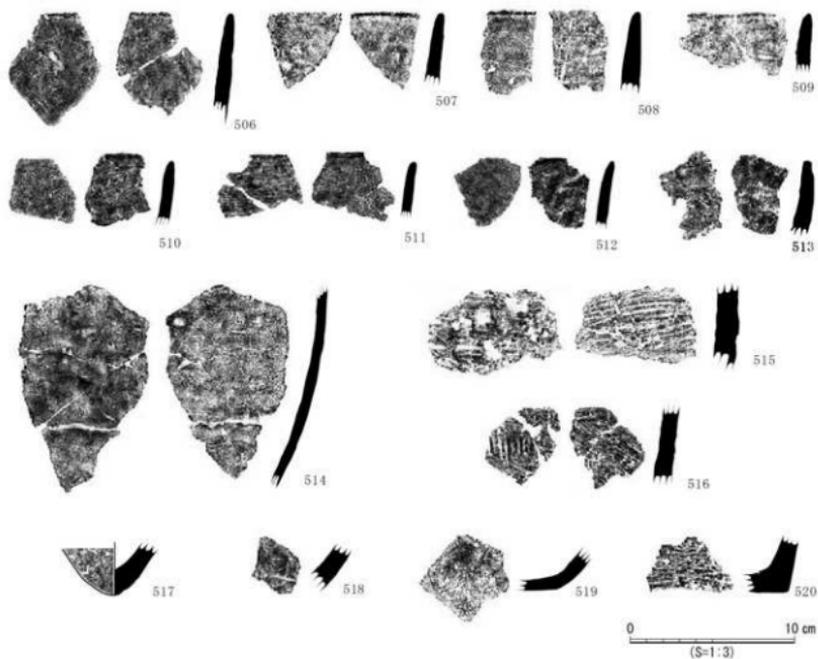
546 は胴部片で、三条の沈線が横位に施され、その上から縦位に一条の沈線が施されている。下部は網目状燃糸文が施されている。

その他の土器 (第 73 図 551 ~ 553)

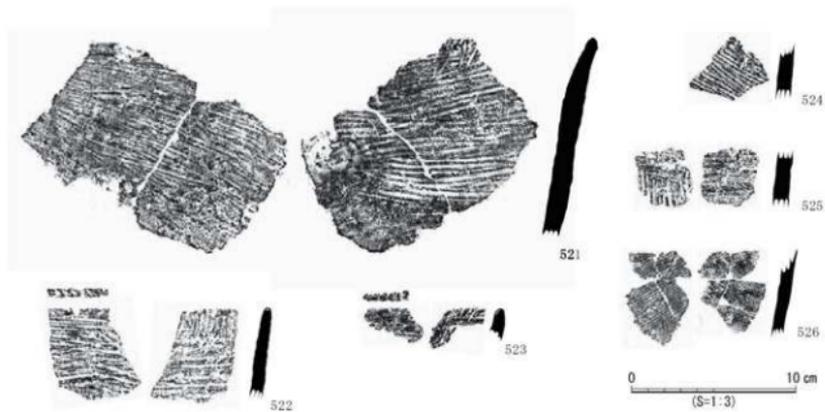
551 は口縁部が外湾する。器面が風化しており、調整や施文についての情報は不明である。552 は連続する刺突文をもつ。553 は平底の底



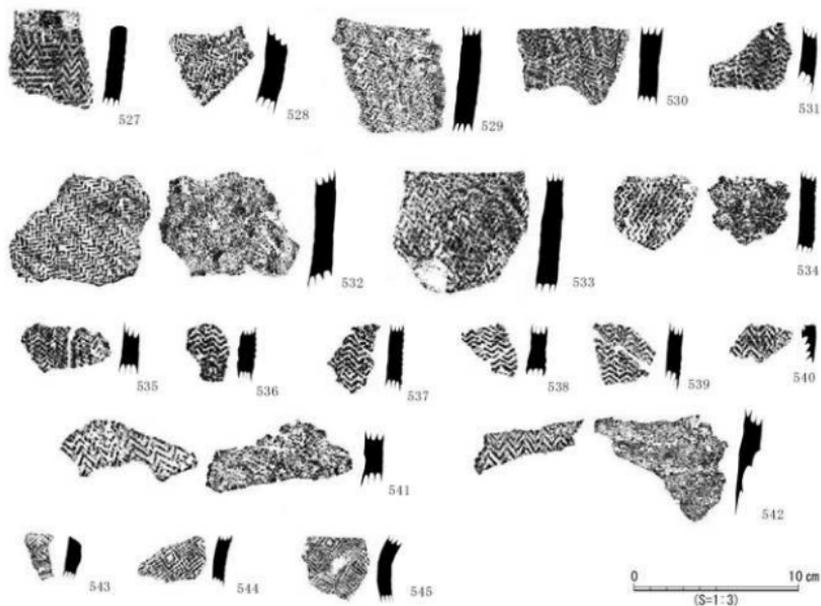
第69図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図(1)〔無文土器〕



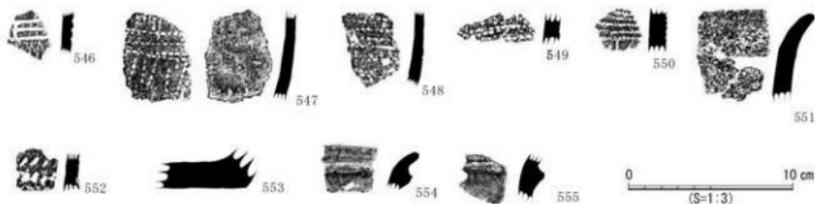
第70図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図(2)〔無文土器〕



第71図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図(3)〔条痕文土器〕



第72図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図(4)〔押型土器〕



第73図 縄文時代早期遺物包含層及び晩期出土土器実測図〔その他の縄文土器〕

部である。

(3) その他の時期の遺構と遺物

本遺跡における縄文時代の遺構・遺物は早期がほとんどであるが、3区で縄文時代晩期の土器が2点だけ出土している(第75図554、555)。

2点とも晩期の刻目のない突帯土器片で、554は口縁部が残存する。なお、時期不明のSCIについては先述した通りである。

第4節 接合資料と剥片について

(1) 接合資料について

ここでは2-1区から出土した接合資料についてまとめて報告する。その理由は接合資料が層位的に上下している場合があることに加え、剥片剥離の技術的な側面を検討しえなかったため、時期別に掲載することを避けたためである。

珪質頁岩・頁岩 (第74図 接合資料6~8)

接合資料6は剥片3点(556、557、558)からなる。556+558は557と剥離した後、それ自体を石核とし、節理面を下部にして剥片剥離を行っており、556と558は剥片剥離によって剥離している。556は558のような剥片であったと推測され、剥片主軸から見た場合の側面を打面として、556のような剥片素材を剥離していることが窺える。

接合資料7は頁岩製で石核1点(561)と剥片2点(559、560)からなる。石核上面の剥離面は、頁岩特有の層状の目に直交するように剥離しているが、559と560は、打面やリングの方向から目に平行するような剥離に変化する。

接合資料8は剥片2点からなる。562のネガ面と563のポジ面が接合する。両剥片の打面は一致し、563のネガ面をみても、同一方向の剥離であることから同じような剥片剥離が繰り返されていると予想される。

流紋岩 (第79図 接合資料9~12、568、569、577)

接合資料9は剥片1点(566)と石核1点(564+565+567)からなる。石核の自然面を打面として566を剥離している。石核の作業面を観察すると、566を剥離し、その左側で剥片剥離を行ったあとに打面を180度転移させている。

568は剥片2点からなる。2点の剥片とも不整形の剥片である。石材は白色風化系流紋岩であるが、剥離面には節理に起因すると思われる筋状の痕跡が多数みられる。

接合資料10は剥片3点(570+571+572)からなる。接合資料の底面を観察すると、接合

資料の打面を90度奥に回転させた面は剥片剥離を行う前段階の素材剥片〔剥片①〕を石核として用いる段階より以前に剥離されたネガティブ面である。〔剥片①〕を石核素材として用いるときにポジティブ面を打面として、連続的に剥片剥離〔570→572→571の順で〕を行っている。剥ぎ取られた剥片は横長の剥片である。

569は石核1点と衝撃剥離による剥片1点からなる。

接合資料11は剥片2点(573、574)からなるが、接合する2点は折れ接合による。剥片剥離の衝撃で縦裂け状に剥離したと予想される。

接合資料12は2点の剥片(575+576)からなる。576のネガ面と575のポジ面が接合する。

577は2点の剥片からなる。何かの衝撃による剥離である。

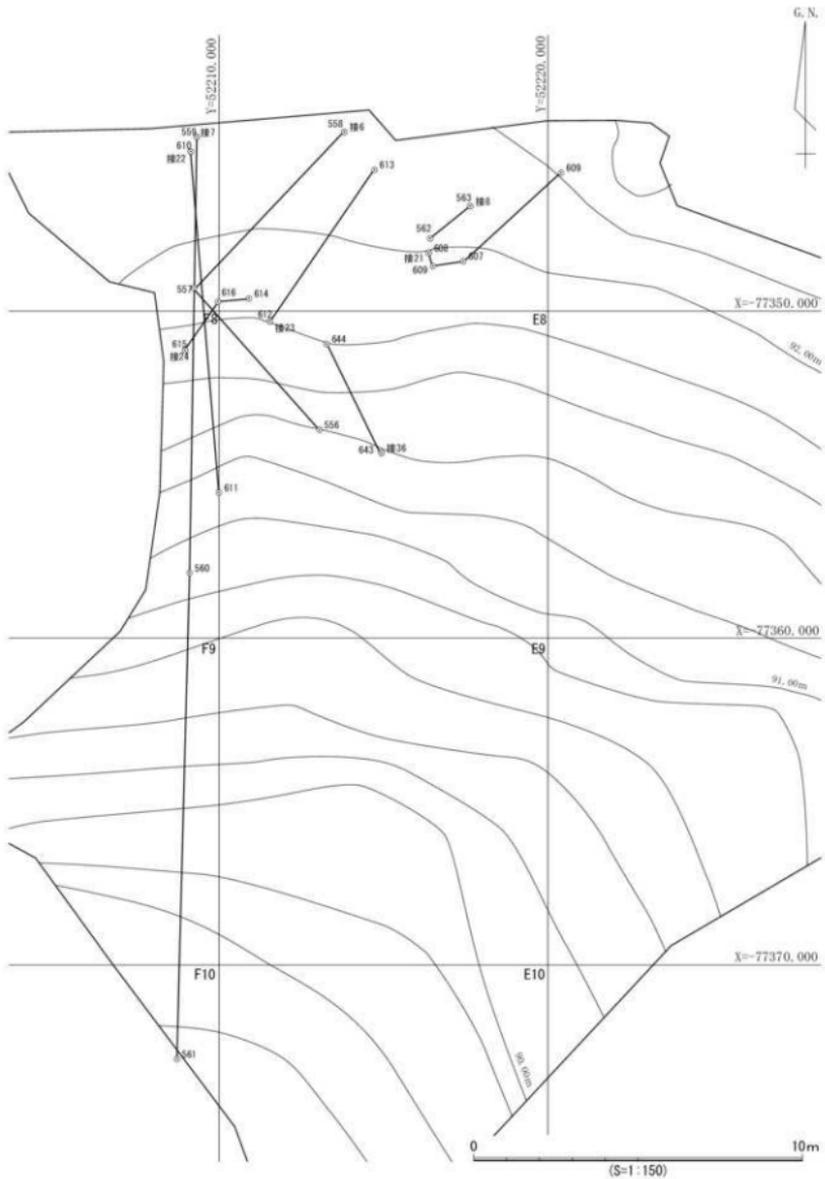
赤色チャート (第80図 接合資料13~16)

接合資料13は剥片4点(578+579+580+581)からなる。579と581は一個体の剥片であるが、衝撃剥離によるものである。また、578と580も同一個体であったが、剥片剥離の際に縦裂け状態になったと考えられる。

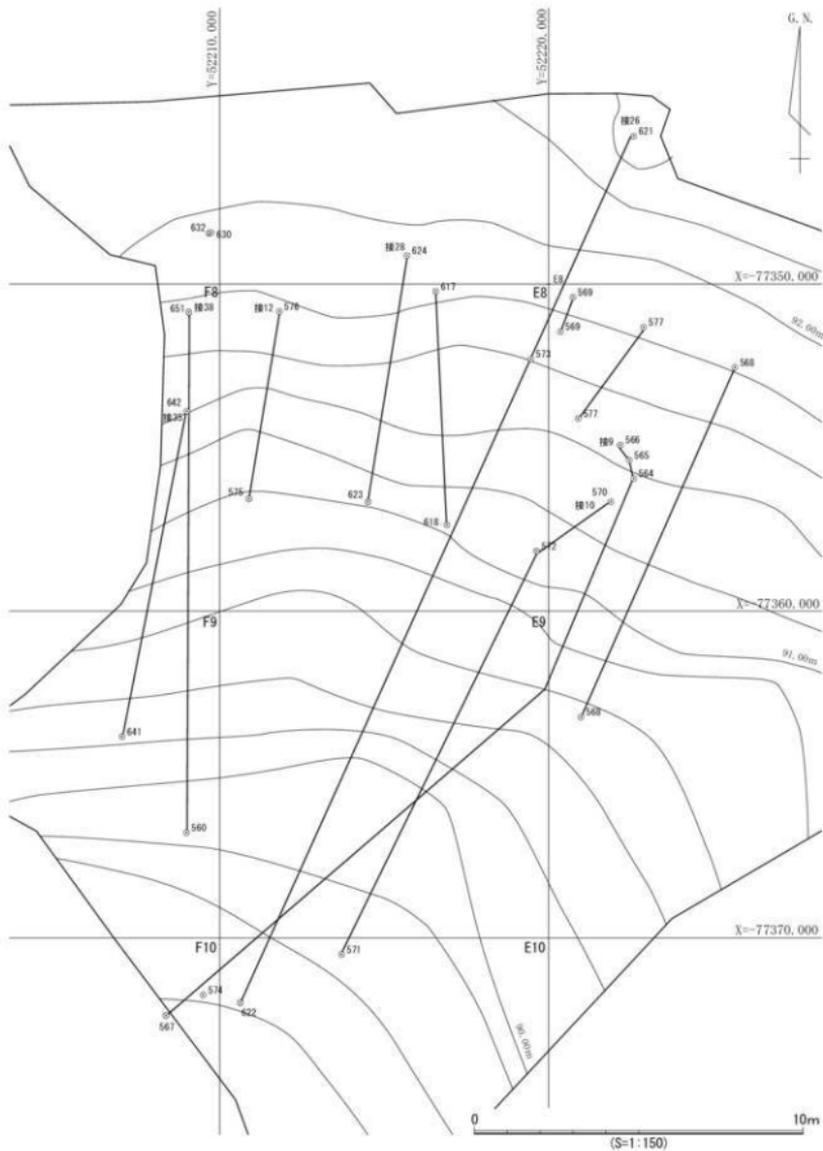
接合資料14は剥片4点(582+583+584+585)からなる。剥離の順番は582→585→584→583の順である。582と585は打面が残存するが、584と583は途中で折れている。

接合資料15は剥片3点(586+587+588)からなる。586は2つの剥片からなるが折れ接合であったため1つとした。586の下縁部を観察すると、剥離面の末端形状であることがわかる。したがって、剥離された剥片はやや横長の剥片である。586は587のネガ面と接合する。588は586の剥片剥離過程で意図せぬ剥離によって剥がれたと予想される。

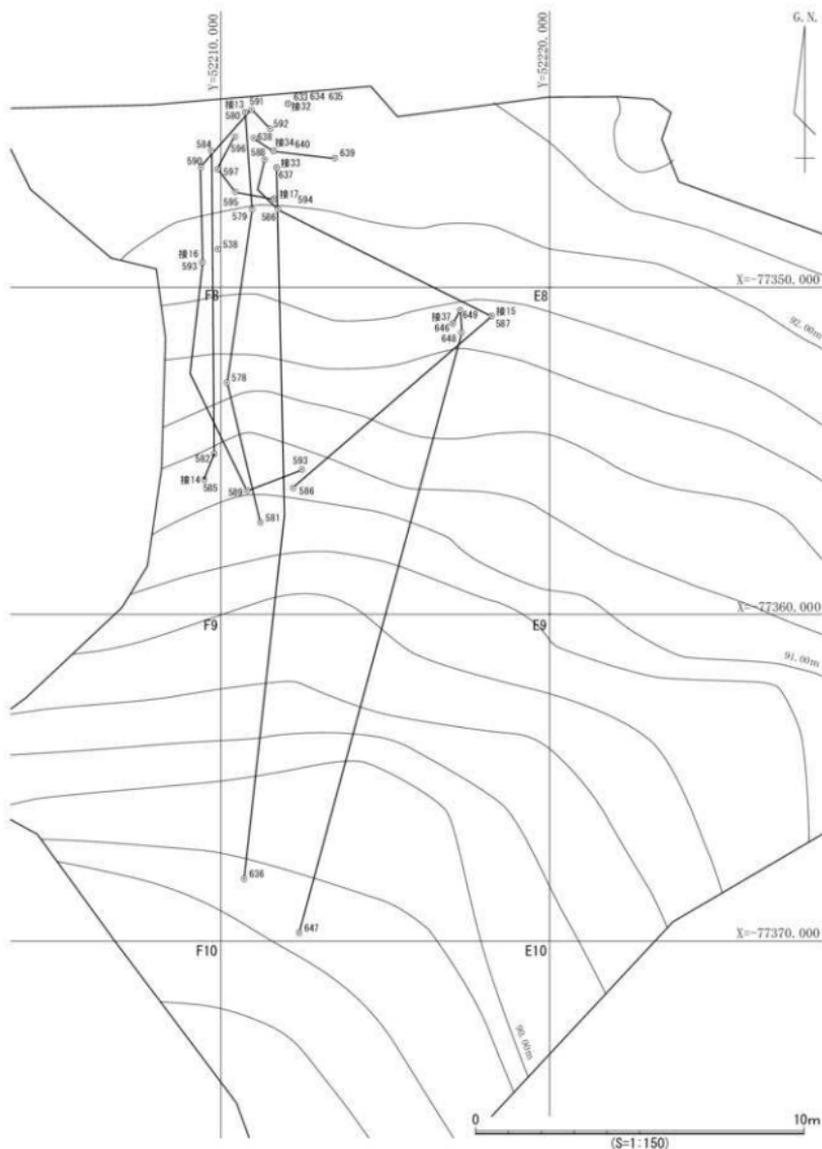
接合資料16は剥片4点(589+590+591+593)と石核1点(592)からなる。石核の打面には節理面をそのまま用いている。剥離の順番は593→589→591→590で、剥離された剥片は不整形剥片である。592の石核については底部を打面とした剥片剥離が行われた痕跡がみ



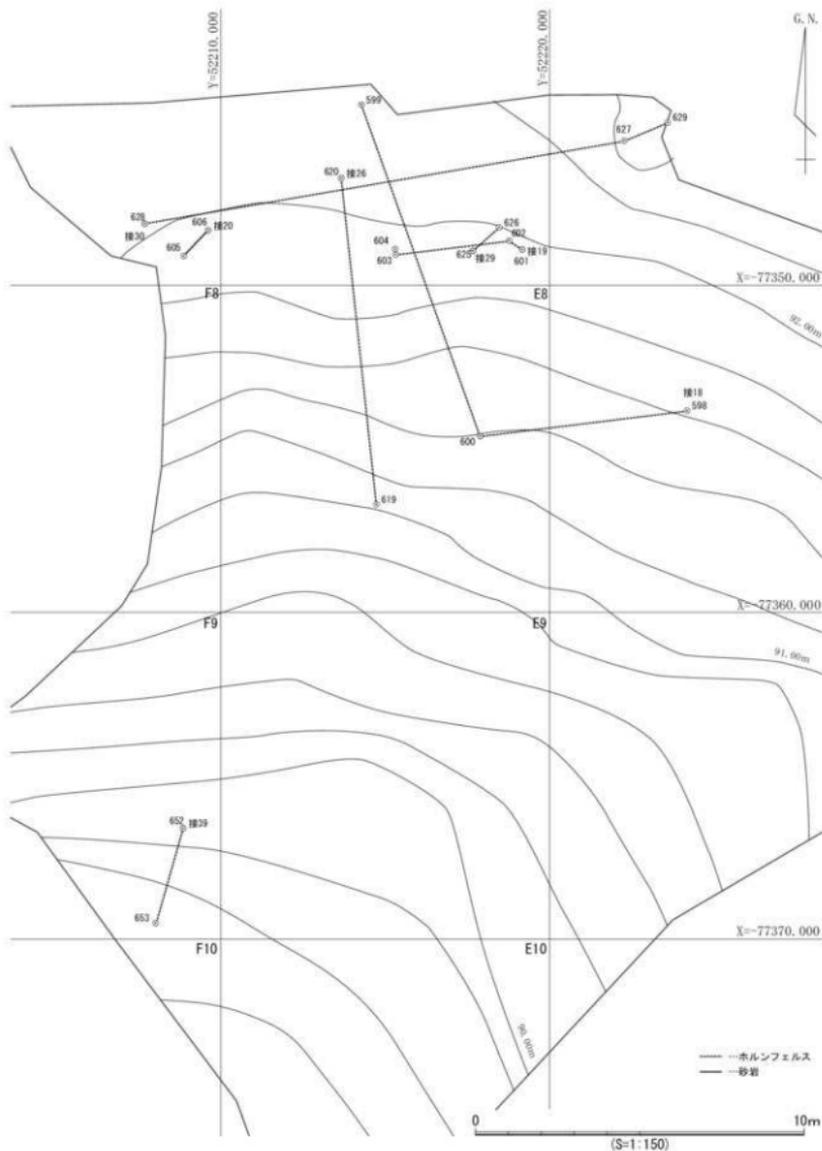
第74図 石材別接合関係平面分布図(1) [珪質頁岩・頁岩]



第 75 图 石材別接合關係平面分布图 (2) [流紋岩]



第76図 石材別接合関係平面分布図(3) [チャート]



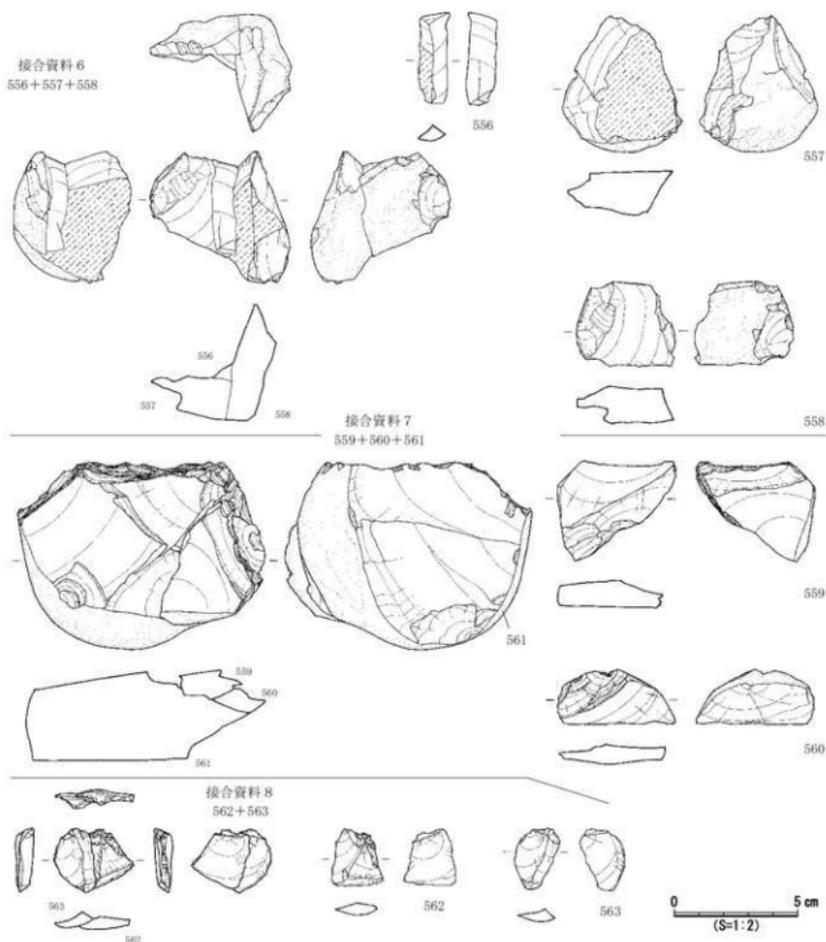
第 77 図 石材別接合関係平面分布図 (4) [砂岩・ホルンフェルス]

られる。底部側を打面として剥片剥離を行い、その後、180度の打面転移をしている。

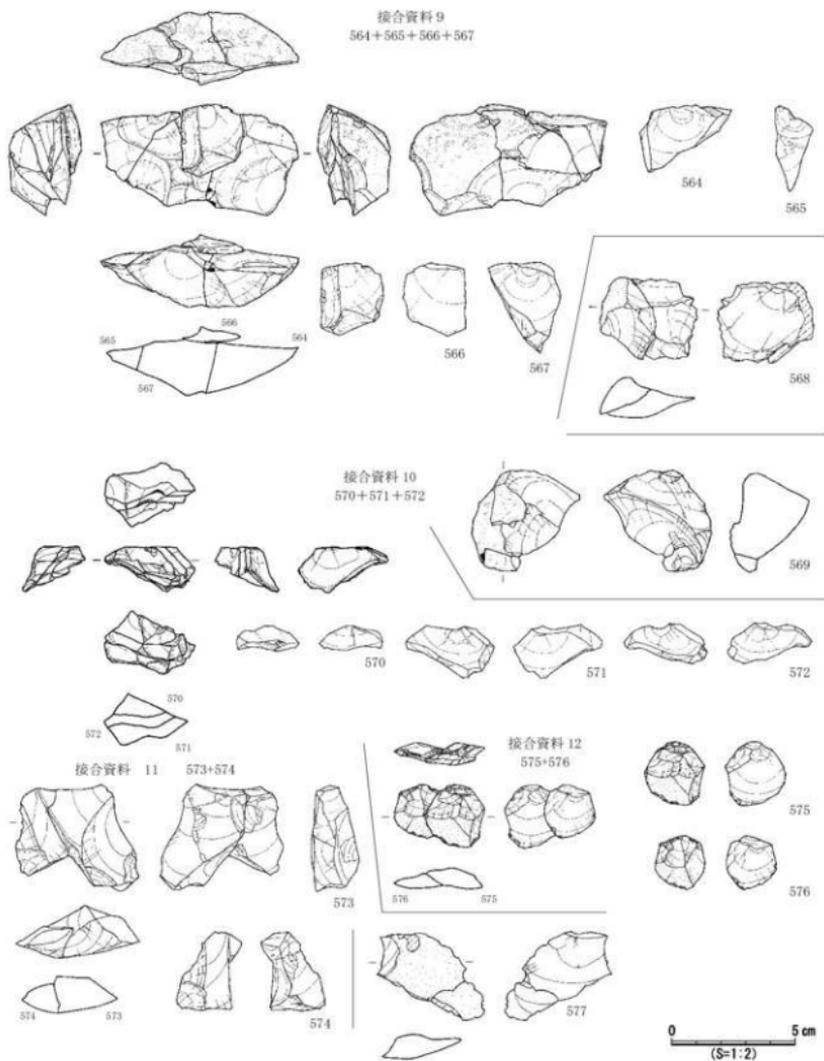
チャート (第80図 接合資料17)

接合資料17は剥片4点 (594 + 595 + 596 + 597) からなる。[594 + 595 + 597] は596か

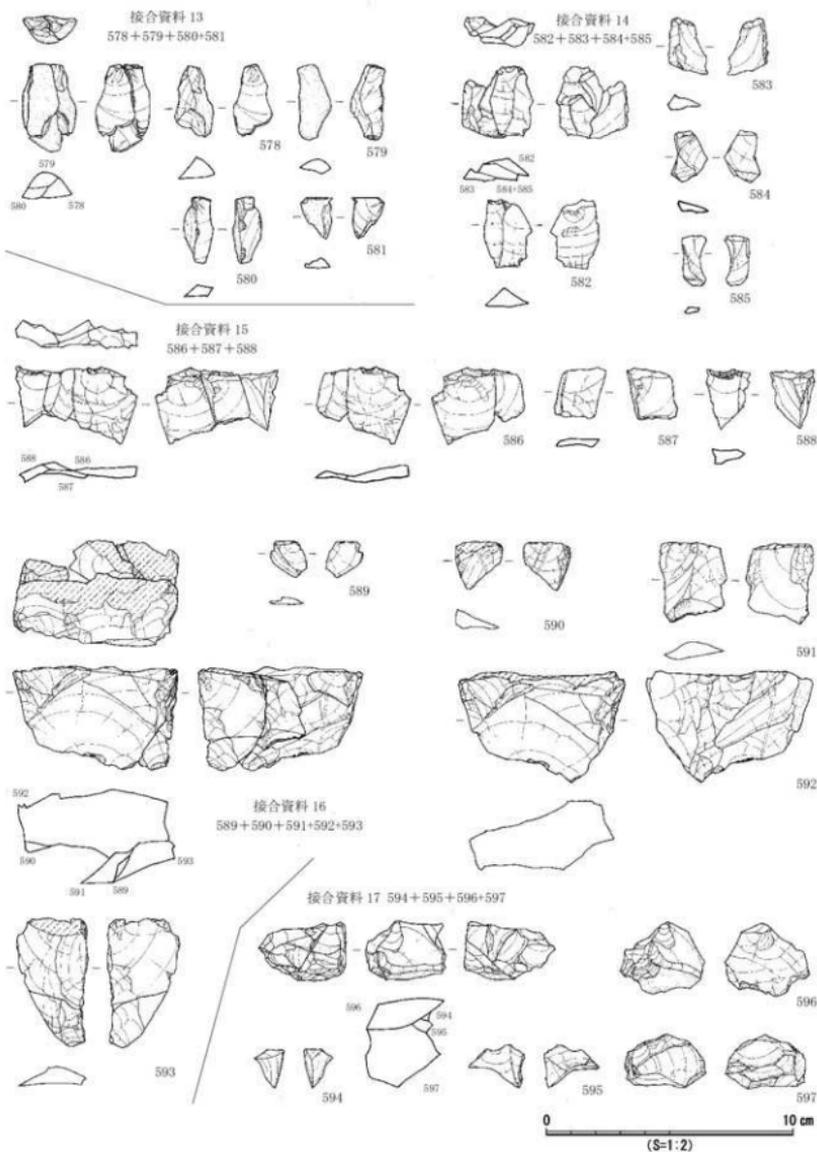
ら剥離されている。594と595は折れ接合で、595と597についても剥片剥離によるものではないと推定している。



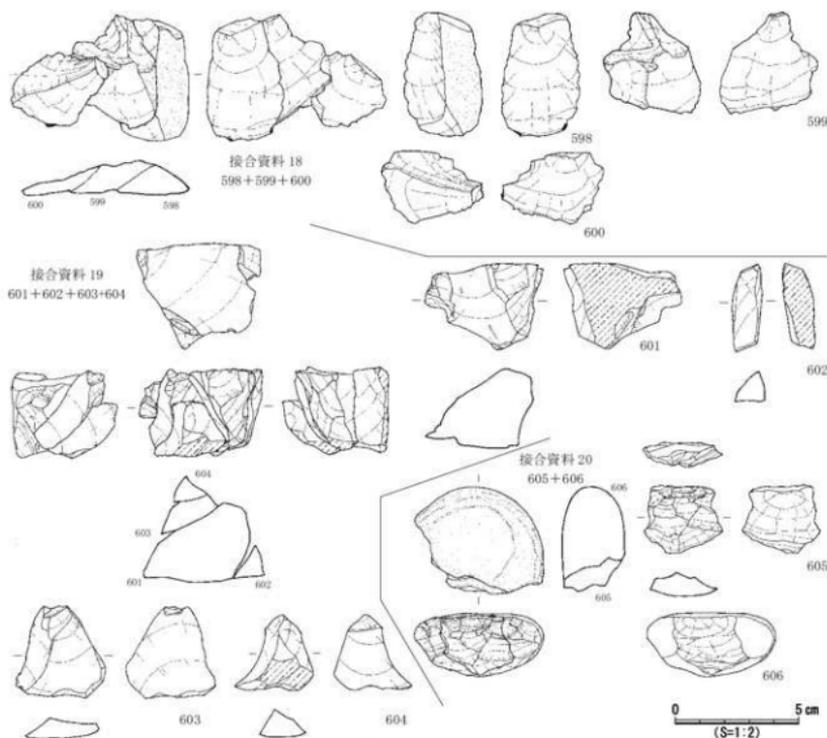
第78図 接合資料実測図 (1)



第 79 図 接合資料実測図 (2)



第80図 接合資料実測図(3)



第 81 図 接合資料実測図 (4)

砂岩 (第 81 図 接合資料 18 ~ 20)

接合資料 18 は剥片 3 点 (598 + 599 + 600) からなる。600 → 599 → 598 の順番で剥離されている。3 点ともに剥片剥離時の打面が残存している。打面は 600 だけ異なり、600 を剥離した後、打面を約 45 度回転させて、打面転移を行い 598 と 599 を剥離している。ただ、600 の背面ネガ面のリングの向きが 598 や 599 と同じ方向である可能性が予想される。

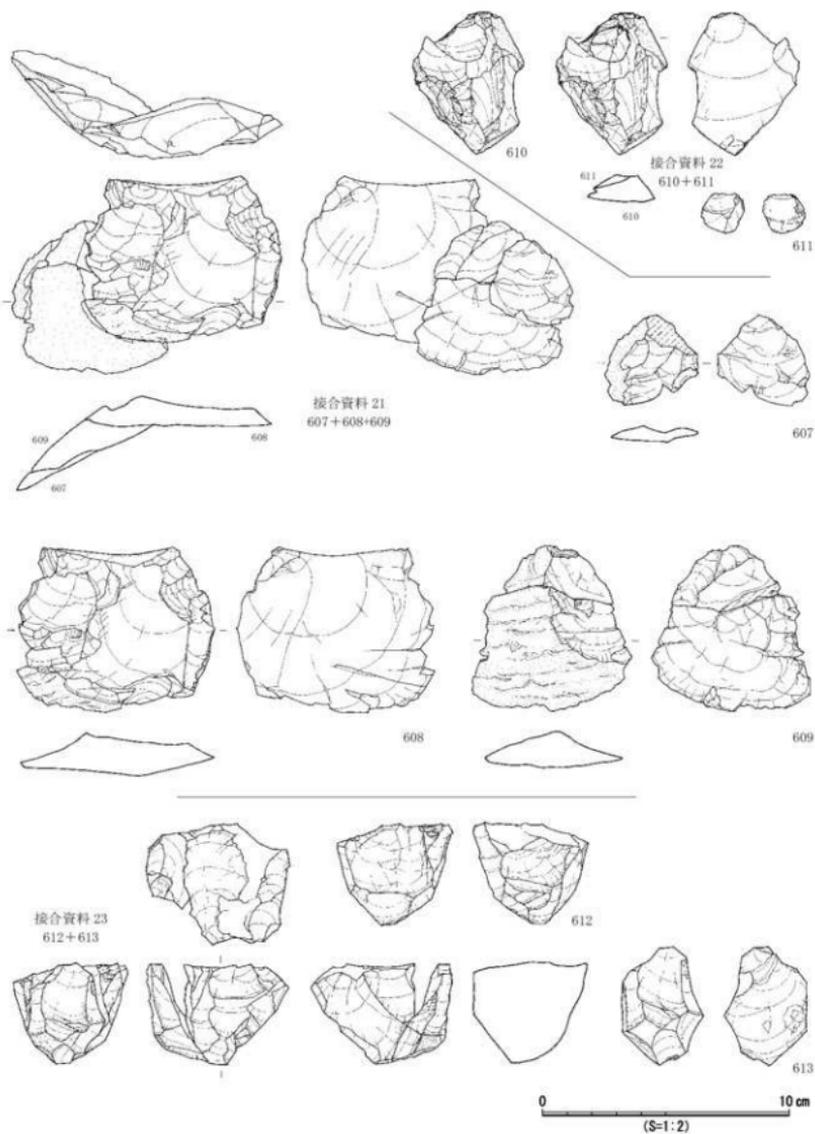
接合資料 19 は剥片 3 点 (602 + 603 + 604) と石核 1 点 (601) からなる。601 の石核は 603 と 604 を剥離した後、上面を打面として剥片剥

離を行っている。その過程で 602 は剥離されている。

接合資料 20 は剥片 1 点 (605) と石核 1 点 (606) からなる。楕円形の礫を石核として用い、自然面が打面である。石核に残された剥片剥離の痕跡と 605 から推測すると、やや幅広の剥片を連続的に剥離していたことがわかる。

珪質頁岩 (第 82 図 接合資料 21 ~ 23)

接合資料 21 は剥片 3 点 (607 + 608 + 609) からなる。608 → 607・609 の順番で剥離されている。608 は幅広剥片である。主要剥離面の打面は残存する。打面は主要剥離面の左上にあ



第 82 図 接合資料実測図 (5)

る。打面の端に近い部分に打撃が加えられることで、608の剥片剥離は行われている。607と609については打面もバルブもないことから、剥片剥離の過程で直接打撃を加えられ剥離したものとは考えにくい。また、608の主要剥離面のリングの向きとは異なるため、608を剥ぎ取った後の段階で剥離したと予想される。

接合資料 22 は剥片 2 点 (610 + 611) からなる。610 は不整形剥片である。611 には打面やバルブが無いことから、610 に調整剥離を施す際に剥がれ落ちた剥片と推測される。

接合資料 23 は剥片 1 点 (613) と石核 1 点 (612) からなる。613 は打面が残存し、612 の打面と一致する。いずれもやや幅広の不整形剥片であったと推定される。

珪質頁岩 (第 83 図 接合資料 24)

接合資料 24 は剥片 3 点 (614 + 615 + 616) からなる。615 と 616 が接合した状態の背面と 614 が接合する。615 の主要剥離面と打面は残存している。それらを観察すると、615 は 616 が剥離した後、打面を反時計回りに約 90 度回転させて剥離されていることがわかる。

流紋岩 (第 83 図 接合資料 25)

接合資料 25 は剥片 2 点 (617 + 618) からなるが、折れ接合である。剥片の形状は不整形で、主要剥離面の打面とバルブが残存する。ナイフ形石器もしくは台形石器の素材剥片の可能性も考えられる。

ホルンフェルス (第 83 図 接合資料 26)

接合資料 26 は二次加工剥片 1 点 (620)、剥片 1 点 (619) からなる。619 は 620 のブランディング・チップの可能性が考えられる。

流紋岩 (第 83 図 接合資料 27、28)

接合資料 27 は剥片 1 点 (621) と、石核 1 点 (622) からなる。621 は不整形剥片で、主要剥離面の打面とバルブが残存する。622 は 621 を剥離したあと打面転移を少なくとも 2 回は行っているため、621 の打面と対応する部分は残存していない。

接合資料 28 は剥片 1 点 (623) と石核 1 点

(624) からなる。623 は幅広の不整形剥片で、主要剥離面とその打面が残存する。624 は 623 を剥離した後、打面を反時計回りに約 90 度転移させ、その剥離面を打面として剥片剥離を数回行っている。

ホルンフェルス (第 95 図 接合資料 29)

接合資料 29 は剥片 2 点 (625 + 626) からなる、折れ接合の資料である。625 は 626 と剥離した後に背面右側縁に二次加工が施される。

接合資料 30 は剥片 2 点 (627 + 629) と石核 1 点 (628) からなる。628 から 627 を剥離した後、打面転移を行い、629 を剥離している。剥離された 2 点の剥片は不整形である。

珪質頁岩 (第 86 図 接合資料 31)

接合資料 31 は剥片 2 点 (631 + 632) と石核 1 点 (630) からなる。剥片剥離の順序は 631 → 632 である。剥片は不整形剥片である。

チャート (第 86 図 接合資料 32)

接合資料 32 は剥片 2 点 (633 + 635) と石核 1 点 (634) からなる。633 と [634 + 635] は衝撃で裂けたような剥離である。635 は 634 から剥離された剥片で、不整形剥片である。

接合資料 33 は剥片 2 点 (636 + 637) からなる。剥片剥離の順番は 636 → 637 の順である。

赤色チャート (第 86 図 接合資料 34)

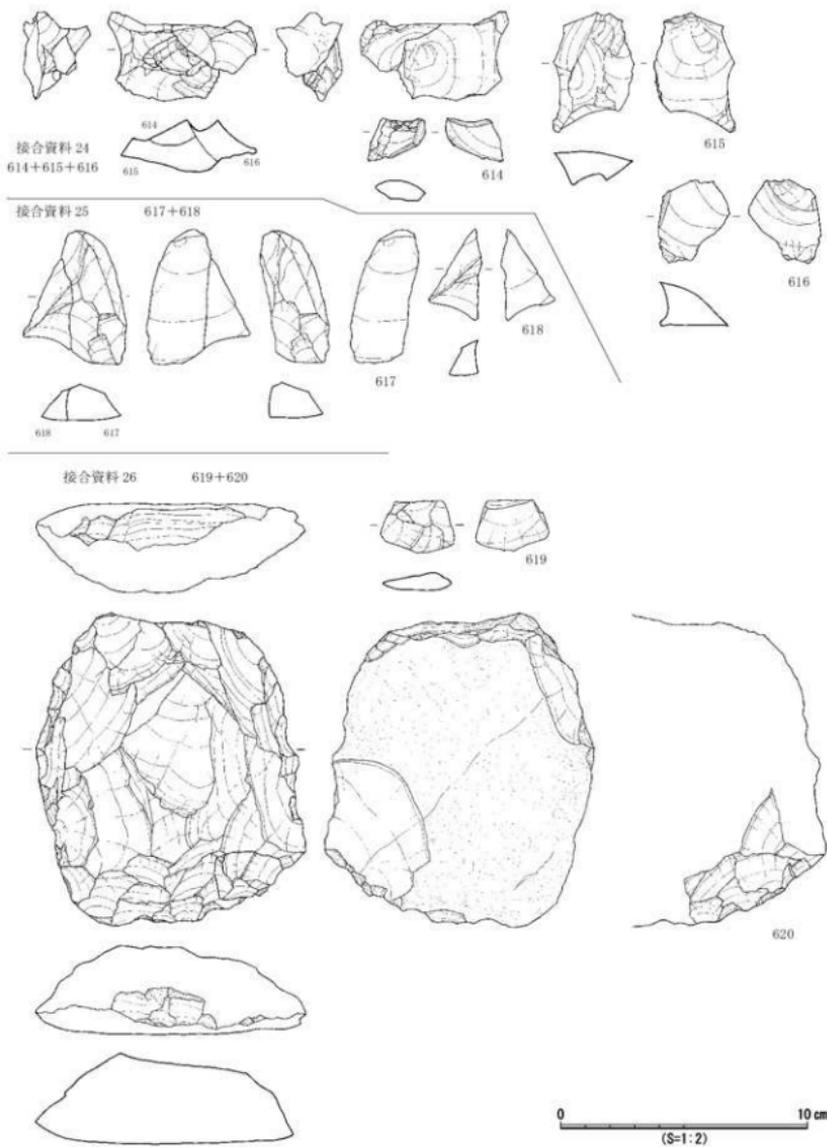
接合資料 34 は剥片 2 点 (638 + 639) と石核 1 点 (640) からなる。

流紋岩 (第 87 図 接合資料 35)

接合資料 35 は剥片 1 点 (641) と石核 1 点 (642) からなる。642 は打面を時計回りに約 90 度転移させて、641 の打面としている。641 は 1 度の打撃で剥離しなかったようで、バルブが 2 つある。

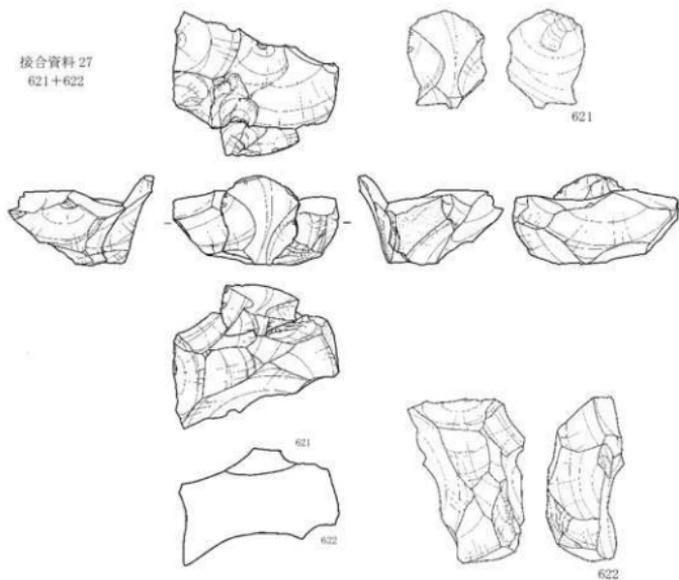
砂岩 (第 87 図 接合資料 36)

接合資料 36 は磨製石斧で、剥片 2 点 (644 + 645) と石核 1 点 (643) からなる接合資料でもある。磨製石斧としては、欠損品で、刃部付近が残存する。残存長は約 5.00cm で、最大幅 4.30cm、最大厚 1.37cm である。素材剥片の末端部を刃部とする。調整剥離の後に、研磨が

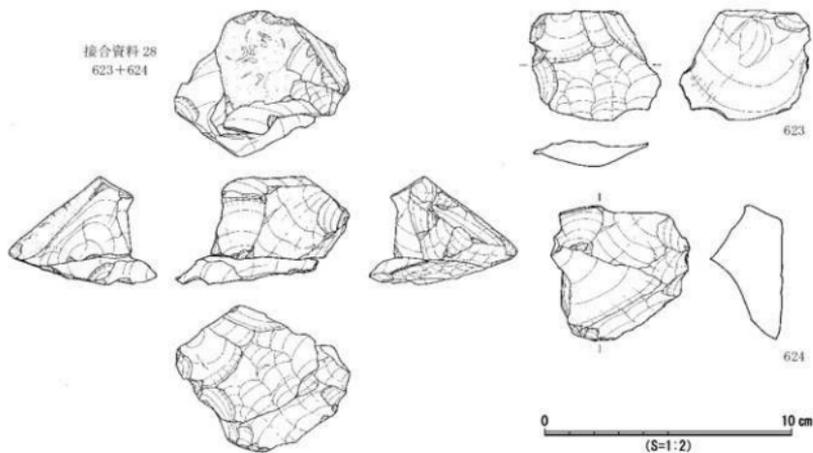


第 83 図 接合資料実測図 (6)

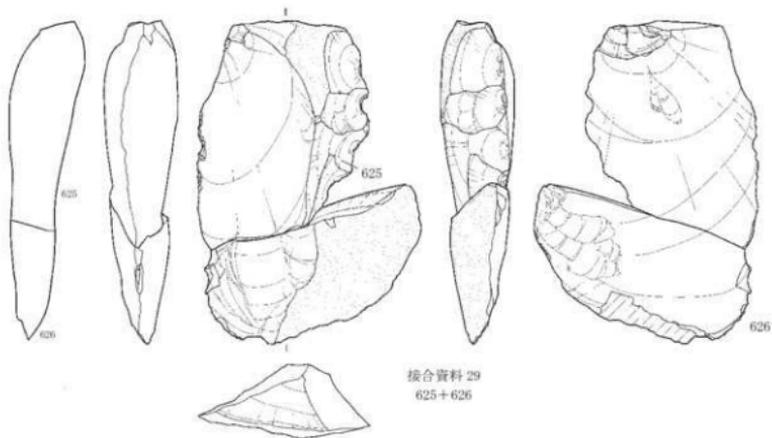
接合資料 27
621+622



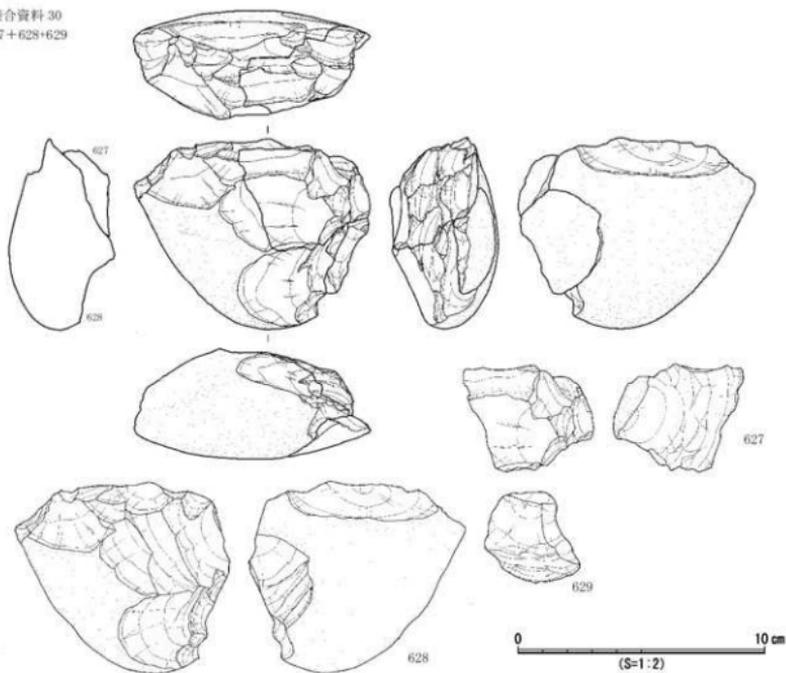
接合資料 28
623+624



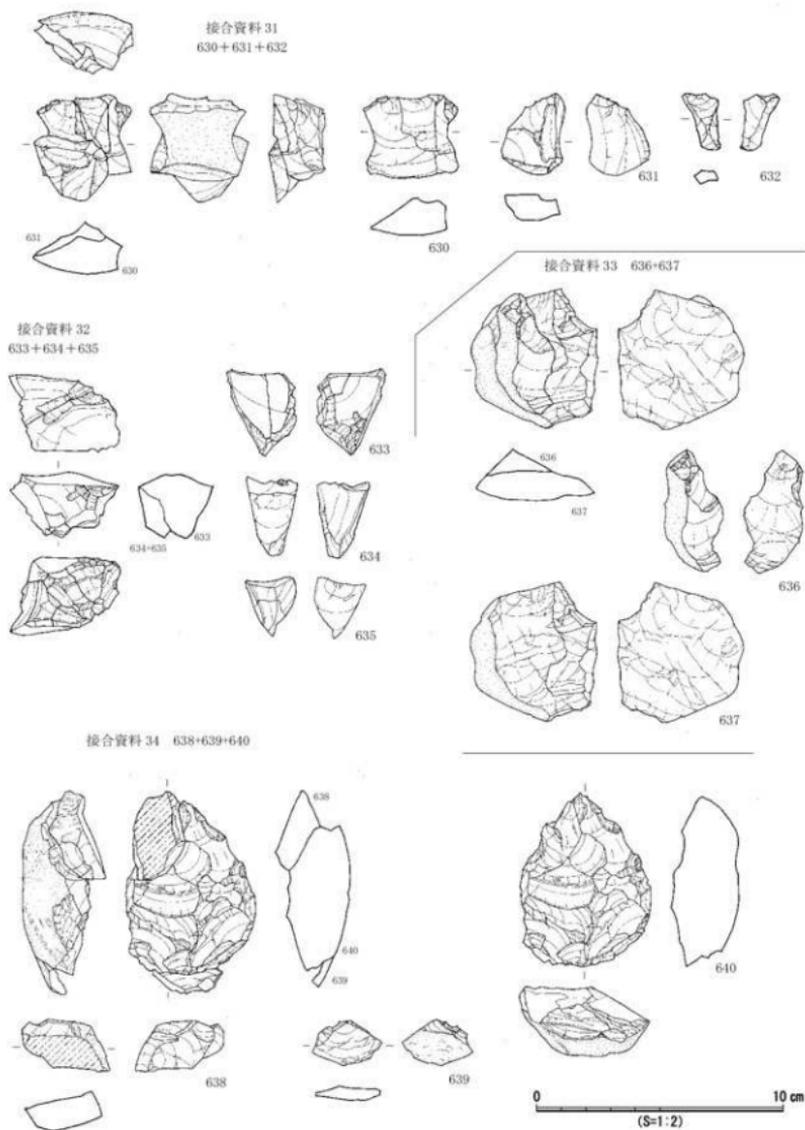
第 84 图 接合資料実測図 (7)



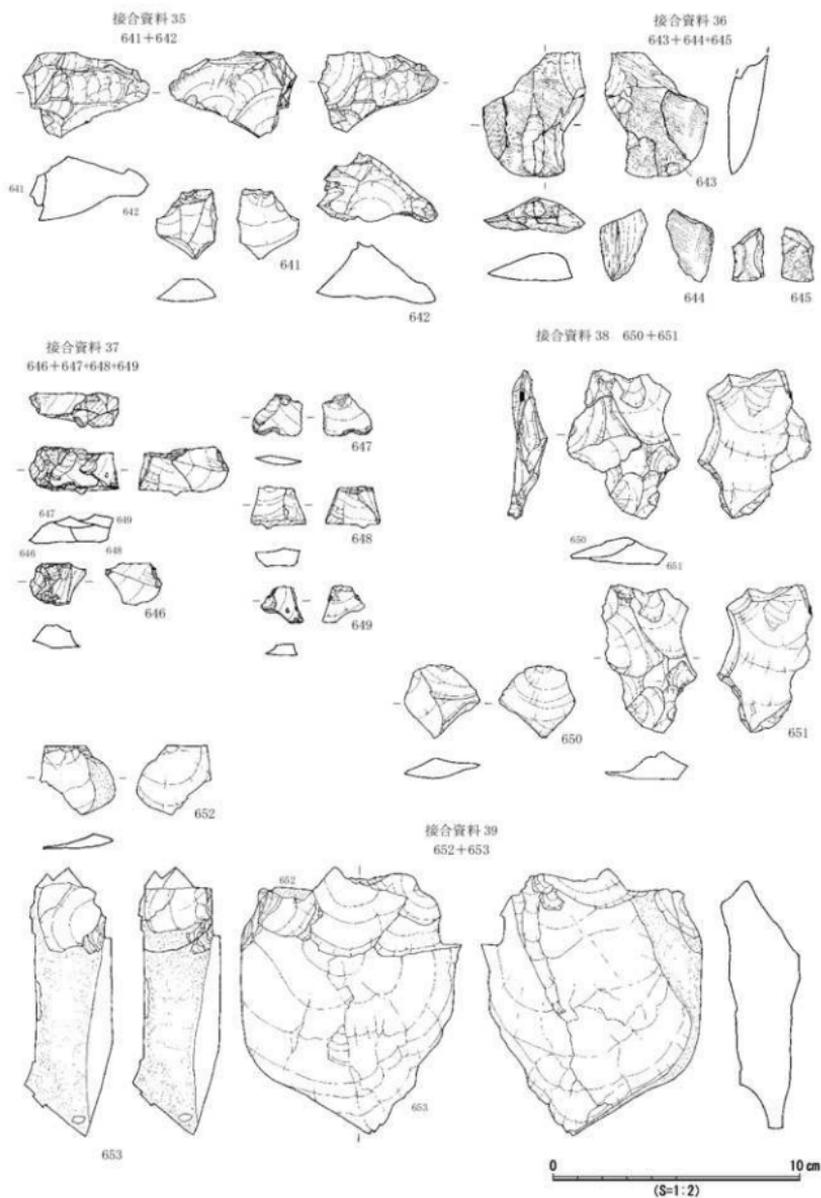
接合資料 30
627+628+629



第 85 図 接合資料実測図 (8)



第 86 図 接合資料実測図 (9)



第 87 図 接合資料実測図 (10)

施されている。また、644の剥離面は磨製石斧を石核として剥離された可能性がある。明瞭なバルブは認められないが、リングは打面に向かって収束するように見える。宮崎市清武町所在の白ヶ野第2・第3遺跡（吉本2002、p.160・p.166）では、石斧を石核として剥片剥離を行っており、接合資料36も同様の可能性が考えられるが、石斧自体に亀裂が走っており、645については亀裂による剥離の可能性もある。

チャート（第87図 接合資料37）

接合資料37は剥片4点（646 + 647 + 648 + 649）からなる。剥片剥離は649 → 647 → [646 + 648]の順で行われている。

流紋岩（第87図 接合資料38）

接合資料38は剥片2点（650 + 651）からなる。650・651ともに打面が残存する。これらの元となる石核は650を剥離した後、打面を反時計回りに約90度回転させて、651を剥離している。ただし、接合した状態の背面部分は、まず651の打面と同じ面から剥片剥離を行い、時計回りに約90度打面転移をして650を剥離し、反時計回りに約90度打面転移を行ったことが推測される。

珪質頁岩（第87図 接合資料39）

接合資料39は剥片1点（652）と石核1点（653）からなる。

(2) 剥片の分布とその評価

剥片は石器の製作技術を考える上で欠かせない資料であり、剥片資料の詳細な観察や計測を行うべきであるが、今回は剥片の平面分布と垂直分布から石材別の傾向を評価するに留めた。

珪質頁岩製剥片の平面・垂直分布（第88図）

珪質頁岩は、垂直分布をみると、V b層に分布の中心の一つがあり、V a層上部にも分布の中心域が存在し、旧石器時代の遺物を包含する層全体から出土する傾向が窺える。本遺跡で使用される石材は珪質頁岩が主流であり、どの層からも一定量出土することが分かった。

流紋岩製剥片の平面・垂直分布（第89図）

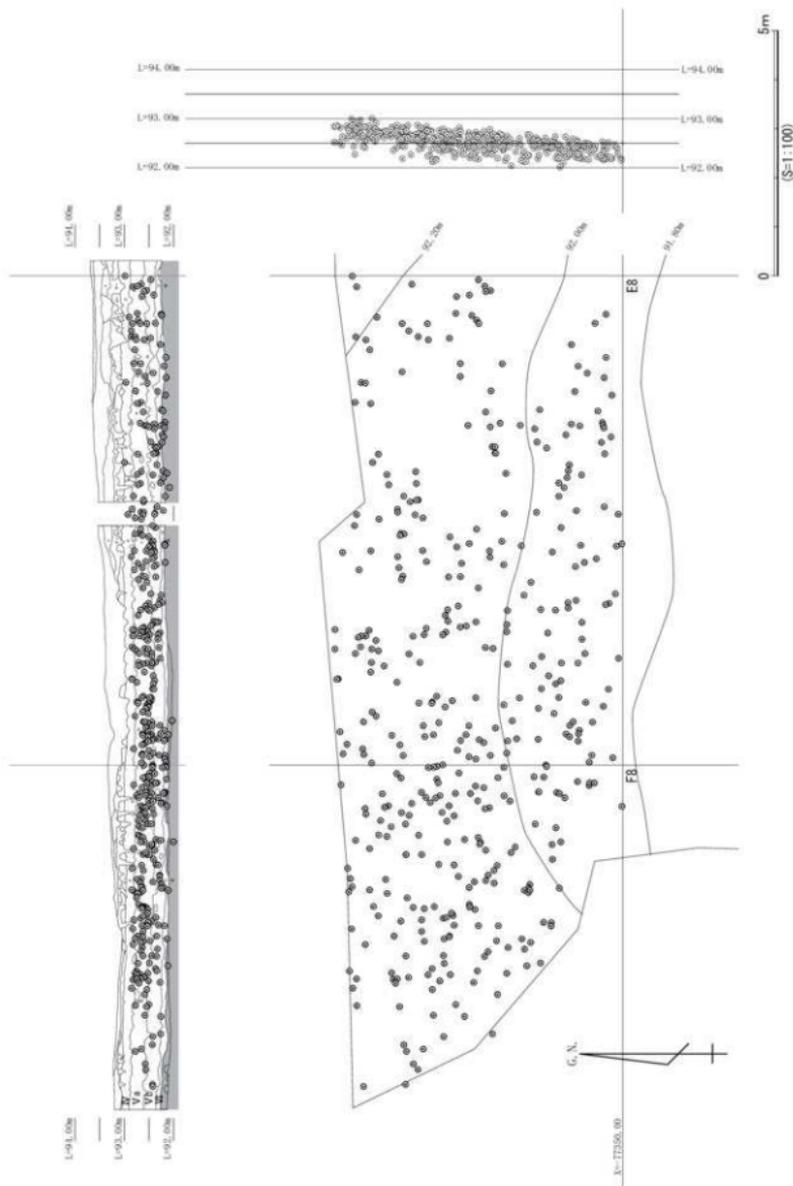
流紋岩製の資料についても全層位からの一定量出土は認められるが、V a層からの出土が多い。注目されるのは、北牛牧型ナイフ形石器の素材として用いられる白色風化系流紋岩がV a層を中心に分布していることである。特定型式の石器と特定の石材の剥片が同一層位に集中して分布するという事はV a層の時期を考える上でも重要であろう。

チャート製剥片の平面・垂直分布（第90図）

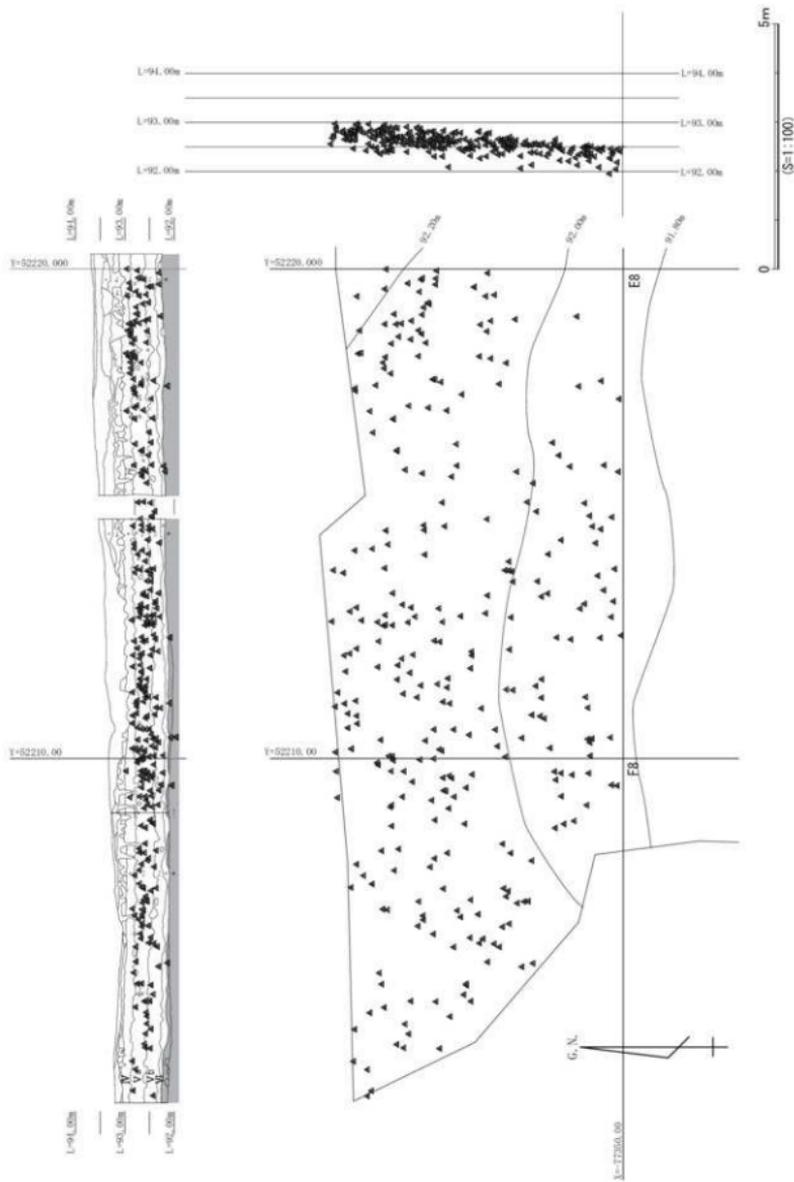
チャートについては無光沢チャート・赤色チャートとその他のチャートでは出土層位に明らかな違いが見出せた。その他のチャート製の石礫が多数出土している点も分布域が固まることと合致している。

黒曜石製剥片の平面・垂直分布（第91図）

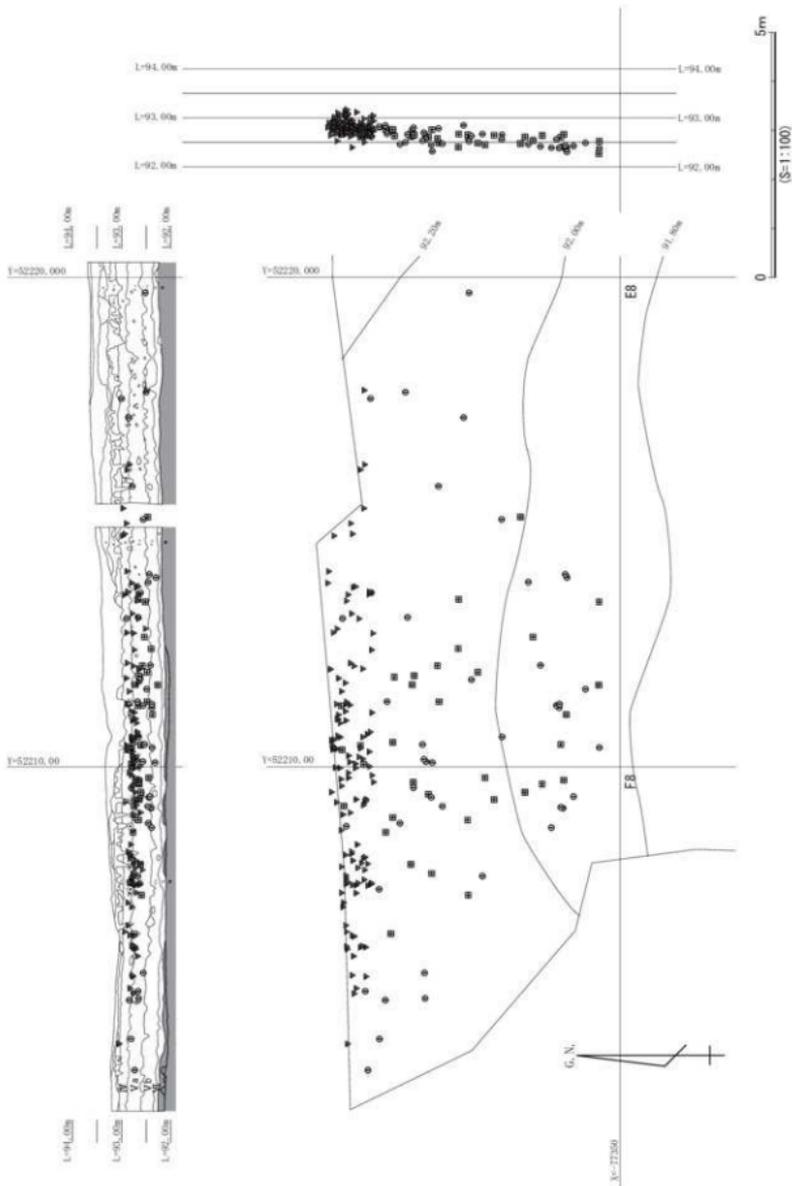
黒曜石製の剥片については、安定した層位での出土状況が思いのほか悪く、チャートの剥片ほど種類によって分布域に明瞭な違いは見出せない。しかし、I類についてはV b層からIV層まで平均的に分布している様相は窺える。



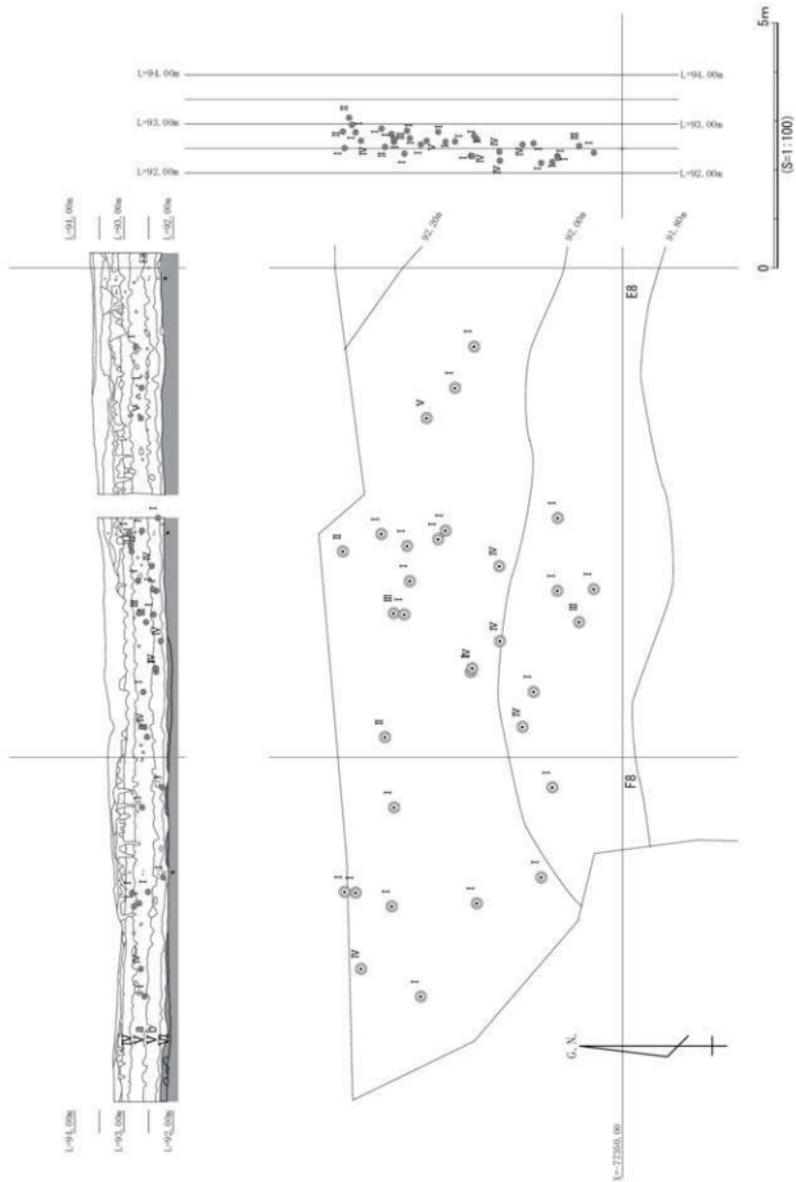
第88図 E7・F7出土遺物平面・垂直分布図(1)〔珪質頁岩〕



第 89 图 E7・F7 出土遺物平面・垂直分布図 (2) [流紋岩]



第90図 E7・F7出土遺物平面・垂直分布図(3)〔チヤート〕



第91図 E7・F7出土遺物平面・垂直分布図(4)【黒曜石】

第5図 出土石器計測表

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
1	11472	Kn	Ch	2-1	E7	VI	-77348.856	52210.932	92.245	2.60	1.10	1.50
2	10239	Kn	Sub	2-1	D7	VI	-77345.409	52221.191	92.499	4.00	1.40	2.30
3	11732	Kn	Sub	2-1	E7	VI	-77346.813	52216.249	92.241	2.10	1.20	1.29
4	12945	F	Sub	2-1	E7	VI	-77346.762	52213.066	92.157	3.80	4.30	24.40
5	11628	Kn	Sub	2-1	D7	V b	-77348.166	52221.230	92.122	3.20	1.15	2.00
6	11630	Kn	Sub	2-1	D7	V b	-77348.551	52230.928	92.171	3.35	1.15	1.95
7	10171	Kn	Sub	2-1	E7	V b	-77345.852	52216.766	92.529	3.20	1.40	2.45
8	10996	Kn	Ob	2-1	E7	V b	-77348.629	52212.746	92.373	2.30	1.00	0.63
9	10225	Kn	Sub	2-1	D7	V b	-77346.117	52230.730	92.538	2.00	1.10	0.90
10	11990	Kn	Sub	2-1	E7	V b	-77346.978	52214.985	92.435	2.60	1.20	1.30
11	12014	Tr	Sub	2-1	F7	V b	-77346.444	52209.954	92.296	3.40	3.40	10.00
12	11670	Po	Ho	2-1	F7	V b	-77347.811	52208.172	92.358	10.00	4.00	67.00
13	6058	S	Ch	2-1	F7	V b	-77348.908	52209.973	92.371	6.70	2.20	25.70
14	12067	F	Ry	2-1	E7	V b	-77349.486	52217.284	92.268	2.20	2.50	3.10
15	10215	F	Sub	2-1	D5	V b	-77346.899	52230.125	92.454	3.55	1.30	2.60
16	10996	F	Sub	2-1	E7	V b	-77348.629	52212.746	92.373	1.70	3.30	2.80
17	11896	F	Sub	2-1	F7	V b	-77345.311	52206.741	92.444	1.90	1.60	1.20
18	11924	F	Ry	2-1	F7	V b	-77346.359	52209.420	92.329	2.30	3.00	5.20
19	8959	F	Ho	2-1	E7	V b	-77349.263	52212.185	92.319	7.30	3.00	22.70
20	11942	F	Sub	2-1	E7	V b	-77348.339	52210.233	92.196	2.50	4.40	13.40
21	11877	Co	Sub	2-1	E7	V b	-77345.425	52213.237	92.408	5.60	5.40	165.40
22	11954	F	Sub	2-1	F7	V b	-77344.435	52208.686	92.289	3.60	3.20	5.30
23	11728	F	Sub	2-1	E7	V b	-77347.367	52213.481	92.278	4.40	2.80	8.20
24	11882	Co	W-Ry	2-1	E7	V b	-77345.324	52211.362	92.366	4.80	5.90	51.70
25	11965	F	Sub	2-1	F7	V b	-77348.014	52205.530	92.111	3.90	3.60	6.40
26	11918	F	W-Ry	2-1	F7	V b	-77346.484	52206.644	92.316	5.10	2.70	13.40
27	6496	Wo	W-Ry	2-1	E7	V b	-77348.065	52217.678	92.492	1.60	0.90	0.40
28	11984	Wo	Sub	2-1	E7	V b	-77347.814	52216.701	92.343	1.00	0.80	0.10
29	12001	Ho	So	2-1	E7	V b	-77345.996	52209.171	92.175	4.90	4.50	127.50
30	12064	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77347.881	52217.486	92.332	2.80	1.00	0.82
31	1838	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77349.594	52212.783	92.534	3.35	1.35	2.30
32	11199	Kn	W-Ry	2-1	F7	V a	-77345.578	52207.682	92.509	4.30	1.50	4.70
33	10585	Kn	Sub	2-1	D7	V a	-77344.531	52221.282	92.890	3.60	1.30	2.70
34	4578	Kn	Sub	2-1	F7	V a	-77344.640	52207.728	92.777	4.90	1.70	6.40
35	4789	Kn	Ob	2-1	E7	V a	-77347.633	52214.336	92.589	3.20	1.60	2.80
36	6629	Kn	Sub	2-1	F7	V a	-77345.015	52208.982	92.722	3.45	1.45	4.17
37	6389	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77349.243	52211.899	92.433	2.20	1.20	1.10
38	3387	Kn	Ry	2-1	E7	V a	-77347.683	52217.656	92.782	3.90	3.20	8.34
39	1304	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77345.313	52211.963	92.759	2.70	1.80	2.40
40	1443	Kn	Ry	2-1	F7	V a	-77346.184	52209.542	92.766	4.80	1.35	4.34
41	10034	Kn	Sub	2-1	D7	V a	-77344.913	52221.913	92.888	3.00	1.65	3.50
42	8984	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77348.554	52210.365	92.415	3.30	1.80	4.10
43	6030	Kn	Sub	2-1	F7	V a	-77348.774	52208.666	92.453	2.50	1.50	2.80
44	6396	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77345.848	52213.697	92.669	3.90	1.80	6.00
45	6358	Kn	Sub	2-1	F7	V a	-77346.842	52209.719	92.573	6.70	2.40	20.20
46	9796	Kn	Ry	2-1	F7	V a	-77347.052	52206.119	92.637	7.70	2.90	25.80
47	4791	Kn	Sub	2-1	E7	V a	-77348.017	52214.521	92.574	4.90	2.40	12.20
48	9783	Po	Sub	2-1	E7	V a	-77346.759	52219.009	92.626	6.70	3.40	23.50
49	7275	Po	Sub	2-1	E7	V a	-77345.880	52213.815	92.603	9.30	2.90	29.30
50	6293	S	Ch	2-1	F7	V a	-77344.342	52209.831	92.729	5.30	2.60	30.40
51	11157	S	W-Ry	2-1	F7	V a	-77345.395	52206.154	92.565	6.10	3.50	26.60
52	4608	S	Ch	2-1	E7	V a	-77344.312	52210.269	92.764	3.60	2.40	11.80
53	1739	S	Ch	2-1	F7	V a	-77345.741	52209.971	92.577	1.80	3.40	5.60
54	11676	S	Sub	2-1	F7	V a	-77346.241	52207.408	92.384	3.80	3.50	7.90

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
55	9630	RF	Ch	2-1	E7	V a	-77347.694	52212.307	92.493	2.90	1.20	1.40
56	1560	RF	Ch	2-1	E7	V a	-77347.420	52210.585	92.639	1.50	1.80	1.00
57	7535	RF	F-Ry	2-1	E7	V a	-77347.237	52216.608	92.588	4.80	3.10	2.70
58	9834	RF	Ch	2-1	E7	V a	-77347.337	52216.252	92.493	3.60	1.40	3.40
59	11129	RF	Ch	2-1	E7	V a	-77344.616	52216.541	92.837	2.00	2.00	1.60
60	9806	RF	An	2-1	F7	V a	-77347.433	52205.323	92.587	1.80	1.00	0.50
61	11125	Co	Sh	2-1	E7	V a	-77344.941	52217.413	92.639	1.40	3.50	2.60
62	1633	Co	Sh	2-1	E7	V a	-77348.482	52213.234	92.512	6.80	4.80	46.80
63	6338	RF	R-Ch	2-1	E7	V a	-77344.447	52211.190	92.690	6.70	4.80	16.60
64	6535	RF	F-Ry	2-1	E7	V a	-77349.293	52214.665	92.431	6.40	2.40	10.20
65	1579	RF	F-Ry	2-1	F7	V a	-77346.987	52206.465	92.702	3.20	6.00	20.10
66	11811	RF	F-Ry	2-1	D7	V a	-77345.327	52222.605	92.875	5.20	3.70	19.40
67	5819	Co	F-Ry	2-1	E7	V a	-77344.711	52210.510	92.757	4.10	2.00	7.20
68	9275	Co	Ch	2-1	F7	V a	-77344.896	52209.326	92.670	3.60	3.90	45.40
69	5878	Co	Ch	2-1	E7	V a	-77348.391	52210.220	92.549	2.90	2.60	11.30
70	7222	Ms	Sh	2-1	F7	V a	-77349.112	52208.535	92.375	2.90	1.00	0.90
71	1824	Ms	Sh	2-1	E7	V a	-77349.198	52211.462	92.328	2.30	1.40	1.20
72	7243	F	Sh	2-1	F7	V a	-77345.111	52208.356	92.659	4.20	5.00	15.20
73	1159	RF	Sh	2-1	E7	V a	-77344.797	52213.136	92.780	2.80	3.40	9.40
74	1386	F	Sh	2-1	E7	V a	-77346.306	52212.341	92.687	5.50	3.80	36.40
75	11906	F	Sh	2-1	E7	V a	-77344.356	52212.267	92.470	5.30	3.70	16.10
76	10191	F	F-Ry	2-1	E7	V a	-77346.911	52218.568	92.430	6.40	2.80	9.70
77	10447	F	Sh	2-1	E7	V a	-77344.909	52217.228	92.795	3.70	3.80	23.20
78	11866	Ms	Sa	2-1	F7	V a	-77345.178	52204.741	92.785	10.20	4.70	218.40
79	11640	Ms	Sa	2-1	E7	V a	-77349.596	52218.415	92.214	12.30	4.80	274.40
80	9637	Ms	Sh	2-1	E7	V a	-77349.545	52212.160	92.253	6.40	3.50	82.90
81	3340	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77348.673	52213.581	92.484	3.00	3.80	51.60
82	6064	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77349.741	52210.187	92.368	2.80	1.20	6.70
83	1462	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77347.193	52213.816	92.679	2.00	1.50	6.40
84	3132	Ms	F-Ry	2-1	F7	V a	-77346.242	52208.850	92.670	2.20	1.40	6.10
85	6311	Ms	R-Ch	2-1	F7	V a	-77345.482	52209.644	92.692	1.50	1.40	3.20
86	9195	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77346.635	52210.753	92.505	2.00	0.90	3.70
87	11003	Ms	Sh	2-1	E7	V a	-77346.526	52212.244	92.436	3.20	1.20	8.40
88	7564	Ms	Sh	2-1	E7	V a	-77347.201	52213.210	92.525	3.90	2.60	65.90
89	9379	Ms	Os	2-1	E7	V a	-77345.117	52213.479	92.677	3.30	3.40	60.40
90	1742	Ms	R-Ch	2-1	F7	V a	-77348.709	52209.652	92.574	1.40	1.00	0.80
91	1714	Ms	Os	2-1	E7	V a	-77349.544	52213.879	92.558	1.20	1.40	1.40
92	5836	Ms	Ch	2-1	F7	V a	-77344.554	52208.761	92.741	2.70	1.10	7.70
93	1530	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77346.993	52210.577	92.679	2.00	1.60	6.80
94	6542	Ms	Ch	2-1	E8	V a	-77350.078	52215.129	92.393	1.80	1.50	3.60
95	12030	Ms	F-Ry	2-1	E7	V a	-77345.305	52212.626	92.460	1.20	1.10	0.20
96	1607	Ms	Sh	2-1	F7	V a	-77347.452	52208.212	92.672	1.00	0.70	0.10
97	9751	Ms	Ch	2-1	F7	V a	-77345.051	52209.644	92.623	0.90	1.10	0.20
98	11174	Ms	Sh	2-1	F7	V a	-77346.273	52206.986	92.576	0.90	0.80	0.10
99	11172	Ms	Sh	2-1	F7	V a	-77345.952	52207.123	92.530	1.10	0.60	0.10
100	1722	Ms	F-Ry	2-1	E7	V a	-77349.306	52212.800	92.451	0.60	0.60	0.10
101	9412	Ms	Sh	2-1	D7	V a	-77349.166	52221.564	92.283	2.40	1.10	0.80
102	3343	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77346.917	52213.232	92.651	1.50	0.80	0.40
103	9347	Ms	Ch	2-1	E7	V a	-77345.460	52210.735	92.578	1.50	0.90	0.30
104	10574	Ms	F-Ry	2-1	E7	V a	-77344.515	52219.862	92.687	1.60	0.60	0.20
105	7379	Ms	Sh	2-1	F7	V a	-77345.090	52207.520	92.636	1.30	0.60	0.10
106	3156	Ms	Ch	2-1	F7	V a	-77348.252	52209.811	92.591	1.40	0.70	0.10
107	1228	S	Hs	2-1	E7	IV	-77344.899	52210.607	92.787	4.60	6.50	43.10
108	1087	RF	Sh	2-1	E7	IV	-77344.713	52214.682	92.826	3.40	3.15	14.16

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
109	1071	RF	Sh	2-1	E7	IV	-77344.217	52213.592	92.892	3.10	2.00	5.70
110	1297	RF	Sh	2-1	F7	IV	-77345.272	52210.547	92.790	3.40	1.60	3.90
111	1756	Co	Sh	2-1	F7	IV	-77347.958	52206.925	92.659	2.40	5.20	12.80
112	7545	Co	Ob	2-1	E7	IV	-77346.704	52214.783	92.589	2.10	1.80	4.20
113	1572	Co	Ho	2-1	F7	IV	-77346.942	52208.392	92.673	6.50	9.00	404.10
114	1255	Co	R-Ch	2-1	E7	IV	-77345.155	52210.833	92.797	3.10	4.20	50.30
115	3091	RF	Sh	2-1	F7	IV	-77344.595	52207.885	92.797	5.60	1.60	12.80
116	3384	F	F-Ry	2-1	E7	IV	-77347.440	52216.985	92.709	5.50	3.30	24.60
117	1731	F	Sh	2-1	E7	IV	-77349.054	52210.788	92.599	2.70	2.20	7.20
118	1404	Mb	Sh	2-1	F7	IV	-77346.066	52207.461	92.783	1.70	0.70	0.20
119	1343	Mb	Ob	2-1	F7	IV	-77345.646	52206.796	92.847	0.90	0.90	0.10
120	950	Kn	Sh	1-2	14	V相当	-77317.738	52173.638	92.929	1.90	1.20	0.70
121	967	Kn	Ho	1-2	14	V相当	-77318.698	52177.141	92.810	3.35	1.60	3.70
122	945	Kn	Ry	1-2	14	V相当	-77315.266	52174.972	92.768	2.30	1.10	0.60
123	660	Kn	Sh	1-2	14	V相当	-77324.567	52174.370	93.290	2.60	1.20	1.80
124	612	Kn	Sh	1-2	15	V相当	-77322.127	52176.411	93.103	2.30	0.90	0.60
125	841	Kn	Sh	1-2	15	V相当	-77321.505	52176.140	93.086	2.40	1.00	1.40
126	886	Kn	Ho	1-2	65	V相当	-77322.479	52195.235	91.512	3.90	2.05	4.50
127	856	Kn	Sh	1-2	85	V相当	-77321.207	52189.438	92.368	3.60	1.40	2.50
128	50014	S	Ho	1-2	16	V相当	-77330.865	52177.307	93.285	5.60	5.20	99.10
129	50011	S	Sh	1-2	16	V相当	-77330.096	52178.589	93.269	4.90	6.10	40.30
130	640	RF	Ry	1-2	15	V相当	-77323.470	52175.013	93.176	2.60	3.10	7.90
131	50035	RF	F-Ry	1-2	16	V相当	-77332.206	52179.426	92.840	5.90	3.60	24.00
132	604	F	Ry	1-2	15	V相当	-77322.301	52174.919	93.250	5.00	3.10	9.20
133	670	RF	Sh	1-2	15	V相当	-77325.033	52175.985	93.281	2.80	1.40	1.10
134	857	RF	Ob	1-2	85	V相当	-77326.841	52187.013	92.712	1.90	1.80	1.30
135	627	RF	Sh	1-2	15	V相当	-77324.513	52176.409	93.098	3.60	1.90	4.60
136	685	RF	Sh	1-2	85	V相当	-77324.995	52182.606	93.111	2.40	4.50	14.70
137	872	RF	Ho	1-2	65	V相当	-77325.550	52192.883	92.360	4.50	1.90	5.00
138	50041	F	Ry	1-2	66	V相当	-77331.187	52193.023	92.593	4.90	4.70	27.40
139	694	RF	Sh	1-2	85	V相当	-77327.342	52188.124	92.896	2.50	3.50	6.60
140	50033	Go, Ho	Sa	1-2	16	V相当	-77330.180	52174.647	93.226	11.30	7.60	685.10
141	903	Mb	Sh	1-1	F4	V相当	-77315.440	52207.250	89.432	1.60	0.50	0.10
142	50012	Mb	Ob	1-2	16	V相当	-77330.840	52178.653	93.194	1.00	0.70	0.10
143	821	Co	Ho	1-2	15	V相当	-77322.606	52172.081	93.087	6.80	8.60	370.50
144	50043	RF	F-Ry	1-2	66	V相当	-77331.505	52196.972	92.403	6.50	3.60	49.90
145	50039	Co	Sh	1-2	64	V相当	-77316.901	52192.527	90.948	2.50	3.70	29.10
146	616	Co	Ry	1-2	15	V相当	-77322.377	52178.270	93.014	2.00	3.25	10.90
147	50045	Co	Ry	1-2	15	V相当	-77320.182	52169.800	92.892	6.00	6.30	258.10
148	50025	Co	Ry	1-2	86	V相当	-77331.463	52187.136	93.183	2.60	4.00	27.70
149	1036	Co	Sa	1-2	位置不明	V相当	-77344.500	52207.065	92.917	2.30	3.10	19.30
150	871	Co	Sh	1-2	65	V相当	-77327.372	52192.357	92.532	1.60	4.00	18.20
151	577	Co	Sa	1-2	15	V相当	-77323.228	52170.855	93.189	1.90	3.10	5.70
152	2032	Kn	Sh	2-1	F8	V相当	-77356.069	52209.185	91.680	1.70	0.80	0.40
153	11143	Kn	Sh	2-1	D8	V相当	-77350.876	52220.782	92.073	2.50	1.20	1.30
154	9679	Kn	Sh	2-1	E8	V相当	-77358.593	52218.705	91.209	2.30	1.40	1.60
155	11073	Kn	Ho	2-1	D8	V相当	-77351.715	52223.251	92.116	2.60	1.80	1.60
156	8503	Kn	Sh	2-1	E8	V相当	-77353.618	52214.627	91.925	3.60	1.40	2.80
157	9918	Kn	Sh	2-1	E8	V相当	-77356.198	52215.775	91.432	3.60	1.90	6.50
158	9914	Kn	Ho	2-1	E8	V相当	-77352.600	52213.511	91.799	2.80	1.10	1.40
159	10018	Kn	Ho	2-1	D8	V相当	-77352.369	52222.427	92.132	4.50	1.40	2.70
160	9648	Kn	Sh	2-1	F8	V相当	-77351.097	52209.386	92.066	4.00	3.30	9.10
161	9601	Tr	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77354.103	52220.500	91.920	2.80	2.50	4.90
162	9433	Tr	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77355.158	52220.831	91.877	4.20	2.90	12.20

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
163	9440	Tr	F-Ry	2-1	E8	V相当	-77357.690	52219.792	91.425	5.10	2.90	10.20
164	9212	Po	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77357.508	52235.688	91.642	9.30	2.70	19.50
165	8360	Tp	Sub	2-1	E8	V相当	-77356.629	52216.150	92.277	7.30	2.50	27.70
166	8487	S	Ch	2-1	D8	V相当	-77352.947	52220.347	92.173	6.60	2.30	29.60
167	10610	S	F-Ry	2-1	F8	V相当	-77354.051	52209.460	91.708	2.70	3.10	6.30
168	9599	S	F-Ry	2-1	C8	V相当	-77355.890	52235.659	92.181	3.30	6.50	45.00
169	11765	Co	Sub	2-1	E8	V相当	-77350.252	52216.962	92.109	4.80	4.60	106.10
170	9438	Co	Ry	2-1	D8	V相当	-77356.376	52221.073	91.690	3.50	4.80	56.10
171	8430	Co	Ob	2-1	E8	V相当	-77353.882	52216.440	91.923	2.50	2.60	8.30
172	8912	Co	F-Ry	2-1	E8	V相当	-77355.693	52212.871	91.543	3.40	7.70	66.60
173	9000	Co	Ch	2-1	D8	V相当	-77355.903	52221.326	91.789	3.70	4.70	74.40
174	10416	F	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77356.056	52222.473	91.557	7.30	2.00	12.40
175	9899	F	F-Ry	2-1	D9	V相当	-77361.210	52226.163	91.116	5.60	3.30	16.20
176	8480	F	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77352.123	52220.906	92.304	3.70	3.40	13.20
177	10628	F	Ry	2-1	F9	V相当	-77361.159	52206.924	90.794	3.40	1.90	4.80
178	9424	Co	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77354.574	52221.871	92.000	3.60	5.30	32.10
179	9947	Rf	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77352.252	52221.633	92.160	3.00	5.10	14.00
180	9672	Rf	Ob	2-1	D8	V相当	-77354.928	52220.743	91.757	1.50	1.30	1.50
181	11726	F	Sub	2-1	F7	V相当	-77344.823	52203.297	92.775	6.40	1.80	7.20
182	9833	F	Sub	2-1	E7	V相当	-77347.407	52215.852	92.475	10.30	3.65	38.10
183	9159	F	Sub	2-1	F7	V相当	-77348.713	52206.432	92.367	5.50	3.30	18.40
184	9585	F	F-Ry	2-1	D8	V相当	-77351.256	52228.309	92.218	5.30	1.70	3.00
185	9855	F	Sub	2-1	E8	V相当	-77350.553	52219.392	92.265	0.90	1.50	0.50
186	8866	F	Sub	2-1	F8	V相当	-77354.068	52209.909	91.761	3.90	1.50	3.40
187	11044	F	F-Ry	2-1	C9	V相当	-77360.364	52233.798	91.687	2.60	1.25	1.60
188	8761	Rf	Sub	2-1	D8	V相当	-77355.538	52222.939	91.923	4.90	6.50	27.90
189	9680	Rf	F-Ry	2-1	E8	V相当	-77358.892	52219.646	91.177	1.80	2.30	1.90
190	8741	Rf	Sub	2-1	E8	V相当	-77355.902	52211.545	91.545	3.00	1.70	3.00
191	9698	Rf	F-Ry	2-1	F8	V相当	-77356.638	52209.622	92.093	4.50	4.90	27.00
192	10016	Rf	Ho	2-1	D8	V相当	-77352.115	52222.984	92.141	3.80	0.80	7.30
193	9912	Rf	Ry	2-1	E8	V相当	-77352.072	52213.420	91.845	6.30	3.00	11.10
194	8486	Mc	Sub	2-1	D8	V相当	-77352.958	52220.297	92.158	3.20	3.10	40.60
195	9932	Mc	Ch	2-1	E8	V相当	-77356.975	52212.438	91.356	3.20	1.30	14.00
196	8375	Mc	Ch	2-1	E8	V相当	-77350.056	52212.825	92.277	2.10	1.10	5.10
197	11148	Mb	Sub	2-1	E8	V相当	-77352.671	52219.673	91.994	3.40	1.10	0.90
198	10017	Mb	Ho	2-1	D8	V相当	-77352.077	52222.777	92.152	1.90	1.20	0.70
199	11150	Mb	Sub	2-1	E8	V相当	-77352.501	52219.696	91.893	1.90	0.80	0.30
200	8689	Mb	Sub	2-1	E8	V相当	-77354.090	52212.901	91.737	1.10	0.70	0.10
201	8688	Mb	Sub	2-1	E8	V相当	-77353.939	52213.049	91.766	0.80	1.10	0.10
202	8479	Mb	Sub	2-1	D8	V相当	-77351.073	52220.189	92.327	1.20	0.90	0.20
203	8685	Mb	Ry	2-1	E8	V相当	-77353.110	52213.162	91.951	1.40	0.70	0.30
204	12088	Mb	F-Ry	2-1	E8	V相当	-77350.521	52213.688	92.082	1.10	0.90	0.20
205	8917	Mb	Sub	2-1	F8	V相当	-77355.998	52206.414	91.558	1.40	0.80	0.20
206	8699	Mc	Sub	2-1	E8	V相当	-77355.487	52211.976	91.548	5.40	1.80	8.80
207	9492	Mc	Ho	2-1	F9	V相当	-77363.268	52205.851	90.563	3.20	2.20	32.90
208	9991	Bs	Os	2-1	D8	V相当	-77356.525	52224.782	91.860	14.50	7.20	682.50
209	10825	Bs	Sa	2-1	B6	V相当	-77332.073	52187.490	93.265	5.80	2.80	42.30
210	9925	Bs	Os	2-1	E8	V相当	-77358.054	52213.414	91.195	12.80	11.70	1315.90
211	10024	Kn	Ch	2-1	E8	IV相当	-77352.087	52219.117	92.118	2.50	1.20	1.70
212	6938	Kn	Sub	2-1	E8	IV相当	-77352.977	52216.850	92.094	2.00	1.10	0.90
213	1933	Kn	Sub	2-1	F8	IV相当	-77357.924	52206.794	91.404	3.10	1.40	2.10
214	7005	Kn	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77352.929	52210.337	92.000	3.60	1.00	2.60
215	2735	Kn	Sub	2-1	D8	IV相当	-77355.348	52227.552	92.330	2.40	1.00	1.10
216	6905	Kn	Ho	2-1	E8	IV相当	-77352.237	52219.915	92.268	3.20	1.70	4.10

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
217	2138	Ka	Sub	2-1	E8	IV相当	-77355.431	52210.213	91.845	1.60	1.30	1.20
218	1901	Ka	Sub	2-1	E8	IV相当	-77352.525	52215.710	92.268	3.10	1.10	1.40
219	2047	Ka	Ry	2-1	E8	IV相当	-77356.507	52210.481	91.670	2.20	1.80	1.80
220	8226	Ka	Ho	2-1	D8	IV相当	-77356.490	52225.302	92.000	3.00	1.30	1.30
221	8463	Ka	F-Ry	2-1	D8	IV相当	-77356.919	52221.804	91.696	4.00	2.20	11.00
222	4724	Ka	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77355.279	52213.289	91.769	4.20	2.70	8.60
223	3664	Tr	F-Ry	2-1	D8	IV相当	-77358.657	52222.621	91.574	5.00	3.40	14.60
224	10151	Po	Ho	2-1	D8	IV相当	-77354.522	52225.496	92.074	16.30	2.20	36.90
225	2803 10048	Po	Ho	2-1	D8	IV相当	-77356.294	52224.685	92.117	8.00	2.80	21.20
226	8864	Po	Ho	2-1	F8	IV相当	-77354.095	52209.986	91.787	9.20	2.20	19.40
227	4682	Tp	Ry	2-1	F8	IV相当	-77350.601	52209.369	92.191	7.30	2.30	20.10
228	4304	Tp	Sub	2-1	E8	IV相当	-77352.982	52219.164	92.240	5.60	2.10	17.60
229	2050	S	Sub	2-1	E8	IV相当	-77356.947	52210.551	91.650	4.20	4.20	27.40
230	4677	S	Sub	2-1	F8	IV相当	-77350.154	52209.402	92.259	3.90	3.60	26.30
231	2297	S	Ry	2-1	E8	IV相当	-77353.433	52212.988	92.060	5.80	3.00	25.30
232	1911	S	Sub	2-1	E8	IV相当	-77351.141	52215.672	92.391	3.90	3.60	19.90
233	8347	RF	Sub	2-1	D8	IV相当	-77356.320	52226.916	91.968	9.80	6.90	115.80
234	9317	RF	F-Ry	2-1	E10	IV相当	-77372.412	52211.156	89.728	6.00	2.40	11.90
235	4698	RF	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77351.144	52210.599	92.161	3.60	4.10	12.50
236	8329	RF	F-Ry	2-1	C8	IV相当	-77357.659	52223.467	92.280	2.60	3.90	9.50
237	4505	RF	Ry	2-1	E8	IV相当	-77359.813	52219.159	91.198	6.60	4.90	65.20
238	2486	F	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77351.261	52217.203	92.432	2.40	4.70	9.70
239	2384	F	Sub	2-1	E8	IV相当	-77355.908	52213.313	91.773	4.20	3.80	20.60
240	4255	RF	Ch	2-1	D8	IV相当	-77357.214	52221.183	91.797	3.10	1.10	7.10
241	7337	RF	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77350.543	52212.533	92.261	3.20	2.20	7.50
242	2897	RF	Ch	2-1	E8	IV相当	-77357.441	52216.994	91.590	2.20	2.70	4.10
243	2193	RF	Sub	2-1	E8	IV相当	-77355.603	52211.521	91.799	3.80	1.80	3.70
244	7606	Pv	Ob	2-1	-	IV相当	-	-	-	1.85	2.00	3.35
245	6465	F	Sub	2-1	E7	IV相当	-77346.257	52219.820	92.736	2.80	1.90	3.20
246	10023	RF	Ho	2-1	-	IV相当	-77352.116	52219.401	92.185	1.60	3.70	3.10
247	4794	F	Sub	2-1	E8	IV相当	-77350.414	52211.405	92.261	3.70	2.30	7.40
248	10030	RF	Sub	2-1	E8	IV相当	-77351.103	52218.493	92.281	1.55	1.45	1.50
249	8735	RF	Sub	2-1	E8	IV相当	-77353.982	52212.378	91.577	1.80	1.20	1.00
250	1331	F	Sub	2-1	E7	IV相当	-77344.789	52211.302	92.789	4.40	6.20	37.10
251	2553	Pv	Sub	2-1	E8	IV相当	-77353.132	52218.028	92.300	3.00	3.20	11.50
252	1426	WF	Sub	2-1	-	IV相当	-	-	-	1.90	1.30	0.80
253	2272	Wo	Ho	2-1	E8	IV相当	-77355.256	52215.390	91.811	2.20	2.40	26.20
254	7014	Wo	Ch	2-1	F8	IV相当	-77357.225	52209.007	91.447	1.70	2.20	2.00
255	2146	Wo	Ch	2-1	E8	IV相当	-77355.990	52210.980	91.677	1.90	1.50	7.90
256	1993	Wo	Ch	2-1	E8	IV相当	-77357.963	52211.105	91.499	2.30	1.50	7.40
257	2206	Wo	R-Ch	2-1	E8	IV相当	-77353.387	52210.546	92.076	3.30	2.10	6.30
258	7037	Wo	Ob	2-1	F8	IV相当	-77358.551	52208.022	91.209	1.30	1.20	2.10
259	6835	Wo	Sub	2-1	E8	IV相当	-77354.648	52219.499	92.047	1.70	1.10	0.50
260	2363	Wo	Ry	2-1	E8	IV相当	-77353.291	52216.154	92.091	1.20	0.80	0.30
261	8702	Wo	Ry	2-1	E8	IV相当	-77353.422	52213.491	91.683	1.50	0.70	0.10
262	1982	Wo	Ry	2-1	E8	IV相当	-77357.928	52210.851	91.421	1.10	0.80	0.20
263	2221	Wo	Ch	2-1	E8	IV相当	-77354.179	52211.464	91.916	1.10	0.80	0.20
264	2329	Wo	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77352.523	52212.504	92.124	1.70	1.00	0.40
265	1939	Wo	Ch	2-1	F8	IV相当	-77358.593	52209.367	91.290	0.90	0.50	0.10
266	6941	Wo	Ch	2-1	E8	IV相当	-77354.236	52215.703	91.910	1.40	0.80	0.20
267	4534	Wo	Sub	2-1	E8	IV相当	-77352.599	52216.945	92.273	1.70	0.90	0.30
268	3999	Wo	Ob	2-1	D9	IV相当	-77366.801	52226.564	91.351	1.30	0.70	0.10
269	8264	Wo	Ob	2-1	C9	IV相当	-77360.511	52220.308	91.723	1.20	0.70	0.10

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
270	3626	Ms	Sh	2-1	D8	IV相当	-77357.284	52222.370	91.863	1.00	0.70	0.10
271	4380	Ms	Os	2-1	E9	IV相当	-77360.178	52219.224	91.339	1.10	0.60	0.10
272	2671	Ms	F-Ry	2-1	E8	IV相当	-77354.772	52219.442	92.118	0.60	0.50	0.10
273	2236	Ms	Ch	2-1	E8	IV相当	-77354.829	52212.924	91.911	1.20	0.80	0.10
274	9483	Go	Os	2-1	E7	IV相当	-77345.351	52219.308	92.852	11.60	10.80	963.20
275	392	Kn	Sh	1-1	E5	Ⅰ区	-77327.322	52214.469	91.159	3.80	1.60	3.60
276	143	Kn	Sh	1-3	F3	Ⅰ区	-77308.293	52209.733	88.288	3.30	1.50	3.20
277	97	Kn	Sh	1-1	E4	Ⅰ区	-77311.899	52210.801	88.872	3.00	1.40	2.10
278	266	Kn	Sh	1-1	F4	Ⅰ区	-77311.402	52208.083	88.642	3.30	1.60	3.50
279	893	Kn	F-Ry	1-1	E5	Ⅰ区	-77329.756	52213.898	91.296	3.40	2.20	5.40
280	136	Kn	Sh	1-3	E3	Ⅰ区	-77306.919	52212.212	88.300	3.00	1.30	3.50
281	79	Kn	Ry	1-1	E4	Ⅰ区	-77313.971	52211.356	88.893	3.60	1.85	4.10
282	222	Kn	Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77306.876	52203.618	88.480	2.70	1.80	4.40
283	88	Kn	F-Ry	1-1	E4	Ⅰ区	-77312.914	52210.660	88.735	5.40	1.80	8.80
284	905	Kn	F-Ry	1-1	E4	Ⅰ区	-77317.291	52213.121	89.526	2.60	0.90	1.60
285	132	Kn	Sh	1-1	E4	Ⅰ区	-77310.238	52210.500	88.717	2.10	1.60	2.00
286	441	Kn	Sh	1-1	E5	Ⅰ区	-77323.292	52212.618	90.230	2.30	1.40	1.60
287	347	Kn	Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77309.586	52207.460	88.280	3.80	3.10	7.20
288	928	Po	F-Ry	1-1	E5	Ⅰ区	-77325.430	52215.486	90.343	6.40	2.50	1.05
289	891	Po	Sh	1-1	G5	Ⅰ区	-77320.827	52196.620	91.110	5.20	3.20	33.00
290	37	Te	Sh	1-1	F4	Ⅰ区	-77312.152	52206.475	88.672	3.80	2.50	6.50
291	50024	S	Ry	1	E8	Ⅰ区	-77350.090	52210.323	91.986	9.10	8.10	450.40
292	-	S	Ho	1	-	Ⅰ区	-	-	-	4.50	3.80	19.70
293	941	S	Sh	1-1	E4	Ⅰ区	-77317.646	52176.063	92.895	5.70	6.20	71.80
294	690	S	Ho	1-2	H5	Ⅰ区	-77326.217	52186.723	92.848	3.00	5.20	20.90
295	588	S	Ch	1-2	I5	Ⅰ区	-77322.297	52173.924	93.250	1.50	2.30	2.00
296	932	S	Sh	1-2	I4	Ⅰ区	-77318.523	52175.140	93.005	4.50	3.50	24.00
297	219	S	Ch	1-3	F3	Ⅰ区	-77308.140	52205.742	88.629	2.60	3.70	9.20
298	177	F	Ch	1-1	E4	Ⅰ区	-77314.908	52213.111	88.973	2.10	4.20	23.50
299	404	Co	Ch	1-1	E5	Ⅰ区	-77321.965	52214.696	90.088	2.00	1.80	3.20
300	898	RF	Ho	1-2	H5	Ⅰ区	-77326.173	52186.328	92.781	3.30	5.10	24.10
301	396 406	F	Ch	1-1	E5	Ⅰ区	-77324.951	52214.164	90.569	4.40	3.50	12.80
							-77321.532	52214.583	90.032			
302	2	F	Sh	1-1	F4	Ⅰ区	-77314.582	52209.733	89.134	2.80	2.70	7.10
303	51	F	Ho	1-1	F4	Ⅰ区	-77313.084	52206.797	88.968	2.80	1.70	2.90
304	469	RF	Sh	1-1	E5	Ⅰ区	-77325.773	52212.122	90.560	4.80	1.90	5.00
305	980	F	Sh	1-1	E5	Ⅰ区	-77320.815	52214.145	89.469	3.20	3.70	10.80
306	117	F	Sh	1-1	F4	Ⅰ区	-77312.230	52206.842	88.949	1.50	1.90	1.10
307	717	F	F-Ry	1-1	F5	Ⅰ区	-77329.815	52207.063	91.645	4.40	2.40	9.00
308	209	F	Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77301.942	52207.443	87.975	5.50	2.00	8.60
309	958	F	Sh	1-2	I4	Ⅰ区	-77318.453	52172.036	93.029	4.20	5.30	28.20
311	43	F	Ch	1-1	F4	Ⅰ区	-77312.619	52207.548	89.127	3.90	1.50	3.10
315	-	RF	Sh	1	-	Ⅰ区	-	-	-	3.90	4.30	29.00
316	348	RF	Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77309.444	52206.556	88.260	3.70	2.60	8.00
317	352	RF	F-Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77308.365	52207.671	88.286	3.96	2.10	7.20
318	208	RF	Sh	1-3	F3	Ⅰ区	-77302.324	52207.097	88.016	3.80	2.40	5.70
319	353	RF	F-Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77306.270	52206.226	87.919	3.40	2.70	11.90
320	250	RF	Sh	1-1	E4	Ⅰ区	-77311.889	52212.300	88.572	3.00	2.70	7.70
321	275	RF	Ry	1-3	F3	Ⅰ区	-77303.891	52204.475	88.330	2.90	2.40	4.90
322	71	RF	Ho	1-1	E4	Ⅰ区	-77313.388	52211.456	89.127	3.80	3.00	11.80
323	382	RF	Sh	1-1	E5	Ⅰ区	-77327.165	52216.230	91.117	2.00	3.30	6.50
324	466	RF	Ch	1-1	E5	Ⅰ区	-77324.992	52213.112	90.580	2.80	1.50	4.80
325	31	RF	Sh	1-1	F4	Ⅰ区	-77313.279	52203.987	89.193	4.50	2.10	5.60
326	1005	RF	Ry	1-1	E5	Ⅰ区	-77324.886	52214.245	89.869	6.70	5.40	37.80

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
327	408	RF	F-Ry	1-1	E5	1区流	-77320.978	52214.192	89.756	3.50	2.40	7.50
328	463	RF	Ch	1-1	E5	1区流	-77324.263	52212.645	90.446	2.10	3.40	9.00
329	171	WF	Sub	1-3	E3	1区流	-77305.161	52211.041	88.211	2.90	4.20	13.50
330	398	RF	Ry	1-1	E5	1区流	-77324.524	52213.752	90.573	3.20	2.10	6.20
331	992	RF	Ho	1-1	E5	1区流	-77321.253	52213.773	89.447	4.60	10.40	88.80
332	485	F	R-Ch	1-1	E5	1区流	-77327.994	52212.830	91.200	3.80	2.70	9.00
333	483	F	F-Ry	1-1	E5	1区流	-77328.173	52213.816	91.300	2.90	1.30	1.20
334	697	F	Sub	1-1	F5	1区流	-77321.167	52207.144	89.929	1.10	1.20	0.70
335	894	Co	Sub	1-1	E5	1区流	-77329.382	52214.010	91.183	4.70	7.10	125.40
336	892	Co	Sub	1-1	F5	1区流	-77327.121	52207.534	91.083	3.30	2.90	19.30
337	994	Co	Ry	1-1	E5	1区流	-77321.786	52213.794	89.339	3.50	2.40	6.90
338	562	Co	F-Ry	1-3	E5	1区流	-77329.982	52210.735	91.511	3.60	4.60	26.10
339	488	Co	R-Ch	1-1	E5	1区流	-77327.438	52212.918	91.128	2.10	2.50	8.50
340	750	Mb	Ry	1-2	G5	1区流	-77328.583	52196.983	92.044	2.50	0.80	0.70
341	187	Mb	Ry	1-1	F4	1区流	-77310.094	52207.255	88.660	1.10	0.90	0.20
342	9047	Kn	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77369.335	52213.172	90.260	1.50	1.10	0.60
343	9078	Kn	Ry	2-1	E9	2-1区流	-77368.301	52211.447	90.019	2.00	1.50	1.90
344	7945	Kn	Sub	2-1	F9	2-1区流	-77363.540	52208.907	90.228	2.50	1.40	2.30
345	7848	Kn	Sub	2-1	F10	2-1区流	-77370.849	52209.509	89.925	27.50	1.40	2.50
346	8777	Kn	Sub	2-1	E10	2-1区流	-77371.606	52210.271	89.891	4.50	2.50	8.70
347	7662	Kn	Ry	2-1	E9	2-1区流	-77369.547	5215.817	90.158	4.10	1.10	1.60
348	7823	Kn	Sub	2-1	F9	2-1区流	-77367.728	52209.414	90.203	2.90	1.80	2.50
349	3874	Kn	Ch	2-1	D0	2-1区流	-77364.530	52221.479	91.071	3.00	1.80	2.40
350	3754	Kn	Ry	2-1	D9	2-1区流	-77361.524	52220.635	91.346	4.20	2.20	6.20
351	9072	Kn	Sub	2-1	F10	2-1区流	-77372.449	52209.943	89.897	4.70	2.60	7.40
352	10147	Kn	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77367.339	52214.706	89.963	3.20	1.40	3.60
353	8773	Kn	F-Ry	2-1	F10	2-1区流	-77372.225	52209.889	89.948	2.90	1.20	1.70
354	11326	Tr	F-Ry	2-1	E9	2-1区流	-77367.685	52213.880	89.711	4.00	3.20	10.00
355	9065	Tr	Ho	2-1	E10	2-1区流	-77372.138	52211.073	89.928	3.80	1.40	5.60
356	11404	Kn	Sub	2-1	E10	2-1区流	-77370.287	52208.484	89.591	3.60	1.80	3.90
357	30756	F	F-Ry	2-2	H11	2-2区田	-77387.461	52180.908	88.067	3.00	1.90	3.90
358	9005	F	Ch	2-1	E9	2-1区流	-77365.907	52210.838	90.191	1.90	3.10	4.20
359	11354	Tr	Ry	2-1	F9	2-1区流	-77366.942	52208.580	89.511	5.80	2.90	27.40
360	7910	RF	Sub	2-1	F7	2-1区流	-77366.880	52208.038	90.248	5.20	2.40	10.50
361	3873	S	F-Ry	2-1	D9	2-1区流	-77363.946	52221.376	91.273	3.30	3.00	14.50
	3828				E9		-77363.556	52222.105	91.303			
362	9080	RF	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77367.189	52215.327	90.224	4.20	2.10	8.10
363	7960	Po	Ho	2-1	E9	2-1区流	-77364.537	52210.741	90.549	7.00	2.80	18.00
364	8773	Tr	R-Ch	2-1	-	2-1区流	-	-	-	5.10	1.10	12.40
365	7737	TP	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77366.689	52211.499	90.309	3.80	1.70	6.50
366	9009	RF	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77366.032	52210.294	90.112	3.00	2.00	3.40
367	7599	RF	Ob	2-1	E10	2-1区流	-77371.592	52219.061	90.463	3.30	1.90	3.80
368	9009	WF	Sub	2-1	E10	2-1区流	-77372.673	52210.211	89.801	4.80	2.70	9.00
369	7700	WF	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77363.462	52215.413	90.392	4.80	1.80	4.80
370	3812	RF	Ry	2-1	D0	2-1区流	-77361.961	52222.247	91.281	5.35	1.80	9.30
371	7896	Mb	Sub	2-1	F9	2-1区流	-77369.781	52207.106	89.681	1.70	1.20	0.60
372	9068	Mb	Ry	2-1	E10	2-1区流	-77372.710	52210.540	89.899	1.50	0.90	0.30
373	7857	Mb	Sub	2-1	F10	2-1区流	-77370.546	52208.655	89.937	1.80	0.90	0.30
374	7631	Mb	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77369.105	52215.490	90.362	1.80	0.70	0.30
375	7840	Mb	Sub	2-1	F10	2-1区流	-77370.582	52209.526	89.925	1.30	0.80	0.20
376	7891	Mb	Ob	2-1	F10	2-1区流	-77371.657	52208.197	89.741	1.40	0.60	0.10
377	7982	Mb	Sub	2-1	F9	2-1区流	-77367.829	52209.478	90.155	1.50	1.00	0.40
378	7846	Mb	Ch	2-1	F10	2-1区流	-77371.357	52209.957	89.989	1.20	0.80	0.20
379	8796	Mb	Sub	2-1	E9	2-1区流	-77369.392	52211.207	90.123	1.10	0.90	0.10

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
380	7766	Wh	Ry	2-1	E9	2-15E	-77368.674	52210.663	90.197	0.80	0.90	0.10
381	32635	Kf	F-Ry	2-2	H10	2-25E	-77374.278	52186.470	88.805	5.50	3.10	34.50
382	30300	Kf	Sub	2-2	E12	2-25E	-77392.386	52177.643	87.768	3.40	2.00	7.40
383	31005	Kf	Sub	2-2	G10	2-25E	-77381.132	52190.003	88.237	3.00	2.10	6.30
384	30701	Kf	Ho	2-1	G10	2-25E	-77374.474	52197.842	88.744	5.00	2.30	8.70
385	8928	F	F-Ry	2-1	F8	2-15E	-77357.130	52208.921	91.397	7.00	3.60	21.70
386	20587	F	F-Ry	2-2	H11	2-25E	-77380.166	52183.982	88.494	5.50	2.50	7.40
392	30177	Go, Hs	Sa	2-2	H12	2-25E	-77396.028	52180.297	87.737	9.60	8.40	713.30
393	30309	Go, Hs	Sa	2-2	G10	2-25E	-77371.584	52194.961	88.993	12.00	4.80	426.30
394	32081	Kn	Sub	2-2	H10	2-25E	-77373.369	52186.653	88.868	1.90	1.50	1.90
395	30985	Kn	Sub	2-2	G10	2-25E	-77375.357	52197.414	88.731	3.20	2.30	6.50
396	30662	Kn	Ho	2-2	H11	2-25E	-77381.391	52189.342	88.341	4.20	1.50	3.30
397	31014	Tr	Ry	2-2	G10	2-25E	-77374.611	52195.149	88.258	3.30	1.90	5.10
398	30671	Tr	Ch	2-2	H10	2-25E	-77376.544	52189.790	88.165	2.50	1.40	2.10
399	30983	Mc	Ch	2-2	H11	2-25E	-77382.444	52182.820	88.003	2.70	1.90	7.80
400	30349	Me	F-Ry	2-2	J12	2-25E	-77397.983	52169.768	87.849	2.50	1.90	11.40
401	30983	Mc	Ch	2-2	J12	2-25E	-77399.839	52167.753	87.141	2.90	1.90	19.60
402	30267	Wh	F-Ry	2-2	I11	2-25E	-77388.166	52176.163	88.241	1.80	0.60	0.10
403	30161	Mc	F-Ry	2-2	H11	2-25E	-77389.665	52181.665	87.869	1.00	0.80	0.10
404	30540	Wh	F-Ry	2-2	H12	2-25E	-77396.814	52181.491	87.765	0.90	0.90	0.10
405	32096	Kf	F-Ry	2-2	H10	2-25E	-77374.017	52186.000	88.875	5.20	3.80	21.40
406	31019	Rf	Sub	2-2	G10	2-25E	-77376.404	52194.995	88.102	4.90	2.60	6.90
407	30885	Kf	Ch	2-2	H11	2-25E	-77387.540	52183.961	87.957	2.90	2.00	3.30
408	30181	Kf	Sub	2-2	E12	2-25E	-77391.644	52179.091	87.896	5.10	1.20	4.10
409	30885	Kf	Sub	2-2	H10	2-25E	-77383.631	52185.954	87.999	1.60	2.50	2.20
410	30888	Kf	Sub	2-2	H10	2-25E	-77379.539	52189.653	88.370	2.70	2.20	4.50
411	30112	Kf	Ch	2-2	H11	2-25E	-77387.083	52180.799	88.110	3.20	2.10	7.90
412	30629	Rf	Ch	2-2	G11	2-25E	-77383.151	52190.951	88.287	1.60	1.50	0.90
413	30302 30330	Po	Ch	2-2	E12	2-25E	-77397.054 -77396.413	52172.877 52171.696	87.477 87.715	2.90	2.00	4.20
414	-	Po	Sub	2-2	I12	35E	-	-	-	4.10	2.10	6.50
415	30297	Ip	Sub	2-2	E12	2-25E	-77392.720	52176.187	87.832	5.50	2.10	12.70
416	30945	S	Sub	3	F9	2-25E	-77366.980	52201.738	89.888	3.90	4.00	28.10
417	100167	S	Sub	3	09	35E	-77377.292	52111.269	88.548	3.60	4.50	21.10
418	30993	S	Ho	3	J13	35E	-77404.527	52196.970	86.954	4.60	7.20	56.20
419	100102	Mc	Ch	3	011	35E	-77396.412	52111.399	87.628	2.10	1.10	3.90
420	100168	Mc	Ch	3	P9	35E	-77377.724	52108.998	88.718	2.50	1.90	6.60
421	100097	Mc	Ch	3	P11	35E	-77394.273	52108.041	87.929	2.00	1.53	3.30
422	100191	Mc	F-Ry	3	N9	35E	-77377.714	52123.546	88.509	2.40	0.90	2.20
423	100132	F	Ch	3	011	原不・機丸	-77393.090	52110.787	87.872	1.90	1.00	0.80
424	-	Kn	Sub	1-2	B6	機丸	-	-	-	3.90	1.20	2.60
425	-	Kn	Sub	1-2	J5	原不	-	-	-	3.70	1.60	3.80
426	-	Kn	Sub	2-1	-	原不	-	-	-	3.30	1.60	3.90
427	-	Kn	Sub	1-1	E5	原不・機丸	-	-	-	2.60	1.60	3.50
428	-	Kn	F-Ry	1-3	-	原不・機丸	-	-	-	2.60	1.40	3.60
429	-	Kn	Sub	1-2	-	原不・機丸	-	-	-	5.80	3.20	25.60
430	-	Po	F-Ry	2-1	E8	原不・機丸	-	-	-	8.10	4.40	41.70
431	-	Bu	Ho	2-1	-	機丸	-	-	-	5.00	2.10	8.40
432	-	S	Ry	2-1	-	機丸	-	-	-	2.50	3.90	11.00
433	-	Rf	F-Ry	2-1	-	機丸	-	-	-	4.00	4.00	16.00
434	-	Rf	Sa	-	-	原不	-	-	-	6.50	9.15	114.80
435	-	F	Sub	-	-	原不・機丸	-	-	-	5.70	1.10	3.80
436	-	Co	Sub	-	-	原不・機丸	-	-	-	3.90	4.00	61.40
437	-	Rf	Sub	-	-	原不・機丸	-	-	-	6.50	6.60	48.30

番号	遺物番号	器種	石材	調査区	グリッド	層位	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
438	-	RF	Ssb	-	-	底土・機丸	-	-	-	2.70	3.80	10.90
439	2304	Ab	Ch	2-1	E8	早期	-77355.371	52213.415	91.821	2.30	1.80	1.10
440	1226	Ab	Ob	2-1	E7	早期	-77344.971	52210.320	92.855	2.00	1.50	0.50
441	1760	Ab	Ch	2-1	F7	早期	-77347.971	52206.477	92.694	1.70	1.30	0.90
442	3686	Ab	Ob	2-1	G11	早期	-77360.207	52235.219	91.640	2.20	1.30	0.70
443	2787	Ab	Ch	2-2	G10	早期	-77382.124	52190.585	88.356	2.00	1.50	0.70
444	8109	Ab	Ch	2-1	C8	早期	-77359.652	52236.665	92.367	2.40	1.40	0.70
445	4243	Ab	R-Ch	2-1	D8	早期	-77352.250	52224.978	91.861	2.70	1.80	1.40
446	2091	Ab	Ob	2-1	D8	早期	-77357.938	52227.873	92.101	1.90	1.70	0.90
447	1568	Ab	An	2-1	D8	早期	-77356.696	52224.905	91.832	1.60	1.30	0.40
448	2691	Ab	Ob	2-1	F7	早期	-77347.470	52209.324	92.646	1.50	1.20	0.20
449	6989	Ab	R-Ch	2-1	D8	早期	-77353.738	52223.784	92.389	2.10	1.60	0.80
450	11728	Ab	An	2-1	E8	早期	-77355.666	52213.666	91.678	2.00	1.90	1.30
451	1434	Ab	Ch	2-1	E7	早期	-77347.847	52213.899	92.350	1.60	1.70	0.60
452	8337	Ab	Ob	2-1	F7	早期	-77346.256	52207.019	92.743	2.80	1.80	1.60
453	6932	Ab	Ry	2-1	E8	早期	-77356.480	52212.202	91.576	1.70	1.30	0.50
454	7660	Ab	Ch	2-1	E8	早期	-77351.775	52218.605	92.295	1.05	1.20	0.20
455	1891	Ab	Ry	2-1	E8	早期	-77351.151	52215.324	92.442	1.80	1.80	0.80
456	3603	Ab	Ch	2-1	E7	早期	-77345.967	52219.649	92.857	1.60	1.40	0.50
457	3300	Ab	Ch	2-1	E7	早期	-77344.962	52212.806	92.769	1.30	1.10	0.20
458	5966	Ab	Ssb	2-1	F7	早期	-77347.802	52206.130	92.613	1.80	1.50	0.50
459	1418	Ab	An	2-1	F7	早期	-77346.238	52205.593	92.770	2.10	1.70	1.00
460	2976	Ab	Ch	2-1	F7	早期	-77344.617	52206.791	92.847	1.30	1.20	0.30
461	8282	Ab	Ch	2-1	C9	早期	-77363.660	52231.573	91.733	1.80	1.80	0.90
462	2226	Ab	Ssb	2-1	E9	早期	-77354.195	52212.176	91.879	1.70	2.00	1.00
463	7706	S	Ry	2-1	E9	早期	-77366.919	52215.257	90.361	6.20	6.00	70.10
464	7928	RF	Ob	2-1	F9	早期	-77365.167	52207.255	90.406	1.40	1.90	2.40
465	7690	RF	Ob	2-1	E10	早期	-77377.759	52218.970	89.919	1.40	1.70	1.20
466	223	Ab	Ob	1-2	G5	早期	-77297.574	52196.692	89.101	3.20	2.30	1.70
467	30646	Ab	Ob	2-2	G10	早期	-77382.124	52190.585	88.356	1.90	1.48	0.65
468	373	Ab	Ch	1-2	G5	早期	-77328.882	52196.996	92.187	1.48	1.58	0.45
469	134	Ab	Ch	1-3	E3	早期	-77309.870	52210.944	88.510	2.10	1.60	0.90
470	303	Ab	Ob	1-1	E5	早期	-77323.622	52212.780	90.432	2.10	1.40	0.60
471	409	Ab	Sh	1-1	E5	早期	-77321.601	52214.050	90.120	2.04	1.60	0.91
472	303	Ab	Ho	1-3	F3	早期	-77305.078	52207.149	88.029	2.10	1.50	0.56
473	10419	Ab	Ob	2-1	D8	早期	-77359.247	52224.772	91.438	1.30	1.04	0.25
474	30326	Ab	Ch	2-1	I12	早期	-77396.435	52173.382	87.764	2.10	1.50	1.00
475	30027	Ab	Ch	2-2	H12	早期	-77394.087	52180.294	87.355	2.20	1.25	0.40
476	11867	Ab	Ob	2-1	E8	早期	-77353.629	52213.650	91.419	1.20	1.40	0.29
477	30649	Ab	Ch	2-2	G11	早期	-77382.521	52190.340	88.404	1.25	1.40	0.45
478	100146	Ab	Ob	3	O9	早期	-77377.361	52118.272	88.358	1.27	1.20	0.25
479	8818	Ab	An	2-2	E10	早期	-77370.730	52211.933	90.124	1.90	2.10	1.37
480	-	Ab	Ch	-	-	早期	-	-	-	2.04	1.20	0.66
481	30608	Ab	Ob	2-1	H11	早期	-77384.745	52189.488	88.305	1.90	1.80	0.57
482	30653	Ab	Ch	2-2	G11	早期	-77381.947	52190.061	88.314	1.90	1.70	0.50
483	7747	Ab	Ob	2-1	E9	早期	-77367.327	52211.545	90.357	1.90	1.40	0.43
484	7929	Ab	Ch	2-1	F9	早期	-77365.208	52207.603	90.385	3.90	2.30	5.70
485	9937	Ab	An	3	D8	早期	-77355.537	52228.573	92.017	2.00	2.00	1.33
486	6517	Ax	Ho	2-1	E7	早期	-77348.167	52216.077	92.568	6.4	5.5	70.3
487	100001	Ax	Sh	3	O13	早期	-77418.391	52111.657	86.299	8.1	6.1	144.8

第6表 出土土器観察表

番号	出土番号	区	時期	器種	部位	調整・文様			胎土	色調		焼成	備考
						外面	内面	口軒部		外	内		
30533	2-2								5mm以下の(1mm未満最多)の白色・黄色・赤色の粒を多量に含む。1mm以下の雲母・長石を少量含む。				
488		縄文早期	深鉢	底部	無文				斜方向の長 設条痕のち 同方向のナ ゲの長条痕 のち同方向 のナゲ				
30535													
30590	2-2								2mm以下の長石を多量に含む。1mm以下の石英を含む。1mm以下の雲母を少量含む。				
489	30511 2-2	縄文早期	深鉢	口縁	無文				斜方向の工 具ナゲのち 横ナゲ				
	30512 2-2												
	30514 2-2												
30435 2-2	30825 2-2	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				斜方向の工 具ナゲのち 横ナゲ				
490									横ナゲ、指 細凹痕				
	3501 2-1												
491	3510 2-1	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				横・斜方向 に工具ナゲ のちナゲス 付着				
	4411 2-1												
	4416 2-1												
492	29 1-3	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				横・斜方向 横方向に工 具ナゲのち ナゲ				
493	30428 2-2	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				横・斜方向 に工具ナゲ のちナゲ				
494	9529	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				横・斜方向 に工具ナゲ のちナゲ (黒変有)				
495	30764 2-2	縄文早期	深鉢	口縁	無文				横・斜方向 に工具ナゲ のちナゲ (黒変有)				
496	760 1-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文				横・斜・縦 方向に工具 ナゲのちナ ゲ				
497	10387 2-1	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				横・斜・縦 方向に工具 ナゲのちナ ゲ				
498	30788 2-2	縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				横・斜・縦 方向に工具 ナゲのちナ ゲ				
193 1													
499		縄文早期	深鉢	口縁・胴部	無文				指押さえ有 り。斜方向 に工具ナゲ のちナゲ				
	2-2												
500	764 1-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文				横ナゲ				
	2												
501		縄文早期	深鉢	口縁	無文				横方向のナ ゲ、斜・横 斜方向の工 具ナゲのち ナゲ				
	30498 2-2												
502	3519 2-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文				斜方向の指 ナゲのち指 押さえ有 り。ナゲ ナゲ				

番号	車上番号	区	時期	器種	部位	調整・文様			色調		備考		
						外面	内面	口軒部	胎土	外		内	
30478	2-2												
503	30477	2-2	縄文早期	深鉢	口縁～胴部	無文	横・斜・縦方向に工具ナゲのちナゲ	横・斜方向に工具ナゲのちナゲ	横ナゲ	3mm以下の赤色・白色・灰色の粒を含む。2mm以下の雲母を含む。1mm未満の雲母・石英を含む。	明志陶 (5185/6)	明志陶 (5185/7) に近い焼 (7・5185/3)	良好
9085	2-1												
504	9095	2-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文	ナゲ	指押圧痕、粗いナゲ	横ナゲ	4mm以下 (1mm未満最多) の白色・黄色・赤色・灰色の粒を多量に含む。1mm以下の石英・長石を少量含む。1mm以下の雲母を含む。	明志陶 (5185/6)	明志陶 (5185/8)	良好
505	9089	2-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文		指押圧痕、粗いナゲ	横ナゲ	3mm以下 (1mm以下最多) の白色・黄色・赤色・灰色の粒を少量含む。1mm未満の石英を少量含む。	燧 (5186/6) (10186/4)	燧 (5186/6)	良好
506	4415	2-1	縄文早期	深鉢	口縁～胴部	無文	横・斜方向に工具ナゲのちナゲ (スス付着)	横・斜方向の工具ナゲのちナゲ	横ナゲ	5mm以下の赤色の粒を含む。1mm未満の雲母・長石を含む。	燧 (5184/6)	燧 (7・5184/6)	良好
507	3508	2-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文	ナゲ (黒染)、指押圧痕のちナゲ	ナゲ (黒染)、指押圧痕	横ナゲ	2mm以下 (1mm以下最多) の白色・黄色・赤色の粒を少量含む。1mm以下の雲母・石英を少量含む。1mm以下の雲母を少量含む。	明志陶 (5185/6)	明志陶 (5185/8) に近い焼 (7・5185/4)	良好
508	11803	2-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文	少量のスズ付着、横方向のナゲ	斜方向と横方向のナゲ	横ナゲ	1mm以下の白色・黄色・赤色の粒を含む。1mm未満の雲母・石英の粒をこく少量含む。	燧 (5186/6)	燧 (5186/6)	良好
8573													
509	8563	2-1	縄文早期	深鉢	口縁	無文	粗いナゲ、指押圧痕、工具による横方向のナゲの可能性あり	粗いナゲ、指押圧痕	粗いナゲ	3mm以下 (1mm未満最多) の白色・黄色・灰色の粒を多量に含む。1mm以下の雲母を多量に含む。1mm以下の石英・長石を少量含む。	明志陶 (5185/6)	明志陶 (5185/8)	良好
510	30814	2-2	縄文早期	深鉢	口縁	無文	ナゲ	横・斜め方向に工具ナゲのちナゲ	ナゲ	4mm以下の灰色・白色の粒を含む。2mm以下の石英・雲母・長石の粒を少量含む。	燧 (7・5187/4)	燧 (10187/3)	良好
511	30519	2-2	縄文早期	深鉢	口縁	無文	横方向に工具ナゲのちナゲ	横方向に工具ナゲのちナゲ	横ナゲ	3mm以下の赤色・赤色・白色の粒を含む。1mm未満の石英・長石の粒を少量含む。	明志陶 (5185/6)	燧 (10186/4)	良好
512	30801	2-2	縄文早期	深鉢	口縁	無文	斜方向に工具ナゲのちナゲ	横・斜方向に工具ナゲのちナゲ	ナゲ	5mm以下の白色・白色・赤色の粒を多量に含む。3mm以下の雲母・石英・長石の粒を多量に含む。	燧 (10187/4)	燧 (10187/3)	良好
513		2-2	縄文早期	深鉢	口縁	無文	ナゲ、黒染	斜方向の粗いナゲ、横方向の粗いナゲ		5mm以下 (1mm未満最多) の白色・黄色・赤色・灰色の粒を含む。1mm未満の雲母・石英・長石を少量含む。	燧 (7・5184/3)	燧 (7・5184/3)	良好
90526	2-2												
514	90532	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	無文	斜方向の貝殻染痕のち同方向のナゲ	横・斜方向の工具ナゲのちナゲ		4mm以下 (1mm以下最多) の白色・黄色・赤色・灰色の粒を含む。1mm以下の石英をこく少量含む。1mm未満の雲母をこく少量含む。	燧 (5186/6)	燧 (5186/6)	良好
515	786	1-1	縄文早期	深鉢	胴部	無文	粗いナゲ	粗いナゲ		1mm未満の雲母を含む。1mm未満の石英を含む。1mm未満の長石を少量含む。	明志陶 (5185/6)	燧 (7・5185/4)	混和材に細長い横割質のものを用いている
516	30795	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	無文	横方向の貝殻染痕のち一部斜方向の貝殻染痕がみられる	粗いナゲのち一部斜方向の貝殻染痕がみられる		2mm以下の白色・黄色・赤色・灰色の粒を含む。1mm以下の石英をこく少量含む。1mm未満の雲母を少量含む。	燧 (5184/6)	燧 (7・5184/6)	良好
517	8028	2-1	縄文早期	深鉢	底部	無文	ナゲ、丸底	ナゲ		4mm以下 (1mm以下最多) の白色・黄色・灰色・赤色の粒を多量に含む。1mm未満の雲母をこく少量含む。	燧 (5186/6)	燧 (7・5184/6)	良好
518		2-1	縄文早期	深鉢	底部付近	無文	ナゲ	ナゲ		2mm以下の白色・灰色・赤色・黄色の粒を含む。2mm以下の雲母をこく少量含む。1mm未満の石英をこく少量含む。	明志陶 (5185/6)	明志陶 (5185/6)	良好
519	4180	2-1	縄文早期?	深鉢	底部	無文	ナゲ	ナゲ、粗いナゲ		3mm以下 (1mm未満最多) の白色・灰色の粒が含まれる。1mm未満の石英が少量含まれる。1mm以下 (1mm未満最多) も雲母を含む。	燧 (7・5186/6)	燧 (7・5186/6)	良好

番号	車上番号	区	時期	器種	部位	調整・文様		胎土	色調		焼成	備考	
						外面	内面		外	内			
520	911	1-2	縄文早期	深鉢	底部	無文	粗いナデ 底部に指押 えあり	5mm以下の赤色・白色の粒を含む。1mm未満の雲母・石英・長石の粒を含む。	明赤褐 (5YR5/6)	赤褐 (5YR4/6)		患和村に類似 の織物を用いてい る	
521	50002 50003	1	縄文早期	深鉢	口縁へ胴部	条状文	横ナデ。斜 方向に長方 形条痕のち 一部ナデ	横ナデのち キザ目。斜 方向に長方 形条痕のち 一部ナデ	6mm以下の灰色の粒を多く含む。1mm以下の白色の粒を含む。1mm未満の雲母・石英を含む。	燈 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	良好	
522	9519	2-1	縄文早期	深鉢	口縁	条状文	指押正直。 横・斜方向 の長条条痕 の粗いナデ 文。ヌズク 着。黒葉 が著しい。	林状工具に よる斜位の ナデ(黒化が 著しい)。可 能あり 黒葉	3mm以下の(1mm未満最多)の白色・黄色・灰色の粒を多量に含む。2mm以下の雲母を多量に含む。	にぶい燈 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	良好	
523	918	1-2	縄文早期	深鉢	口縁	条状文	長条条痕の ち横ナデ	ナデ。斜方 向のキザ目	5mm以下の灰色の粒を含む。 4mm以下の白色の粒を含む。	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	良好	
524	30784	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	条状文	長条条痕文	ナデ。黒化 が著しい。	4mm以下の灰色・黄色・赤 色の粒を多量に含む。2mm 以下の石英・雲母・長石の 粒を多量に含む。1mm未満 の黒色の粒を含む。	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	良好	
525	30444	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	条状文	長条条痕文 のち横ナデ	横ナデ	3mm以下の赤色・灰色の粒 を含む。2mm以下の石英を 含む。2mm以下の黒色・白 色の粒を多量に含む。1mm 以下の雲母・長石を含む。	明赤褐 (2.5YR5/8)	赤褐 (5YR4/6)	良好	
526	30787 2-2 30823 2-2 30824 2-2 30826 2-2	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	条状文	斜方向の長 条条痕	ナデのちナ デ	4mm以下の赤色を多量に含 む。2mm以下の石英を少量 含む。1mm以下の雲母を少 量含む。	にぶい黄褐 (10YR7/3)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	良好	
527	33060	2-2	縄文早期	深鉢	口縁	押型文	山形押型文	粗いナデ	4mm以下(1mm以下最多) の白色・黄色・赤色の粒を 含む。2mm以下(1mm以下 最多)の雲母を多量に含む。 1mm未満の石英を少量含む。	明黄褐 (10YR7/6)	浅黄褐 (10YR8/4)	良好	
528		2-1	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデ	7mm以下の赤色をごく少 量含む。4mm以下の赤色・ 黒色・白色の粒を多量に含 む。2mm以下の雲母・長石 の粒を含む。	燈 (5YR6/6)	にぶい燈 (7.5YR6/4)	良好	
529		2-1	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデ	6mm以下の白色・赤色の粒 を多量に含む。4mm以下の 黒色・灰色の粒を多量に含 む。3mm以下の雲母・長石 の粒を多量に含む。	燈 (7.5YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	良好	
530	30445	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデのちナ デ	4mm以下(1mm以下最多) の長石を多量に含む。4mm 以下の赤色の粒を少量含む。 1mm以下の石英・雲母 を多量に含む。	にぶい黄褐 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR6/5)	良好	
531	30497	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデ。黒化 が著しい。	3mm以下の赤色・黒色・灰 色の粒を多量に含む。2mm 以下の雲母・石英・長石の 粒を多量に含む。	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	良好	
532	30462	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデのちナ デ	3mm以下の赤色・黒色・灰 色の粒を少量含む。2mm以下の長 石・雲母を多量に含む。1 mm以下の石英を含む。	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	良好	
533	30763	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデ。黒化 が著しい。	6mm以下(2mm以下最多) の白色・黄色・赤色・灰色・ 黒色の粒を多量に含む。2 mm以下の雲母をごく少量含 む。1mm以下の長石を少量 含む。	明黄褐 (10YR7/6)	黄褐 (10YR6/6)	良好	
534	30502	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナデ。黒葉 文。一部黒 化気味	3mm以下(1mm以下最多) の雲母を含む。2mm以下(1 mm以下最多)の白色・黄色・ 黒色・灰色の粒を多量に含 む。1mm未満の石英を少量 含む。	燈 (5YR6/8)	灰黄褐 (10YR4/2)	良好	
535	33072	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	斜方向に工 具ナデのち ナデ	4mm以下の黒色・赤色・灰 色の粒を多量に含む。3mm 以下の黒色・赤色・白色・ 黄色の粒を多量に含む。2 mm以下の雲母・石英・長石 の粒を含む。	燈 (7.5YR7/6)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	良好	
536	30493	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	ナデのち山 形押型文	不明瞭だが 山形押型文	3mm以下の白色・赤色・黒 色の粒を含む。2mm以下の 雲母を含む。1mm未満の長 石・石英を含む。	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい燈 (7.5YR5/4)	良好	

番号	車上番号	区	時期	器種	部位	調整・文様			胎土		色調		焼成	備考
						外面	内面	口唇部	外	内				
537	32065	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	ナゲのち山 具ナゲのち ナゲ	斜方向に工 具ナゲのち ナゲ	4mm以下の灰色・黒色・赤色の粒を含む。2mm以下の雲母を多量に含む。1mm未満の黒石を少量含む。1mm未満の石英を少量含む。	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好		
	30508	2-2							3mm以下の黒色の粒を含む。2mm以下の石英・雲母を含む。2mm以下の白色・灰色の粒を多量に含む。	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好		
538			縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文		3mm以下の白色・灰色の粒を多量に含む。2mm以下の雲母・石英・長石を多量に含む。2mm以下の黒色の粒を多量に含む。	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好		
	30509	2-2							3mm以下の白色・灰色の粒を多量に含む。2mm以下の雲母・石英・長石を多量に含む。2mm以下の黒色の粒を多量に含む。	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好		
539	32070	2-2	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	横ナゲ	4mm以下の長石(1mm以下最多)を含む。4mm以下の雲母を含む。2mm以下の黒色・赤色の粒を含む。1mm以上の石英を含む。	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好		
540	100231	3	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文、風化が著しい	風化が著しい	4mm以下の長石(1mm以下最多)を含む。4mm以下の雲母を含む。2mm以下の黒色・赤色の粒を含む。1mm以上の石英を含む。	燈 (7.5YR7/6)	浅黄 (2.5Y7/3)	良好		
541	100229	3	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナゲ、風化が著しい	4mm以下の長石を極少量含む。4mm以下の雲母を含む。1mm以下の長石を含む。1mm以下の石英を含む。	燈 (7.5YR7/6)	浅黄 (2.5Y7/3)	良好		
542	100230	3	縄文早期	深鉢	胴部	押型文	山形押型文	ナゲ、風化が著しい	2mm以下の白色・黄色の胎土の可能性あり	明黄褐 (7.5YR7/6)	にぶい黄褐 (10YR7/6)	良好		
543		2-1	縄文早期	深鉢	口縁	押型文	菱形押型文、ナゲ	ナゲ	3mm以下の白色・赤色の粒を含む。1mm未満の長石・雲母を含む。	明黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄褐 (10YR7/6)	良好		
544	9589	2-1	縄文早期	深鉢	頸部～胴部	押型文	ナゲのち菱形押型文	斜方向に工 具ナゲのち ナゲ	3mm以下の白色・赤色の粒を含む。1mm未満の長石・雲母を含む。	明黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄褐 (10YR7/6)	良好		
545	4433	2-1	縄文早期	深鉢	口縁～胴部	押型文	菱形押型文、黒炭・赤炭・スス	ナゲの可能性あり	2mm以下の白色・黄色の胎土の可能性あり	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	良好		
546		1-2	縄文早期	深鉢	胴部	基ノ地	ナゲのち比羅文	ナゲ	2mm以下の黒色の粒を含む。1mm未満の雲母・石英・長石の粒を多量に含む。	燈 (5YR5/6)	燈 (5YR5/6)	良好		
547	4414	2-1	縄文早期	深鉢	胴部	下割釜式	刺突文	ナゲ	2mm以下の雲母・石英・長石の粒を多量に含む。2mm以下の黒色・赤色・灰色の粒を含む。	燈 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	良好		
548	4427	2-1	縄文早期	深鉢	胴部	下割釜式?	斜方向に工 具ナゲのち ナゲのち連続刺突文	斜方向に工 具ナゲのち ナゲのち ナゲ	2mm以下の白色の粒を含む。2mm以下の赤色の粒を含む。1mm未満の雲母・長石を多量に含む。	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明褐 (7.5YR5/6)	良好		
549	703	1-1	縄文早期	深鉢	胴部	下割釜式?	ナゲのち連続する刺突文	ナゲ	1mm未満の雲母を少量含む。1mm以下の石英を少量含む。2mm以下の長石を少量含む。2mm以下の(最多1mm未満)の白色・黄色の粒を多量に含む。	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	良好		
550	4432	2-1	縄文早期	深鉢	胴部	下割釜式	ナゲのち連続刺突文	斜方向に工 具ナゲのち ナゲ	3mm以下の赤色の粒を含む。1mm未満の雲母・長石を多量に含む。	明赤褐 (5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	良好		
551	30480	2-2	縄文早期	深鉢	口縁～頸部	?	ナゲ、風化が著しい	ナゲ	3mm以下の(2mm以下最多)の白色・黄色・赤色・黒色の粒を多量に含む。2mm以下の雲母を含む。1mm以下の石英を少量含む。	黄褐 (10YR5/6)	浅黄褐 (10YR5/4)	良好		
552	30472	2-2	縄文早期?	深鉢	胴部	?	斜方向に工 具ナゲのち ナゲ、刺突文	斜方向に工 具ナゲのち ナゲ	2mm以下の白色・赤色・黒色の粒を含む。1mm未満の長石を多量に含む。1mm未満の雲母・石英を含む。	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	良好		
553	9493	2-1	縄文早期	深鉢	底部	条痕文	カ?		5mm以下の(1mm最多)の長石が多量に含まれる。3mm以下(1mm以下最多)の白色・黄色・灰色・赤色・黒色が多量に含まれる。2mm以下(1mm未満最多)の雲母が多量に含まれる。1mm以下の石英が少量含まれる。	にぶい褐 (7.5YR5/4)	燈 (5YR5/6)	良好		
554	100118	3	縄文晩期	浅鉢	口縁	少量のスス付	ナゲ	横ナゲ	1mm以下の長石・石英・雲母を含む。	燈 (7.5YR4/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好		
555	100091	3	縄文晩期	浅鉢	胴部	横方向の貝殻炭灰、粘付炭層、スス付着	ナゲ	ナゲ	2mm(1mm未満)の白色・黄色・赤色・灰色の粒を含む。1mm以下の雲母を少量含む。	燈 (7.5YR4/3)	明赤褐 (5YR5/6)	良好		

第7表 接合資料計測表

番号	取上番号	石材	区	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
接1		Ch					2.00	1.60	1.50
298	177	Ch	1	-77314.908	52213.111	88.973	2.10	4.20	23.50
299	404	Ch	1-3	-77321.965	52214.696	90.888	2.00	1.80	3.20
接2		Ry					4.00	5.10	28.50
314	1020	Ry	1-1	-77325.852	52190.332	92.672	2.20	5.00	10.20
312	1020	Ry	1-1	-77325.852	52190.332	92.672	3.70	3.50	13.80
313	896	Ry	1-1	-77322.046	52194.901	91.445	3.20	1.40	3.30
接3		Ry					4.60	5.00	20.00
388	20191	Ry	2-2	-77292.545	52180.557	87.484	1.70	1.80	1.20
387	20276	Ry	2-2	-77290.044	52174.044	88.602	4.60	5.00	18.80
接4		Ry					6.40	4.00	22.70
389	20767	Ry	2-2	-77386.677	52187.459	87.906	3.10	3.20	10.00
390		Ry	2-2				3.60	4.00	12.70
接5		Ry							
391	20095	Ry	2-2	-77386.433	52181.202	88.323	4.10	2.50	12.10
391	20068	Ry	2-2	-77388.023	52183.092	88.025			6.40
接6		Sh					5.40	5.70	83.60
558	9393	Sh	2-1	-77344.517	52213.806	92.700	3.40	4.00	24.90
556	11491	Sh		-77353.629	52213.05	91.419	3.80	1.20	1.50
557	10957	Sh	2-1	-77349.292	52209.231	92.180	3.60	4.80	35.20
接7		Sh					7.60	10.00	414.40
559	6627	Sh	2-1	-77344.668	52209.320	92.676			
560	1935	Sh	2-1	-77338.067	52209.098	91.403	4.00	4.80	22.40
561	9467	Sh	2-1	-77372.889	52208.714	89.673	2.20	4.80	9.60
接8		Sub					2.60	3.30	4.30
563	10178	Sub	2-1	-77346.792	52217.638	92.408	2.30	2.10	
562	11986	Sub	2-1	-77347.777	52216.422	92.302	2.50	1.70	
接9		Ry					4.60	8.10	75.20
567	7995	Ry	2-1	-77372.385	52208.365	89.707	3.70	3.00	31.90
564	8760	Ry	2-1	-77355.946	52222.594	91.816	2.80	3.70	20.70
565	9773	Ry	2-1	-77355.385	52222.458	91.859	3.60	1.90	7.30
566	9866	Ry	2-1	-77354.926	52222.184	91.860	3.00	2.50	5.30
接10		Ry					1.80	3.60	8.40
572	4257	Ry	2-1	-77358.169	52219.640	91.584	2.20	3.60	4.00
571	7670	Ry	2-1	-77370.512	52213.706	89.804	1.70	3.40	2.40
570	8462	Ry	2-1	-77356.658	52221.898	91.679	0.90	2.50	2.00
接11		Ry					4.30	5.00	32.90
574	7849	Ry	2-1	-77371.753	52209.498	89.933	3.20	2.60	8.30
573	10021	Ry	2-1	-77352.291	52219.467	92.174	4.30	2.00	24.60
接12		Ry					2.60	3.70	6.10
575	8913	Ry	2-1	-77356.567	52210.888	91.535	2.20	2.05	2.40
576	8958	Ry	2-1	-77350.834	52211.816	92.092	2.60	2.50	3.70
接13		Ch					3.60	2.20	8.90
580	9747	Ch	2-1	-77344.645	52210.747	92.614	2.70	1.20	1.70
579	1556	Ch	2-1	-77347.617	52210.954	92.635	3.00	1.90	2.30
578	2205	Ch	2-1	-77352.921	52210.181	92.618	2.90	1.60	3.00
581	2058	Ch	2-1	-77357.200	52211.210	91.541	1.70	1.30	1.10
接14		Ch					2.80	2.90	7.80
582	8897	Ch	2-1	-77355.095	52209.799	91.707	2.80	1.90	3.40
585	20209	Ch	2-1	-77355.888	52209.496	91.787	2.00	1.00	0.50
584	6346	Ch		-77345.829	52209.711	92.680	1.90	1.60	1.60
538	6059	Ch	2-1	-77348.835	52209.909	92.448	2.30	1.90	2.30
接15		Ch					3.10	5.00	10.20
587	2429	Ch	2-1	-77350.878	52218.237	92.427	2.10	2.10	1.80
588	5899	Ch	2-1	-77346.094	52211.335	92.624	2.50	1.70	2.20
586		Ch	2-1	-77356.144	52212.201	91.560			
586	8737+10994	Ch	2-1	-77347.621	52211.750	92.451	3.10	3.80	6.20

番号	取上番号	石材	区	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
棟16		Ch					4.20	7.60	101.70
593	3011+6990	Ch	2-1	-77349.241	52209.438	92.599	5.30	2.90	15.10
		-77355.579		52212.469	91.687				
590	1488	Ch	2-1	-77346.327	52209.397	92.755	2.00	1.90	1.80
592	6335	Ch	2-1	-77345.147	52211.508	92.641	4.60	7.70	77.90
591	1149	Ch	2-1	-77344.572	52210.936	92.837	3.30	2.80	6.20
589	2105	Ch	2-1	-77356.222	52210.799	91.750	1.50	1.50	0.60
棟17		Ch					2.40	3.30	32.40
594	7529	Ch	2-1	-77347.296	52211.618	92.536	2.90	3.40	13.40
597	3177	Ch	2-1	-77346.389	52209.897	92.656	2.20	3.20	15.40
596	3253	Ch	2-1	-77345.394	52210.432	92.745	1.80	2.20	2.70
595	11022	Ch		-77347.080	52210.443	92.435	1.60	1.10	1.00
棟18		Bo					5.20	7.20	39.00
600	7301	Bo	2-1	-77354.607	52217.885	91.889	4.20	3.00	6.90
599	1088	Bo	2-1	-77344.465	52214.276	92.833	4.20	4.00	13.50
598	2688	Bo	2-1	-77353.829	52224.182	92.388	5.00	3.20	18.60
棟19		Bo					3.60	5.00	78.70
601	11635	Bo	2-1	-77348.896	52219.172	92.183	3.50	4.70	34.30
604	11749	Bo	2-1	-77348.883	52215.302	92.078	3.10	3.20	7.10
602	11642	Bo	2-1	-77348.629	52218.773	92.213	3.50	1.30	6.00
603	11747	Bo	2-1	-77349.052	52215.316	92.082	3.70	3.70	11.00
棟20		Sa					3.90	7.80	266.00
606	3153	Sa	2-1	-77348.319	52209.614	92.569	3.90	7.80	238.10
605	1852	Sa	2-1	-77349.103	52208.876	92.485	4.20	4.80	27.90
棟21		Sh					8.10	10.80	182.70
608	11446	Sh	2-1	-77348.218	52216.370	92.264	6.80	8.00	112.50
609	10229	Sh	2-1	-77345.773	52220.398	92.568	6.80	6.50	60.70
	11443	Sh		-77348.624	52216.499	92.232			
607	12082	Sh	2-1	-77348.476	52217.428	92.259	3.60	3.70	9.60
棟22		Sh					5.80	4.50	40.50
610	9816	Sh	2-1	-77345.114	52209.136	92.605	5.80	4.50	39.40
611	2433	Sh	2-1	-77355.553	52209.988	91.089	1.60	1.80	1.10
棟23		Sh					4.00	5.80	101.50
612	10971	Sh	2-1	-77350.314	52211.542	92.097	4.10	4.70	80.60
613	11933	Sh	2-1	-77345.676	52214.725	92.400	4.90	3.40	20.90
棟24		Sh					3.60	6.00	36.50
615	10833	Sh	2-1	-77351.196	52208.966	91.968	4.80	3.30	19.60
616	9652	Sh	2-1	-77349.709	52209.962	92.203	3.20	3.40	13.90
614	10970	Sh	2-1	-77349.612	52210.902	92.184	1.70	2.30	3.00
棟25		Fy							
617	9729	Fy	2-1	-77350.223	52216.571	92.283	3.70	2.10	5.50
618	2898	Fy	2-1	-77357.369	52216.910	91.595	5.40	2.80	21.40
569									
569	9858	Fy	2-1	-77351.456	52220.366	92.172	4.10	4.30	46.00
569	6894	Fy	2-1	-77350.402	52220.746	92.344			
棟26		Bo					12.80	11.00	612.30
620	7546	Bo	2-1	-77346.716	52213.663	92.585	12.80	11.00	608.00
619	6947	Bo	2-1	-77356.696	52214.732	91.543	2.40	2.90	4.30
棟27		Fy					4.6	7.2	95.8
621	8778	Fy	2-1	-77371.993	52210.626	89.95	3.9	3.11	12.6
622	11615	Fy	2-1	-77345.474	52222.594	92.789	2.91	7.2	83.2
棟28		Fy					6.00	7.00	113.60
623	6948	Fy	2-1	-77356.666	52214.511	91.527	4.50	5.30	25.50
624	6527	Fy	2-1	-77349.128	52215.094	92.434	5.50	5.70	88.10
棟29		Bo					13.20	91.50	285.40
625	12071	Bo	2-1	-77348.936	52217.668	92.203	9.30	7.00	182.80
626	9410	Bo	2-1	-77348.221	52218.461	92.349	9.50	4.30	102.90

番号	取上番号	石材	区	X座標	Y座標	高さ(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
接30		Bo					7.80	9.60	344.70
628	3015	Bo	2-1	-77348.108	52207.685	92.581	7.90	8.80	291.30
627	6416	Bo	2-1	-77345.571	52222.269	93.608	4.30	5.40	40.00
629	11809	Bo	2-1	-77345.013	52223.588	93.117	3.70	3.80	13.40
接31		Ry					4.40	4.00	34.80
631	11494	Ry	2-1	-77438.166	52221.23	92.122	3.30	2.60	8.30
632	11845	Ry	2-1	-77348.445	52209.675	92.007	2.30	1.10	1.30
630	11846	Ry	2-1	-77348.428	52209.741	92.003	3.40	3.90	25.20
接32		Ch					4.50	2.20	35.70
633		Ch	2-1	-77344.381	52212.045	92.663			
633	9359a+9359b	Ch	2-1	-77344.381	52212.045	92.663	3.50	2.90	21.20
635		Ch	2-1	-77344.381	52212.045	92.663			
635	9359b-9359a	Ch	2-1	-77344.381	52212.045	92.663	2.40	2.00	5.00
634	9359	Ch	2-1	-77344.381	52212.045	92.663	3.20	2.00	9.50
接33		Ch					5.70	5.10	58.80
637	5904	Ch	2-1	-77346.337	52211.697	92.623	5.70	5.10	48.20
636	7759	Ch	2-1	-77368.104	52216.709	90.334	5.00	2.40	10.60
接34		Ch					5.30	8.20	127.40
640	5902	Ch	2-1	-77345.829	52211.606	92.661	5.30	7.10	110.70
638	1299	Ch	2-1	-77345.434	52211.003	92.736	2.10	3.00	13.60
639	11461	Ch	2-1	-77346.048	52213.467	92.515	1.80	2.90	3.10
310		Ch	1-1						
310	829	Ch	1-1	-77322.972	52174.661	93.020			
310	830	Ch	1-1	-77322.460	52175.087	93.036	6.00	5.50	42.90
310	831	Ch	1	-77322.409	52175.701	93.022			
接35		Ry					3.50	5.20	39.50
641	7943	Ry	2-1	-77363.846	52207.033	90.377	2.70	2.40	6.70
642	8873	Ry	2-1	-77353.887	52209.005	91.773	3.30	4.90	32.70
接36		Sh	2-1				5.10	4.10	38.70
643	2258	Sh	2-1	-77354.342	52214.935	91.968	2.20	1.30	3.00
644	1871	Sh	2-1	-77351.007	52213.263	92.369	3.00	2.00	3.00
645	2280	Sh		-77354.342	52214.935	91.968	2.30	1.24	3.00
接37		Ch					2.00	3.60	8.90
646	11768	Ch	2-1	-77351.103	52217.056	92.076	1.70	2.30	3.10
648	9733	Ch	2-1	-77351.381	52217.322	92.104	1.80	2.20	3.20
647	8827	Ch	2-1	-77369.754	52212.379	90.037	1.70	2.00	1.40
649	9732	Ch	2-1	-77350.697	52217.277	92.227	1.50	1.70	1.20
接38		Ry					6.00	4.40	25.70
651	10832	Ry	2-1	-77350.859	52209.064	92.034	6.10	3.90	20.70
650	11345	Ry	2-1	-77366.790	52208.992	89.661	3.00	3.00	5.10
577		Ry							
577	8881	Ry	2-1	-77354.112	52220.907	92.095			
577	11085	Ry	2-1	-77351.320	52222.892	92.231	3.60	4.50	13.20
568		Ry							
568	3823	Ry	2-1	-77363.250	52220.988	91.096			
568	8075	Ry	2-1	-77352.548	52225.668	92.310	3.30	3.90	18.50
接39		Bo					10.90	8.90	356.50
652	11346	Bo	2-1	-77366.612	52208.853	89.534	2.80	3.00	3.60
653	11397	Bo	2-1	-77369.512	52208.014	89.329	10.90	8.90	352.90

第IV章 自然科学分析の結果

第1節 分析の目的

舟川第2遺跡は宮崎平野北部尾鈴山地東麓の山間地を流れる心見川、およびその支流沿いに形成された狭小な段丘上に立地する。尾鈴山地は、新第三紀中新世中期に形成された尾鈴火山深成複合岩体により構成されており、主に黒雲母流紋岩溶結凝灰岩や黒雲母斜方輝石デイサイト溶結凝灰岩などが分布している。舟川第2遺跡が載る段丘は、いずれも中期更新世の100～50万年前に形成された推原段丘である。

今回実施された発掘調査では、縄文時代早期を中心とした遺構・遺物が確認されたほか、その下位の層準から旧石器時代とされる石器群が出土している。今回の分析調査は、これらの遺物包含層を含む堆積層断面より、層序対比の指標となるテフラを検出し、その降灰層準を推定するとともに、その推定結果に基づき、遺物包含層の年代や層序に関する基礎資料を作成することを目的とした。

第2節 試料の提示

今回の分析調査では、舟川第2遺跡の土層断面が対象とされた。2-1区に隣接する壁面、3区及び2-1区という3箇所の断面から、No.1～No.19までの合計19点の試料が採取された。以下に、遺跡の土層断面の状況と採取試料について述べる。

(1) 2-1区に隣接する壁面

No.1～No.10までの10点の試料が採取された断面である。土層断面は上位よりVI層からIV層までの分層がなされており、試料は各層から1点ずつ採取されている。柱状図は分析結果を示した第92図に併記する。VI層は黒褐色土であるが、VII層以下は褐色～明褐色土である。ま

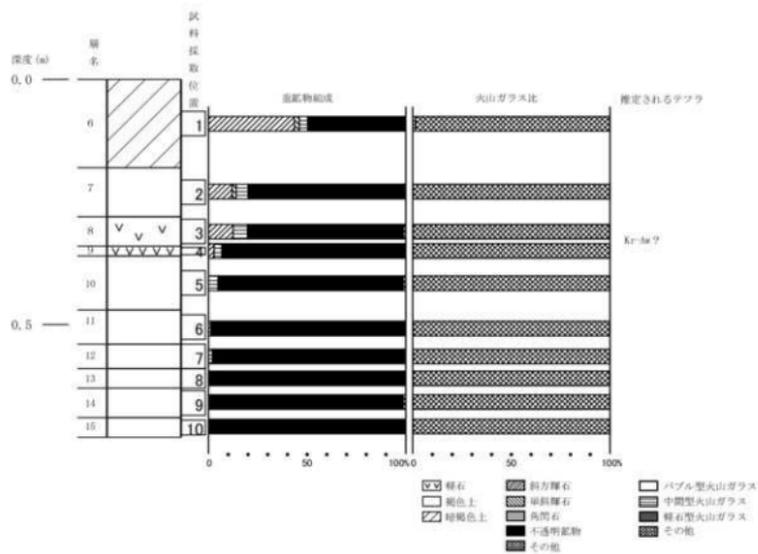
た、VIII層及びIX層は、径1～2mmの黄色軽石を多く含む層位であり、IX層は酸化鉄が濃集し、硬化している。本断面では、いずれの層位も遺物包含層とされていない。

(2) 3区

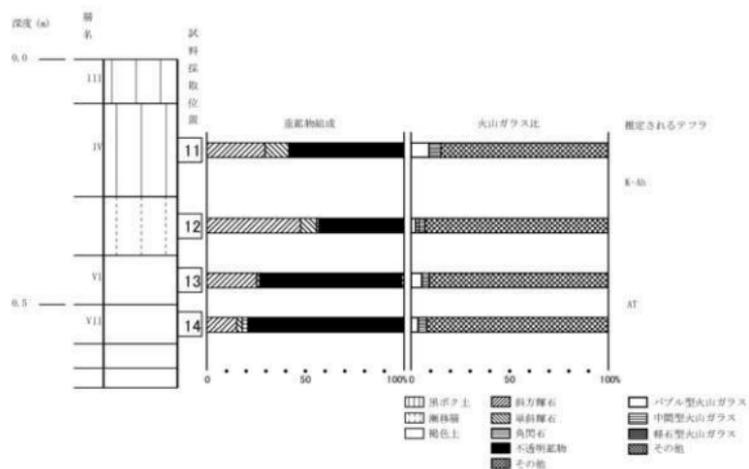
No.11～No.14までの試料が採取された断面である。上位よりIII層からVII層までの分層がなされており、試料はIV層からVII層までの各層から1点ずつ採取されている。柱状図は、分析結果を示した第93図に併記する。IV層及びV層は黒褐色土、VI層は暗褐色土、VII層は褐色土である。各層には径数mm程度の灰白色岩片が微量含まれているが、平山下原遺跡(田中・川俣2011)のIV層以下に含まれている岩片と同様、基盤岩に由来する岩片である。発掘調査の結果、IV層及びV層から縄文土器、石鏃、剥片が出土し、VI層からは旧石器時代の剥片が出土している。

(3) 2-1区

No.15～No.19までの試料が採取された断面である。上位よりIII層、IV層、V a層、V b層及びVI層までの分層がなされており、試料は、III層からVI層までの各層から1点ずつ採取されている。柱状図は、分析結果を示した第94図に併記する。III層は、試料の外観から褐色を呈する土壌化した細粒火山ガラス質テフラ層であり、IV層は黒褐色土、V a層とVI層は褐色土、V b層は褐色土である。発掘調査の結果、IV層から縄文土器、石鏃、剥片が、V a層からはナイフ形石器、台形石器、剥片尖頭器、細石刃核、細石刃が、V b層からはナイフ形石器、剥片尖頭器が、VI層からはナイフ形石器などが出土している。



第92図 舟川第2遺跡2-1区に隣接する壁面の重鉱物組成および火山ガラス比

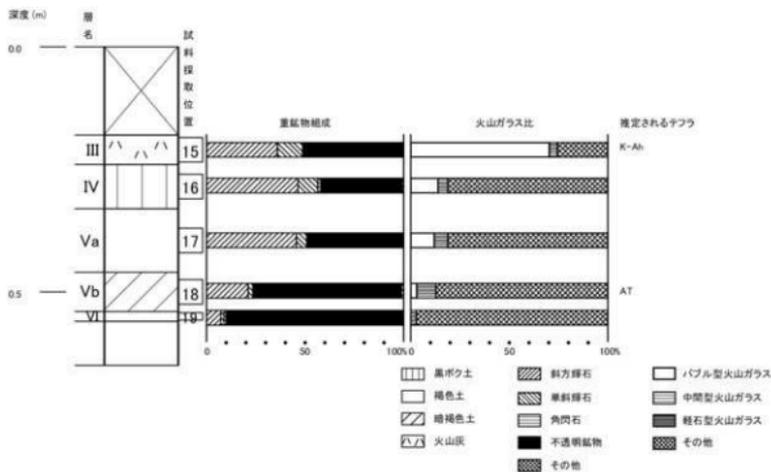


第93図 舟川第2遺跡3区の重鉱物組成および火山ガラス比

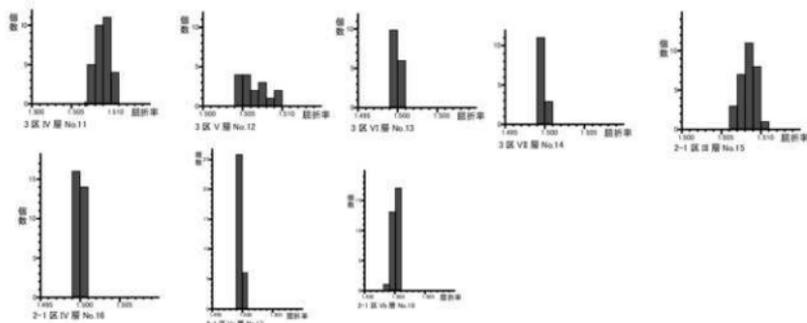
第8表 舟川第2遺跡における重鉱物・火山ガラス比分析および屈折率測定結果

地点名	層名	試料番号	重鉱物組成					火山ガラス比					屈折率											
			斜方輝石	単斜輝石	角閃石	斜ゆうれん石	不透明鉱物	その他	合計	火山ガラス比				火山ガラス			重鉱物							
										バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	斜石型火山ガラス	その他	合計	形態	平均値	最小値	最大値	測定回数	種類	平均値	最小値	最大値	測定回数
町田沿い	VI層	No.1	109	6	11	0	124	0	250	0	3	2	245	250	---	---	---	---	---	opx	1.665	1.693	1.697	30
	VI層	No.2	30	3	15	0	198	2	250	0	0	0	250	250	---	---	---	---	---	opx	1.667	1.695	1.698	30
	VI層	No.3	31	1	18	0	198	2	250	0	0	0	250	250	---	---	---	---	---	opx	1.698	1.695	1.700	34
	IX層	No.4	7	0	10	0	232	1	250	0	0	1	249	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	X層	No.5	1	0	12	1	235	1	250	1	0	0	249	250	---	---	---	---	---	ho	1.675	1.672	1.677	30
	X I層	No.6	0	0	3	0	246	1	250	2	0	0	248	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	X II層	No.7	0	0	5	0	243	2	250	0	0	0	250	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	X III層	No.8	0	0	0	1	249	0	250	0	0	0	250	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	X IV層	No.9	0	0	2	1	247	0	250	0	0	0	250	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	X V層	No.10	0	0	0	0	250	0	250	0	0	0	250	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
坂区	IV層	No.11	74	30	1	0	144	1	250	23	0	15	212	250	bw, pm	1.509	1.507	1.510	30	opx	1.707	1.705	1.710	30
	V層	No.12	119	20	3	1	107	0	250	6	4	8	232	250	bw, pm	1.506	1.504	1.510	16	opx	1.706	1.704	1.708	30
	VI層	No.13	63	4	2	0	180	1	250	14	1	9	236	250	bw, pm	1.500	1.499	1.500	16	opx	1.713	1.709	1.716	32
	IX層	No.14	38	7	7	0	197	1	250	9	0	11	230	250	bw	1.500	1.499	1.500	14	---	---	---	---	
2-1区	III層	No.15	90	32	1	0	127	0	250	176	0	10	64	250	bw	1.508	1.506	1.510	30	opx	1.709	1.706	1.711	31
	IV層	No.16	116	25	4	0	103	2	250	35	0	12	203	250	bw	1.500	1.499	1.500	30	opx	1.714	1.713	1.715	34
	Va層	No.17	114	13	1	0	122	0	250	30	0	17	203	250	bw	1.500	1.499	1.500	30	---	---	---	---	
	Vb層	No.18	53	6	2	0	188	1	250	8	1	24	217	250	bw	1.500	1.498	1.501	31	opx	1.707	1.706	1.709	32
	VI層	No.19	18	4	3	0	224	1	250	1	2	7	240	250	---	---	---	---	---	opx	1.708	1.705	1.711	30

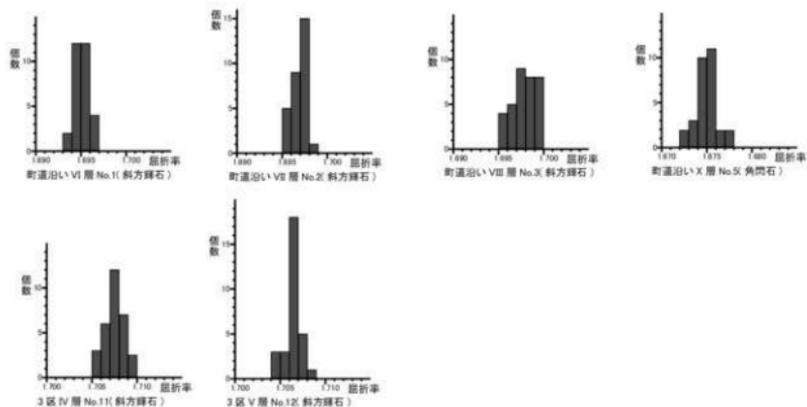
bw:バブル型 pm:斜石型 opx:斜方輝石 ho:角閃石



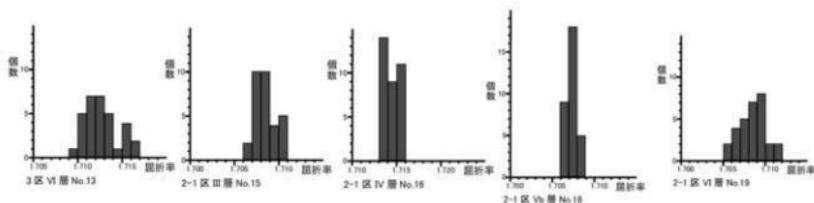
第94図 舟川第2遺跡2-1区の重鉱物組成および火山ガラス比



第95図 舟川第2遺跡の火山ガラスの屈折率



第96図 舟川第2遺跡の重鉱物の屈折率



第97図 舟川第2遺跡の斜方輝石の屈折率

第3節 分析の方法

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒及び変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状及び気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。また、火山ガラス比における「その他」は、主に石英及び長石などの鉱物粒と変質等で同定の不可能な粒子を含む。火山ガラス、斜方輝石および角閃石の屈折率の測定は、MAIOTを使用した温度変化法を用いた。

第4節 分析の結果

(1) 重鉱物組成および火山ガラス比

2-1区に隣接する壁面 結果を第8表、第92図に示す。重鉱物組成は、XV層～XI層までは、ほとんど不透明鉱物のみであり、X層に微量の角閃石が含まれ、IX層には微量の角閃石と斜方輝石が含まれる。VIII層及びVII層では少量の斜方輝石と角閃石が含まれ、斜方輝石の方が角閃石より若干多い。VI層では、斜方輝石と不透明鉱物がほぼ同量程度で主体を占め、微量の単斜輝石と角閃石を伴う組成である。火山ガラ

ス比では、XV層～VI層までの全層位において、いずれの形態もほとんど含まれない。

3区 結果を第8表、第93図に示す。重鉱物組成は、VII層とVI層ではいずれも不透明鉱物が多く、少量の斜方輝石を含み、微量の単斜輝石と角閃石を伴い、V層では斜方輝石が不透明鉱物よりやや多く、少量の単斜輝石と微量の角閃石を伴う。IV層では、不透明鉱物が多く、斜方輝石は少量であり、さらに少量の単斜輝石を伴うという組成を示す。火山ガラス比では、VII層～IV層まで少量のバブル型と軽石型が含まれる。IV層における火山ガラスの量比は、下位のそれよりも若干多い。また、IV層の火山ガラスには褐色を帯びたものも少量認められる。

2-1区 結果を第8表、第94図に示す。重鉱物組成は、VI層とVb層ではいずれも不透明鉱物が多く、少量の斜方輝石を含み、微量の単斜輝石と角閃石を伴い、Va層～III層までは斜方輝石と不透明鉱物がほぼ同量で主体を占め、少量の単斜輝石と微量の角閃石を伴う組成である。火山ガラス比では、VI層では微量の軽石型が含まれ、Vb層では微量のバブル型と少量の軽石型が含まれる。Va層とIV層では、少量のバブル型と軽石型が含まれるが、バブル型の方が若干多い。III層には多量のバブル型が含まれ、微量の軽石型を伴う。III層の火山ガラスには褐色を帯びたものも少量認められる。

(2) 屈折率

上述した各遺跡の重鉱物組成及び火山ガラス比結果に基づき、主に火山ガラスと斜方輝石（町道沿いX層では角閃石のみ）を屈折率の測定対象とした。測定結果を第8表及び第95図・第96図に示す。

2-1区に隣接する壁面 VI層～VII層までの斜方輝石は、概ね $n_{y1.693-1.700}$ という比較的低い値を示し、IX層の角閃石の屈折率は $n_{21.672-1.677}$ （モードは $n_{21.674-1.675}$ ）であった。

3区 IV層及びV層の火山ガラスの屈折率は、

レンジが概ね $n_1.504-1.510$ であるのに対し、VI層及びVII層の火山ガラスの屈折率のレンジは、 $n_1.499-1.500$ の狭い範囲に集中する。斜方輝石の屈折率は、IV層とV層では $\gamma 1.704-1.710$ であり、VI層ではそれよりやや高い $\gamma 1.709-1.716$ を示す。

2-1区 III層の火山ガラスの屈折率は、レンジが $n_1.506-1.510$ 、モードが $n_1.508-1.509$ であるが、IV層以下の火山ガラスの屈折率は、 $n_1.499-1.500$ の狭い範囲に集中する。斜方輝石の屈折率は、III層、V層、VI層ではいずれもレンジは概ね $\gamma 1.705-1.710$ であるが、IV層はそれよりやや高い $\gamma 1.713-1.715$ を示す。

第5節 考察

(1) 2-1区に隣接する壁面

火山ガラス比分析結果から、火山ガラス質テフラの降灰層準は認められない。IX層及びVIII層で認められた軽石質テフラについては、VIII層以上に含まれる斜方輝石の特徴的に低い屈折率から、Kr-Awに対比される可能性がある。Kr-Awはスコリア質テフラとされているが、今回の試料では砕屑物の色調が比較的明るく見えたことにより軽石質としている。Kr-Awの噴出年代については、ATより下位であり、4.0～4.5万年前とされているKr-Iwよりも上位であることから、3～4万年前頃と考えることができる。なお、X層に微量含まれている角閃石は、屈折率測定結果からみても現時点でその由来は不明である。

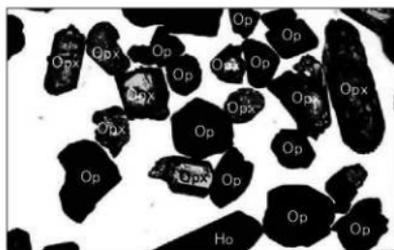
(2) 3区

火山ガラス比分析結果からは、特に明瞭な火山ガラスの濃集層準を検出することはできなかったが、その屈折率によって、IV層・V層の火山ガラスとVI層・VII層の火山ガラスとが明瞭に区別された。前者の火山ガラスはK-Ahに由来し、後者の火山ガラスはATに由来すると判断される。これは、いずれのテフラも降灰層準を特定することはできないが、互いの層位関係

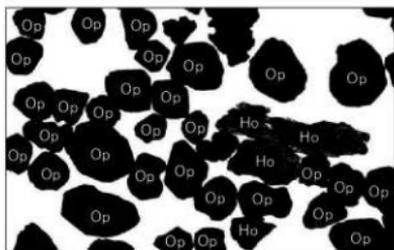
に矛盾はなく、遺物の出土状況と整合する結果といえる。なお、VI層とV層の斜方輝石については、K-Ahの拡散する層位であることとその屈折率の値が、前述した平山下原遺跡のII層～V層と同様であり、K-AhとKr-Kbの両者由来する斜方輝石が混在している可能性がある。一方、VII層の斜方輝石の屈折率の値は、上位のそれに比べて有意に高いレンジを示し、ATの斜方輝石に比べると有意に低いレンジを示すことから、上述したいずれのテフラとも異なるテフラに由来する可能性がある。宮崎平野に分布するテフラで、K-AhとATの間に層位があり、VI層の斜方輝石は桜島薩摩テフラ(Sz-S)に由来する可能性がある。ただしその産状が拡散していることから、降灰層準を推定することはできない。

(3) 2-1区

III層は、試料の外観と火山ガラス比分析結果から、火山ガラス質テフラの降灰層準と考えられる。そのテフラは、火山ガラスの形態と褐色を帯びるものが含まれることおよびその屈折率から、K-Ahと考えられる。ただし、III層中の斜方輝石の屈折率は、上述した3区のIV層・V層とほぼ同様であることから、III層中にはKr-Kbなど他のテフラ由来の砕屑物も混在していると考えられる。IV層～V層までの火山ガラスは、その屈折率からATに由来すると考えられる。IV層～V層までの層位における火山ガラスの濃集層準は明瞭ではないが、V層に比べてV a層やIV層で特にバブル型火山ガラスの量比が多くなることが看取される。濃集層準を考慮すると、その下限すなわちATの降灰層準は、V層付近に求めることができ、遺物の出土状況とも整合する結果といえる。なお、IV層、V層、VI層のいずれの斜方輝石でも、ATに由来する斜方輝石の屈折率の値を得ることはできなかった。おそらく、これらの層位では、霧島火山やK-Ahに由来する斜方輝石がより多く混在しているものと推定される。



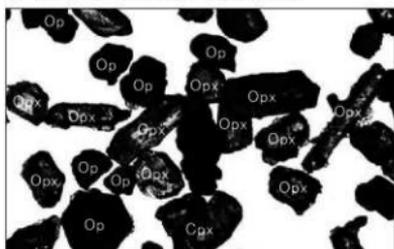
1. 2-1区に隣接する壁面6層No.1



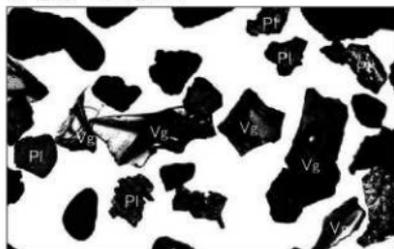
2. 重鉱物 2-1区に隣接する壁面10層No.5



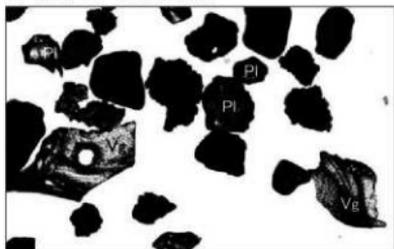
3. 重鉱物 3区4層No.11



4. 重鉱物 2-1区III層No.15



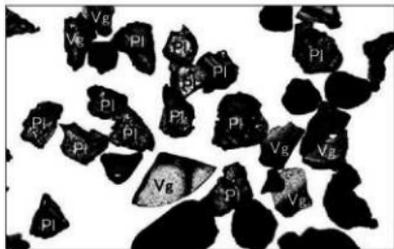
5. K-Ahの火山ガラス 3区4層No.11



6. ATの火山ガラス 3区6層No.13



7. K-Ahの火山ガラス 2-1区III層No.15



8. ATの火山ガラス 2-1区Va層No.17

Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石, Ho:角閃石, Op:不透明鉱物, Vg:火山ガラス, Pl:斜長石.

0.5mm

第98図 重鉱物・火山ガラス

第V章 総括

第1節 後期旧石器時代の舟川第2遺跡

舟川第2遺跡出土石器群の整理

舟川第2遺跡ではAT下位に位置づけられるナイフ形石器から細石刃まで後期旧石器時代の遺物が重層的に出土した。ただ、舟川第2遺跡は地形的な制約で土層が安定して堆積している場所が少ないため、事実記載の項目において、すべての遺物を既存の編年観に照合して各段階、もしくは時期設定をし、それに従った記述は行わなかった。したがって、ここで舟川第2遺跡出土の石器群に関する整理をする。

整理の方法としては、まず、宮崎県旧石器文化談話会が作成した「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」（宮崎県旧石器文化談話会 2005、以下「編年」と略す）で示された各段階と基本層序との対応関係を述べ、その後、層位的に不安定な地区の石器群の評価を行うこととする。

「編年」では、AT下位の石器群を3段階、AT上位の石器群（ナイフ形石器群）を4段階、細石刃石器群を3段階に細別している。

AT下位では、第1段階が台形様石器・石斧・鋸歯縁加工石器を特徴とし、第2段階が台形様石器と二側縁加工のナイフ形石器、第3段階が縦長剥片を素材とする二側縁加工のナイフ形石器・厚手の縦長剥片を素材とするスクレイパーを特徴とする。

AT上位のナイフ形石器群では、第4段階が二側縁加工のナイフ形石器・縦長剥片を素材とするエンドスクレイパー、第5段階が狸谷型ナイフ形石器・瀬戸内技法・剥片尖頭器・角錐状石器・金江谷型尖頭器・円形の大型スクレイパー、第6段階が今峠型ナイフ形石器・北牛牧型ナイフ形石器・縦長剥片を素材とする基部及び部分加工のナイフ形石器・台形石器、第7段階は小型の縦長剥片を素材とするナイフ形石器

を特徴とする。

細石刃石器群の3段階は、第8段階が円錐形の細石刃核・黒曜石の小礫を素材とし、打面調整を施す細石刃核、第9段階が船野型細石刃核・畦原型細石刃核、第10段階は西海技法の影響を受け、扁平な船野型・畦原型細石刃核を特徴とする。

以上が「宮崎10段階編年」各段階の特徴である。本遺跡では2-1区のD7・E7・F7グリッドの層は他の調査箇所と比べ、安定した層位を示している。したがって、2-1区の層位を基準にして、各段階の石器群の概観をみていきたい。ただし、本遺跡ではATは良好な層としての堆積はみられなかったため、以下でAT下位・AT上位という表現を使う場合は、ATが良好に堆積した遺跡におけるAT下位・AT上位に相当するという意味で使用した。

まず、VI層についてであるが、第IV章の結果から、AT下位に相当する層位であることが確認できる（第94～98図）。1・2は縦長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。VI層出土の遺物は比較的少ないため、「モノ」からの根拠付けが難しいが、自然科学分析の結果に基づくと、AT下位の石器群であることは推定可能であろう。AT下位の石器群としては、その特徴から「編年」第3段階の所産のものである可能性が高い。3については、第III章においてスクレイパーの可能性も考えたが、管見の限りでは不整形の剥片を素材としており、「編年」に整合するものではない。また、第3段階のスクレイパーは日東系黒曜石との結び付きが強いとの指摘もあり（藤木 2011）、スクレイパーであるかどうかの判断は難しい。

次に、Vb層についてみてみる。第IV章では、ATに由来する鉱物が多く含まれているのはVb層であるという結果が出ており、この層がAT

降灰前後の段階の層位であるといえる。V b 層の出土遺物を概観すると、5から8までが二側縁加工のナイフ形石器である。5、6は小形の縦長剥片を素材剥片としているが、小形の縦長剥片を素材剥片とした二側縁加工のナイフ形石器は、第3段階～第4段階まで出土しており(宮崎県旧石器文化談話会 2005、藤木 2005)、評価が難しい。したがって、ここでは第3段階～第4段階までの石器群と評価するに留めたい。一方でV b 層の上位からホルンフェルス製の剥片尖頭器(第13図12)が出土しているが、これは出土位置もV a 層に近く、AT 上位の第5段階の所産の石器といえる。つまり、V b 層はAT 下位の第3段階からAT 上位の第4段階、第5段階の石器群を内包する層位であるといえる。

続いて、V a 層についてみていきたい(第19～25図)。この層位では、縦長剥片素材を用いた二側縁加工のナイフ形石器から細石刃石器群まで幅広い時期の石器が出土している点にその特徴がある。30～34までが二側縁加工のナイフ形石器であり、必ずしも縦長剥片を素材としたものではないが、対向剥離による調整が施されている点は共通する。これらのナイフ形石器は第4段階の所産のものといえる。9の狸谷型ナイフ形石器、48・49の剥片尖頭器などは第5段階に所属する。また、37については横長剥片を素材とした一側縁加工ナイフ形石器で、これも第5段階の所産の石器といえる。続いて、38の北牛牧型ナイフ形石器は第6段階のものであり、39～41の基部加工ナイフ形石器は第7段階の所産のものである。細石刃石器群の一群については、第8段階の野岳・休場型細石刃核(87)や第9段階の船野型細石刃核(81・88)、そして第10段階に位置づけられる93の泉福寺・羽佐島Ⅲ型細石刃核(松本 2003)など3時期に渡る細石刃石器群が出土している。つまり、V a 層については、第4段階から第10段階までの幅広い時期の石器群が含まれていることがわかる。

IV層に関してであるが、この層は「編年」に対応する石器群のまとまりは認識できないため、後期旧石器時代の遺物を一部に包含する層位という評価しかできない。

以上、舟川第2遺跡における出土石器群の概観について整理を行った。また、遺物の垂直分布をみると(第10図、第12図、第15図)、VI層では第3段階の石器群がVI層上部に分布していることがわかり、一つの時期を形成しているといえる。

一方で、V b 層では第3段階～第4段階の石器群と第5段階の石器群が層全体に上下拡散している状況が窺える。これは、V b 層全体にATが拡散していることと同じ現象である。したがって、各段階と層位的な対応関係は把握できない。

V a 層では第4段階～第10段階までの良好な石器群が含まれており、傾向として細石刃石器群期のはV a 層上部に、第5段階の剥片尖頭器はV a 層下部に分布していることがわかる。もちろん、40 cm程度の層厚の中に幅広い時期の石器群が含まれているということを念頭に置く必要はあるのだが、石器群の変化は時期区分を行う上で重要な要素であることは間違いない。したがって、V a 層は、第4段階～第7段階までの石器群を包含するV a 層下部と第8段階～第10段階までの石器群を包含するV a 層上部に時期区分可能といえる。

以上ことから、石器群の時期を大きく3つの時期に分類可能と考える。つまり、AT 下位のVI層～AT を包含するV b 層の第3段階に当たる石器群の時期(第Ⅰ期)、V b 層～V a 層下部に包含される第4段階～第6段階までの石器群の時期(第Ⅱ期)、V a 層上部の第8段階～第10段階までの石器群の時期(第Ⅲ期)である。

3つの時期は、第Ⅰ期と第Ⅱ期は基本的な発想としてはAT 層の下位の第3段階と上位の第4段階という基準で分け、第Ⅱ期と第Ⅲ期は細石刃石器群の出現する第8段階とその前の第7

段階という基準によって分類を行っている。そのため、一見すると基準の軸が一致しておらず、論理展開の脆弱さが残るように感じる。しかしながら、藤木聡氏によれば、火砕流被害以前(第3段階)と片田段階(第4段階)ではスクレイパーにおける石材利用の変化がみられるという(藤木 2011, p. 174)。具体的には、第3段階と第4段階では、基本的には同様な器種構成と石材利用を行うが、第3段階で見られた日東系黒曜石産のスクレイパーが、第4段階では見られなくなるという。また、第3段階で見られた極小のナイフ形石器も第4段階ではみられないという。したがって、石器組成と石材利用形態の変化を時期区分の画期として用いるのは間違いではないといえ、第7段階以前と、第8段階以後では石器組成の変化を画期としており、結果的には細石刃石器群期とそれ以前の変化を第Ⅱ期、第Ⅲ期の分類基準とした論理と整合する。

今度は、その他の調査区から出土した石器群についてみていく。まず、1-2区台地から出土した石器群であるが、比較的小型のナイフ形石器が目立つ。小型のナイフ形石器の中には、125のように対向剥離による調整が側縁部に施され、縦長剥片を指向した石器もみられる一方で、基部加工の施されたナイフ形石器(127)も出土しており、ナイフ形石器の様相から推測すると第4段階～第7段階までの一群であろう。つまり、1-2区台地を基本層序に当てはめると、V b層～V a層下部に相当する層位であり、時期については第Ⅱ期にあたる。

つづいて、2-1区V層相当層をみてる。ナイフ形石器では、縦長剥片を素材剥片とした対向調整のある小型のナイフ形石器(152・154)や、北牛牧型ナイフ形石器(160)、基部加工ナイフ形石器(156)といったように、第3段階もしくは第4段階に帰属する一群から、第7段階の一群まで出土しているという特徴がある。また、164の剥片尖頭器や165の角錐状石器といった第5段階の石器も出土している。

また、細石刃核については第9段階に位置づけられる194や第10段階の所産である196も出土している。出土石器群の傾向をみると、V a層の石器群の様相と似通っているが、小型二側縁加工ナイフ形石器についてはV b層においても出土しており、V層相当層については、V b層からV a層上部に相当する層位と位置づけた。第Ⅰ期～第Ⅱ期の遺物が含まれる。

では、IV層相当層についてはどうであろうか。ナイフ形石器では、218の小型二側縁加工のナイフ形石器は、対向剥離による側縁の調整が施されているが、素材剥片は縦長剥片ではない。212や214といった基部加工のナイフ形石器、222の北牛牧型ナイフ形石器といった第6段階から第7段階までの石器群が出土している。他の石器をみると、223の台形石器、224～226の剥片尖頭器、227・228の角錐状石器といった第5段階～第6段階までの石器群が主である。また、第9段階～第10段階までの細石刃核も出土している。したがって、IV層相当層は、土質からはIV層相当層と認識したが、出土遺物の傾向からみると、V a層に相当する層位であるといえ、第Ⅱ期～第Ⅲ期までの遺物を包含する層である。

続いて、2-2区旧石器相当層について考えてみたい。ナイフ形石器は第5段階～第7段階までの一群が出土している。398の台形石器については、素材剥片を横位に用い、刃部が主軸に対し斜行する点は(宮崎県旧石器文化談話会 2005) 音明寺第2遺跡の台形石器と共通する(山口 2003, p. 26)。したがって、第6段階の所産であることがわかる。細石刃核については、401は一連の動作の中で180度の打面転移が行われており、どの段階に当てはまるものなのかは不明である。また、2-2区では、413の尖頭器が出土している点に注意する必要がある。平面分布をみると(第54図)、尖頭器と400、401の細石刃核が近接する場所で出土している。層位的にみても近いレベルである。ただし、2-2区の旧石器相当層は谷地形が埋没する過程

で形成されたいわゆる流土層であり、厳密に細石刃核・細石刃と共存する事例とは判断しづらい。したがって、2-2区旧石器相当層は第6段階～第10段階の第Ⅱ期～第Ⅲ期までの遺物を包含する層位である。

続いて、3区旧石器相当層であるが、3区も谷地形が埋没する過程で形成された地区であり、安定した層位は望めない。出土した石器から第Ⅱ期～第Ⅲ期の遺物を含む層である。

以上、舟川第2遺跡における石器群の様相をみてきたが、「編年」の第3段階～第10段階までの石器群が出土していることがわかった。その結果、3時期に区分した。本遺跡は第Ⅱ期～第Ⅲ期にかけて隆盛したといえる。また、第Ⅲ章第4節では剥片資料については分布域に関する記述のみで、剥片資料の詳細な観察を行う力量が無かったが、本遺跡から出土した多量の剥片資料はV b層～V a層に集中することから第Ⅱ期～第Ⅲ期にかけて本遺跡において石器製作が盛んに行われていたと想定される。また、V a層では上部・中部・下部と3つのレベルにおいて礫群が存在することから、ある程度の時期幅を持ちつつも一定期間の生活が営まれた「場」であったことがいえる。

第2節 縄文時代早期の舟川第2遺跡

(1) 出土土器の検討

縄文時代早期の土器については、無文土器、貝殻条痕文土器、押型文土器、下刺傘式土器、寒ノ神式土器が出土している。無文土器については尖底の一群と平底の一群がみられる。土器の分布域をみると、後期旧石器時代とは異なり、2-2区に集中することがわかる（第68図）。

(2) 集石遺構の分布とその評価

続いて、集石遺構の分布域をみていきたい。集石遺構は1区、2-1区、2-2区で検出したが、2-2区においては、谷地形の谷部が埋

没した後に集石遺構が営まれたことがわかった。また、SI31のような大きな集石遺構が作られたことも特徴的である。

第3節 まとめ

最後に後期旧石器時代から縄文時代早期における都農町域の様相についてまとめてみたい。

まず、後期旧石器時代では、AT下位段階の石器群や第5段階から以降の石器群の出土が目立つ傾向にある。特に尾立第2遺跡、依石第1遺跡については、時期幅の広い石器群が出土しており、舟川第2遺跡と同様に重層的な遺跡であり、後期旧石器時代の都農町域の様相を知る上で重要な遺跡といえる。

続いて、縄文時代早期についてであるが、先述した尾立第2遺跡では集石遺構が52基検出されており、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての規模をもった重層的な遺跡であることがわかる。舟川第2遺跡についても重層的な遺跡であるということはいえるが、舟川第2遺跡が立地する地形はヤツデ状の複雑な地形をしており、その中で、後期旧石器時代とは分布域の中心が変化する点は注目に値する。ただ、台地上の平坦面から埋没谷の緩斜面になぜ分布の中心域を変化させたのかについては推測できない。

以上がまとめであるが、後期旧石器時代における舟川第2遺跡の中心領域は1区と2-1区に挟まれた町道が走る部分であり、今回の調査成果だけでは遺跡のライフサイクルの全容は解明できていない。したがって、あくまでも現時点での評価である。

最後に、本遺跡の調査報告書を成すにあたり、下記の方々に御指導・御教示いただいた。

秋成雅博（宮崎市教育委員会）、藤木聡（宮崎県立西都原考古博物館）、山手貴生（広島大学埋蔵文化財調査室）。

補遺 舟川第3遺跡の調査

第1節 舟川第3遺跡の位置

舟川第3遺跡は舟川第2遺跡の南西方向に位置し、谷地形の裾部に立地する。

第2節 舟川第3遺跡出土の遺物

(1) 出土遺物

出土遺物は非常に少なく、また図化に耐えるものも少ない。本遺跡は谷地形の裾部に立地するということは先ほど述べたが、出土遺物のほとんどがいわゆる流入土層からの出土である。

石鏃 (第99図 654、655)

石鏃は2点出土している。2点とも基部に抉りは無い。655は未製品の可能性も考えられる。

石鏢 (第99図 656)

石鏢は1点出土しており、砂岩製の小円礫の短軸方向から打撃を加え、抉り状の回みを両側

縁に施している。また、上部端にも表面に剝離が施されている。小型の石鏢である。

弥生土器 (第99図 657～661)

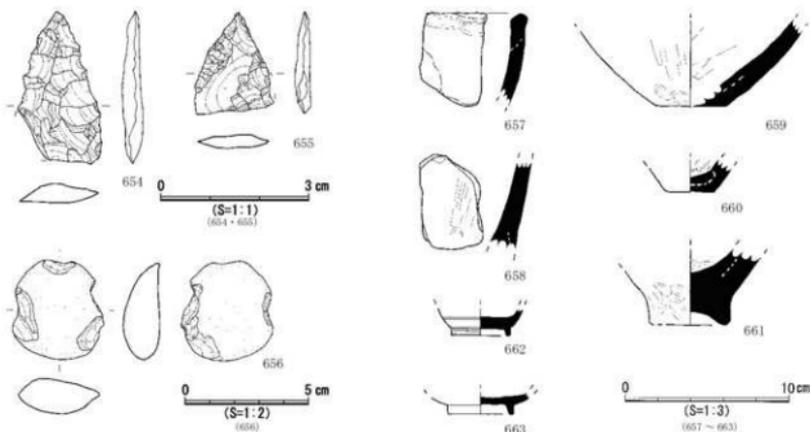
弥生土器は5点出土しており、口縁部1点、胴部1点、底部3点である。657は甕の口縁部で、口唇部付近に指頭圧痕が付いている。658は甕の胴部であるが、下端の割れ面から底部に近い位置であることが分かる。659～661は底部であるが、それぞれ底部形態が異なっている。559、560は平底である。

陶磁器 (第99図 662、663)

陶磁器は2点出土している。

662は肥前系の染付小碗である。底部のみの出土だが、内面見込腰部に強く湾曲しており、外反する口縁部をもつと思われる。

663は白磁の皿で前面施釉後畳付を軸剥ぎしている。いずれも粗雑で内面にフリモノが付着している。18世紀後半以降の肥前系皿と思われる。



第99図 舟川第3遺跡出土遺物

引用・参考文献

論文

- 秋成雅博 2011「宮崎平野における角錐状石器の製作について 頁岩・ホルンフェルス製の接合資料を中心として」『九州旧石器』第15号、九州旧石器文化研究会、pp. 31-44
- 五十嵐彰 2000「文化層」概念の検討—旧石器資料報告の現状(Ⅱ)—『旧石器考古学』60、旧石器文化談話会、pp. 43-56
- 稲田孝司 2001『遊動する旧石器人』先史日本を復元する1、岩波書店
- 岩谷史記 1998「狸谷遺跡V層石器群における特徴的なナイフ形石器について—狸谷型ナイフ形石器の研究(Ⅰ)—」『肥後考古』第11号、肥後考古学会、pp. 81-102
- 金丸武司 2004「宮崎における縄文時代早期前半期の土器群—別府原式土器の設定—」『宮崎考古』第19号、pp. 1-38
- 竹内直文 2005「縄群の重量分布検討の意義」『月刊考古学ジャーナル』2005年6月号、通巻531号、pp. 9-12
- 竹岡俊樹 2003『旧石器時代の型式学』学生社
- 多田仁 2011「南四国の細石刃文化」『高知県における旧石器文化の様相』中・四国旧石器文化談話会、pp. 30-35
- 長井謙治 2009『石器づくりの考古学—実験考古学と縄文文化のはじまり—』ものが語る歴史18、同成社
- 野嶋洋子 2005「焼石調理の民族誌—縄群研究の民族考古学的視点—」『月刊考古学ジャーナル』2005年6月号、通巻531号、pp. 17-21
- 藤木聡 2005「宮崎平野における旧石器時代の剥片剥離」『九州旧石器』第9号、九州旧石器文化研究会、pp. 27-44
- 藤木聡 2011「入戸火砕流による大災害と片田段階の歴史的特質」『九州旧石器』第14号、九州旧石器文化研究会、pp. 171-176
- 町田勝則 1995「石器の研究法—報告文作成に伴う観察・記録法①—」『長野県の考古学』(財)長野県埋蔵文化財センター、pp. 139-171
- 松本茂 2003「東南部九州における細石刃石器群編年に関する覚書—宮崎県岩戸原遺跡第2文化層の再検討—」『蜃気楼』秋山進午先生古希記念論集刊行会、pp. 27-45
- 松本茂 2011「九州からみた南四国の細石刃石器群—奥谷南遺跡との比較を中心として—」『高知県における

旧石器文化の様相』中・四国旧石器文化談話会、pp. 36-39

- 松藤和人編 2007『旧石器考古学辞典』三訂版、学生社
- 宮崎県旧石器文化談話会 2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66、旧石器文化談話会、pp. 47-61
- 宮田栄二 2006「九州東南部の地域編年」『旧石器時代の地域編年の研究』同成社、pp. 241-273
- 森先一貴 2010『旧石器社会の構造的変化と地域適応』六一書房
- 山下大輔 2005「下刺峯式および桑ノ丸式土器の再検討」『南九州縄文通信』No. 16、南九州縄文研究会、pp. 53-72

報告書

- 井田篤・秋成雅博 2008『清武上猪ノ原遺跡—1—』清武町埋蔵文化財調査報告書 第25集
- 井田篤・秋成雅博 2009『清武上猪ノ原遺跡—2—』清武町埋蔵文化財調査報告書 第26集
- 井田篤・秋成雅博・今村結記 2008『清武上猪ノ原遺跡—3—』清武町埋蔵文化財調査報告書 第25集
- 井上美奈子 2007『朝草原遺跡 尾立第3遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第147集
- 神恵明ほか 2011『和知白鳥遺跡1(旧石器時代の調査)』広島県教育事業団発掘調査報告書 第38集
- 岸田裕一 2008『尾立第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第169集
- 佐藤庄一・黒坂雅人 1995『お仲間遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第20集
- 田中達也・川俣唱子 2011『平山下原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第201集
- 長津宗重 1990『別府下原遺跡』都農町文化財調査報告書 第3集
- 永野達郎 2000『帖地遺跡(旧石器編)』喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)
- 日高優子 2007『立野第5遺跡 立野第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第156集
- 吉永貞也 1992『黒石遺跡』都農町文化財調査報告書 第4集
- 吉永貞也 1993『森遺跡』都農町文化財調査報告書 第5集
- 吉本正典 2002『白々野第2・第3遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第52集
- 横山正文・今塩屋繁行 2011『依石第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第200集

写真図版



1. 舟川第2遺跡と長野遺跡を望む



2. 2-1区と2-2区の位置関係



1. 1-3区完掘状況



2. 1-2区遺物出土状況



3. 2-1区遺物出土状況(1)



4. 2-1区遺物出土状況(2)



5. 2-2区遺物出土状況



6. 3区谷地形検出状況



1. 1-2区貝殼條紋文土器(第71圖521)出土狀況



3. 2-1区Vb層剝片尖頭器(第19圖49)出土狀況



2. 2-1区Va層剝片尖頭器(第13圖12)出土狀況



4. S130 檢出狀況



5. S119 檢出狀況



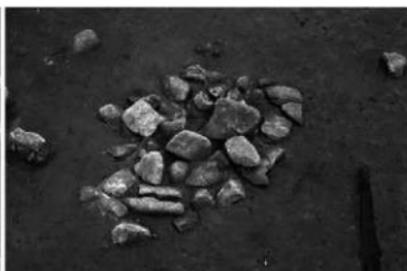
6. S116 檢出狀況



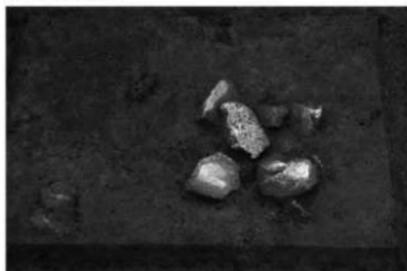
7. S113 檢出狀況



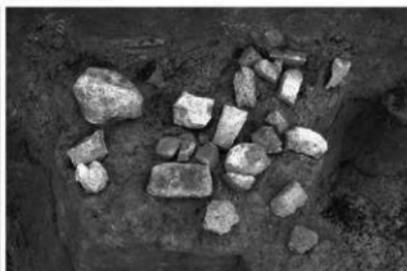
1. S118 検出状況



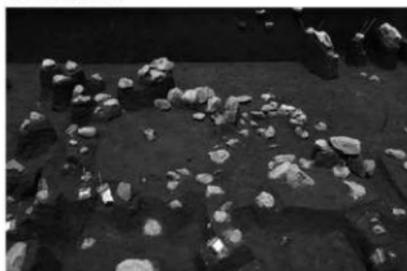
2. S117 検出状況



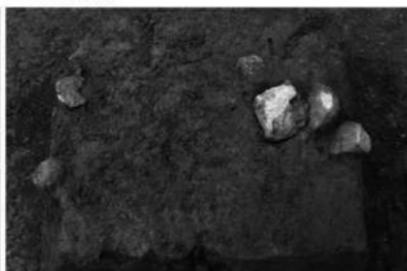
3. S110 検出状況



4. S129 検出状況



5. S125・S126 検出状況



6. S127 検出状況



7. S16 検出状況



8. S120 検出状況



1. SI 9 検出状況



2. SI 8 検出状況



3. SI 11 検出状況



7. 2-2区集石遺構検出状況



6. SI 1 検出状況



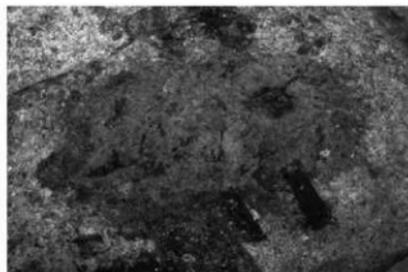
8. SI 12 検出状況



1. V a 層中部検出雑群 (S129)



2. S131・S132 検出状況



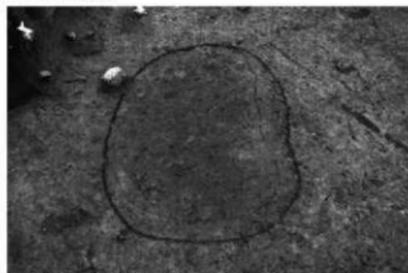
1. SC1 平面プラン検出状況



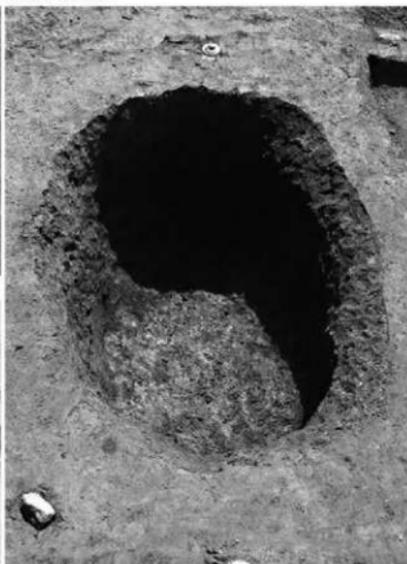
3. SC1 完掘状況



2. SC1 半截状況



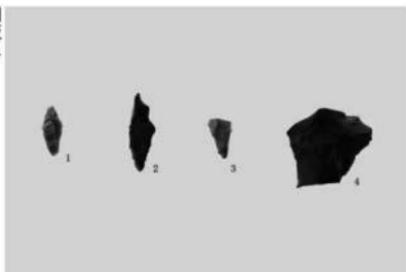
4. SC2 平面プラン検出状況



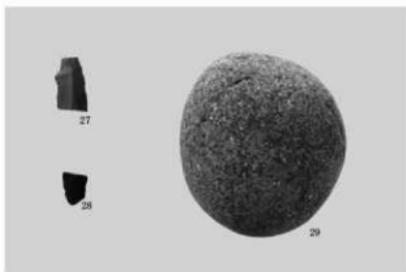
6. SC2 完掘状況



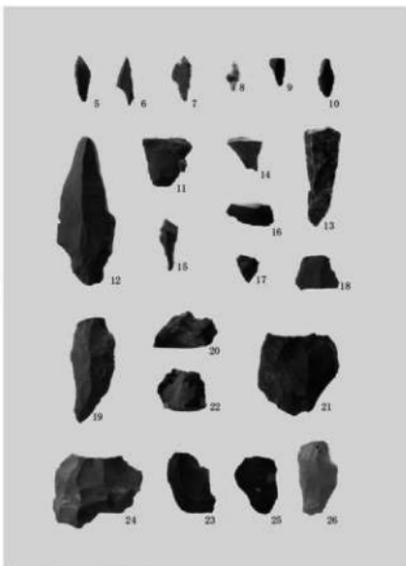
5. SC2 埋土断面



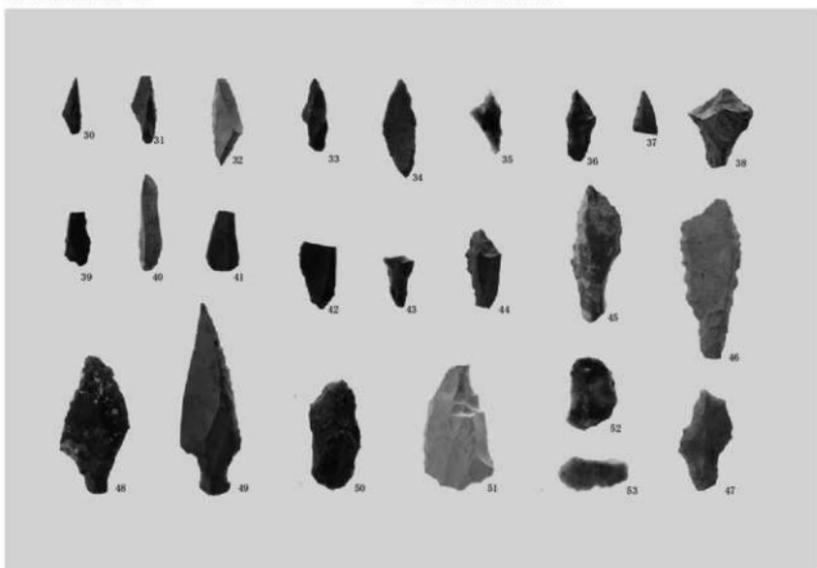
1. VI层出土石器



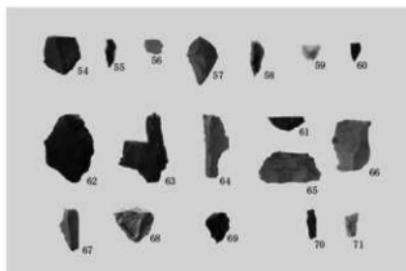
2. V b层出土石器 (1)



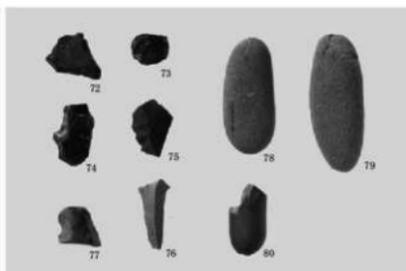
3. V b层出土石器 (2)



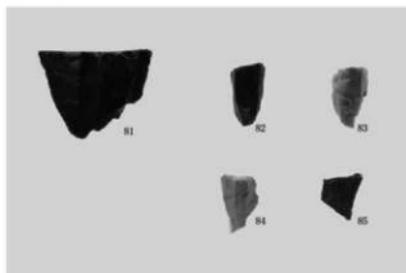
4. V a层出土石器 (1)



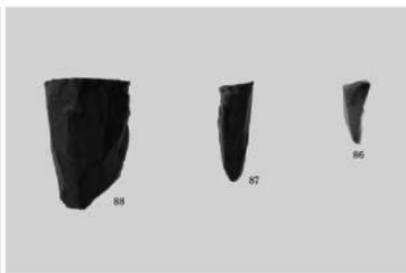
1. V a 层出土石器 (2)



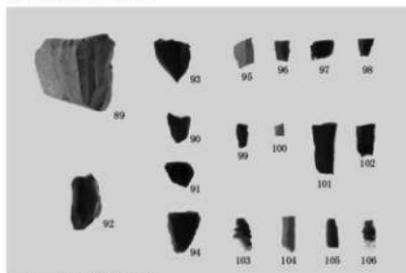
2. V a 层出土石器 (3)



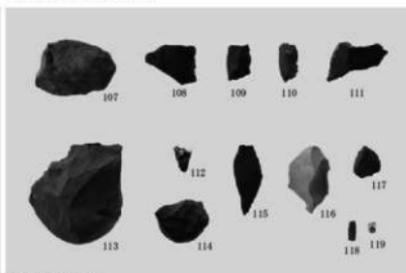
3. V a 层出土石器 (4)



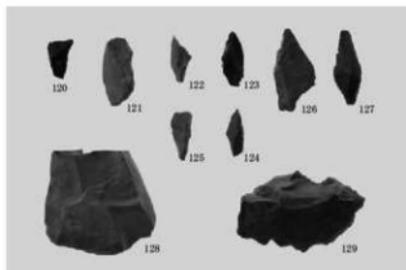
4. V a 层出土石器 (5)



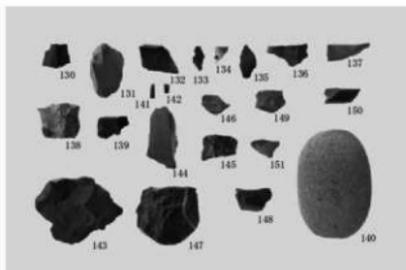
5. V a 层出土石器 (6)



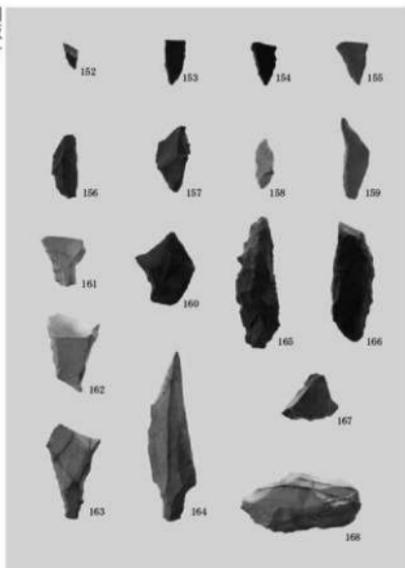
6. IV 层出土石器



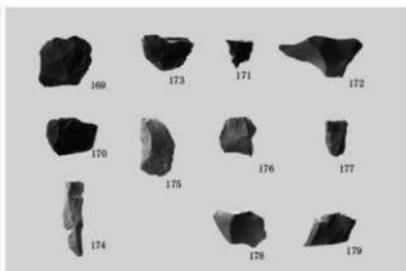
7. 1-2 区台地出土石器 (1)



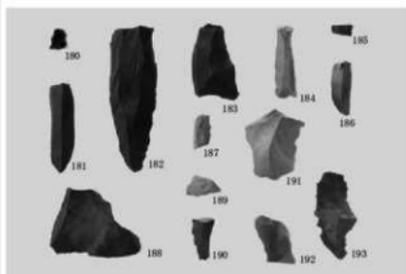
8. 1-2 区台地出土石器 (2)



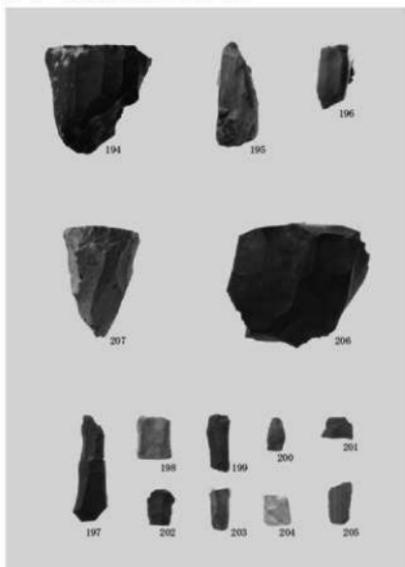
1. 2-1区V层相当层出土石器(1)



2. 2-1区V层相当层出土石器(2)



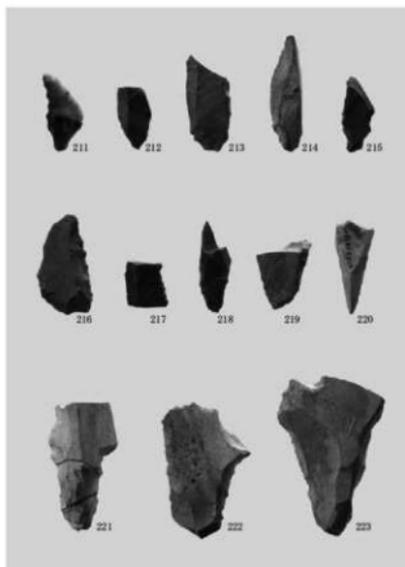
3. 2-1区V层相当层出土石器(3)



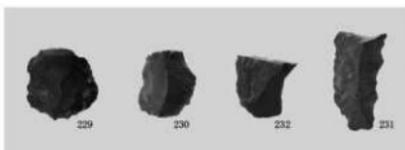
4. 2-1区V层相当层出土石器(4)



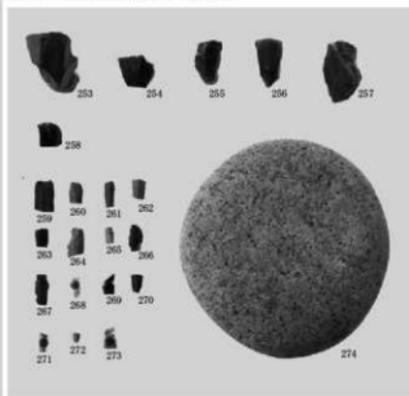
5. 2-1区V层相当层出土石器(5)



1. 2-1区IV相当层出土石器(1)



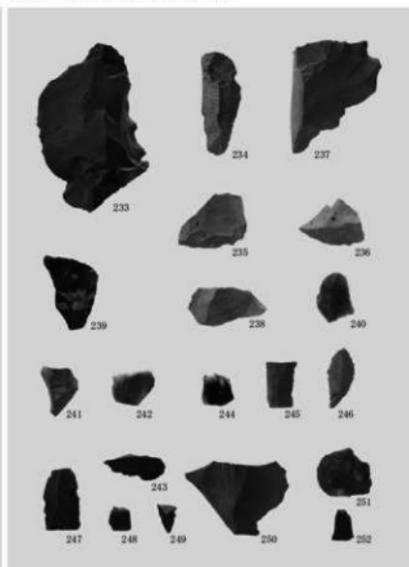
2. 2-1区IV相当层出土石器(2)



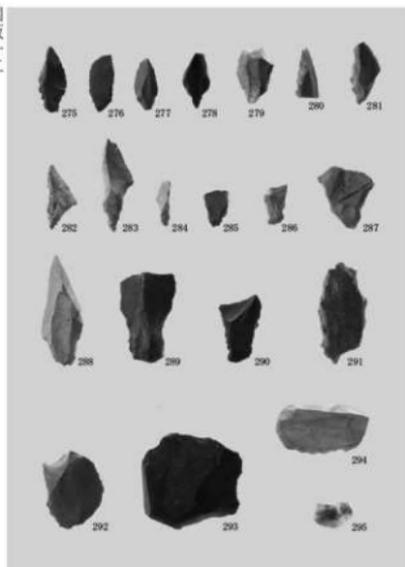
3. 2-1区IV相当层出土石器(3)



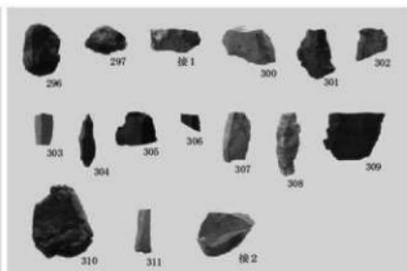
4. 2-1区IV相当层出土石器(4)



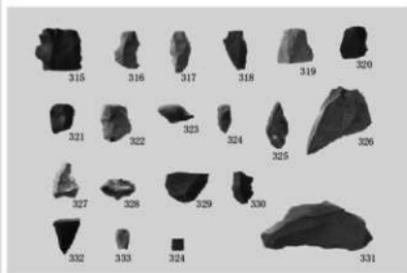
5. 2-1区IV相当层出土石器(5)



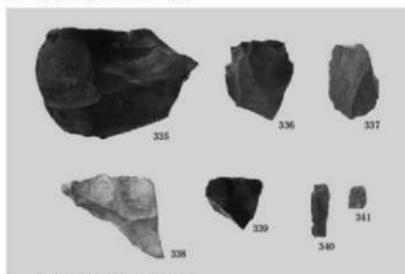
1. 1区流土层出土石器(1)



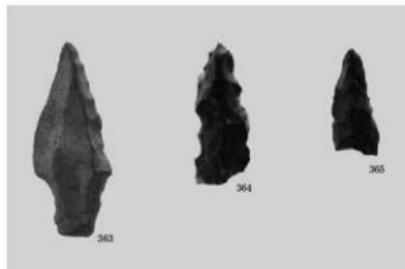
2. 1区流土层出土石器(2)



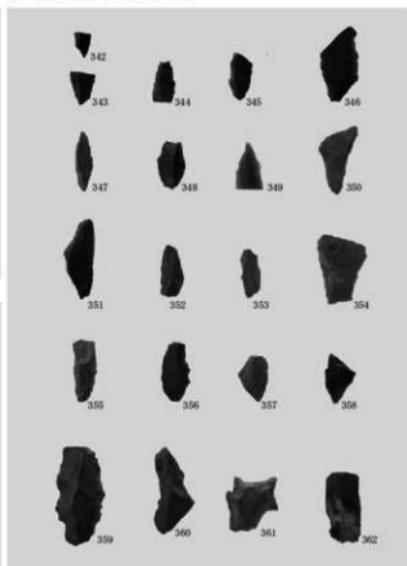
3. 1区流土层出土石器(3)



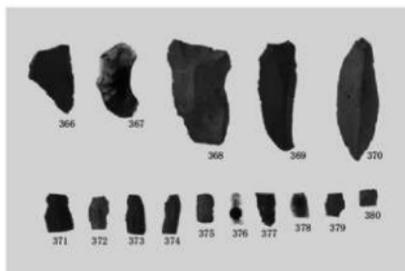
4. 1区流土层出土石器(4)



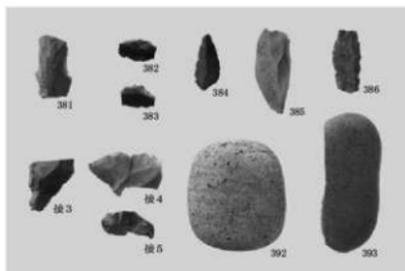
5. 2-1区流土层出土石器(1)



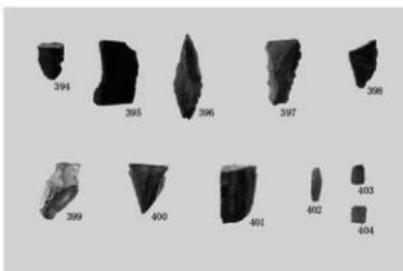
6. 2-1区流土层出土石器(2)



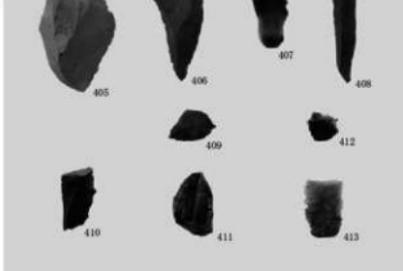
1. 2-1区流土層出土石器(3)



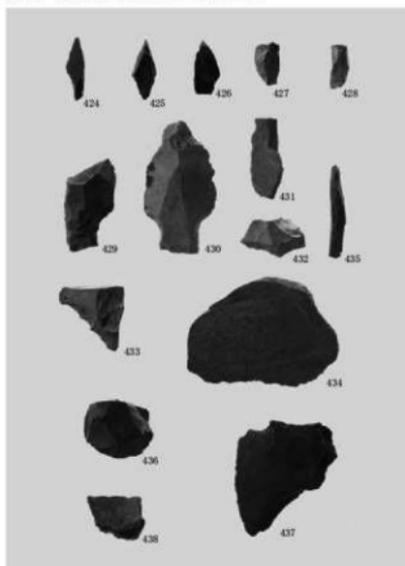
2. 2-2区旧石器相当層出土石器(1)



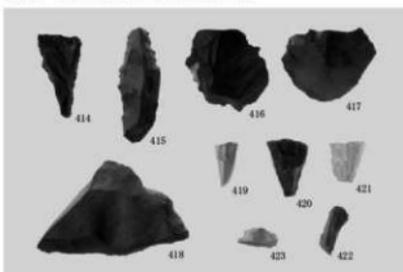
3. 2-2区旧石器相当層出土石器(2)



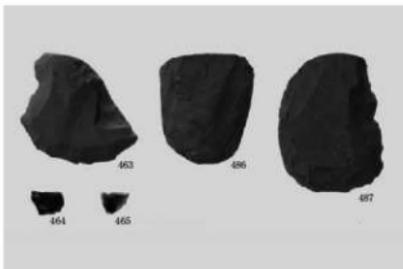
3. 2-2区旧石器相当層出土石器(2)



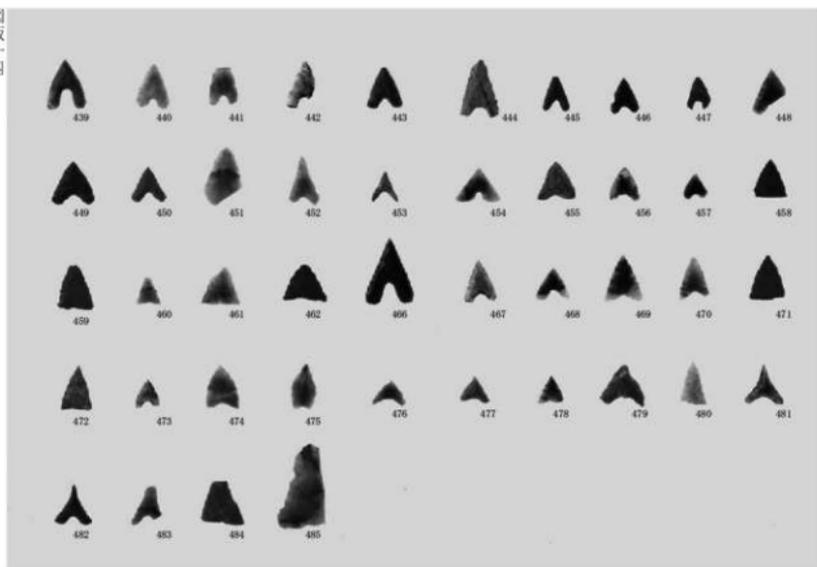
4. 原位置不明・その他の石器



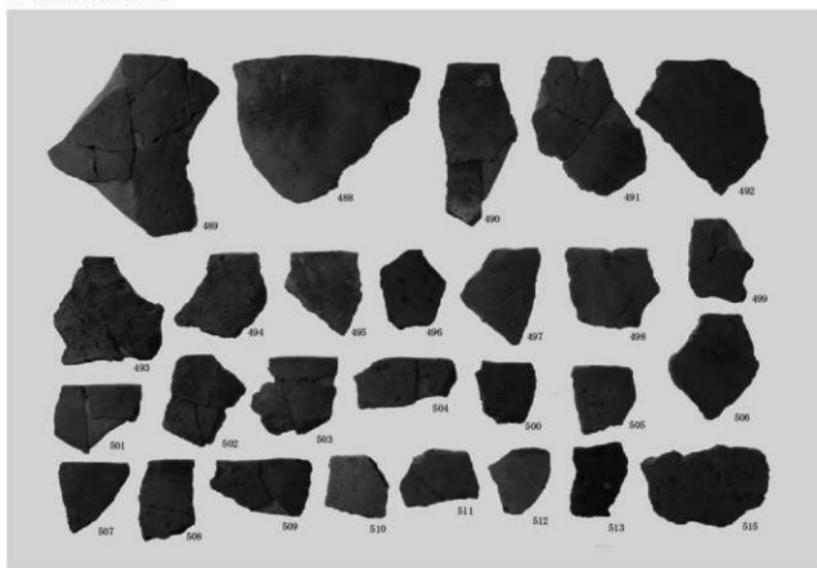
5. 3区旧石器相当層出土石器



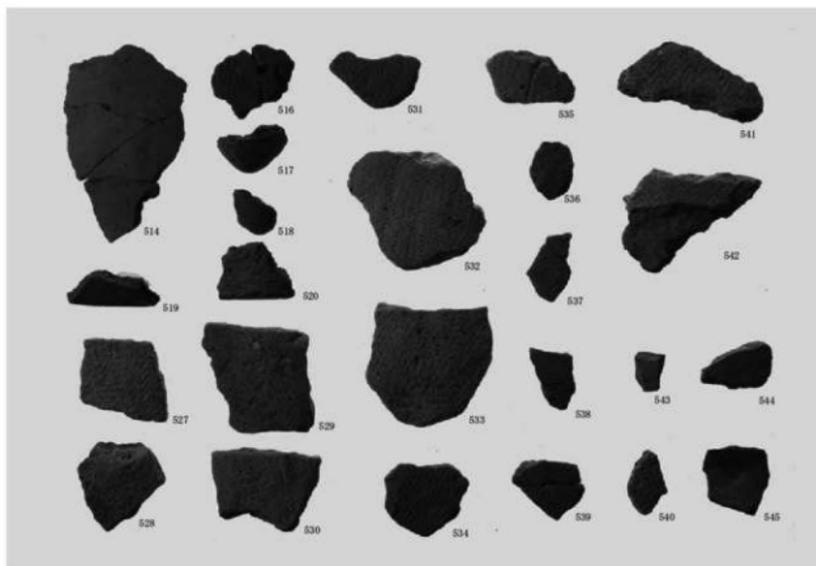
6. 縄文時代早期出土石器



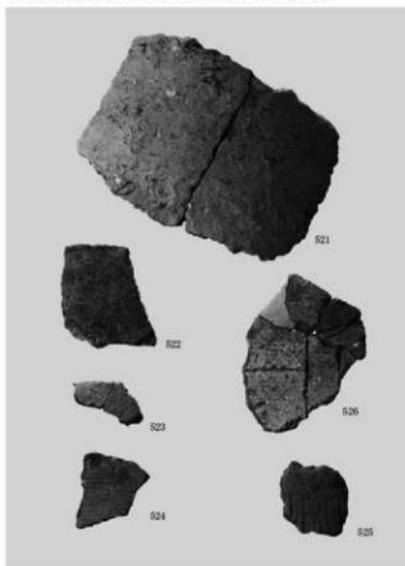
1. 縄文時代早期出土石鏃



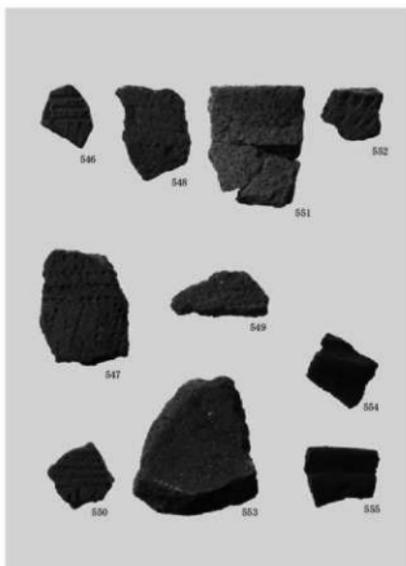
2. 縄文時代早期出土石器（無文土器）



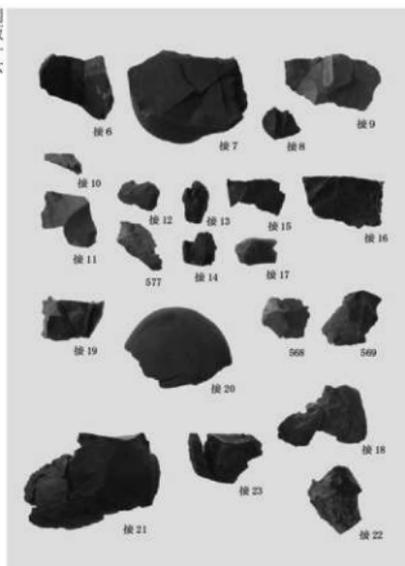
1. 縄文時代早期出土土器（無文土器，押型文土器）



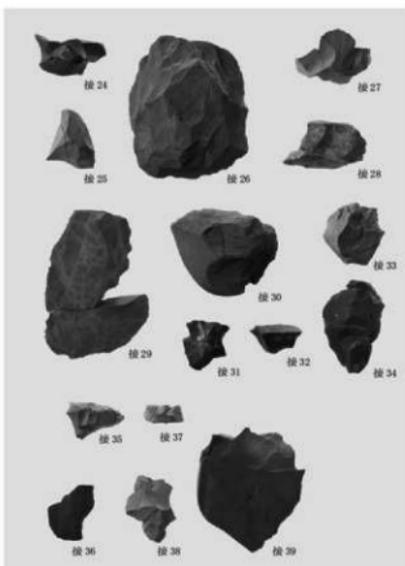
2. 縄文時代早期出土土器（条痕文土器）



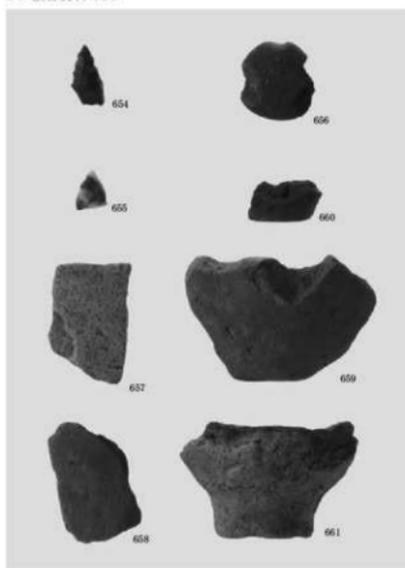
3. 縄文時代早期・晩期出土土器（その他の土器）



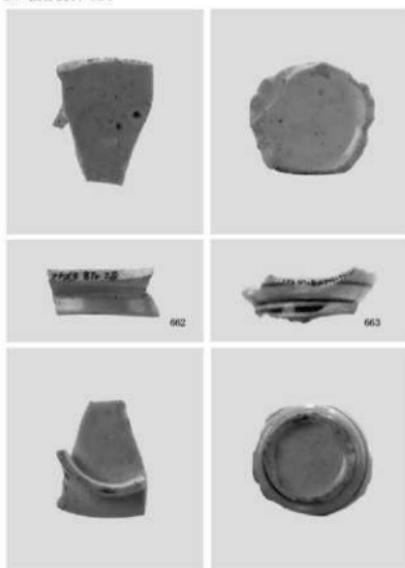
1. 接合資料(1)



2. 接合資料(2)



3. 舟川第3遺跡出土遺物



4. 舟川第3遺跡陶磁器

5. 舟川第3遺跡陶磁器

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふなごだいいせき							
書名	舟川第2遺跡							
副書名	東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う発掘調査報告書6							
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第214集							
編著者名	石貫弘泰							
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター							
所在地	〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地 TEL 0985-36-1171							
発行年月日	西暦 2012年2月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふなごだいいせき 舟川第2遺跡	宮崎県児湯郡 都農町大字川北 字舟川、字境谷 20799-1番地	45406		31度 54分 36秒 付近	131度 25分 41秒 付近	2009.08.05～ 2010.08.20	4,670 m ²	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
舟川第2遺跡	集落	後期旧石器時代	礎群	20基	ナイフ形石器、台形石器、 剥片尖頭器、角錐状石器、 スクレーパー、細石刃、細 石刃核、石核、剥片、砕片	後期旧石器時代 では時期の異なる 礎群を5面に 渡って検出した。		
	集落	縄文時代 早期 その他の時期	集石遺構 土坑 土坑	12基 1基 1基	石鏃、スクレーパー、敲石、 磨石、石核、剥片、砕片、 無文土器、貝殻条痕文土器、 山形押型文土器			
要 約	舟川第2遺跡では、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺構・遺物が確認された。本遺跡の特徴としては、AT降灰以前の所産とされるナイフ形石器やAT降灰以後に出現する剥片尖頭器、角錐状石器、ナイフ形石器群終末期の基部加工ナイフ形石器、細石刃石器群といった後期旧石器時代の幅広い時期の石器群が出土したことが挙げられる。加えて、本遺跡で出土した剥片尖頭器の中には、全長16cmの長大な個体が出土した。遺構については、礎群20基を検出している。特に、V a層では下部、中部、上部といったレベルごとのまとまりが窺えた。一方、縄文時代早期では無文土器、条痕文土器、押型文土器といった土器に加え、石鏃、石斧などの遺物も出土した。また集石遺構も12基検出している。							

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第214集

舟川第2遺跡

東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6

2012年2月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印刷 宮崎紙工印刷株式会社
〒880-0921 宮崎市本郷南方 4045 番地 4
TEL 0985(56)2324 FAX 0985(56)5162
